

一悪行の衆徒於有之者一山を拂可申事
一老僧を敬ひ若輩の僧徒を憐愍可仕事
右之條々於相背罪文は彦山の古例に任せ調へしとの御事也

其後衆徒中一山連判の誓詞の一卷を持來り御禮を申上安堵の御朱印を頂戴してを歸りける
軍勢手分井宗茂謁見の事

秀吉公軍勢を二手に分給ひ一方には御舍弟大和納言秀長卿を大將として備前中納言秀家卿毛利右典麻輝元黒田勘解由孝高長曾我部宮内少輔元親蜂須賀阿波守政家稻葉彦六典通羽柴下總守南條中書宮部善祥坊龜井新十郎福原右馬助尾藤甚右衛門尉小早川左衛門佐隆景羽柴出羽守頼隆前野但馬守長康赤松左兵衛尉福島左衛門大夫正則高山大藏丹後侍從忠興筒井伊賀侍從定次京極若狹侍從高次生駒雅樂頭親正前田越中侍從利勝遠江侍從木村常陸介九鬼大隅守織田尾張大納言平信雄卿敦賀侍從毛利河内侍從秀頼市橋下總守長勝松下嘉兵衛尉瀧川儀大夫淺野彈正少弼長政岡本下野守寺澤志摩守徳居勘右衛門尉來島刑部少輔通方同右衛門大夫通康黒川平岡法華津の城主西園寺左衛門大夫公廣以下都合其勢八萬餘騎豊後國へ差向て御自身は旗本の七組五畿内東山北陸山陰山陽の大小名廿五萬餘の軍勢を引率し筑前國古所山を御越ありて四月五日秋月種實入道か邑城荒平と云處に御動坐あり古所山を見給ふに岩壁高く聳へて雲幌四もに圍み九折なる細道一條を登事十餘町然も岩角滑かにして谷深し實にも此山九州第一の嶮難にて秋月一族及び隣國の者共數萬人相集て一支して見んと思

ひしも理りなり去に依て舊冬より毛利輝元以下の諸將豊前まで渡海すといへとも御出馬を待て妄りに攻戦ふ事あるへからすと仰られけん秋月父子降參せずんは少しは六かしかるへきに殿下の威風肺然として草木も靡き従ふ事盤上に玉を轉し下れる坂に車を走らしむるに相同し同日筑前國立花の城主左近將監宗茂參陣して御禮を申上しかは秀吉公御前近く召れ去春上使を下さしむと云とも下知に隨者まれなる所に左近事最初より御味方に參る段感悦に思召候なり其上去夏秋の間島津大軍を以て九州の中縦横に働き味方の城々手もろく攻落され或は降參せし所に其方居城を堅固に相守り且高橋紹運岩屋の城に於て義死を遂げ薩州勢立花の城を攻めあくみ引取折節追討し剩へ高島居の城を攻破り星野兄弟を討取條比類なき働き武勇忠義の士九州第一の者なりと甚た感賞ありければ宗茂も士の冥利に叶ひたる忝き御詞と感涙を催しける御前伺候の諸士も羨まざるはなかりけり頓て薩州への先陣仕るへき由仰付られ御馬御太刀烏銃繡服等を拜領す宗茂敬て承り収次を以て御禮を遂げにける此時しも紹運一所に此の如き仰を蒙らは何はかりの悦ならんと去年の秋を思出し坐に涙を催さる已に薩州の先陣と仰出れしより實父の敵國なりければ宗茂は云に及す家の子郎等に至まてなどか心の勇まさらん雄氣日來に十倍して悦ひ合こと限りなく出陣の日を遅しとこそ待たりけれ

肥前肥後國士降參の事

筑後國高良大明神と申奉るの物部瞻昨連の靈なり神功皇后の御宇に武内の大臣と相並て朝

廷を輔佐し殊に三韓退治の時勳功許多なりし故八幡の別宮に祭り奉る物部氏の祖神とかや一説に曰く高良山は玉垂姫鎮座の地なり神功皇后三韓と兵を交へ給ひし時高良の明神に詔して干珠滿珠を海中に投給ひ遂に戦に勝給ひしより高良を號して玉垂命とは崇め奉りけるより以來星霜歳久し近年は九州の擾亂に付て神主社僧も皆武事に携り山内の要害をたのみて我意を立臂を張る秀吉公即召富田左近將監奥山佐渡守を遣され既に破却に及ぶ處に山法師罪を謝し御赦免を願ふに依て許容まし〜同十一日高良山に御陣を移さる龍造寺政家は去秋使者を京都に上せ九州御征伐の先陣を希ひ當正月に又鍋島直茂罷上て其志を通しけるか此時筑紫廣門を打運て來り拜觀の禮をなす十二日十三日打續き波多有馬大村松浦五島の人々參陣して拜謁す是等は内々黒田か廻文に心付て御下知に隨ひ御下向を待居たりける人々なり兼て命令に従はざる輩は山林に逃隠れ東西に奔走して哀なりける事ともなり斯て政家も先陣を仰付られしかは是も亦島津は親の敵なりければ悦ひ勇みて立花宗茂諸共に左右の先手を承り肥後國に發向す相續て淺野木村生駒を始め秀吉公の御勢肥後國に打入て關の城をを攻たりける城主大津山河内守三日支て怵り得ず降參しければ淺野木村頓て城を請取りける去れども河内守をば御赦なくて誅せらる夫より宗茂政家其外の諸將菊池山鹿小代高瀬邊まで働き出れば有動隈部追々に降參す去れども國中一揆の者とも多くして村々里々に取籠り透間もあらは夜討を掛んとする故に不知案内なる上方勢暫は働き得ず兩三日滯留す同十九日秀吉公南の關に着せ給ひぬ此城には堀尾茂助を入置れ小代には川尻肥後守を入置

る宗茂政家は次第々々に押寄せ隈本の城を遠卷にして攻滅んとしたりける程に城の十郎叶ふましとや思ひけん城を開て退散す即ち淺野彈正を入置る隈本既に落城しければ道筋の一揆共も方々へ逃散りける宇土顯孝も城を落て出奔す四月廿一日宇土の城に御入あつて夫より八代水俣へ御勢を出さるれば島津勢悉く引取り是に依て宇土の城には加藤清正八代には福島正則を籠置る

秀吉公御仁政并紹宅宗方連歌之事

島津修理大夫義久此間は肥後の八代に出張してありけるか頼み切たる秋月以下の所々の城一々に没落し爲方もなく今は本國に歸て兎も角もなるへしとて薩州鹿兒島にを引人れる秀吉公宇土の城に御動座ありし夜仰せけるは我頃敵國に向ふ處に一人も手に立者なし島津とても討果すにてぞあらん是全く秀吉か武勇にあらず天の與ふる處なり去れば科なき者を誅戮し領地を奪ひ憂目を見せんも本意にあらずされは命を助け懸命の地を與へ安堵せさすへき間早々罷出て御禮申上よと觸聞すへしとて石田三成安國寺に仰せ下さる安國寺奉て御下知を背し者共は皆追散され九國二島の内一人も住所には跡を留す山林幽谷に逃隠れ候ひぬれば上意の趣奈何としてか觸聞せ申候はん然らば高札を立へしと仰付られけるにより俄に高札數百本拵へ道筋は云に及ばず閭里僻巷の末々に至までを建たりける未だ三日も過さるに宇土の御陣へ馳參り御禮申上る國士七十六人に及ける此等は此間敵對申せし者なりはれば皆悉く髻きり浮世を外に墨染の姿に簪すのみならず太刀刀の柄をはつし降人の體に

て出にける秀吉公御覽有て汝等唯今某に見る事大慶にあらずや向後異心なくんは一所懸命の地を得さすへしと宣ひければ何れも一同に頓首平伏してありかたき由をそ申ける其中に肥後國の木山左近入道紹宅と云者あり此は此程當國にをひて一揆の大將をして狼藉を振回し科により既に斬らるへきに極りしか此者連歌の道に長し先年上京しける折節北野笠着連歌の席にて

心苦しき月をまつまで と云句付あくみたりしに紹宅

人しれす肌ハダヒに結ふいはた帯 と付ければ時の宗匠紹巴甚此句を感賞して其より睦く交り

ける此故其比いはた帯の紹宅と都鄙に名を顯しける由を秀吉公聞召れ左様にやさしき者ならば助け置とて御ゆるしを蒙りける木山忝さの餘に百韻を興行す其時紹巴も御供にてありければ紹宅發句を望みければ紹巴

花みんと柚木に残すツツナ櫓かな

又同國相良か一族深見宗方と云る者水股の城主なりしか是も連歌の達人の由聞召れかゝる遠國にも風雅なる者共の有けるよと御感あつて御目見の序に發句仕れと仰られしかは宗方落縁に伺候して敬承り暫く安する處に御前に筭を披露ありければ

若竹もけに直き世の始かな と仕りければ殿下御賞美あつて時服をそ下されける

千代川在陣の事

爰に高橋紹運か息彌七郎統増は去年岩屋落城の砌り擒となりて薩州に在けるを秀吉公聞召

し宗茂に急き統増を呼越へしとありければ宗茂承り人質に召取候ひぬれば左右なく渡す事ある可らざる由を申さる秀吉公聞召し立花三河入道賢賀は老功の者なれば彼を遣しこしらへて見よと宣ひける故に賢賀を遣しける處に異儀なく統増を請取歸りぬ龍造寺人質有馬藤五をも龍造寺方に取返す斯て立花龍造寺は上方勢相共に薩州千代川まで押詰ければ秀吉公も同廿五日に泰平寺に御入ある先陣後陣相聚て二十五萬の人数方二百餘町に陣屋を打雙へ外には堀をほらせ内には土手を築き柵を結び逆茂木を引き高櫓を所々に揚げ家々の旗馬印川風に吹靡して翻翻たる其有只赤壁の戦ひに天下を呑んと魏曹操出勢したる勢ひも斯やと覺えて夥しく如何なる關羽張飛なりとも肝膽動く計りにて勇々しかりける陣勢なり川々は船橋を渡し大船小船押浮へ幾許と云數を知らず物見張番夜廻り等大鼓を鳴し夜をいましめ嚴重にして懈らす薩州勢日來は鬼神をも撃き挫くへき勇氣なりけれども秀吉公の大軍の雄剛なるに氣を奪れ討て出へき儀勢もなく義久を始め一族盡く鹿兒島の城に取籠る宗茂政家人數を押出せば京勢續て十萬騎貝鐘を鳴し鹿兒島近く詰寄せて回天の氣をを顯しける

島津家久合戦の事

大和大納言秀長卿八萬餘人を引卒し去る四月十日豊後國へと發せられければ先陣黒田勘解由蜂須賀阿波守佐々陸奥守宮部善祥坊尾藤甚右衛門此人々大友義統に對面し日向國への然るへき案内者を付けられへしと有しかは佐伯太郎を遣しける諸軍既に日州美々川を渡さんどせし處に薩州勢河邊に出向て防ぎ戦と云とも大軍屑ともせさりしかは自ら陣屋を焼拂て

高城まで引退く上方勢つゝひて押寄せ仕寄竹束を緊しく付け日夜の境もなく攻たりければ城中防くに術なく殊に島津家久は薩州へ越し城代山田新助籠城覺束なくや思ひけん城を開てそ退にける宮部廳て入替る家久居城を敵に奪れ無念骨髓に徹りければ二萬餘人を引卒し四月廿二日の夜高城差て押寄は宮部か陣へ兼てより隠れなかりし事なりければ俄に長さ一丈餘の材木を集め半は土中へ堀入れ稠く柵を結び處處に扣柱を立柵の外には大木を横へ亂杭を打敵の驅引自由ならざる様にそ拵へける宮部は山陰道の旗頭なりければ南條小島の一黨相隨ふ諸將と軍議を而し合せて敵の寄るを待居たり中務の二萬餘人只一揉にと宮部か陣へ馳向ふ其勢の中よりも千人計り真先に進み件の柵を引破らんとしけれども元來堅固に構へたる柵なりければ容易く破る事を得ず兎角する處を宮部か陣より鉄炮一千挺つるへて放ち懸れば先に進みし兵とも其數多く討れにけり去れとも今日を限りと思切りたる者共なれば柵に取付討とも射とも事ともせず熊手長鎌打懸々々大綱を付て曳々聲して引程に難なく十間計り引破り柵の内へ切て入る宮部か先手三千餘真中にをつとりこめ微塵になれど攻立れば薩州勢心は矢猛にはやれとも大敵凌きかたくして終に打負九百餘人討死し五十餘人は虜れにけり此戰の鬨聲矢叫の音鉄炮の響秀長の陣へ聞えければ宮部助けよ南條小島を討すなとて後陣の大勢かけ付たり島津か勢先陣は討れ後陣は戦ひ疲れければ新軍の大軍を見て鹿兒島差て引く秀長宮部追かけて島津を討んと議しけれども尾藤甚右衛門如何なる思慮か有けん強に制止ける故兩勢も其儘にてそ止にける其後秀吉公此由を聞召れ大に怒て尾藤か

臆病の至り宮部か後詰をせざるさへ奇怪なるに島津を討へき圖をはつせし事言語同斷大將の器にわらすとて讃岐國を召放たる斯て宮部か手に生捕たる五十餘人の者共を召出し助命すへきとありけるに皆一同に申けるは今度先陣に進みし者共は敵陣を破り得すんは二度歸るまじき由を大將に約束申て出たるなり是見給へと何れも鬢を見せけるに實にも一所に討死すへき印と見えて面々か姓名を小さ札に書て鬢髮に結付たるにそありける去れば命を惜む氣色は露ほどもなく只々早くも死を急きたき由を申て皆々誅せられにけり勇士の習とは云ひなからけなけなりける事ともなり

島津一家降参の事

雷門の下には布鼓失聲旭陽の朝には殘星無光とかや差も猛威を振ける島津修理大輔義久大軍に攻詰られ上下氣を屈し一族老臣聚りて相議しけるは秀吉公の武威水の卑きに流れ火の乾けるに就か如し誰か能これを防んかくては島津一家の滅亡近きにあり只時宜に隨て先祖忠久の奕葉を繼留んにはまかして伊集院右衛門大夫幸侃竊に大和納言秀長卿の陣に参し陳謝しけるは義久不義の段は今更申に不及候へとも御憐を以て一身を助置るに於ては永く殿下の臣従となつて忠節を勵し候へし若し御許容なくは是非なく城を枕として一人も殘らず討死仕候はんと申入れは秀長則福地三河守を伊集院に相添へ金吾秀秋に憑て殿下の御機嫌を窺はせらる秀吉公仰せけるは義久數年王道を蔑にし武命を侮り甚た以て狼藉の至りなれば其罪を糺し一類の根を剪り葉を枯んと思ひ是まで出馬せしか共頼朝以來四百餘

年の舊封を斷絶せんも本意なし今惡を翻し降を乞なれば赦免あるへしとの上意なり伊集院大に悦て鹿兒島に歸ける斯て五月八日島津修理大夫義久桑門薩染の身と成て龍白と法號し舍弟兵庫頭義弘同中務少輔家久家臣には伊集院右衛門大夫幸侃新納武藏守平田美濃守光宗太田下野守野村兵部丞を召連て秀吉公の御本陣泰平寺まで參しける又士一人上下を着せ大刀を帶せて供せらる是は切腹する事もあるへければ介錯を致さめんか爲なり秀吉公義久を御前に召出され此間の惡逆は法體黒衣に對して許す處なり右大將家より以來領地相續の家なりければ前々の如く知行の國郡も相違あるまじきと仰出されたりければ義久忝しと頓首して悦の眉を聞く島津の一族家老の面々に至まで皆御禮を申上安堵の思をなし各人質を奉るへき由言上す依之舍弟兵庫頭義弘同中書家久伊集院右衛門大夫新納武藏守平田美濃守本田下野守野村兵部丞以上七人よりを出しける爰に義久の舍弟祈答院左衛門尉歲久入道晴蓑如何なる所存かありけん只一人出禮をも遂す引籠りて居たりける殿下御歸洛の後此由聞召れ惡き奴かな野心を挿むと覺たり左あらん時には義久とても心元なしとて細川玄旨法印を召し汝は義久と睦しければ罷下て調て見るへしとを宣ひける玄旨仰に従て文祿元年薩州に下り茶會の折節義久に向ひ殿下の命を述ふ是偏に貴家の一大事たり能々思惟せらるへしと理を盡して諫められ義久承引あらずんは只一刺と思ひ短刀を懷中せらる義久其氣色を見て恩愛天倫の棄かたき道なりとは云へ共彼は一代家は末代何そや先祖に對し争か不孝をなすへきとて歳久入道に自害させ首を伏見へ上せられしとかや斯て殿下の先鋒宗茂政

家は大軍を振起して鹿兒島の外郭を攻め破り緊く討て進みける島津か城兵先に義久降參する由聞しかとも只今大軍を引請一戦も遂すして城を渡さんこと餘りに云甲斐なくや思けん城に残りし兵共此を必死と切先を揃て討て出る宗茂も政家も薩摩は親の敵國なれば勇み進んで追取込てを戦ひける城兵過半討れ手負も數多有ければ今は武士の意地も是までなりと外城々々へ引入ける

被遣秀長卿條數之事

- 一大隅日向兩國の義は人質不殘受取可申候自然不渡城於有之は義久島津兵庫頭島津中務兩三人に相届け右の不渡城を可取卷候渡す城を城主を懇にいたし其在所に足輕等付候時百姓已下迄も政道堅申付穢成儀有之は可爲一錢割の事
- 一日向國の義大友休菴へ出し候間休菴被居候て能く候はん城を相拵有付き候様に可申付候立候はて不叶城をば日向の内に三つ四つも可然候なり其内の城を一つ大隅の方へ付城に一郡相添へ伊東民部大輔に是を取らせ休菴爲與力合宿させ可申事
- 一去年仙石權兵衛置目を破り不届の働を致し越度を取候刻長曾我部息彌三郎を討死させ忠節者の事に候間爲褒美大隅國を長曾我部宮内少輔に爲加増被下候條長曾我部被居候て能城々置き普請等申付國の内に置候はて不叶城を三つも四つも普請何れも申付長曾我部に可相渡事
- 一伊集院右衛門大夫主の義久を大切に意得其身を惜ます其方陣所へ走り入御侘言申上候於

敵も儀理頼母敷ものに候可取育候間大隅の内一郡薩摩の方へ相付けとらせ候間其外郡國の儀口有次第長曾我部に一職可申付候事

一其方此方へ越れ候へと申候は右の一書懇に可申付と思召可被召寄候得共道の用心無心元被思召又は此方へ越候日數可行候下々の者も相草臥候得は如何に候間無用之事

一毛利右馬頭小早川左衛門佐吉川治部少輔兩三人は人數二三千にて此方へ可被越候惣人數は造作に候間無用にて候事并黒田勘解由は馬乗四五騎にて右馬頭可同道事

一大友休菴召寄右の内々の儀可申渡候休菴被居候城は休菴次第可然候事

一於豊後大友家臣の者且々覺悟をかへ候得共志賀太郎伯太郎兩人無比類致働大友家に非儀を不働者に候條兩人に日向國の内にて爲褒美一城つゝ取せ其際に知行出し候儀は休菴と可然可致談合知行に大小も可有候か夫は休菴次第能様可仕事

一豊後國にて去年以來表裏を仕候者の儀は城を請取可致破却其中にも城置候はて不叶城は大友左兵衛身に成候者に相持せ可然候也夫は左兵衛督と致談合可爲分別次第之事

一日向國は大友休菴爲隱居出候間日州にて取候知行の役は休菴覺悟次第たるへき事

豊後國は大友左兵衛督に一職に出し候間諸事置目左兵衛ためえかるへきやうにいたし候て可然事

一肥後筑後筑前三ヶ國には城を拵へ城主夫々に被仰付被入置博多近所に御座所御普請可被仰付候條其方は備前少將宮内中務法印蜂須賀阿波守尾藤左衛門黒田勘解由右の者

共として日向大隅豊後城普請可申付候并不入城いわせ可然事

一豊後國の義是も不入城はわり豊後と豊前の間に城一つ馬ヶ嶽と右堺目の城と遠候は、其間に一城豊前の内に可置城普請可有候國々の者共忠不忠を相記知行可遣候間其分心得諸事無油斷申付細々に少の儀も一つ書を以て御本陣へ毎日成とも不及思案事於有之可申上候請御返事覺悟可然事

一今度高城の義は不請御意儀分別違に候得共ゆるし候儀は其方ためには外聞可爲迷惑候間其旨諸事に存出し可然候右高城の様なる儀に不請御意候は、重て成敗可申付候事右之條々猶兩人可申候

以上

御朱印

天正十五年亥五月十三日

羽柴中納言殿

右如此と云へとも同年五月廿三日休菴卒せられしに依て右の配當も重て組かへたるなるへし

博多町割の事

斯て薩隅日の三州不日に平均したりければ御馬を歸さるへしとて肥後通りに筑前筑後を巡見あつて太宰府へ御出ある島津龍伯茶店をまつらひ殿下を招し奉る六月六日安樂寺の天満宮に御參詣あり造營の事共被仰付同七日花旭塔の津に御着陣有て箱崎八幡の社内に御本

陣を居られければ相續て諸大名住吉箱崎多々良河方三里か間に尺寸の地を餘さず陣々を打つ、け家々の旗指物浦風に翻すは幾許と云敷を不知海上遠く見渡せば志賀の島姪濱花旭塔宮崎に至るまで數千の兵船もやひを入れ粧ひ浮し有様は古今に稀なる壯觀なり宮崎は異國まで名高き佳景の地なりしかは秀吉公二十日餘り逗留まし、て様々の遊興を催さる爰に如何なる嗚呼の者かまたりけん御本陣の前に東西北の三方に竹を逆立肩衣を逆に掛け置きたり諸人其心を知らず或者是を判して

南無三方世は逆に成にけりそてなき者を上様にして

同十八日宮崎の松原へ御出ありければ千の宗易此處に茶亭を點し芳茗を煎して是を奉る秀吉公興に乗し給ひ當座の和歌の御遊あつて何も軍勢を慰せられける秀吉公の御歌に

あつき日にこの木の下に立よれば波の音する松風をふく

千年をもたゝみ入置く箱さきの松に花さく折にあはゝや

夫博多は昔より唐船の着湊にて地博く繁華にして亭宅十萬軒に及ひし所なるに近年龍造寺大友度々の軍に民家商屋一字も残らず兵燹に罹て廣原の焦土とのみに成けるを秀吉公憐ませ給ひ石田治部少輔小西攝津守瀧川三郎兵衛長東大藏大輔山崎志摩守を總奉行として横路堅路の町割を營み離散したる者共を招き集め本の如くに家作りし市店の業をなすへしとて多く金銀を賜りければ大に悦び皆萬歳を唱へける程なく屋宅經營して數年の内に再び本の如く繁榮の市坊とは成りにける

九州國割并殿下御歸洛之事

九州已に平均せしかは御國割有て悉く諸將に是を恩賜ある先つ大隅薩摩兩國に日向の内二郡は島津兄弟の所領となし其餘は秋月右馬頭種實高橋右近大夫元種伊東民部大輔祐隆に仰付られ宗像掃部に四百町下され秋月與力に入置る肥後國は佐々陸奥守成政に賜り有來る國士には五百町八百町宛行はれ佐々與力に附けられける然るに佐々政道正しからずして一揆蜂起して治らざる故其後加藤清正を居置る筑前國に肥前の基肄キヤブ養父兩郡筑後の三猪三原兩郡を相加へ小早川隆景に賜り立花城に住せしめらる肥前國は龍造寺政家本領相違あるへからすとの御朱印を成下されけるか故ありて其長臣鍋島加賀守直茂國政を取行へり有馬大村松浦五島も本領其まゝ恩賜ある豊後は元來大友の領國なり豊前六郡黒田勘解由同國企救由河二郡は毛利壹岐守拜領し小倉の城に在住なさせしめ麻生齋藤以下の者與力となして入置る筑後下三郡は立花宗茂に宛行はれ柳川城に住居あらしめ上三郡は毛利秀包賜て久留米の城に住せらる同國上妻郡は筑紫廣門壹岐對馬は宗新五郎義直に賜りける其外國々の小給人にも其々の所領を下行し手寄の與力に仰付られ國々端々殘る所を殿領と定められける九州數十年の擾亂此時始めて靜謐に歸しにける其後高橋彌七郎統増を御前に召れ此間の困勞さこそと覺ゆ殊に父紹運二心なき勇士にて數年の籠城に名譽の策を彰し秀吉か爲に忠死を遂るの條莫大の勳功なり去るに依て今度筑後三池郡を汝にあとうるなり宗茂と心を合せ向後忠勤を抽すへし重て領知を加へらるへしと御懇なる上意を蒙り時の面目を耀して

諸人羨み感しけるさて九州の領主に仰付らるゝは此後如何様の事によらす國政の義に於ては上意を究ひ執行ふへし我意に任せて私の干戈を動すへからず萬一急に一揆等蜂起の事あらは隣境領地の主と談合を遂早速に退治すへしと委細に政道の命令を成下され七月朔日箱崎を御立有て宗像に到らせ給ひ同二日豊前國小倉の津より御船に召させられ赤間關まで御渡海ましくける處に海上忽風はけしくして御出船の程いつ有へしとも計り難ければ中國の陸路を通りて又藝州嚴島に詣てさせ給ふ御宿願充滿の報賽とを聞えける法施を手向け神樂を奏し嚴重の祭禮を執行れ三日御逗留ましくして四座の大夫に仰付られ様々の舞樂ともあり其より御船に召れ同十四日大坂に着岸せさせ給ひにければ主上叡感甚しく速成の功誠に武將の名譽なりとて勅使を立て仰せられ軍勞を慰し給ひにける其外攝關五門の公卿華族名家の人々我も我もと使を以て各歸洛を祝せらる武家は申に及はず竹園椒庭諸司諸寮の頭五位六位の宮人山門の僧綱衛府受領の守醫陰の兩道京伏見の町人等に至る迄大坂に參禮し泰平を賀し奉り萬歳を唱る聲洋洋々として耳に充てりとぞ

明治三十三年十月帝國圖書館本を以て再校了

近藤瓶城

豊薩軍記卷之十大尾

安西軍策總目

卷第一

- | | |
|------------------|-----------------|
| 惠林院義植卿頼大内義興事 | 東寺相國寺合戰事 |
| 舟岡山合戰義澄卿御最後事 | 武田元繁藝州下向事 |
| 元就朝臣武田刑部有田中井手合戰事 | 武田刑部討死事付元就江上使事 |
| 大内義興防州下向事 | 青屋城攻付高橋大九郎討死事 |
| 大内義興藝州發向付元就陷鏡山事 | 大内藝州銀山櫻尾圍兩城事 |
| 尼子勢銀山後詰同敗軍事 | 元就夜討事 |
| 大内櫻尾開陣事 | 大内龍造寺和平付石州濱田合戰事 |
| 武田熊谷不和事付武田滅亡事 | 元就備藝所々城攻事 |
| 尼子發向吉田之事 | 九月九日十二日合戰事 |
| 九月十三日合戰事 | 於伯州與南條迫合事 |
| 土探場井宮崎合戰事 | 大内勢吉田後詰事 |
| 尼子晴久敗北事 | 佐藤銀山城井櫻尾城沒落事 |
| 卷第二 | |
| 義隆雲州發向事 | 赤穴合戰事 |
| 菅谷口井洞光寺合戰事 | 元就朝臣救南方秋山事 |

大内勢開陣事

尼子紀伊守陷美作之諸城事

備後國神邊城合戰事

備後國神邊城沒落付目黒義死事

陶隱謀事

三位中將大内新助并公家衆最期相良遠江守自害事

安藝國西條槌山城沒落事

備後國泉合戰事

三村屬毛利家并備中猿懸城合戰事

尼子晴久殺新宮黨事

元就朝臣神領發向事

長安城明退付大田懸ノ橋合戰事

元就朝臣嚴島城築給事

卷第三

陶入道嚴島渡海並合戰事

陶尾張守全薑最期事

山内隆通與元就并元春石州發向事

備後三吉合戰事

元春朝臣隆景朝臣他家相續事

元就朝臣山口下向事

陶相良不快并相良落山口事

義隆卿山口沒落付於大寧寺自害事

陶責杉罪付左京大夫山口入事

祝城沒落事

尼子晴久播州發向付高田合戰事

毛利陶手切事

宮川甲斐守上藝州事

野間隆實降參事

三浦越中仁保島合戰事

弘中三河守同中務最期事

防州若山城并鞍懸城沒落事

防州須々萬城合戰事

大内義長山口沒落付最期事

石州出羽合戰事

石州中村城沒落事

豐前國門司關城合戰事

石州山吹城攻付本庄屬毛利家事

雲州白鹿城攻事

杉原盛重泉山合戰事

富田城下於三所合戰事

伯耆國江美城沒落事

熊谷原偽降元就朝臣事

尼子降參事

卷第四

豐前三嶽城攻事

十八日合戰事

天野紀伊守謀尼子事

雲伯近國侍屬尼子付雲石兵多飯國事

美作高田城攻事

防長所々一揆並益田降參事

小笠原降參付尼子後詰事

石州松山城並福屋沒落事

別府合戰付新原崩束賀高島自害事

隆元赴防州事付大友毛利和睦事

元就朝臣洗合被築城事

輝元元長雲州發向并富田麓合戰事

富田退口合戰事

大江城沒落付富田所々付城事

尼子家諸侍降參事

伊豫國河野加勢所々合戰事

立華城攻付大友後詰事

尼子晴久雲州亂入事

庄式部少輔合戰事

尼子勢所々合戰事

備後神邊城攻之事

大内輝弘山口入事

立華明渡事

雲州比部合戰事

尼子勝久攻末次城事

末石合戰并勝久沒落虜鹿助事

卷第五

義昭信長不快之扱事

吉川父子因幡發向事

私部合戰并大坪武田合戰事

尼子鳥執明渡事

勝久鬼城沒落付陷宮吉城事

公方義昭卿鞞御下向事

讚岐國元吉表合戰事

播州上月兩度勝敗事

杉原家人忍討并上方後詰勢馳加事

上月城沒落事付殺鹿助事

南條兄弟逆意事

元春隆景立華退陣事

輝弘山口沒落全最後事

出雲國所々沒落并降人事

三村宇喜田事

山中立原初謁信長事

山中鹿助大坪合戰事

因州鳥執合戰事

私部麓合戰付降參事

大坂城入兵糧事

乃美心替之事

淡路岩屋城事

中國勢圍上月城事付秀吉後詰事

上月合戰事

宇喜田直家心替之事

美作國所々城沒落事

卷第六

伯州長鄉田合戰事

羽衣石向城付宇津葺城合戰事

牛尾楯籠鳥執城事

鳥執丸山扱并式部少輔自害事

因州大崎城其外荒神山已下沒落事

四國所々城攻事

豐前小倉城合戰并中國勢九州渡海事

香春三之嶽切取事

秀吉公九國下向事

豐前國一揆付岩石城沒落事

小田原陣諸所城番事

卷第七

朝鮮先鋒并渡海人數事

先手釜山浦着岸付小西陷三城事

禮伊世牟合戰之事

大明和議并李如松合戰事

備中國忍山城沒落事

伯耆國岩倉合戰事

吉川式部少輔籠鳥執并秀吉出張事

伯州馬山秀吉元春對陣事

高松城取圍事

小早川隆景吉川元長大坂上給事

宇呂津城沒落事

大和大納言殿豐前著陣付高城合戰事

吉川小早川給筑前筑後事

豐前賀來福島肥後和仁邊春沒落事

太閤肥前國名護屋御出陣并同所在陣之衆事

諸勢都入事付小西加藤先爭事

小西平壤合戰事

河下城攻事

日本勢張番付江陽合戰事

諸將連判之事

晋州城攻并大將牧司首渡日本事

朝鮮城代并大虎渡日本事

兩國之勅使來朝付和議破事

日本勢再渡海之事

日本勢歸陣釜山浦付鼻取事

蔚山城攻付大明勢敗軍事

安西軍策卷第一

惠林院義植卿賴大内義興事

明應七年法住院義澄卿惠林院義植卿互ニ威權ヲ争一紋ノ好ヲ忘兵亂ニ及義澄卿ハ近江ヨ
 リ東ノ武士トモ一同シ細川政元同澄元管領タリ攝津以西ハ義植卿ニ隨細川高國管領タリ從
 七年至九年數箇度ノ合戰終ニ義植卿討負給テ高國植國畠山修理大夫山名但馬守同左衛門佐
 一色式部少輔上野民部大輔伊勢伊勢守已下三百餘騎同九年二月ニ都ヲ落四國阿波國へ下給
 高國本國ナレハ阿波ノ鳴門ニ暫舟ヲ留高國々人ヲ催ケレ共人ノ心替リテ一人モ參者ナケレ
 ハ其ヨリ又大内ヲ頼防州國府ニ著給テ天神ノ宮寺大全坊ヲ旅館トシ上野民部ヲ山口へ差遣
 大内義興ヲ頼思召ノ趣宣遣ケレハ義興頓テ旅館へ伺候シ義植卿御對面有テ委細ニ頼給義興
 最頼モシク御請申上山口ニ皈レハ義植卿供奉ノ人々マテ怨敵退治無疑ト旅行ノ苦勞ヲ忘給
 也頓テ山口神光寺ニ御所ヲ新造シ奉入近國ノ武士トモ馳集テ守護シ奉ル京都ニハ大内コソ
 味方ニ與スルトモ近國ノ者共ハ落人ノ方ハスル者ハ有マシ頓テ首ヲ打テ上ヘシト討手モ不
 下油斷セラレケル或時義植卿義興ヲ召テ只^{ヒタスラ}歷年月ヲ暮シテモ京都ノ討手モ不下レハ只京
 ニハ我不攻上ヲ勝ニ居ト聞ユ大勢ヲ催伐上リ義澄ヲ退治セント宣ヘハ大内承トテ中國
 西國ノ勢ヲ催永正三年十一月二十六日義植卿山口ヲ打出給ニ大内ハ防長豐筑ノ軍兵二萬餘
 騎ヲ相隨安藝國府ニ著給テ武田元繁一番ニ馳參レハ宍戸安藝守平賀太郎左衛門毛利備中守
 興元吉川駿河守經基天野小早川熊谷七千餘騎馳參石見國ヨリ高橋大九郎吉見益田三隅佐波

福屋小宮原等モ馳參サテ備後ノ鞆浦ニ著給ヘハ宮三吉杉原山内木梨檜崎備中ニ細川伊勢庄
 石川三村清水出雲ニ尼子三澤湯三刀屋淺山宍道廣田櫻井鹽冶伯州ニ山名小嶋南條行松因州
 ニ武田毛利吉岡但馬ニ山名一族美作ニ兩齋藤三浦蘆田市播磨ニ赤松攝州ニ池田伊丹ノ者ト
 モ次第々々ニ馳參ル義植卿ハ鞆ニテ改行年ヲ越給ヘハ九國ヨリ大友菊池龍造寺小田島津伊
 藤星野松浦相良宗像已下打連々々舟ニ取乘春風ニ得意鞆浦ニ著ニケル四國ノ者共此由傳聞
 難叶ヤ思ケン同六月二十四日細川政元ヲ討高國ノ手ニ屬ス義植卿鞆浦ヲ七月二日ニ出給播
 磨路サシテ上給京都ニモ從去年大勢召集ケル程ニ斯波細川京極六角蒲生土岐已下十五萬
 餘騎ニ及ケレハ細川右馬頭斯波左兵衛督ヲ大將トシテ十萬餘騎播州明石表ヘ馳下人丸塚ニ
 陣ヲ取義植卿モ同國室浦ヨリ海陸ノ勢ヲ一ニシテ明石ノ浦ヘ攻上兩陣互ニ攻近ハ西國勢ハ
 大内二萬餘騎先陣ニテ切懸ル土岐佐々木遠山ノ人々身命モ不惜戰ケリ細川山名赤松ノ人々
 入替々々戰ヘ共勝負未決折節伊丹池田赤松ノ一族一門ノ嫡流多ハ西國陣ニ在ケレハ忽心變
 シテ傍ナル峰谷ヲ越テ西國勢ト一ニナル味方ハ是ニ機ヲ得テ彌進伐ハ京勢不叶引退ク後陣
 ノ武田今川已下ノ坂東勢入替テ蓬シ返セ戻セト割レトモ大勢類懸テ引程ニ耳ニモ聞不入我
 先ニト引ケルヲ一二ノ谷兵庫生田邊マテ追討シテ頸四千餘打取タリ

東寺相國寺合戰事

西國勢明石ノ合戰ニ打勝上給ヘハ河口ヲ堅タル遊佐河内入道モ一支ニモ不及通シケリ角テ
 義澄卿ハ此由ヲ聞召テ山崎邊ヘ馳向防ント宣ヘトモ細川畠山カ諫ニテ東寺ニ陣ヲ居テ待受

給西國勢モ先陣ノ僉議シテ今度ハ先陣赤松二陣山名ト定テ同八月十五日東寺ノ前ヘ押寄矢
 軍時ヲ移シケルカ明石ノ懸ヲ雪ントヤ佐々木土岐等一番ニ打出レハ細川斯波畠山已下ノ人
 々モ押續突テ出入換々々戰ケリ西國勢モ山名赤松武田等一時ニ接破ント攻入後陣ノ大内尼
 子等角テハ味方戰疲レテ勝利ヲ可失イサ追崩サント弓手ノ方ヘ乘廻ス處ニ義澄是ヲ見テア
 レ追拂ヘト下知シ給フ生死不知ノ坂東武者我先ニト突懸レハ赤松山名等散々ニ突崩サレ引
 退大内尼子はヲ見テ三萬餘騎入替テ攻戰城兵不適颯ト引程ニ義澄自眞先ニ進衝懸給大内尼
 子モ猛勢ニ突立ラレ危見エケレハ後陣モ崩テ引退義植卿一戰ニ勝負ヲ決セント懸出給ヲ大
 内押テ先爰ヲ落サセ給ヘ重テ本望ヲ遂ントテ落シケリ大内勢モ多ク逃亡テ四千計有ケルカ
 尼子島津一手ニ成一萬許桂川ノ邊ニテ取返シ防戰ス粵ニテ京勢多討レタリ今日討死スル者
 三千七百餘ト聞エケリ武田元繁備中細川等相國寺邊ヘ引退散々ニ打成ル、處ニ吉川經基平
 賀太郎左衛門相國寺ニ扣テ待懸敵大勢追來切入ヲ經基石橋ノ上ニ扣テ七度マテ突出數人突
 伏中ニモ正屋ノ何カシト名乘懸ヲ突伏頸ヲ打敵猛勢入換々々攻ケレハ其身モ數箇所ノ深手
 負既危見エケルニ家人花木善兵衛經基ノ甲ヲ取テ著恐多ハ候ヘトモ御名字ヲ汚打死仕ラン
 此隙ニ落シ申サセ給ヘト云捨テ敵ニ向吉川經基ト名乘レハ近付敵モナク只遠矢ニ射取トテ
 散々ニ射テ疼處ヲ大勢落合首ヲ取其隙ニ森脇大藏敵ヲ追拂アタリノ堂ノ戸ヲ外シ昇載テ丹
 波路指テ落行ケリ平賀モ不劣働ケレハ鬼吉川鬼平賀ト京童ノ口號ニ唱ケリカクテ義植卿ハ
 此隙ニ丹波ノ長坂ヘ落著給ヘハ馳集ル落武者又二萬五千餘騎ニコソ成ニケル其夜々半大内

尼子大友島津モ馳來彌猛勢ニ成給フ

舟岡山合戰義澄卿御最後事

翌日十六日斯波細川已下今出川ノ御所ニ馳集義植卿退治ノ評定區々ニシテ數日經シカ終ニ舟岡山ニ城ヲ構敵ヲ待受ニ定テ城郭ヲ構ル由聞エケレハ義植卿モ諸將ヲ集軍評定シ給城ノ構堅固ナラヌサキニ押寄可打果ニ一決シ今度ハ大内義興先陣二陣ハ尼子ト定メ惣勢八萬餘騎同八月二十七日ノ夜半ニ丹波ヲ打立舟岡山へ急ケルカ大内二萬餘騎陶入道問田等ヲ先トシテ舟岡山ニ押寄續西國勢次第々々ニ備テ義植卿ハ衣笠山ニ陣ヲ居相圖ノ員ヲ立サセ給ヘハ先陣是ヲ聞テ太鼓ヲ打テ懸リケリ京勢モ舟岡山ヲ義澄卿ノ御陣トシテ十萬餘騎ノ大勢ハ皆山下ニ備敵ノ懸ヲ見テ相懸ニカ、リ互ニ射手ヲ進テ矢軍時ヲ移シケレハ大内カ手ノ陶杉問田三千餘騎鍵長刀拔連喚テ懸安見筒井遊佐等忽崩テ引退是ヲ見テ佐々木ノ一族斯波小笠原入換テ戰ヘハ大内モ不引ト渡合武田元繁尼子經久赤松山名已下同打テ懸ケル京勢武田土岐今川大館村上長尾其外關東勢七八萬入換々々面モ不振攻戰大内ハ聞ユル勇將ニテ追立々々進ケレハ舟岡山ノ大門マテ攻近キ義澄卿是ヲ見テ各一命ヲ惜故是マテ敵ハ攻入トテ自懸出給ハ此勢ニ怖レテ寄手モ強不進蒲生兵衛大夫御前ニ立塞大將ト大將ノ手詰ノ勝負ニコソカクハ有ケレト諫テ轡取テ引返シ奉ル大内ハ是ヲ見テ彌競テ進ケレハ尼子赤松山名其外ノ西國勢先陣勝色ニ見エタリ進メヤ者トモトテ押續攻寄レハ武衛細川土岐佐々木小笠原其外東國ノ兵トモ思々ニ渡合兩陣十七八萬ノ兵凡入亂テ切合組伏戰ケリ大内ハ義澄ノ動スレハ

先懸シテ下知シ給フヲ見テ他ノ敵ニハ目モカケス一ノ城戸へ攻入ント進ケルニ義澄卿又懸出皆紅ノ扇ヲ開諸軍ニ下知ヲナシ給大内カ先手引色ニ成ケレハ義澄卿彌稠下知シテ眞先ニ進給フ大内勢是コソ大將ヨトテ十方ヨリ射懸レハ御鎧ノ胸板ニ射付テ馬ヨリ下ニ落給是ヲ見テ兵トモ周章騒テ馳集ル大内ハ軍ハ勝タリ爰ヲ接トテ闕ヲ作テ進ケレハ衣笠山ニ陣取ケル細川高國幕直ニ懸給ヘハ諸勢モ勇テ懸付ル城中ノ兵共大將討レ給ヘハ鬪ニ力ナク洛中洛外ニ逃散西國勢追付々々頸ヲ取事五千餘人其外切捨薙捨者ハ不知數爰ニ小笠原又九郎元永ハ味方ノ落行ヲモ不顧大手ノ矢倉ニ走上矢種射盡數多ノ敵ヲ射伏テ其後大強ノ武士ノ自害ヲ見ヨトテ立腹切テ櫓ヨリ飛下テ死ニケリ諸國ノ兵ハ皆己々カ國ニ引皈去程ニ義植卿ハ義澄卿ノ御頸實檢シ給テ諸卒ノ頸ヲハ車ニ積セ相國寺ノ後ニ頸塚ヲ築給ヒ萬部ノ經ヲ執行サセラレケル角テ義植卿ハ高雄山ニ兩三日陣ヲ居其後京都ニ入給今出川ノ御所ニ移ラセ戰功ノ者トモニハ所領寶祿給ケル是マテハ京都ノ事ニテ殊ニ直ニ見申サ、レハ前後無覺東候ヘトモ承及候處先書付畢

武田元繁藝州下向事

永正十三年公方義植公義晴公御和陸有ト云凡舟岡山合戰ノ鬱忿ニ依テ京都彌不靜然故ニ國々ニモ兵亂無止武田刑部判官元繁ハ急本國藝州へ下靜謐ノ謀ヲ可成ト兩御所ノ御下知ヲ承安藝ニ下候カ當國ノ武士凡内々我下知ヲモ不用幸ニ此時國人等多分在京シケルホトニ所々ノ城共切取我威ヲ國中ニ震ハント思立翌年永正十四年二月十日佐藤ノ銀山ヲ打出山縣ノ今

田ニ陣ヲ取山縣ノ一族我ニ背者攻隨國中味方ノ兵ヲ集ケルニ熊谷次郎三郎元直香川兵庫佐己斐入道飯田山田遠藤等方々ヨリ馳集リ其勢三千餘騎ニ成候此勢ヲ以方々ノ小城共十四五箇所攻落候

元就朝臣武田刑部有田中井手合戰事

同年十月三日小田刑部少輔信忠カ有田ノ城ヲ取圍夜晝無隙攻戰然ニ毛利元就朝臣志道太郎三郎廣好ニ仰候ハ武田カ體ヲ見ニ當國平均ノ策ニ非ス國人在京ノ隙ヲ伺所領ヲ押領セントノ企也有田ノ城ヲ攻落ハ興元御在京ノ時ヲ得吉田ヘ寄ルカ無左我ヲ若年ト思侮猿掛ヲ可攻大軍ヲ引受テハ叶マシ有田未落以前急後詰シテ勝負ヲ可決ト仰ラレ候ヘハ志道申ケルハ興元御在京ニテ人數少候間アノ大軍容易御切崩候事難成カルヘキト様々ニ申留候然處ニ同十月二十一日熊谷山中一條板垣小河内粟屋等一手ニ成六百餘騎吉田丹比ノ間ヘ打出在家ヲ放火スル由告來レハ元就纔百四五十騎ニテ懸出給處ニ先陣ノ熊谷等ニ行逢元就御歳二十計今日初テノ合戰ナレハ大敵ヲ事共セス進給フ敵モ小勢ナリト侮テ打テ懸元就眞先ニ進テ熊谷勢ヲ突崩セハ後陣ノ武田大勢入換互ニ火花ヲ散戰候カ武田勢少引ケレハ又取テ返味方ハ小勢ニシテ今朝ヨリ戰疲レ難堪引取給ヘハ敵追懸ケル間引返シ深田ヲ前ニ當度々稠ク戰ヒ板垣喜四郎水落源允佐々村玄蕃等ノ宗徒ノ兵七十餘人討取追懸レハ引返シ無難城ニ引入給候此趣志道廣好聞付方々ヘ告ケレハ吉田ノ御舍弟相合四郎就勝吉川伊豆守國經ヨリノ加勢二百餘騎其外福原桂坂井兒玉赤川粟屋渡邊等傳聞馳集御勢無程千計ニ成候翌日寅一點ニ武

田カ陣ヘ押寄給フニ熊谷元直五百騎計ニテ吉田ノ手當ニ中井手ニ出張スルニ懸合先陣ノ桂元澄井上兒玉等ト矢軍シテ柵切破込入ントスル時熊谷カ叔父水谷直綱弓百挺計揃ヘ射拂ヘハ先ニ進若武者十人計射倒サレ候元就此由御覽シテ矢軍ニ時ヲ移シテ叶マシト下知シ自懸出ントシ給ヲ志道大將ノ先懸ハ不心得トテ侍二人ニ馬ノ口ヲ押ヘサセ自先ニ進ミケルニ元就不堪口ヲ放サセ懸出接合戰ヒ給一番ニ井上源三郎二番ニ同源次郎分捕ス三番粟屋源次郎末田源内ト名乗敵ヲ突伏頸ヲ搔落ス其後思々ニ組合突合分捕ス元就朝臣ハ熊谷本陣ヘ一文字ニ衝懸給ヘハ熊谷勢不堪引退ケハ熊谷キタナシ者トモトテ自鎧提ケ返合敵數人討取猶モ懸入元就ニ渡合ント働ケルヲ吉川國經加勢ノ宮庄下野討取首差上名乗ケレハ水落大坪細迫桐原ナト是ヲ聞何ノ爲ニ命ヲ惜ヘキト一處ニ三十四人討死ス殘兵ハ四方ヘ散々ニ敗北候ナリ

武田刑部討死事付元就江上使事

熊谷討死ノ趣武田ニ告ケレハ有田ニハ伴五郎繁清品川左京亮信定ニ七百餘騎ヲ添テ城ノ押ニ置八百餘騎五手ニ分先陣ハ毛木民部大輔信久筒瀬信賢部坂道海同小次郎久村溝田中山已下一千餘騎二陣一條彌次郎板垣掃部等七百餘三陣元繁旗本ハ一千五百餘騎此外一手ハ粟屋内藤等左ノ山上ニ陣取一手ハ後詰ニ扣テ方々ヨリ寄來丹比勢モ一手ハ相合四郎殿ニ桂元澄等相隨テ三百餘騎一手ハ福原上總介井上河内粟屋已下四百餘騎元就ノ旗本モ四百餘騎有富井上等ハ百騎計ニテ是モ後陣ヲ固タリ一手ハ志道上總右ノ山陰ニ陣取候扱兩方ノ先陣相懸

ニシテ一時計稠ク戦ケルカ真先ニ進タル毛木陣ヲ突崩セハ二陣ノ一條板垣等受留戦ケリ此時味方突立ラレ一引々ケルヲ元就又取テ返セト下知シテ一千餘騎一手ニナリ引返シ嘉直ニ武田カ本陣ヘ切懸レハ武田モ元就ヲ見付テ自真先ニ進互ニ不引ト追ツ返シツ戦給カ大將與大將ノ御旗二度マテ合テ見エ候カ味方又内川ヲ越テ引退ケルヲ武田追詰討果サントテ自真先ニ進給ヒ川ヲ越ル處ヲ馬上ヨリ射落セハ井上左衛門尉走懸首ヲ取切先ニ貫大將武田ヲ討タリト名乗レハ味方勝鬨ヲ上ルヲ聞テ敵三百餘馳集リ散々ニ戦討死スレハ諸勢ハチリノニ逃ケルヲ彼所此所ニテ追打ニシケリ其日ノ首數合七百八十餘也國ノ探題被打果公儀如何有ヘキカト此時興元朝臣在京ノ故此趣云上セ給ヘハ即吉川經基ヘ御相談有テ義植公ヘシカシノノ趣言上セラレケレハ武田國ノ靜謐ノ計ヲハ不爲卻テ兵亂ヲ企處ニ打果ノ條忠功不少ト御感有テ即興元ニ御暇被下爲上使上野民部大夫ヲ藝州ヘ被差下元就吉田ヘ出迎其後上野ヲ居城猿掛ニ請シ御内書頂戴一門御悅無限候也

大内義興防州下向事

永正十六年大内義興防州下向其故ハ尼子伊豫守經久在國シテ伯耆備後備中マテ打隨加之伊豫守ハ吉川經基ノ聲ナレハ經基ノ一族ハ悉一味ニ依テ尼子防州ヘ可打入聞有カ故ニ義興十三年在京アリシカ御暇給同年八月山口ニ下向又毛利吉川宍戸天野以下モ藝州馳下屬大内者モアリ隨尼子者モアリ翌年八月毛利備中守興元朝臣御逝去候從今年大内尼子於處々合戦勝敗不期カ故ニ人心モ日々ニ變不安穩候同十八改元シテ大永元年ニ成今年從公方大内尼子和

平ノ事御下知有ケレハ兩家領掌因茲國モ暫穩也

青屋城攻付高橋大九郎討死事

大永元年從先年高橋大九郎備後ノ三吉修理大夫ト青屋城ヲ爭茲歲三月又三千餘騎ニテ此城ヲ取圍城ノ一方ヲ明三方ヨリ攻懸レハ城中ノ兵一方ヨリ悉落失候寄手或ハ城ヘ乘又ハ逃ヲ追懸突伏切伏數百討取次第々々ニ大將ノ實檢ニ入候高橋父子纔手廻十騎計ニテ床几ニ倚居候處ニ落行敵百計一丸ニ成テ馳寄父子ヲ床几ヨリ引下シ押テ首ヲ討高ク差上城ハ乗取トモ大將ノ首ヲハ青屋入道友梅カ手ノ者討取タリト喚リ備後三吉カ方ヘ引退候高橋カ郎等佐々部岡湯谷ナト十方ヲ失ヒ青屋カ城ヲハ差捨高橋カ家城ニ引籠悲嘆處ニ元就此由聞付給高橋ハ幸松丸殿ノ外祖父ナレハ手勢三百計ニテ懸付假令三吉何千騎來ルトモ元就有ン限ハ心安思ヘシト仰ラレケレハ郎等共忝トテ少心ヲ安シ如家人付隨其後ハ高松領一萬六千貫自然ニ領知シ給候然處ニ三吉此費ニ乘高橋ヲ切取ント久代高野山等相加リ五千餘騎ニテ寄來リ四月十日青屋ニ陣取テ近處ノ在家ヲ放火シケル元就吉田丹比ノ勢ニ青屋カ勢ヲ相加三千餘騎同月十五日ニ青屋城ニ押寄給ヲ聞テ三吉高野山等不叶ト引退城ニハ青屋入道カ勢ニ八百餘騎差副都合千餘騎籠置ケル元就青屋著陣シ見給ニ三吉ハ敗軍シケレハ城ヲ切崩高橋殿ノ孝養ニセント晝夜稠責給城ハ水手切ケレハ敵ニ此事知セシト精米ニテ馬ヲ洗他所目ニハ水澤山ノヤウニ見セケレトモ終ニ城難堪降參シケル間青屋カ一命ヲ助テ下城サセ元就ハ丹比ニ飯リ給ナリ

大内義興藝州發向付元就陷鏡山事

大永二年大内義興數萬騎ヲ卒藝州發向尼子一味ノ城四五箇所攻取即同國鏡山ニ城ヲ築藏田備中守同日向守ヲ籠置我身ハ筑前へ小田龍造寺亂入ノ到來ニ依テ藝州ヲ開陣シ給フ平賀天野阿曾沼竹原一味シケレハ藝州半國ハ大内ニ屬シタリ毛利吉川武田ハ尼子ト縁者親類ナレハ皆尼子方也尼子經久鏡山ヲ攻ントテ藝州へ發向先陣ハ毛利元就吉川治部少輔元經ヲ被頼龜井能登守ヲ爲檢使被差添六月十三日寄手城下ヲ放火セシカハ城ヨリ突出終日戰打入ントスル處ニ多勢隘路ニ引ツトヒ進退心ニ不任城兵多討レケル其後尼子モ鏡山ノ向下見峠ニ陣ヲ取元就ハ城下滿願寺ニ陣ヲ寄無隙攻戰藏田モ能兵ニテ城ヲ堅固ニ抱タリ此時元就運籌藏田日向ヲ方便惣領備中ヲ討テ出サハ彼カ領知ヲ可宛行無左ハ落城ノ後處々一門ヲ可打果所詮ハ名字ヲ斷サ、ランコソ好ラント云遣給へハ日向領掌シテ元就ノ七百餘騎ヲ二丸へ引入ケレハ備中俄ニ本丸へ取籠搔楯カキ一日一夜防戰ス寄手ノ摠勢モ續テ責上レトモ本丸節所ニシテ無左右難落見エケルカ備中カ頼切タル兵三十九人ウチケレハ備中ハ無力トテ元就へ妻子ノ命ヲ乞自ハ腹搔切失ニケリ八歳ニナル菊法師其外妻子ヲ助ケ木原備中ニ預給カ後藏田市介トテ元就ニ奉公シケルニ勇者ノ名ヲ得タリ其後日向守ハ猶子ナカラ惣領ノ備中ヲ殺不義無謂トテ尼子ニ被殺タリサテ元就へ今度ノ戰功偏ニ在元就藏田カ領地無殘領知シ可給ニ定リ七月五日經久ハ雲州へ歸陣元就元經ハ藝州へ打入給ナリ翌大永三年毛利幸松丸殿御逝去義晴公ノ命ヲ蒙元就毛利家ヲ相續シ給フナリ

大内藝州銀山櫻尾圍兩城事

大永四年五月二十日大内義興息周防介義隆防長豐筑ノ勢三萬餘騎ヲ率周防ニ打出岩國永興寺ニ著陣シ玆ニテ二手ニ分一方ハ義隆大將トシテ陶道麒相加二萬餘騎佐藤ノ銀山武田光和カ城ニ押寄一方ハ義興自大將トシテ一萬餘騎草津二保島ノ城ヲ攻落ソレヨリ櫻尾神主カ城ニ寄テ攻戰フ毛利元就飛脚ヲ以テシカノノ趣ヲ尼子經久へ告給尼子ハ從正月伯耆國へ發向シ山名ト度々戰數箇城ヲ切取ケレハ山名入道ハ不堪因州へ引退ケレ共合戰ハ未止ハ進退不自由藝州出張少ク有延引然レ共兩城ハ堅固ニ守リ寄手モ仕寄ヲ付ハカノノシキ合戰ハナシカ、リケル處ニ熊谷兵庫助山中佐渡守香川飯田山縣等近年武田ノ幕下ナレハ此度可見續ト僉議シケレハ敵大軍ニシテ中々後詰モ難成先禰ノ坂上マテ打出敵ノ樣體ヲ窺ケリ此事敵陣へ聞エケレハ杉伯耆守同勘解由問田掃部同紀伊等是非可追拂ト云ケルヲ陶入道強テ留ケレハ各二千餘騎同六月廿四日夜半ヨリ打立谷路一里計忍寄未夜深トテ待居タリ熊谷等此由ヲ聞テ味方ハ小勢ナリ尋常ノ行ニテハ叶マシト軍評定能ノ熊谷ハ若武者ナレハ香川美作守相加リ坂上七八町下リ一段高キ切岸先ニ當リ四百餘騎陣ヲ取其外節所ヲ固伏ヲ置峰々ニハ所ノ一揆原手ノ者二三人宛添置相圖ヲ聞テ旗ヲ舉ヨト約束シ待懸ル處へ明方ニナレハ敵時分ハ能トテ押上ル一陣ノ山中佐渡飯田遠藤福島二百計ニテ十町ハカリ出迎矢合シ引退敵勝ニ乘三十餘町追上熊谷香川能程ニ引受眞逆ニ落シ懸レハ敵不堪二三町引退熊谷モ本ノ陣ニ引上レハ敵又返シ上處ヲ相圖ノ貝ヲ吹ハ伏兵悉ク起テ前後ノ峰谷ヨリ討テ懸レハ敵一度ニ

崩レテ逃下ルヲ百三十餘討取ハ殘兵共ハ跡モ不見大内カ陣へ逃入ケル又城主武田ハカリ對陣シテモ云甲斐ナシトテ七月三日三千餘騎ヲ五手ニ分城ノ尾崎ニ打出先陣ハ麓ニ下リ楯ヲ一面ニ衝待懸ル處ニ大内勢杉右田問田三千餘騎ニテ打懸武田カ兵楯ノ隙ヨリ無透間射ケレハ敵進カ子タル處ニ問田カ勢森坂已下五百計眞先ニ突懸レハ杉二保右衛門大夫カ勢モ三千計續タリ武田勢不慮相懸ニシテ手痛働共小勢ナレハ少退處ヲ内藤彌四郎唯一人踏留ヲ見テ青木横瀬篠村等モ引返ス内藤敵四人突伏我モ手負引カ子危見エル處ニ武田五百計横鍵ヲ入ケレハ杉右田等突立ラレ引取陶安房守等入替進ハ武田六七人ニテモ張カ子タル大弓ニテ楯モ鎧モタマラス一矢ニ馬人三重計二筋三筋射貫ヲ見敵怖畏テ颯ト引安房守押返太刀鍵入違稠戰ケレハ武田モ薄手負ケレトモ五度ノ懸合ニ陶カ若者七人マテ突伏給カクテ日暮ヌレハ相引ニ打入ケリ大内方ニハ豊田湯田ヲ先トシテ能兵三百餘騎打レケレハ城兵モ百七十餘人討死シタリケリ

尼子勢銀山後詰同敗軍事

尼子伊豫守ハ出雲伯耆備後備中ノ勢ヲ催重テ後詰有ヘシト雲州赤穴マテ打出龜井能登守牛尾遠江馬田淺山廣田ヲ大將トシ五千餘騎先陣トシテ差向ラル元就朝臣吉川元經宍戸平賀三吉小早川熊谷已下備後安藝勢ヲ引率シ四千餘騎尼子勢ト一手ニ成七月八日銀山へ出張候龜井牛尾先陣ヲ乞受五千餘二陣ハ平賀宮三吉二千餘騎三陣毛利吉川小早川熊谷等一千七百餘騎同十日先陣大内カ陣ニ押寄足輕ヲ出射サセケレハ一番ニ陶安房守問田掃部助青景越後守

已下三千餘騎懸出互ニ手痛ク攻戰處ニ杉豊後横合ニ懸合突崩ス二陣ノ牛尾入替ントスル處ヲ杉伯耆同民部仁保豊田等五千餘騎ニテ突立ケレハ平賀請留散々ニ戰タリ元就ノ陣へハ弘中三河狩野冷泉秋月等五千餘騎打懸互ニ勝負ヲ争ケル玆ニ平賀ハ敵ノ一陣ヲ突立勇進ヲ陶道麒三千餘騎ニテ押寄レハ平賀モ不叶引退此時尼子勢淺山七郎四郎廣田十六島ヲ先トシテ七十餘人討死シ敵離シテ打入ケリ

元就夜討事

其後元就宮三吉杉原ニ先日ハ龜井牛尾ニ先陣ヲ讓リ味方聊利ヲ失事無念ノ至リ也敵ニ一鹽付ン行如何ニト問給ヘトモ誰カク共不言ケルカ山内大和守今度ハ唯備藝ノ勢計ニテ二百三百差出敵ヲ挑ミ若武者トモ懸出ハ其趣ニ依テ可レ被戰カ平場ノ懸合ハ敵大群ナレハ難叶覺候ト行深云レケレハ元就仰ニ御謀宜覺候サレトモ某申モ一行存旨アリ各我等カ勢ヲ以一夜討セント存候ハイカニト仰ケレハ各最ト同シテサテ雲州勢ニモ元就夜討申付候各ノ御勢ハ夜中敵味方難見分候一人モ無御出若討損セハ御加勢有ヘシト約束シテ備藝ノ勢ヲ五手ニ分先山内宮杉原三吉入道ハ陶安房守カ陣志道ハ杉伯耆カ陣吉川元經ハ千壽秋月カ陣小早川正平天野竹原ハ内藤下野カ陣ト定元就ハ熊谷香川三須遠藤等ヲ相具陶入道カ諸陣後詰センヲ防ン爲中分ニ扣敵ノ模様ヲ伺ヘシ扱相印相詞ヲ定八月五日ノ夜雨頻ニ降闇ヲ幸ニシテ思様ニ忍入相圖ヲ期ニ関ヲ作テ切入敵ハ思モ不寄夜半ノ事ナレハ物ノ具ヲモ不得取上ヲ下ヘト騒動シ適太刀鍵取合者モ同士打シテ敵防ヘキ様ハナシ然ニ陶道麒ハ少モ不騒夜討ノ入タル

ヲ敵ハ小勢ソ内々ノ相詞ニテ敵味方ヲ知ヘシト諸陣ニ下知ヲナシケレハ士卒少靜リテ蹈留
 戰ケル杉内藤青景右田千壽秋月カ陣ニハ討ル、者不知數陶入道後陣ノ弘中三河守大和伊豆
 守ハ夜討ノ後ヲ遮ルヘシト下知スレハ兩人ニ陶カ手勢四五計差添敵ノ後ヘ廻リケル元就
 ノ足輕トモ傍ナル松ノ枝ヲ手毎ニ切田中繩手ニ拋捨タリ元就五百計ヲ後ニ備給ヲ敵小勢ト
 見テ我先ニ此陣ヲ切崩ント進タルカ彼松ノ枝ニ行懸タル處ヲ井上カ一族ノ精兵トモ鏃ヲ揃
 射懸ケレハ敵多射伏ラレ進カチタル折ヲ得テ尾崎二所ノ伏兵一度ニ後陣ノ深野々上カ陣ヘ
 切懸深野等不堪四五町計引ケレハ先陣ノ弘中等モ射立ラレ一度ニ崩レテ引ケルヲ追懸々々
 討ツメケレハ深津梯並已下ノ兵七八十騎打レタリカクテ元就ノ本陣相圖ノ貝ヲ立ケレハ惣
 陣一處ニ馳集リ一同ニ引取給今度味方ハ杉原九郎左衛門宮四郎左衛門三田已下三十二人討
 レタリ陶カ方ニハ五百二十餘人討死シ手負ハ不知數ト聞エタリ陶入道此夜打ニ機後レテ義
 隆ノ初陣ニカク味方ノ打レタレハ又如何様ノ事カ有ヘキ仕損テハ長ク弓矢ノ瑕ナリ先爰ヲ
 ハ可引二十日市ニ至テ義興ト一手ニナリ重テ遂ニ本望トテ同月十六日銀山ヲ引拂狼森ノ城
 ヲ乘崩男女二百七八十切捨是ヲ面目ニシテ二十日市ヘ打入ケル

大内櫻尾開陣事

去程ニ義興ハ角銀山ノ趣ヲ聞胸中不快櫻尾ヲ攻落先此陣ヲ引取元就一族ヲ味方ニ引成重
 テ尼子ヲ可亡トテ城攻稠セラレケレモ究竟ノ兵二千餘騎楯籠ハ容易ハ難落陶入道ハ義興ノ
 機色ヲ見カチテ今日ハ我等新手ニテ一合戰可仕ト望テ義隆ヲ後陣ニ置我身ハ三千餘騎ノ手

勢真先ニ進テ佐伯與藤カ館一時ニ打破三十八人カ頸取燒立ケレハ義興少機色直リ此勢ニ櫻
 尾乘崩ントシ給フニ嚴島大明神ノ加護ニヤ陣中品々ノ怪事アレハ諸卒膽魂ヲ消怖ケレトモ
 義興不臆攻給ニ尼子勢佐藤ニ著陣ノ由ヲ告レハ當城ヲ差置尼子ト一戰セント進ケルニ又小
 田龍造寺等筑前ヘ打出ノ通到來アリ義興先自國ヲ治テ後ニコソトテ同二十五日二十日市ヲ
 引退防州ヘ陣ヲ班サレケリ

大内龍造寺和平付石州濱田合戰事

大永五年三月中旬大内義興其勢三萬餘騎筑前ヘ發向ス龍造寺ハ筑後境ニ在陣シ自同四月至
 十月六箇度ノ合戰アリケレトモ終ニハ小田龍造寺星野菊池等乞和テ肥後肥前ヘ歸ケル大
 内ハ諸方ノ人質ヲ取堅同六年二月下旬ニ山口ヘ歸給又三月ニ石州ヘ打越尼子方ノ城六箇所
 攻落三隅入道カ城ヘ押寄從七月十二月マテ攻ラレケル石州尼子方ノ者共三隅落城セハ國
 中大内ニ可隨ト注進ス經久大ニ驚大軍ヲ催出ケルニ同月五日三隅防キカチテ降參ス大内ハ
 國中ヲ隨ヘテ頓テ濱田ヘ陣易シ尼子勢ヲ待カケタリ角テ尼子モ此由ヲ聞急濱田ニ打出敵陣
 五十餘町ヲ隔對陣シテ暫ハ合戰モ無ク候或時尼子ヨリ牛尾遠江川添美作馬田與三左衛門湯
 信濃三千余騎郷中ヲ放火シ足輕ヲ先ニ立敵寄ヨト待懸タリ二陣若林伯耆一千五百餘騎七八
 町隔テ備ヘタリ如案陶入道青景越後仁保右衛門大夫五千餘騎打出矢軍シケルカ頓テ互亂合
 攻戰處ニ陶安房守五百餘騎ニテ横鎚ヲ入レハ牛尾等突崩サレ引退若林カ郎等味方ヲ見續給
 ヘトス、ムレトモ若林存旨アリトテ些トモ不動備ヘタリ尼子勢三百計討レ散々ニ成引ケレ

ハ經久ヘカクト申トモ後陣ニ若林在トテ少モ動不給牛尾馬田モ返ントシケレトモ大勢引タテ無力七八町計引ケルヲ青景仁保等勝ニ乗テ追懸若林カ陣ヘ行懸ル處ヲ先陣散々ニ射ケレトモ勇懸ル大勢ナレハチツトモ不臆突立テ若林カ旗本尾崎マテ攻寄タリ若林待設矢先ヲ揃射サセケレハ敵手負死人多シテ進カテタル處ヲ自體提ケ一千餘騎幕直ニ突掛レハ一陣ニ進タル青景散々ニ成テ颯ト引二陣モ少支ケレ共今朝ヨリノ合戦ニ人馬疲テ防ニス引退後陣ノ陶勢受留テ半時計防戦スルニ若林少引色ニ成時彼カ先陣五百計初度ノ戦ニ突立ラレ右ノ方ヘ引ケルカ又横合ニ懸ケレハ江良宮川忽不叶シテ引タルヲ若林二三町追懸頓引返シ如本備タリ陶入道ハ後陣ニ扣若林ヲ待ケレトモ彼早引取ハ其日ノ戦ハ止ニケリ尼子方ニモ牛尾藤三郎敵三人討取四人目ノ敵ト討死ス其外三百八十餘討レタリ若林モ頸三十餘討取テ經久ノ實檢ニ入ニケル此後ハ互ニ軍モナク五十餘日ヲ經ケル處ニ伯州ヘ山名但馬守出張ノ到來アリケレハ尼子はハ由々敷大事ナリトテ大内ヘ使ヲ立伯州ヘ向トテ頓濱田ヲ開陣セラレ候故石州半國ハ大内ニ屬シタリ大内ハ此時雲州ヘ押入ントセラレケレトモ風氣煩給テ防州ヘ引退終ニ享祿元年十二月二十日逝去シ給ヒケリ

武田熊谷不和事付武田滅亡事

大永ノ末ヨリ藝州暫穩ナリケレハ同七年ノ春毛利元就朝臣ハ上洛シ給ケルニ義晴公毛利ハ大江廣元ノ苗裔ニテ江家ノ嫡々タリ自餘田ノ舍武士ニハ不可准トテ斯波細川畠山一色京極大内武田等ノ人々ニモ不劣賞翫シ給義晴公ノ吹舉ヲ以從四位ニ被叙加之武功雲上ニ聞

エシニヤ錦ノ直垂ヲ下シ給三年在洛シテ享祿二年ノ秋藝州ニ下向シ給フ彌國モ靜カナリケルカ爰ニ熊谷兵庫助信直ハ去比武田光和ト不思議ノ意趣出來シテ武田ト不和ニ成元就ヘ隨ケレハ天文二年八月既及合戦武田一千餘騎ヲ催シ三入ノ高松ヘト押寄熊谷モ此由ヲ聞テ舍弟平藏直續ヲ横川表ヘ差出寄ル敵ヲ待懸ケル武田方ニハ伴五郎ヲ大將トシテ香川光景已斐入道等八百餘騎ニテ馳向散々ニ戦ケルカ武田カ軍奉行粟屋兵庫馬上ヨリ射落サレ小河内一族七人一處ニ討死シケレハ武田カ軍兵彌機落テ引退武田光和ハ搦手ヨリ高松ヘ向攻上リ漸乘入ントシ給時直續大手ノ軍ニ打勝武田カ後ヘ廻シ打懸レハ武田忽敗軍シテ家城ニ引入重テ勢ヲ催會稽ノ耻ヲ雪ントシ給ヘ共毛利平賀後詰セントテ催兵ケレハ武田軍モ難成打過ス折節重病付テ醫藥無功翌年三月ニ逝去シ給ヘハ其後家老トモ僉議區ニシテ終ニハ同士軍シ散々ニ方々ヘ立去ケレハ安藝武田斷絶シテ三十六人ノ國侍共多分毛利家ニ隨ケリ

元就備藝所々城攻事

天文三年二月上旬元就朝臣備後宮下野入道カ城ヲ攻ント熊谷信直天野隆重香川光景同元忠已下二千餘騎ニテ發向シ給フ入道稠防戦シカ不意病死シタリ息若狹守ハ若年ナレトモ家子丹下一族志ヲ一ニシテ城ヲ堅固ニ守中々可落モ見エス同年七月城下ヘ押寄在家ヲ放火シ引返給ニ丹下與兵衛五百計ニテ跡ヲ付送香川兄弟殿セシカ弟元忠引返丹下ト渡合ヲ見テ兄モ返セハ熊谷モ返稠戦ケルカ丹下不適引退ハ味方モ不追シテ引退其後丹下動レハ二百三百ニテ度々打出戦アリ此丹下ハ聞ユル大力ノ强者ニテ敵近付者ナシ然故ニ或ハ手負ノ真似シ

又ハ虚死シテ敵ヲ近付起上リ切伏ケルカ或時矢手深負ケレトモ味方例ノ事ト思不助ハ藝州ノ兵トモ騎計落合討取ケレハ城難堪無程降參シテ城ヲ明渡依之元就ハ藝州へ歸陣シ給也四年三月又同國高野山へ發向城下ニ着陣シ城ノ尾頸ヨリ仕寄攻ケレハ城主高野山久意難適備前ノ赤松ニ援兵ヲ乞ハ赤松領掌シケルカ聊ノ事アリテ遲々シケレトモ城中是ニ力ヲ得テ赤松カ後詰ヲ待然處ニ城中糧乏シテ二丸へハ本丸ヨリ糧ヲ少ツ、運ケルカ間ニ深谷アリ人ノ運不容易故ニ綱ヲ張瓢箪ニ糧入テ朝夕通シケルニ綱ヲ射切ントシケレトモ遠シテ難成元就桂左衛門尉元澄ニ仰テアレ仕トアリケレハ畏テ大雁俟打番射ケルニ不訛射切ハ瓢箪ハ遙ノ谷ニ顛落レハ味方ハ籠ヲ扣テ譽タリ即其功ヲ感シテ能登守ト召ケル城中ニハ是ニ機ヲ失ケルヲ彌稠攻入ハ入道不堪シテ脫甲降參シタリ此勢ニ備後ノ處々ノ城七箇所落藝州へ歸陣シテ又處々ノ城ヲ攻給フニ井上源五郎謀ヲ運忍ニ入城六所落七箇度ニ當テ市川ノ城へ忍入深手負テ無程死タリ兩年ノ間ニ備藝十餘箇城御手ニ入彌歸服スル者多カリケリ

尼子發向吉田之事

天文九年元就朝臣近年尼子民部大輔晴久ニ様々憤ル事有ト大内義隆陶入道道麒麟及掉流ト悅テ大内ノ幕下ニ被屬ナハ以來水魚ノ思ヲ成申ント厚禮和言テ申越ル元就朝臣如何思給ヤ頓テ領掌シ藝州ニ在シ尼子一味ノ侍共ノ城一時責ニ五箇所乘崩シ晴久ト手切ノ色ヲ立給因茲晴久吉田へ發向ノ旨僉議シ祖父經久へモ聞セ申テコソト思シカノ由被申ケレハ經久吉田出張ノ儀無益タルへシ先石備兩國ヲ隨國人共ノ入質取堅深固ノ利ヲ專トシテ其後吉田

へモ可爲出張ト理ヲ盡シテ申サレケレトモ經久老耄シ給へハ御異見至理ニ存候ト謹テ申サレナカラ内意ニハ臆シタル仰哉ト思一向吉田へ出張ノ用意而已也既ニ近國ノ同志ノ侍共ヲ召集テ出軍ノ吉日ヲ撰ケル折節伯耆ノ大山ヨリ奇特ノ告共アリケレトモ留給ス頓テ大山へ使者ヲ立今度ノ合戰勝利ヲ得シメ給へトテ緋威ノ鎧太刀一腰寶前ニ籠ラレ彌吉田發向ノ儀ニ定リヌサアラハ南條行松等能透間ト本領へ打入事モヤ有ナントテ吉田筑後守舍弟左京亮ニ二千餘騎差添伯耆ノ押ニ置レケリ扱藝州へ推入ントスル道ハ幸ニ三吉式部少輔味方ニ屬ケレハ三吉口ヨリ入へシ事ノ様體ヲ伺見ヨトテ尼子紀伊守同下野守同式部大輔ヲ大將トシテ三千餘騎天文九年六月下旬ニ備後國三吉へ差向ラル同國志和地八幡山ニハ三吉カ郎等中村石見守ヲ籠置ケレハ雲州勢彼山ニ在陣ス此所ハ藝州ノ境ニテ河一ツ隔テタリ河ノ向三十町計過テ岩屋ト云城アリ此ハ穴戸安藝守カ領地ナリケレハ舍弟深瀨彈正忠隆兼ヲ籠置ケリ新宮黨彼城ヲ攻落ント河耳マテ打出ケレトモ深瀨モ去勇士ナレハ散々ニ防ケル折節水カサマサリテ河ハ深シ向ニハ敵手強防爰ニテ勢ヲ損ン事無益トヤ思ケン本ノ八幡山ニ引退其ヨリ出雲へコソ打入ケリ同年八月尼子民部大輔晴久朝臣藝州吉田へ發向ス尼子下野守同子息孫四郎新宮黨ニ尼子紀伊守國久嫡子兵部大輔二男式部大輔三男左衛門大夫ヲ先トシテ伯耆播磨美作備前備中備後隱岐ノ國侍尼子ニ有志者共我不劣ト相隨都合其勢四萬八千餘騎八月下旬ニ富田ヲ打立九月四日ニ安藝ノ吉田ニ著青野鼻三猪口ニ陣取湯原彌次郎湯信濃守ハ三千餘騎ニテ本陣ノ左ノ方高尾豐前守黒正神兵衛尉吉川治部少輔興經ハ右ノ方ニ陣ヲ居ラル

元就朝臣譜代ノ家人ノ二男三男尼子曾テ不知者共ヲ内々尼子家へ奉公サセ置何篇内通サセラレケルカ此度モ彼者共様々内通申ケルトナリ又尼子モ二三年已前ヨリ内別作助四郎ト云近習ノ者ヲ虚勘氣シテ出シ毛利家へ入置ケリ元就朝臣存ノ者ナリケレハ頓テ心得給ヒ底意ハ許シ給ハス表向如何ニモ目懸給フ様ニ召仕レケリ今度尼子吉田へ出張ト云沙汰有ケル折節元就家子共ニ語り給ハ晴久此地出張アラハ哀甲山ニ陣ヲ取ヨカシ若三猪ノ口ニ陣ヲ張レナハ周防へノ通路ヲ遮レ味方ノ働キ何トモ成マシキ間一先山口ノ方へ落行大内ヲ頼重テ防戦ニ及ヨリ外ノ事ハ有マシト隱密ニ悔振ヲ内別作カ略聞様ニソシ給ケル如案助四郎或夜逐電ス元就朝臣サテコソ此度ノ軍ハ勝利ヲ得タルソ甲山ハ當城ヲ目ノ下ニ見下究竟ノ所ナレハ何ト防トモ可難協三猪ノ口ハ平場ナレハ如何ニモ輒事ナリ一定尼子三猪ノ口ニ陣ヲ居ヘシト喜シメ給フ所ニ少モ不違三猪ノ口へ出張セラレケリ武田刑部少輔信實兼テ本領安堵ノ願ニ付テ晴久へ與セラレタル事ナレハ牛尾遠江守相共ニ佐藤ノ銀山へ打入ケルニ依テ毛利家ヨリ兎玉周防守ヲ檢使トシテ熊谷伊豆守信直香川左衛門尉光景已下七百餘騎差向ラレ於彼地モ日々足輕迫合アリ毛利家與力ノ藝陽ノ侍共モ勝負ヲ窺居テ元就ニ與スル者モ無所ニ宍戸安藝守我身ハ居城五龍ニ居ナカラ嫡子雅樂頭隆家ニ軍卒百餘差添テ吉田郡山ノ城へ差籠ラル又小早川又太郎己ハ風氣煩ケレト家子小早川中務ヲ五百餘騎ニテ差出サル郡山へハ中々可入様モ無ニ依テ先吉田ノ坂ニ扣タリ同六日尼子勢打散テ民屋放火シ其後ニ二手ニ分テ押寄セ太郎丸ヲ燒拂ントスル所ヲ城中ヨリモ打出散々ニ戰即時ニ敵ヲ追崩足輕數十人討

取手毎ニ頸提飯リケリ湯原彌次郎ハ小早川カ扣タル坂へ押寄戰所ニ防州ヨリ杉次郎左衛門尉馳上リ相加ル又城中ヨリモ三百計援ケ來リ終日戰日暮ニ及ケルカ如何シタリケン湯原深田ニ馬ヲ乘落進退失塗ケル處ニ山懸彌三郎馳寄遠矢ニ射落シ頸取テケリ吉川與經此時ハ尼子方ニテ向レケルカ家人粟屋與三右衛門羽仁藤兵衛佐武善左衛門等無比類働シテケリ

九月九日十二日合戰事

同九日尼子勢本庄越中守赤穴右京亮湯佐渡守等後小路ヲ燒立ル城中ヨリモ足輕共懸出丹比川ヲ渡シ遠矢少々射掛ケルカ如何思ケン頓テ引退尼子勢スハヤ引ソ討取ト我先ニト追懸ル城中其日ノ軍大將渡邊太郎左衛門通門田宮内少輔井上與三左衛門渡邊新右衛門兒玉左衛門太郎二宮七佐入道即阿彌等五百餘騎遣分ト云所ニテ渡合セ相戰吉田勢ノ中與三右衛門鑓脇ノ弓仕敵數多射落シヌ渡邊太郎左衛門ハ本庄カ同名ノ者ト鑓仕無難突伏頸ヲ取渡邊十郎三郎ハ高橋ヲ打渡邊源十郎繩爪ノ某ナト討レケリ出雲勢ニモ本庄越中守赤穴右京亮高名シテケリ扱寄手ノ兵トモ聊利ヲ失シカハ先引ヤト云程コソアレ颯ト引城中ノ兵トモ小勢ナレハ少ハ跡ヲ慕様ニシテ頓テ打入申候同十二日出雲勢摸道石見守同兵庫助牛尾三河守岸左馬進高尾豊前守四千餘騎卯ノ刻ヨリ太田口へ働申候城中ヨリ粟屋繼殿丞井上河内守同源三郎同源五郎同玄蕃允同與三右衛門粟屋右京亮同源次郎同伯耆守福原源右衛門波多野源兵衛尉坪井因幡守内藤六郎右衛門綿貫新右衛門三宅弘三戸已下懸合散々ニ責戰忽突崩十日市邊マテ追詰數十人討取是モ小勢ナレハ先引ヨト城中へ引取ケリ

九月十三日合戰事

同十三日白豆會下谷ニ陣取タル龜井能登守森脇長門守三刀屋彈正左衛門福山次郎左衛門等
 二千計三塚風越山宮崎邊陣ヲ替ケル處ヲ城中ヨリ中村豊後守中原善左衛門井上長門守同與
 三左衛門尉七百餘騎打テ出矢軍シケルカ出雲勢射立ラレ引退ケルニ依テ城兵勇進テ攻戰龜
 井森脇疵蒙リヌ尼子勢彌堪カチテ引ケル間中村ノ一族先ニ進終ニ風越山宮崎ノ陣ヲ切崩シ
 ケリ其後又寄手後河原へ打出候ヲモ城ヨリ早雄ノ若者トモ下合セ戰熊谷香川カ人質熊谷左
 馬助香川淡路守二人ナカラ兒玉三郎右衛門カ手ニ付出籠下ノ分捕シテケリ扱出雲勢引退ケ
 レハ城中ノ兵モ討入ヌ牛尾遠江守カ同朋ニ琢阿彌ト云大力ノ強者アリケルカ牛尾カ討レケ
 ル日ハ風氣相煩供セサリシカ主ノ討レタルヲ聞口惜ク思ケレモ病ニ侵サレ無是非居タリ日
 ヲ經テ漸病輕クナリシカハ其儘懸出城門近ク寄テ病ニ侵レ主ノ供セサリシ事アマリ口惜候
 程ニ唯今討死仕ント思定候毛利ノ人々我ト思ハン者誰ニテモ出給ヘ手詰ノ勝負ヲ致ント討
 ケレハ井上與三左衛門射手ナリケルカ懸出尋常ニ名乗渡合終ニ琢阿彌ヲ射落頸ヲ取テケリ
 於伯州與南條迫合事

爰ニ伯州ノ押ニ居ケル吉田兄弟ヨリ早打ヲ以テ注進シケルハ山名但馬守ヨリ因幡ノ守護ニ
 被置タル武田山城守ニ伯州ノ浪人南條豊後守山田出雲守小森奎允ナト相加里六千餘騎ヲ先
 手トシテ近日ニ伯州へ打越ノ由風聞候ト告來時久被思儲タル事ナレトモ吉田兄弟ニ被付置
 ケル人數モ僅ノ事ナレハ先此勢ノ内ヲ引分彼表へ可遣トノ給處ニ尼子伊豫守國久某甲父子

罷向候ハント望申ニ付テ則三千餘騎ヲ引分テ國久ヲ大將トシ伯州ニサシ向ラル去程ニ武田
 山城守ハ鳥取ノ城ニ扣居ケルカ尼子國久カ援兵モ少勢ナリト聞スマシ更ハ伯耆へ打越ント
 其勢七千餘騎伯州馬野山邊へ出張シ勢ヲ二二分一手ハ南條豊後守宗勝小森奎允餅瀬等二千
 餘騎橋津口へ差向ラル我身ハ山田出雲守行松入道篁部已下五千餘騎ヲ相隨渡口へ打テ出尼
 子勢モ橋津へハ吉田父子二千餘騎渡口へハ尼子紀伊守國久子息兵部大輔波多野以下三千七
 百余騎渡口ニ扣タリ兩陣互ニ入亂南風北風手痛戰ケルカ尼子兵部深入シテ敵味方ノ射違矢
 ニ當馬ヨリ眞逆ニ落ル處ヲ武田カ郎等中原奎允押テ頸取テケリ國久是ヲ無念ト思無ニ切
 テ懸リケルニ依テ武田勢切立ラレ右往左往ニ逃散ス武田カ若黨林權平ハ日來勘當蒙リタリ
 シカ能頸一提來テ山城ニ向日來ノ勘當御免ヲ蒙リ候ハント云ケレハ山城大ニ腹ヲ立誰カ免
 ニテ是へ來ルソト忿リケレハ權平涙ヲハラハラト流テ又敵ノ陣へ蒐入テ討レヌ是ヲ見人哀
 御心強キ山城殿ノ御振舞哉ト云ケレハ山城莞爾トシテ運ノ窮ニナリ彼ヲ免ナハ届テ討死ス
 ル者ノ無レハコソ日來勘當ノ者ヲモ悅赦ケルヨト後人ノ嘲哂ヲ免ント思不赦ト云レケル
 兎角スル内ニ漸打拔已ニ馬野山スクモ塚ノ邊マテ逃延ヌ尼子勢無透間續テ追懸レハ山城守
 不協トヤ思ケンスクモ塚ノ上へ走上自害シテ失ニケリ橋津ノ南條豊後守宗勝モ吉田父子ト
 渡合セ戰ケルカ南條カ勢打負宗勝ハ漸水中ヲク、リ遙ノ沖へ游出泉郎ノ小舟ニ助ラレ辛キ
 命助リタリ

土探場并宮崎合戰事

同十月十一日尼子式部大輔舍弟同左衛門大夫ヲ大將トシテ出雲伯著石見三州ノ勢一萬余騎
吉田ノ郷中へ馳出前日燒殘タル民屋共ヲ放火シテ方々ニ徘徊ス元就朝臣堪カ子纒二千餘騎
ノ勢ニテ打テ出ントシ給フ福原志道口羽等ヲ先トシテ以小勢大勢ニ向ヒ給事ハ危御振舞口
惜次第ニ覺候ト制シ止ケレ共元就朝臣曾テ用不給先渡邊太郎左衛門尉通國司右京亮元武兒
玉左衛門太郎粟屋掃部助同右京亮等ニ五百餘騎差添大通院谷ヨリ忍テ下リ三日市ノ邊ノ藪
陰ニ隱シ居テ相圖ヲ待ト下知シ給フ又桂左衛門大夫元澄志道上野介兒玉十郎右衛門粟屋孫
次郎井上又右衛門同大藏左衛門波多野源兵衛尉等二百餘騎城ヨリ五六町計打出路滑ニ巖聳
諸木茂リタル所アリ各彼所ニ扣居テ若敵追懸來ラハ嶮路ヲ便リニ可相戰ト宣テ被差遣城
中ニハ粟屋繼殿允ヲ殘サレタリ角テ元就朝臣隆元朝臣ハ口羽下野守通良赤川十郎左衛門尉
元秀兒玉三郎右衛門佐藤彦三郎長屋繼殿助桂善左衛門尉井上長門守カ一族平佐源七郎岡又
十郎内藤九郎兵衛椿梶房等ヲ先トシテ究竟ノ兵一千餘騎ヲ相隨祇園谷ヨリ油繩手ヘ討出
ラレケレハ尼子式部大輔是ヲ見テ元就自身打出タリト見エタリ是ソ願處ノ敵ナリアレ討取
ト下知シテ押寄ル魁ノ軍兵無手ト渡合油繩手ヲ追ツ追レツ攻戰角手ヲ碎數刻ノ戰ナレハ吉
田勢モ口羽赤川兒玉其外モ鎧ヲ合分捕ス中ニモ井上豊後守其比ハ未椿ト云者ノ養子ナリシ
カ槌房當年十六歳ト名乗懸鎧ヲ入ケルソ無類元就朝臣兼テ定ラレシ事ナレハ相圖ヲ出給ト
齊藪陰ノ伏兵共一度ニ起テ三日市常友ヨリ蒐出横合ニ突カ、リケル間出雲勢已ニ引色ニナ
ル三澤三郎左衛門爲幸手勢五百計引分眞丸ニ成テ惣軍崩ントスレトモ少モ不臆踏留戰已ニ

危見エシ處ニ郎等ノ三澤藏人布廣左近野尻玄蕃等七十計中ニ推隔テ戰吉田勢爲幸一人ヲ目
ニ懸テ援立責戰ケルカ井上七郎次郎爲幸ト無手ト引組終ニ首ヲ取テケリ三澤カ郎等主ヲ討
セテナトカ生テ堪ヘキ三澤藏人野尾玄蕃竹中孫三郎ヲ先トシテ三十餘人一足モ不去戰死ス
嫡子爲清モ父ト同道ニナラント大勢ノ中へ蒐入ントスル處ヲ布廣左近米澤入道引止メ退キ
ケルヲ吉田勢スハ敵ハ引ント云程コソアレ勇進テ攻ケレハサシモノ出雲勢モ數刻ノ戰ニ
歷々ノ者トモ討レテナトカハ可溜一度ニ颯ト引退元就朝臣競懸テ追付給フニ取テ返ス者モ
多カリケレトモ終ニ不叶散々ニ成テ逃ケルカ深田ニ馳入テ空討ル者數ヲ不知カタテ吉田勢
逃ル敵ヲ追拂勝凱歌ヲ上靜ニ城へ入ニケリ中國至_リ于今_リ土取場ノ合戰ト申傳タルハ此事ナ
リ

大内勢吉田後詰事

同十一月二十六日藝陽騷劇ノ事ヲ備藝ノ味方共ヨリ大内義隆卿へ注進シケレハ爲後詰陶尾
張守隆房杉伯耆守重政内藤下野守興盛ヲ大將トシテ防長豐筑ノ勢二萬餘騎山口ヲ打立テ同
十二月三日藝州吉田ノ郡山ノ巽山田山中ニ陣ヲ取元就朝臣頓テ國司助六粟屋太郎右衛門ヲ
使者トシテ防州ノ兩三將ノ陣へ被遣懇ニ勞ヒ給陶ヨリモ梯並佐渡守杉内藤ヨリモ使二人相
添テ大内ヨリ爲後詰被差向ノ通被申ケリ年内ハ寒氣甚シテ軍士ノ働自由ナルマシ改リ雪消
氷解テ可戰トノ僉議ニテ翌年天文十年正月十一日天神山へ陣替セラレケリ同十二日元就朝
臣ヨリ兒玉三郎右衛門尉ヲ以テ三將へ云送り給ケルハ明日十三日宮崎ニ陣取スル高尾豊前

守黒正神兵衛尉吉川興經ヲ某甲可切崩候尼子若後詰シ候ハ彼ヲ押テ給リ候ヘト宣フ陶ヨ
 リハ末富志摩守杉内藤ヨリ一人宛差添評定ノ爲ニ二使ヲ被越元就朝臣於萬願寺三使ニ對
 面シ暫軍ノ僉議シ給テ返シ給ヘリ翌レハ正月十三日マタ卯ノ刻ニ城中ノ勢三千餘騎城外ニ
 備ラル自身ハ床几ニ腰ヲ掛敵軍ヲ檢見シテ御座ス陶カ郎等末富志摩守戰場見合ノ爲ニ打
 廻リケルカ吉田勢ハヤ出タリト見急走リ飯リケリ元就朝臣ノ二男元春朝臣今年十二歳ニ成
 給シカ今日戰場ノ供奉セント走リ出給元就朝臣井上河内守ニ次郎具シテ歸レト仰ケレハ則
 抱奉テ内へ入ヌ元春大ニ怒太刀ニ手ヲ懸既ニ抜打ニセントシ給ケルニ依テ無力逃隠レヌ其
 隙ニ走リ出是非御供申候ハン御免ヲ蒙ヘシト宣程ニ元就莞爾ト打笑サテハ具スヘシト宣テ
 共ニ打連テ出給フ吉田勢漸三千ニ過サレハ城中ノ女童下部マテ悉堀際へ差出竹ノ先棒ノ先
 ニ箔紙ヲ付或ハ金銀ノ扇子ナト結付持セ置給ケリ去間宮崎ニハ吉田勢向ト見テ一陣ニ扣タ
 ル高尾豊前守二千餘騎柵際マテ打出待懸タリ吉田勢少モ不臆責近柵推破リ切入タリ出雲勢
 モ爰ヲ專度ト防戦ケレトモ終ニ不叶左右ノ谷へ引退二陣ニ續タル黒正神兵衛尉一千五百餘
 騎渡合テ防戦陶杉内藤宮崎ノ陣ハ元就輒ク勝利ヲ得ラルヘキノ更ハ本陣ノ晴久ト一戦セン
 ト二萬餘騎ヲ三段ニ分青三猪山へ押寄ル尼子下野守ハ慮深キ侍ニテ必勝ノ見切無シテハ危
 キ合戦ヲ慎ケル程ニ世人尼子比丘尼ト云ケレトモ此人何ト無怒ル氣色モ無リシカ心深憤リ
 ヤ有ラン居長高ニナリ今日ノ戦味方ノ大事不過之兎角一人踏留テ打死セスンハ晴久ノ御開
 陣可成難内々口武邊シ給フ人々一手際所ニテ候誰カ彼カト云レケレモイラヘスル者一人モ

ナシ其時雜言吐散シ尼子比丘尼今日ノ討死ナリ御免アレトテ打立手勢五百餘騎計青三猪カ
 坂へ懸出ケレハ河添美作本田豊前已下下野ニ勵レ我先ニト進出陶カ先手深野平左衛門尉宮
 川善左衛門末富志摩守二千餘騎入亂テ戦山上へ追上ル時モアリ周防勢追下サレ三日市マテ
 引時モアリ終日無透間責合ケル程ニ陶カ先手深野宮川ハ討レヌ末富ハ深手負稍下人ニ助ラ
 レ味方ノ陣へ入ニケリ元就朝臣ノ家人中原善左衛門宮崎ヨリ何トシテ來リケルヤラン陶カ
 手ニ有シカ尼子下野ニ渡合大雁俣ヲ野州ノ眉ノ外ニ射込馬ヨリ落ル所ヲ走懸リ頸取ントシ
 ケルニ野州カ同朋主ノ首ヲ探セシト前ニ進テ打テ懸ル中原物ノ員トモセス一太刀ニ打捨ケ
 ル隙ニ下野ノ死骸ヲハ若黨トモ肩ニ掛味方ノ陣へ逃入ケル中原思頸ハ不得取同朋ノ首計打
 テ飯リス已ニ薄暮ニナリケレハ互ニ兩陣引分レ手負死人ヲ記サレケルニ尼子下野ヲ初トシ
 討死四百有餘手負不知數陶カ手勢深野宮川ヲ先トシテ三百三十餘杉カ勢六十餘内藤カ陣ニ
 八十餘都合五百四十餘人討死ナリ元就朝臣モ高尾黒正カ兩陣押破吉川治部少輔興經ノ陣へ
 切懸リ責入追崩シ畢日戰給ヘトモ其日ハ互ニ勝負付サレハ是モ兩陣引退元就朝臣今日頸數
 ヲ點檢シ給フニ五百七十有餘ナリ則一所ニ築籠ラル相合ノ頸塚是ナリ

尼子晴久敗北事

去程ニ尼子方ヨリ周防ノ物聞ニ作リ山伏共ヲ置ケルカ其夜陣所へ立歸リ大内義隆數萬ノ軍
 兵ヲ率シ防府ニ着陣シ青景弘中右田問田ノ者共已ニ防州岩國マテ襲來候ト申ハ晴久不叶ト
 ヤ思レケン所々ニ捨篝火活ト燒續ケ密ニ北池田アスナ津賀邊へ引取吉川モ新庄へ引拂ハレ

物見ノ者共敵ハ敗軍ナリト告ケレトモ以ノ外ノ大雪ナレハ夜中ニ跡ヲ慕フ事不相成仄々ト
遅明吉田勢早打立テ追レケルニ高尾豊前五百騎計眞丸ニ成テ殿シケルニ追付火水ニナレト
責給フ高尾前日ノ負軍能無念ニ思ケルカ一人モ不殘討死ス其隙ニ晴久津賀マテ引退兩三日
此所ニ滯留シ敗軍ノ士ヲ召集頓テ出雲へ飯陣セラル佐藤ノ銀山ニ在城シタル武田モ敗軍ス
是又熊谷香川等早天ヨリ爰彼所打廻取後タル兵トモ三十餘人討取ヌ是ヲ見テ城ヲウカレ出
漂廻ケル者共又城中へ逃入ヌ其後晴久ノ陣所三猪山ヲ見ルニ能々周章シテ退ケルニヤ深野
宮川カ首ヲハカナカケニ入下野守ノ頸ヲハ頸桶ニ入テ打捨テ置ニケリ

佐藤銀山之城并櫻尾城沒落事

同年五月七日佐藤ノ銀山ノ城ニハ武田刑部少輔青木太郎左衛門大乃美彦三郎細野原二郎左
衛門山中十郎太郎井尻與三已下三百餘騎殘居ケルニ依テ元就朝臣穴戸隆家相共ニ押寄攻給
フ城中ヨリモ穴戸手へ突テ出手痛働ケル穴戸衆庄原孫次郎神代内藏允木原源三兵衛山縣左
馬助佐々部宗左衛門等鎧ヲ合無比類働シテ打死ス其外手負死人以上四十餘人敵ヲモ數多討
取ケリ香川左衛門尉己斐豊後守策ヲ以テ扱ヲ入ケルニ粟屋山中已下ハ任其旨ト云へ共内藤
彌四郎ハ義ヲ勵シテ曾無同心主君元繁光和ノ畫像ヲ掛香ヲ燒三拜シテ腹搔切テ死テケリ殘
兵共ハ皆悉降參ス則銀山ノ麓伴ト云所ニ下居サセラレ候處ニ井尻與三何トヤラン敵ノ振舞
我等ヲ助置ヘキトハ不見方便レ止々ト討レン事口惜次第ナリ各如何ト云ケレハ殘者モサレ
ハトヨ我々モ左存ナリトテ伴ノ屋敷ニ取籠覺悟シテ待懸タリ元就朝臣ヨリ穴戸隆家熊谷信

直香川左衛門尉己斐豊後飯田山田等ニ武田城ノ者共悉可討果ノ旨被仰付同八日未明ニ伴へ
迫寄ケルニ泛々ノ族ハ皆落失有名者トモ五十餘人殘リ居散々ニ切廻所々ニテ討死シテケリ
井尻與三ヲハ穴戸カ郎等末兼彌四郎討取深瀬式部佐々部兵部江田市助中所少輔四郎等分捕
高名ス深瀬カ家人中所筑後ヲ先トシテ數人討死ス粟屋一條板垣ヲハ熊谷又ハ佐藤郡ノ者共
討果ス熊谷手ニモ水落與九郎ヲ先トシテ數十人手負ヌ山中青木ハ紛落ケルニヤ印無リシナ
リ櫻尾ノ城へハ大内勢相向嚴島ノ神主佐伯式部大輔與藤子息四郎ヲ大將トシテ佐西郡ノ者
共五百餘騎楯籠リケルカ若命ヤ助ルト神主父子ヲ討テ出スサレトモ陶一人モ不助盡打果畢
安西軍策卷第一終

安西軍策卷第二

義隆雲州發向事

天文十一年正月十一日去年晴久從藝州吉田表敗軍シ給テ以後備雲石ノ國侍トモ大内へ與ス
ル者ニ吉修理亮福屋式部少輔高野山久意三澤三郎左衛門三刀屋彈正左衛門本庄越中守宍道
遠江守河津民部左衛門吉川治部少輔與經山内新左衛門宮若狹守古志清左衛門出羽主膳正以
下十三人一昧同心シテ義隆出雲へ御出張被成候ハ、御味方ニ參リ魁可仕旨陶尾張守迄云送
リケルニヨリ雲州發向ノ僉議有テ義隆卿ステニ山口ヲ打出給相隨人々ニハ大内太郎左衛門

輝弘杉伯耆守重政陶尾張守隆房同安房守内藤下野守與盛同彈正忠隆世杉入道宗參同民部大輔同豐後守同次郎左衛門同勘解由判官同治部大輔同十郎冷泉判官隆豐右田左馬助弘中參河守同中務少輔仁保右衛門大夫青景越後守三浦將監毛利與三黑河近江守岡邊右衛門清四郎岡田掃部助同紀伊守同丹後守豐田美濃守狩野入道弘中左衛門大夫江良彈正忠鸞津朝倉杉森町野神代桑原以下三萬餘騎安藝ノ國府ニ着陣セシカハ當國ノ幕下穴戸安藝守隆家毛利右馬頭元就同備中守隆元平賀太郎左衛門隆宗吉川治部少輔興經小早川又太郎正平天野六郎熊谷兵庫助信直同舍弟平藏直續香川左衛門尉山縣筑後守今田上總助飯田越中守己斐入道新里ノ何某備後ニ宮若狹守同左衛門尉三吉修理亮廣隆山名宮内少輔忠興野間刑部大輔隆實木梨治部大輔高野山入道久意久代修理亮蘆原藤左衛門佐久木新右衛門山内新左衛門尉池上佐渡守多治目藏人志賀太郎兵衛尉ナト相加リ同三月初旬ニ石州出羽ノ二山ニ陣ヲ替ラレケレハ又當國ヨリモ益田越中守藤兼福屋式部少輔隆包佐波常陸介秀貫小笠原長雄同彈正少弼本庄越中守羽根彈正忠津野駿河守岡本大藏大輔久利清六兵衛同左馬助吉川和泉守都野三河守周布河上ノ一族等相加其勢雲霞ノ如ク津賀ノ渡リヘ行カ、リケル處ニ杉入道宗參舟橋ヲ掛テ惣勢ヲ安々ト打渡シ則其所ニ居陣ス

赤穴合戰事

同六月七日赤穴ノ城ヲ攻ント擬セラレ、處ニ熊谷平藏直續二百餘騎押寄赤穴ノ在家ヲ放火シケルヲ城中ヨリ足輕ヲ出シヒタト取結フ赤穴右京亮モ五百計ニテ打出熊谷ト渡合直續カ

郎等末田新右衛門ヲ初トシテ暫戰ケルカ城ノ者トモ鏃ヲ擲射ケルニ依テ熊谷モ荒川與三ト主從唯二騎ニ打成レ手ハ負ヌ生テモ無益ト思ケルカ其儘蒐入態敵ヲ相手ニシテ差違テ死タリ同十八日毛利右馬頭元就朝臣先陣トシテ津賀ノ渡東ノ地ヘ打越給フ翌日十九日ヨリ諸士僉議區々也シカ先手合ニ赤穴ヲ攻落ント一決シテ同廿三日赤穴ニ押寄仕ヨリヲ付同廿七日ノ卯ノ上刻ヨリ惣軍鯨波ヲ揚唯一時ニ接落サント攻近ク赤穴右京手強ク防度々突テ出四角八面ニ打廻ルニ依テ寄手モ攻アクンテ居ケル處ニ其夜城中ヨリ降參ヲ乞城ヲ渡雲州ヘ皈リケルコハ如何ニ心得ヌ敵ノ降參哉ト思ケルニ後ニ聞ハ城主赤穴右京亮陶カ突掛リケル時喉ヲ被射漸城ヘ引皈ケルカ即時ニ相果ケルニ依テ雲州ヨリノ加勢田中降參ヲ乞赤穴カ妻子ヲ助ケシトナリ扱寄手ノ手負死人ヲ數ヘケルニ陶カ郎等末富志摩守ヲ初トシテ宗徒ノ軍兵數百人手負死人アリ吉川平賀兩手ニモ七十餘人討ル其外諸陣ノ手負死人一千餘人ニ及ケリ同廿九日由木ニ陣ヲ被移九月中逗留シ給テ手負ナト養育セラレ頓テ三刀屋カ峰ヘ陣替同十一月上旬ニ高津馬場ヘ陣換大ニ雪降風烈シテ寒カリケレハ五六日カ程經テ馬方ノ正久寺ヘ義隆卿本陣ヲ被替陶杉内藤其外大内ノ旗本ハ大庭出雲卿元就朝臣ハ白瀉熊谷伊豆守香川左衛門三須筑前守飯田越中守此外藝州佐藤郡ノ人々ハ八重垣吉川治部少輔興經ハ平原ニ陣ヲトラレケリ

菅谷口井洞光寺合戰事

天文十二年正月廿日義隆卿史道ノウチ地山ヘ陣ヲ被移此ニテ諸將評議有テ同二月十二日義

隆卿ケウラキ山ニ陣ヲ被寄陶尾張守ハ經塚ニ陣ヲ取二月十三日ヨリ足輕セリ合始リ三月上旬マテ所々ニ矢軍有ケレトモハカシシキ軍ハナシ同十四日元就朝臣ノ手勢内藤下野守カ手勢一ツニ成テ菅谷口ノ蓮池ノ繩手ニ働ケル城中ヨリモ牛尾遠江守川添美作守一千餘ニテ打出戦シカ兵一人手ヲ負彼繩手ニ頼ヒ居ケルヲ内藤下野カ郎等勝馬田孫七押テ首ヲ取此ノ時ノ追合ノ一ツ頸ナリ同三月下旬晴久曾祖父刑部少輔清定ノ菩提所金尾ノ洞光寺々中へ平賀太郎左衛門隆宗益田越中守藤兼五百計ニテ相働城中ヨリ是ヲ見テ若放火スル事モヤトテ尼子式部大輔同舍弟左衛門大夫二千計ニテ蒐出平賀ハ籠手クサリ迄金ノ具足ヲ着シ甲ノ立物ニハ五本立櫻欄ノ葉ヲ金ニシテ差ケルカ新宮黨ノ猛勢ニ渡合手詰ノ戦目ヲ驚タル事ナレトモ多勢ニ無勢ナレハ危見シ所ヲ吉川治部少輔興經横合ニ突テ蒐レハ富田勢不叶一度ニ颯ト引平賀萬死ヲ遁レケリ

元就朝臣救南方秋山事

同月下旬義隆卿ヨリ八幡山ニハ今度初テ志ヲ合タル備藝石ノ侍トモ居候敵舍憤切カ、ル事モヤ有ナン元就敵ノ押ニ被出候ヘカシト宣ヘハ一千餘騎ニテ八幡山宮ノ尾ト云所ニ陣ヲ居給富田川ノ地ニ河本彌兵衛カ明退タル館有是ニ南方出羽守秋山美濃守等三百計ニテ籠置ル此程ノ霖雨ニ富田川ノ水カサ増リケレハ城中ノ兵是コソ究竟ノ折ナレトテ大西十兵衛本田豊前守立原備前守ナト二千餘人皆步行立ニテ彼川本カ屋敷へ蒐來南方秋山手痛防ケレトモ大勢ニ懸立ラレ既難儀ニ及處ニ元就朝臣是ヲ助ント川端ニ臨見給田子兵庫助懸付頼ニ制

シケレトモ川打渡咄ト突テ懸リ手ヲ碎戰給忽富田勢被突立右往左往ニ散亂ス城中ヨリ是ヲ見味方討スナト得武具提大勢打出ケレトモ味方ヨリモ元就討スナト處々ヨリ蒐出川ヲ打渡ス元就朝臣猶々力ヲ得テ勇進マセ給フ故終ニ富田勢懸立ラレ城中サシテ引退ク

大内勢開陣事

同年四月晦日八幡山ニ陣取居ケル備雲石ノ侍トモ前日ヨリ尼子へ可屬ノ由内談シテ城中へモ手筈ヲ取相圖セシ事ナレハ城ヨリ牛尾遠江守宇山飛驒守千計ニテ打出富田川ヲ隔備フ兼テ心ヲ合タル三澤三郎左衛門尉三刀屋久扶吉川興經本庄越中守廣田櫻井宮小笠原富水杉原久代江田池上敵ニ懸合働体ニモテナシ皆城中へ入ケレハ大内勢力ヲ失騷動シケレトモ軍使ヲ廻シ下知セラレ又踏シツメテ五月二日ヨリ小々軍有ケレトモ大内勢彌力ヲ落シケレハ先此度ハ引拂他日九國ノ勢ヲ催可寄トテ同七日未ノ刻大内勢敗軍ス大内義隆卿嫡子周防介父子トモケウラキ山ヨリ湯谷へ下舟ニ乗給フ中ニモ周防介乗給フ舟ニハ人多ク込乗テ既危カリケレハ檣械ヲ以打拂漕出セトモ水ニヒタリ泳カ、ツテ多舩ニ取付卒ニ舟ヲ引返シ周防介ヲ初トシテ一人モ不殘溺死ス其後カツキスル者ナト入レテ見給ヘトモ周防介ノ死骸ハ不見ケリ此人ハ土佐ノ一條權大納言房家卿ノ御息男義隆卿ノ姉君ノ御腹也三歳ノ時ヨリ養子ニシ給テ今年十一歳ニ成給トソ聞エシ陶杉内藤ナトハ白瀉へ廻リテ引退元就朝臣隆元朝臣ハ宮尾ヨリ岩坂口退給フ城ヨリモ跡ヲ慕働ケレトモ井上與三左衛門内藤九郎兵衛波多野源兵衛三戸與五郎井上源左衛門三戸五郎右衛門同小三郎ナト取テ返防戦中ニモ赤川左京亮同又

五郎向敵二人切伏ケレハ敵是ニ辟易ス關サハ暗雨ハ降進退失途シカトモ其後ハ敵モ不付
 幕靜々ト羽根ノ滿運吐ニ著四五日留リ給落散タル勢ヲ待汰ラル彼寺ノ住僧何トシテカ持
 傳ケン義經ノ矢違ノ守ヲ進上其後吉田へ打入給フ小早川熊谷香川三須ナトハ鳴巢川ニテ一
 揆却テ難儀ニ及シカ各ハ山へ掛テ無恙逃延ヌ小早川又太郎ハ郎等ノ眞田大藏萬壽善四郎
 ナト返合防ケレトモ一揆大勢ナル故主從トモニ打死シ其外ノ國侍皆己カ城々へ立歸
 備後三吉合戰事

天文十三年七月晴久七千餘騎ヲ卒備後ノ國府ニ出張三吉修理亮廣隆カ城ヲ搥ントシ給也元
 就朝臣傳聞同月廿六日福原左近將監貞俊兒玉三郎右衛門就忠ヲ大將ニテ粟屋孫次郎同太郎
 左衛門井上彌次郎福原中務長屋縫殿允等都合一千餘騎ヲ遣シテ三吉ヲ被翼廿八日彼等三吉
 ヨリ魁スト云トモ三吉ノ大河常ニ霧深カリケルカ此日モ大霧降テ敵味方見分ヘキ様モナク
 小勢ニテハ有福原兒玉深手ヲ負散々ニ打負引退即時又突懸ントス福原兒玉モ俱ニ打出ント
 云トモ方便テ下人ノ肩ニ負セ差歸シ殘者トモ又攻寄稠戰霧ト云大敵ト云ナトカ可得勝利井
 上彌次郎粟屋孫次郎同太郎左衛門福原中務長屋縫殿允庄十郎左衛門ヲ先トシテ宗徒甲士數
 百人被討テ引歸ス三吉廣隆是ヲ聞毛利ノ加勢討スナト僅五百騎計馳著テミレハ霧モ晴ツ
 敵モ兩度ノ軍ニ勝油斷シテ居ケル間思圖ニ懸散シ切テ廻ル尼子勢周章シ武具取合セ戰フモ
 セテ吾先ニト逃テ行カ、リケル處ニ備後ノ國侍池上上里森光矢田國富蘆原ナト毛利ニ志深
 カリケレハ得タリト慕二三里計追蒐黒田與次郎ナト先トシテ數百人討取ケリ

尼子紀伊守陷美作之諸城事

同年十月初旬尼子紀伊守嫡子式部大輔次男左衛門大夫備作ノ城々陷ント請晴久則河添美作
 守森脇長門守二人ヲ相加五千餘騎備後ノ國へ打越小早川正平カ城ヲ圍正平於鷗巢川爲一
 揆雖被害家人等嫡子又鶴丸ヲ取立城堅固ニ守ケル責手モ攻アクミケルカ差捨テ通リ頓テ
 奴田表へ陣替シ高野山久代カ入質ヲ捕同十一月美作ノ國へ打越浦上カ勢ヲ入置タル高田篠
 吹伊玉山等三ヶ城ヲ陷出雲へ飯陣シタリ

元春朝臣隆景朝臣他家相續事

天文十六年吉川治部少輔興經無實子故元就朝臣ノ次男元春幸ニ興經ノ從弟ナレハトテ養
 子ノ契約ヲナシ給フサレトモ未新庄へ行給ス翌年天文十七年三月ニ吉日良辰ヲ撰小倉山へ
 入城興經ハ去年親子ノ契約相調テ以後ハ同國布川ニ居ヲト給シカ爲入城ノ祝儀小倉へ打
 越當家代々ノ重物等引渡給フサテ又三男隆景ハ備後ノ竹原ノ家相續アリシカ小早川又太郎
 正平討死ノ後嫡子又鶴丸元緒ヲ大將ト取立シカトモ幼ニシテ而モ三年以來患眼終ニ盲目
 ト成間家ノ子郎等トモ僉議シテ隆景ヲ申請正平ノ嫡女ト婚姻ノ禮ヲ調後大内義隆ノ吹嘘ニ
 テ屋形號ヲ給ケルト聞シ

備後國神邊城合戰事

天文十七年ノ夏備後國神邊ノ城主杉原宮内少輔忠興爲退治大内義隆卿ヨリ陶尾張守隆房
 ヲ大將トシテ防長ノ軍士五千餘騎被差向藝陽ノ味方ヲ被催ニ毛利右馬頭元就朝臣同備中

守隆元朝臣吉川治部少輔元春朝臣小早川又四郎隆景朝臣兵戶安藝守同雅樂頭平賀太郎左衛門等相加都合八千餘騎同年六月廿日ニ神邊へ推寄城中ヨリモ足輕ヲ出相戰同二十三日吉川元春朝臣手勢六百餘騎城際へ押寄在家ヲ放火セラル城中ヨリモ杉原左衛門大夫二百餘騎突テ出吉川勢ト迫合又忠興ハ一千餘騎ニテ密ニ城ノ後ヨリ勢ヲ下シ茂タル林ノ陰ヨリ咄ト出元春朝臣ノ旗本へ切テカ、ル餘リニ手痛ク懸立ラレテ吉川勢引色ニ成シテ元春ト名乗手ツカラ鍵ヲツ取テ進給吉川勢又馬ヲ立ナラシ鬪戰ス杉原盛重手負少退ヲ見テ今田上野介森脇内藏大夫鍵ヲ入突立二宮彌五郎ナト弓ニテ射無透間一揉立ケル間忠興城へ逃入ヌ其後又五百騎計出ケルニ兵戶雅樂頭隆家手勢七百計ニテ行合相鬪兵戶カ郎等江田市助ト忠興手者長田左京亮壇ノ上監物ト云者ト鍵ヲ合スル其外兵戶家人中所少輔四郎ナト無比類勳ス數刻迫合ケルカ互ニ窟シテ相引ニシタリケル爰ニ平賀太郎左衛門年來ノ遺恨有ケルカ其結根ヲ散ントヤ思ケン某甲一人ニ被仰付給テシヤト頻ニ望申ニ付向城ヲ築平賀ヲ差籠置テ惣軍開陣アリ

元就朝臣山口下向事

天又十七年八月三日元就朝臣隆元朝臣元春朝臣隆景朝臣父子四人山口へ下向シ給フ熊谷伊豆守香川左衛門尉飯田越中守山縣筑後守山田カ一族羽仁己斐以下元就朝臣ニ相隨下向ス義隆卿賞翫不斜各藝陽ニ歸城元就朝臣父子四人ハ山口ニ逗留義隆卿内藤カ息女ヲ養子ニシテ隆元朝臣へ婚姻ト被望ニ付契約調又元春朝臣ト陶隆房ト兄弟ノ昵契サセラル元春朝臣

ヨリハ吉光ノ脇差ヲ被出隆房ヨリハ天下無雙ノ名馬近江黒ヲ被引ケル此馬ハ江州ノ六角ヨリ大樹義晴卿へ奉ル柳營ヨリ義隆へ下シ給リシヲ陶隆房給テ元春へ進ラセケルトソ聞エシ

備後國神邊城没落并目黒義死事

備後神邊ノ城主杉原ト向城ニ籠置レタル平賀ハ天文十七年ヨリ十九年迄三年ノ間互ニ守リ居ケル事ナレハ其間迫合度々ノ事ナリシカ或時足輕ナト出シ打合ケルカ杉原カ勢サツト引ヲ平賀追フリニテ神邊ノ城中へツト入舊キ固屋ニ火ヲ付其儘蒐出タリ杉原スワヤ敵ソト追カクル平賀城へ蒐人時二人連テ行シカ一人ハ城へハ不入橋ノ下ニ隱居隠シテ慄居ケルニソト見ル所ニ左ハナクテ敵追掛出ルトキ橋ノ下ヨリ差ノソキ大勢ノ足ヲ薙ケルニ依テ危フミテ追フヲ得サリシ也誰トイへハ坂新五左衛門半人シテ其頃ハ平賀ヲ頼ミ居ケルカ斯振舞ケル扱天文十九年十月十三日杉原終ニ城ヲ明退雲州へコソ下リケレカ、リケル所尼子晴久目黒新右衛門ニ五百餘騎ヲ相添神邊へ打越杉原見續ト有ケレハ目黒畏テ御家人多キ中ニ某甲ニ被仰付一條御厚恩以何報候ハン此度城ヲ不得翼ハ二度當國ノ土ヲ踏申間敷候ト誓言シテ出ケルカ路次ニテ杉原ニ行逢タリ是ハ如何ニト問ニシカ、ノ由答目黒モ又晴久へ御請申タル趣物語シテ今ハ勢ヲ率テ馳向テモ無益トテ軍兵共ヲハ杉原ニ差添テ出雲へ下シ我身ハ神邊へ打越平賀ニ檢使ヲ乞君ト一言ノ約ニ依テ臣カ百年ノ齡ヲ誤ト云テ腹十文字ニ搔切テ首ヲ延テ待平賀ヨリノ檢使坂新五左衛門首打落テケリ其後首ヲハ出雲へ送リケルトソ

又目黒カ子共二人有シヲ晴久目黒ノ家ハ小身ナリトテ目加田ノ家ヲ續セラル目加田采女同
彈右衛門尉トテ父ニモ不劣トソ聞エシ

陶相良不快并相良落山口事

天文十九年陶尾張守隆房相良遠江守武任不快其故ハ相良本ハ筑前ノ國人ナリシカ義隆卿ニ
仕才智超人何モ渠カ計ニ仕セ給ヘハ諸人ノ尊敬大内數代ノ老臣ニ超過セリ因茲陶渠カ
行跡ヲ憎ケル程ニ相良モ陶ト中違フテハ行末如何有ヘキト思陶カ嫡子五郎ヲ智ニ取親クナ
ラント義隆卿ヘ内々此由申伺ケレハ五郎婚姻ノ儀陶ヘ被仰聞候ヘハ尾張カ婦ニハ杉内藤
カ娘ヲコソト存知ツルニ相良ハ五郎舅ニハ不足ナリト以ノ外ニ腹立シケルヲ相良聞テ不足
ノ詞ニ腹ヲ立彌不和ニソナリケル杉内藤モ相良ト半ヨカラサレハ陶杉内藤寄合テ何トソ折
ヲ得相良ヲ亡サントノ謀ヲ巧ケル義隆卿ハ此ヲ夢ニモ不知給九月十三日於香積寺名ニ
ヲフ月ヲ詠終夜遊興シ給フ同十五日八幡三ノ宮ヘ參詣シ給ヒ管絃有ヘシト兼テ用意有ケレ
ハ尾張守此隙ヲ窺相良カ館ヘ押ヨセ夜討ニスヘキト擬シケルヲ如何シタリケン相良漏聞テ
大ニ驚キ忽築山ヘ馳參義隆卿ヘ申ケルハ陶尾張守ハ既某可討ニ事ヲ寄義隆卿可奉討トノ
隱謀ニテ勢ヲ揃ルト承候ト申ケレハ義隆卿驚給ヒ八幡參籠ヲ被止山口中ノ軍兵ヲ被催ケ
レハ頓テ五千餘騎馳集リ築山ノ四方ノ門ヲ堅タリ是ニ依テ義隆卿陶ト不和ニ成給フ武任ハ
私ノ宿意ニ依テ國中ノ兵亂ニ及ン事對義隆卿不忠ノ至也吾他國センニハ不如トテ本國筑
前ノ國ヘソ下リケル

陶隱謀事

陶隆房ハ杉内藤ノ人々ヲ集竊ニ呬申候ハ相良逐電ノ事武任カ胸裏ヨリ出タルニ不可有義
隆卿ノ計タルヘシ向後ハ各我等カ身命失レン事無疑毛利元就大友宗麟ナトヲ頼不如揚義
兵先尾張守隱居シ富田ノ若山ヘ引籠謀略ヲ廻サント密談シ義隆卿ヘ申ケルハ奸人相良ヲ
亡シナハ定テ隆房ヲモ可被討果ト存候ツレトモ大内家長久ノ爲身命ヲ失ン事忠臣ノ望所
也ト存候處御免ヲ蒙ル事有難次第ニテ候乍去何ノ憚モナク山口ニ居候ハン事モ如何敷存
候嫡子五郎ニ隱居仕吾身富田ヘ引籠座禪工夫ノ外又無他事ト頻ニ申ケレハ義隆兔モ角モ
ト宣フ冷泉判官此由ヲ聞テ是ハ陶家城ヘ引籠隱謀ヲ企ントノ儀也今度隱居ノ爲禮儀出仕
ノ時討果サレ候ヘト盡言申ケレハ義隆承引シ給ハサリケレハ大内家滅亡ノ時節ヤ來リケ
ント冷泉涙ヲ流シケリ角テ尾張守ハ家城富田ノ若山ニ引籠豊後大内宗麟ヘ使ヲ以申ケルハ
隆房事相良カ讒言ニ依テ義隆卿某ヲ討果サントシ給間不及力家城ヘ引籠候於御加勢ハ義
隆ヲ亡シ御舍弟八郎義長ヲ大内ノ家相續サセ申サント申ケル又義隆卿ヨリモ加勢ヲ被
乞ケレトモ宗麟如何思慮候ヤ陶ニ一味トソ聞エシ元就朝臣ヘモ義隆陶ヨリ乞加勢折節元
就ノ御前ニ兒玉三郎右衛門伺候シケルニ何ヘ加勢可然ヤト尋給ヘハ兒玉須臾ノ思慮モナ
ク陶ヘ御一味宜覺タリト申ケレハ元就是ハ毛利興亡ノ加勢ニ候處ニ陶ニ同心セヨトハ何ノ
謂ヤ有ト宣ヘハ是ハ兼テ思慮仕候ト申ケル其後隆元元春隆景其外宍戸安藝守ヲ始毛利家臣
ノ衆無殘被召寄此事如何ト尋給フ皆々口ヲ閉テ居タリシニ熊谷伊豆守申ケルハ陶ヘ可

有御一味ト申ケレハ元就宣ケルハ主君ニ向弓ヲ挽陶ニ一味トハイカニト仰ケレハ此度ノ合戦兎角陶可レ得勝利候然トモ天罰不可レ遁問追付陶可レ滅亡其時節ヲ伺陶ヲ退治シ給事何ノ子細カ有ヘキト理ヲ盡申ケレハ同座ノ人々皆此理ニ服シ元就朝臣モ同シ給ヒ陶方へ一味ノ返事シ給ケリ角テ元就朝臣陶ト一味ノ印ニトテ平賀新四郎隆保カ籠居ケル頭崎ノ城へ出張シ取詰給フ隆保久敷籠城難叶一戦シテ盡討死セント云ハ家子郎等トモ先此城ヲ明退樵山菅田以下ト一手ニ成合戦可然ト諫ケレハ其儀ニ同シ八月廿七日頭崎ノ城ヲ退テ西條樵山ノ城ニ入菅田越中守同三郎左衛門大林和泉守ニ與シケリ

義隆卿山口没落事付於大寧寺自害事

天文廿年八月陶尾張守ハ大友毛利兩家ノミナラス備藝ノ國人其外大内家ノ諸侍モ多分一味同心シケレハ今ハ義隆卿ヲ可レ討ト軍兵ヲ集同廿八日山口發向ト定ケリ義隆卿ハ大樹義晴公ヨリ上使有ケレハ珍肴ヲ集饗應酒宴ノミニテ軍ノ沙汰ハ無リケリ冷泉判官天野佐波黒河等義隆ノ御前ニ馳參陶既明日當地へ押入ト聞候杉内藤等ヲ被召軍ノ可有御評定自然杉内藤挾野心不罷出候ハ先兩人ヲ討テ陶ニ向戦ヲ決セント申ケレハ義隆卿大ニ驚山口中ノ軍兵ヲ催セトテ六千餘騎ヲ集ケル如案杉内藤ハ陶ニ一味シ不馳來黒川岡邊ナト云ケルハ杉内藤モ逆意ナレハ味方彌勢微也築山ニ籠居テハ遁マシ一先瀧ノ法泉寺へ義隆卿ヲ退申敵ヲ引受合戦致サント云ケレハ佐渡新介迎不叶合戦ニ大將一足モ落給テハ末代ノ瑕瑾タルヘシ唯築山へ敵ヲ引請一合戦シ討負ナハ義隆卿自害シ給ヘシ各モ御供可仕ト云ケレハ冷

泉判官天野藤内モ此儀尤ナリ唯屋形ニテ有無興亡ノ御一戦ト申ケレトモ安富源内清四郎等己カ命ノ惜サニ是非一先法泉寺へ落サセ給へ各觀音寺ヲ堅メ戦ナハ敵破事ヲ不可得又吉見正頼ヲ御頼候ハ可有後詰吉見後詰ト風聞セハ陶山口ヲ引退カ無左ハ扱ヲ可請早々ト勸レハ義隆卿此儀ニ同シ取物モ不取敢法泉寺へ落サセ給フ冷泉天野等モ不及力法泉寺へ落行觀音寺求聞持堂其外山上ニ陣取タリ今迄供奉ノ兵モ弱將ニ與セシト皆落失殘軍兵五百騎ニハ不過ケリ陶此由ヲ聞付兎角シテ經時日九州ノ地へ渡シナハ大事ナルヘシ急山口へ打出同廿九日ニ法泉寺へ押寄鬨ヲ喧ト上ケレハ義隆驚給テ山手ヲ堅タル冷泉判官黒川近江守佐波新介江口五郎カ陣へ阿川太郎ヲ使トシテ寺中ノ軍兵悉落失テ無勢ナリ早是へ馳參防ヘシト有ケレハ各法泉寺ヘソ馳集ケル阿川太郎ハ日來十人カ力ヲ持タリト自讚シケル程ニ最期ノ戦可驚目ト諸人見ル處ニ案ニ相違シ鎧脱捨山傳シテ落ニケリ是ヲ見テ諸軍士吾先ニト落行中々一戦スヘキカモ無リケリ義隆卿和睦ノ扱シ給ヘト二條左大臣尹房公へ宣ケレハ尹房公ヨリ内藤下野守與盛カ所へ法泉寺外記殿ニ入ヲ使トシテ宣遣シケルハ義隆隱居シテ子息新介ニ家ヲ讓リ國ノ政道三人ニ可任ト有ケレトモ曾テ不承引唯御自害トノミ申ケリ相良冷泉ヲ始トシテ大内一味ノ輩ノ家トモ悉燒拂既寺中へ襲來ル義隆自害有ヘシト宣ハ清四郎諫ケルハ一先九國ノ方へ落行豊前筑前ノ家人ヲ被催重テ此鬱憤ヲ散サセ可レ給ト申ケレハ二條殿ノ若君三位中將殿并御子新介殿ヲ先ニ立夜半ニ法泉寺ヲ落長州大寧寺ニ着給フ三位中將殿持明院入道一忍軒息新介事住持異雪和尚一向ニ頼給ヘハ和尚有領

掌三人相共ニ山中へ逃隱其後敵大勢襲來義隆卿自害冷泉御首ヲ打落障子疊ヲ重火ヲ付レハ佛殿方丈僧堂寶殿ニ至ルマテ一字モ不殘燒上ル今迄相隨シ人々ニハ冷泉判官隆豐天野藤内隆良黒川近江守隆俊岡部右衛門尉隆景等思々ニ辭世シ或討死又自害シ炎ノ中へ飛入モ有天正廿年十月朔日林聖太子累代ノ苗裔根ヲ枯シ大内家亡果ニケリ

三位中將大内新介并公家衆最期相良遠江守自害事

三位中將殿大内新介持明院一忍軒小幡四郎ヲハ異雪和尚奉具後ナル深山ニ隱居ル處ニ搜出ケリ大内新介父ノ自害ヲ聞昨日一所ニテ可死ト申ケル處ニ義隆卿幼子ヲツレ落給事難成間隱忍候ヘト天野藤内等頻ニ申ニ依テ唯今迄遁隱事無念ノ至也早首打トテ小幡四郎ニ打セケリ小幡モ則自害シヌ新介ハ十二小幡十五歳トソ聞シ三位中將殿モ自害セントセシテ敵押ヘテ首ヲ切持明院一忍軒ハ爰ヲモ落ントセシテ敵追懸首ヲ捕三條殿ハ義隆卿深川大寧寺ノ方へ落行ト聞テ跡ヲ慕行給ケルニ一揆ハラ出向奉討官務ハ湯田ノ繩手ニテ陶安房守カ手ノ者討捕二條左大臣尹房公ハ法泉寺ヲ出給鴻ノ峰ヲ越覺雄寺ト云寺へ入御有ケルヲ杉勘解由判官カ軍兵行逢奉リ御自害候ヘト申ケレハ尹房公陶非怨敵何ソ自害スヘキト宣ヲ邪見放逸ノ者トモニテ押テ奉討ケリ相良遠江守ハ筑前國へ逃下花尾ノ城ニ籠居ケルニ陶ヨリ野上隱岐守ニ二百餘騎相添差下ス立花宗像以下野上ニ相加押寄ル城中ノ兵トモ悉落失ケレハ相良不及一戰自害セリ

安藝國西條槌山城沒落事

藝州西條槌山ノ城ニ大内方ノ天野平賀ヨリ菅田越中守嫡子三郎左衛門大林和泉守尾和備後守材間入道等ヲ籠置所ニ平賀新四郎三百餘騎ニテ相加ル元就朝臣吾身ハ吉田ニ御座シ嫡子備中守隆元二男吉川治部少輔元春ヲ大將トシテ福原桂志道兒玉粟屋井上赤川口羽其外國人ニハ熊谷天野香川飯田入江出羽ナトヲ先トシテ四千餘騎槌山表へ差向ラル隆元元春諸勢引卒攻寄稠相戰菅田三郎左衛門ヲ射殺其外分捕高名多カリケリ城中難堪平賀新四郎大林和泉守諸卒ノ命ニ可代ト望テ自害スル故ニ諸卒ヲハ助給ケリ

陶責杉罪事付左京大夫山口入事

天文廿年青景越後守杉伯耆守ハ元來佞人ナレハ如何ニモシテ相良ヲ失度思ケレトモ我力ニハ不及陶尾張守ニ親付義隆卿御前ニテ尾州ノ御事ヲ相良種々ニ讒言候ト申ケレトモ尾張守敢而不信然トモ折ニフレ事ニ隨尾張守ニ讒シケレハ彌相良ヲ失ハント思心ソ付テケル義隆卿自害ノ後相良カ讒言無實也杉青景ノ佞者ノ口ニ任セテ角義隆ヲ弑スルコト後悔也トモテハヤシ杉伯耆カ罪ヲ責ントテ宿所大崎へ自身三千餘騎ヲ引率同年正月中旬ニ押寄ケレハ杉ハ宿所ヲ出落行ケルカ不及一戰自害シダリ青景ハ是ヨリ以前病死シテ失ニケリ斯テ同年三月陶人道ハ義隆卿ヲハ討奉ケレトモ大内ノ家爲相續豐後大友左衛門入道宗麟ノ舍弟八郎義長ヲ呼上セントテ御迎ニ陶安房守隆滿杉勘解由飯田石見等ヲ差下シケル供奉ニハ橋爪美濃守同小太郎吉弘右衛門大夫ヲ先トシテ五百餘騎トソ聞シ同月朔日防州多々良濱ニ着同三日ニ山口へ入給陶後見ノ國中ノ政道ヲ行ケル此時義長八郎ヲ改テ左京大夫ニ成給ヒ

ケリ

備後國泉合戰事

天文廿二年備後國江田ノ旗返ノ城主江田入道日來ハ大内家幕下タリシカ忽尼子方ニ成易ル元就朝臣此趣山口へ注進シ即四千餘騎ヲ引率ノ備後國へ打越給フ江田ヨリ尼子晴久へ此由告ケレハ元就小勢ニテ備後表打出コト願所ノ幸也急江田カ後詰シテ毛利ヲ討果藝州一國打隨防州へ押入ント雲伯石作四州ノ勢ヲ催二萬餘騎雲州富田ヲ打立ケリ同五月廿日尼子紀伊守國久嫡子式部大輔二男左衛門大夫ヲ大將トシテ牛尾遠江卯山飛驒米原左馬允櫻井刑部少輔廣田隱岐守疋田左衛門尉以下五千餘騎晴久ノ本陣五十餘町先立萩ノ瀨表へ打出三手ニ分一陣尼子式部大輔卯山飛驒守米原左馬允疋田左衛門尉以下二千餘騎二陣ハ尼子左衛門大夫牛尾遠江守櫻井刑部一千餘騎後陣ハ尼子紀伊守二千餘騎ニテ扣ラル藝州勢ハ先陣吉川治部少輔元春大將トシテ相隨國侍ニハ熊谷伊豆守信直香川左衛門尉光景飯田七郎右衛門山田左衛門大夫福島三郎左衛門遠藤左京亮以下二千餘騎萩ノ瀨ノ橋ヲ前ニアテ備ラル元就朝臣隆景朝臣ハ二千餘騎ニテ少後ノ小高所ニ扣給フ泉ノ入道父子所ノ案内者ナレハ先手ヲ望テ元春ノ手ニ加ケリ互ニ射手ヲ出シ軍始リヌト晴久ノ本陣へ告ケレハ河添美作守立原備前伊藤入道三澤三郎左衛門松田勘解由目黒佐渡守以下三千餘騎國久ノ勢へ被差添晴久ハ先陣ノ様子ニヨリ一合戰セント扣ラレタリ角テ尼子勢橋ノ上マテ進ミケレハ元春モ晴久ノ大勢後詰セヌ先ニ敵ヲ挫ントテ一際軍兵ヲ進ケル國久父子ハ大剛ノ大將元春ハ當年廿二歳勇氣盛ナ

レハ互ニ一戰ニ決勝負ト火花ヲ散シ相戰フ五月雨ニ水出渡瀨ナク橋一筋ナレハ尼子勢渡カ子引色ニ見ケル處ニ米原左馬允コハ如何ニト真先ニ進ミ敵數多討取按ニ按テ橋ヲ越ント相働藝州勢少立足ニ成處ニ備後國住人佐久木新右衛門ト云者精兵ノ手キ、ナリシカ左馬允ヲ射落頓押ヘテ首ヲ捕此競ニ藝州勢切先ヲ揃一度ニ切懸ケレハ雲州勢忽橋ヲ追越ル尼子式部大輔是ヲ見テ敵ハ小勢ナルソ取テ返セト自鍵ヲ提下知シケレトモ不聞入三町計引ケルヲ追懸ケレハ元春敵ハ大勢ナリ長追ナセトト引返シ又橋ヲ前ニアテ備給フ尼子左衛門大夫諸勢ヲ勇テ切テ懸ル元春今度ハ敵ニ橋ヲ渡サセ半途ニシテ可切立ト兼テ定敵イサメトモ敢テ不遮尼子勢安々ト橋ヲ渡シケリ元春思圖ニ引受カ、レヤ者トモト下知シ給吾不劣ト進ミケレハ尼子勢忽利ヲ失引退ク元春モ又本ノ所へ引返シ備ラル今朝ヨリノ戰ニ人馬定テ勞セントテ元就朝臣隆元朝臣二千餘騎ニテ入替給フ尼子兩度ノ合戰ニ打負ケレハ川ヲ渡シ一戰ニ利ヲ決ント晴久國久父子憤ケレトモ洪水夥シテ殊日暮ニ及ケレハ其日ノ合戰ハ止ヌ明ナハ川ヲ渡シ可切懸トニ子方軍ノ手分有ケレトモ五月雨頻ニ降續水彌増ケレハ無力晴久ハ釜棟ニ陣ヲ居給フ元就父子ハ志和智ニ陣ヲ居水ノ落行ヲ待給所ニ備後ノ國人等元就へ申ケルハ尼子兩度ノ合戰ニ打負ケレハ今度ハ其憤リ可有其上敵勢ハ味方二十倍セリ一先御引退候ヘカシト諫ケレトモ承引シ給ス宍戸熊谷天野以下ノ人々ニ仰ケルハ晴久大勢ナレハ敵寄事アラシト定テ油斷有ヘシ忍ヲ入テ敵陣ノ様ヲ見計夜討ニセント評定シ給處ニ敵如何思ケン同六月五日釜棟ヲ引山内マテ打入ケリ

祝城沒落事

去程ニ尼子修理大夫晴久數萬騎ヲ率シ備後國へ打出ヌト山口へ注進有ケレハ大内義長ヨリ元就ノ爲ニ加勢陶入道全蓋六月十日旗返マテ上リケル折節老母煩ノ到來ニ依山口へ歸ケレハ又内藤下野守興盛江良丹後守ニ六千餘騎相添差上ラル先江田ノ端城祝ノ城ヲ切崩サント元就朝臣父子二人爲ニ大將宍戸平賀熊谷天野三須香川遠藤入江山田飯田以下六千餘騎七月廿三日押寄関ヲ揚一勢々々進ケリ城主祝甲斐守同治部大輔ヲ先トシテ都合七百五十楯籠矢間ヲ開テ散々ニ射ル寄手堀ヲ越堀ノ手へ付處ニ城中ヨリ鎧長刀ヲ以無透間突落セハ寄手堪カ子堀際マテ引ケルカ又取テ押返シ責懸城中ヨリモ稠射立突立テ又本ノ所へ引退ク粟屋彌七郎一人殘居當城一番乗ト名乗堀ヲ越ントスル處ヲ敵真中ヲ突徹セハ強丈ノ粟屋モ真逆ニ落ニケリ元就朝臣父子三人既堀ヲ越直ニ懸ントシ給ヲ見テ諸勢一度ニ切懸ル中ニモ平賀太郎左衛門隆宗ハ金ノ鎧ヲ著五百餘人ノ真先ニ進ミ青竹ニ鹿ノ角ヲ結付五十餘人ニ持セ堀ニ打カケ一度ニ曳ヤト引崩乘入ハ惣勢モ續テ切テ入大將祝甲斐守同治部大輔同長門守ヲ元春ノ手へ討取ハ名有兵ハ討死シ雜兵共ハ散々ニ成ニケリ其日ノ頸數百七ハ吉田勢百十一ハ元春八十八平賀七十五ハ熊谷六十三ハ宍戸七十一ハ天野六十九ハ香川飯田山縣以下佐藤郡ノ諸勢ノ手へ討捕ヌ此時内藤江良ハ備後勢ヲ加テ一萬餘騎尼子ノ勢ノ押ニ置ハ祝ノ城へハ不馳向其後元就朝臣内藤江良カ勢合一萬六千餘騎伊山ニ陣ヲ居霜月迄對陣アレハ江田堪カ子同十三日旗返ノ城ヲ明山内へ引退ケレハ旗返ノ城ニハ江良丹後ヲ入給晴久ハ江田打負

テ落來レハ山内ヲ引退出雲へ打入給へハ元就朝臣ハ吉田へ飯陣シ内藤ハ山口へソ歸ケル

三村屬毛利家事并備中猿懸城合戰事

天文廿二年備中國成合ノ三村修理亮家親ヨリ元就へ請和次ニ自敵猿懸ノ穗田ヲ可討ト加勢ヲ乞申ニ付二月上旬元就朝臣吉田ヲ發駕シ同十五日元就隆元ハ備中國伊末井原ニ着陣シ元春ハ猿懸表へ打出給へハ三村家親一千五百餘騎猿懸ノ城下へ相働民屋不殘燒拂フ穗田治部大輔是ヲ見テ家親ヲ追立元春ト可決勝負トテ勢ヲ二手ニ分切テ出稠相戰穗田カ軍將藤井四郎五郎真先ニ進テ攻ケレハ三村防カ子テ引退吉田勢ニ志道次郎四郎椿新五左衛門白井藤次郎櫻井等返合討死ス穗田彌得力元春ノ旗本へ切懸元春二千餘騎ヲ二手ニ分待受戰給へハ又井上河内守一族五十餘騎横合ニ射立ケレハ穗田利ヲ失即引退キ元春モ打入給ケリ其後穗田モ御味方ニ成三村穗田宿意ノ事元就朝臣扱ニテ和睦候ナリ

尼子晴久播州發向付高田合戰事

同年尼子修理大夫晴久ハ備前播磨美作ノ國人トモ尼子ヲ背輩多カリケレハ爲退治出雲伯耆隱岐石見備後備中ノ勢ヲ催三月中旬美作國へ發向シケレハ美作ノ國人多ハ尼子ニ屬ケリ浦上帶刀左衛門宗景ハ一萬餘騎ヲ率高田表へ打出レハ尼子三萬餘騎ニテ馳向稠ク相戰浦上勢引色ニ成處ニ播磨國住人宇野刑部入道七百餘騎横合ニ打テ懸ケル間出雲勢忽蒐立ラレ引退其日ノ合戰ハ止ニケリ其後尼子勢又打テ出ル浦上帶刀左衛門碎手相戰其外備前播磨ノ國人等出向ト云トモ多勢ニ無勢難叶浦上打負高田表ヲ引拂備前國へ退ケル尼子彌得機播

州へ打入諸所ノ城十七ヶ所攻陷刀田ノ太子堂ニ楯籠衆徒ヲ責ケルニ衆徒得勝利ケレハ又播磨一揆ハラモ蜂起シ利浦上帶刀左衛門多勢ヲ催馳向尼子勢一先引テ重テ攻上ラントテ雲州へ歸陣セリ

尼子晴久殺新宮黨事

尼子修理大夫晴久ハ叔父紀伊守國久嫡子式部大輔次男左衛門大夫不和ニ成終父子三人討果給フ其由來ヲ尋ルニ元就朝臣晴久ヲ退治センハ先新宮黨ヲ亡サンニハ不如ト思國久父子對晴久逆意ヲ構毛利ニ心ヲ合スルト謀ヲ廻巷ニ説ケルヲ晴久傳聞不審シ給處ニ元就朝臣罪人一人順禮ノ姿ニ成富田近邊ノ山路ニ切殺捨置膚ニ文ヲ付サセケリ其文體ハ紀伊守父子三人晴久討給ナハ所領可爲御望ノ由也所ノ者彼死骸ヲアヤシミ見ケル處ニ膚ノ文ヲ見付即晴久ニ獻ケレハ彌國久逆意無疑所トテ討果給トソ聞ケル式部大輔男子三人有ケルヲ二人ハ害シ三男ハ幼少ナリシヲ乳母懷中ニ抱忍落成人ノ後尼子左衛門尉勝久トソ申ケル

毛利陶手切事

備後國江田ノ旗返ノ城没落ノ事偏元就朝臣依武勇也然ハ此城元就へ預候へト義長陶へ被仰候へモ山口ヨリ江良丹後守ヲ入置シ故トソ聞エシカ、リケル處ニ吉見大藏大輔正頼ハ逆意ニ依テ石州へ發向アリ可被出軍兵ト元就父子へ大内ヨリ申ケレトモ右ノ旨趣ニ因テ山口へハ人數不差下吉見ノ城三本松へ加勢ヲ被入ケリ

元就朝臣神領發向事

天文廿三年五月十二日元就朝臣父子四人二千餘騎ヲ引卒シ陶方ノ城可攻亡トテ藝州神領迄打出給へハ此邊ニ居ケル大内ノ侍共馳集七百餘騎五日市表ニ出ケルヲ吉田勢押寄合戰シ飯田七郎右衛門熊谷カ郎等末田新右衛門頸取テ差上ル是ヲ始吾不劣ト追詰々々六十餘人打捕ケレハ殘ル集勢ハ散々ニ逃ウスル同十八日佐東へ打出給銀山ノ城ニ栗田備後守小城ニハ麻生右衛門尉鎮里等ヲ籠置ケルニ元就兩城へ使ヲ立陶ト手切ノ合戰ノ爲押寄也急城ヲ明渡ナハ命ヲ助ン左ナクハ即時ニ切崩サント有ケレハ不及異議城明退間栗田麻生等ヲハ命ヲ助ケカイ田迄送ラセ夫ヨリ廿日市へ打出給櫻ノ尾城ニ大内ヨリ毛利與三已斐豊後守新里等籠置處ニ銀山ノ如ク使ヲ以被云送ケレハ即下城シ毛利與三ヲハ防州へ歸シ己斐新里ハ味方ニ屬シケリ

宮川甲斐守上藝州事

去程ニ吉見正頼ノ城三本松ヲ陶圍ケル處ニ元就朝臣ヨリ加勢ニ被籠タルニ宮伊東城ヨリ出高聲ニ云ケルハ毛利右馬頭元就ハ正頼ト一味シ當城へモ加勢ヲ入候吾身ハ藝州神領表へ打出櫻尾佐藤銀山ノ小城盡ク攻落シ頓テ山口可攻入ノ條其御用心可有ト呼ル陶大ニ驚ケレハ三浦越中守是ハ正頼カ謀ニ云スルナラメ實事ナラハ藝州味方ノ中ヨリ到來有ヘシト云陶左モアラント思ケル處ニ元就一味反逆ノ儀江良丹後ヨリ注進シケレハ義長モ陶モ前ニハ吉見大藏カ城強ク後ニハ元就出張ト聞ケレハ安キ心モナク則内藤彈正忠右田左馬助弘中參河守等呼集僉議アリ先吉見ト令和睦元就ヲ退治セハ吉見ハ自御手ニ可入ト弘中申ケレハ陶

今一攻々テ敵ノ強弱ヲ見テ兎モ角モ可計テ城ヲ攻ケレトモ戰母ニ吉見勝ニ不乗ト云フ
 ナシ先元就爲押陶カ郎等宮川甲斐ニ二千餘騎ヲ添テ差上ス五月廿三日防州へ打越山代ノ
 一揆大將甲田丹後ヲ語ヒ藝州大田山里ノ一揆原馳加都合七千餘騎五月晦日廿日市折敷畑ノ
 山下ニ陣ヲ取明レハ六月朔日ノ東雲ニ宮川甲斐同清左衛門同彦三郎末富源太左衛門等三千
 餘騎折敷畑へ打上陣ヲ取山代ノ一揆大將甲田丹後嫡子與三郎赤根栗林ナト云者四千餘騎是
 モ同陣取元就朝臣隆元元春隆景ハ櫻尾ノ城ニ座シケルカ敵陣ヲ御覽シテ陶入道吉見正頼ヲ
 攻亡是迄出タルラン是コソ願所ヨ合戰延引セハ後詰ノ勢加ルヘシ急挫トテ元就朝臣父子打
 テ出軍兵ノ手分シ給元春ハ折敷畑ノ北ノ尾ヨリ攻上ラル隆景ハ地ノ御前ノ方七ツ尾ノ南ノ
 道ヨリ攻上ラル元就隆元ハ本道筋ヲ上リ給宍戸福原桂志道口羽赤川渡邊兒玉以下我先ニト
 進ミタリ元就朝臣坂新五左衛門坪井將監等ニ敵ヲ呼引ト下知シ給ヘハ敵ニ向少引色見セケ
 レハ敵勝ニ乘追懸ル吉川小早川南北ヨリ攻給宮川山八分ニ下シ合手痛防戰甲田赤根栗林以
 下モ七千餘騎眞道ニ打テ懸ル宮川清左衛門吉川勢ニ向防ケルカ疵ヲ蒙リ少疼ム所ニ元春大
 音聲ヲ上爰ヲ破レト下知シ給ヘハ熊谷伊豆守同嫡子兵庫助天野紀伊守香川左衛門尉飯田七
 郎右衛門山縣筑後福島等ヲ先トシテ藝州ノ國人等吾先ニト攻上ケレハ敵ハ七千味方ハ纔三
 千ナレハ可叶トモ見ヘサレトモ元就隆元頻ニ下知シ攻上給ヘハ甲田カ一族末富ノ者共多
 討レ宮川勢少浮足ニ成ケレハ毛利勢勝ニ乗攻上元春隆景モ南北ヨリ息ヲモ不續攻給ヘハ
 防州勢一度ニ山上へ退上ル宮川取テ返々々戰ケレトモ返勢ノナケレハ山路ヲ傳退ケルヲ熊

谷伊豆守ガ家來ノ末田新右衛門討捕惣勢ハ津田友田麻原邊迄逃ケルヲ追懸々々首七百五十
 餘級討捕ケル翌レハ六月二日草津ノ城ニ兒玉周防守櫻尾ニ桂能登守ヲ籠置元就父子四人ハ
 佐東ノ銀山ニ討入給處ニ神領表へ町野入道同相模守ヲ大將トシテ折敷畑ニテ討殘サレタル
 者トモ馳集一千餘騎打出明石表ニ陣ヲ取元就見給テ勝誇タル大勢ニ折敷畑ノ合戰ニ打
 負機ヲ失タル者トモ小勢ニテ出向ハ十死一生ノ合戰ヲセント思切モノ也侮事ナカレトテ備
 ヲ定一番ニ治部少輔元春能谷伊豆守馳向切テ懸ル敵モ兼テ期シタル事ナレハ火花ヲ散シテ
 相戰小早川勢其外宍戸天野等ハ横合ニカレト元就朝臣下知シ給左右ヨリ切テ懸レハ防州
 勢不相叶右往左往ニ引テ行ヲ追討ニ七十餘人討捕ケリ又明ル六日至佐東打入給其後藝州
 友田ノ高森ト云山城ニ武田刑部少輔信實ニ防長ノ勢八百餘騎相添籠置ケレハ元就ヨリモ狼
 山ヲ向城ニ築進藤豊後守ヲ入置三家ハ吉田新庄沼田へ歸陣シ給フナリ

長安ノ城明退事付大田懸ノ橋合戰事

天文廿三年石州長安入道陶方ナレハ爲退治元春朝臣熊谷天野以下貳千餘騎同六月廿日彼
 表へ打出給ヘハ長安頓テ城ヲ明益田越中ヲ賴降參ス同七月二日元春朝臣大塚光明寺打入給
 處ニ小坂宮内ヲ大將トシテ大田所々ノ一揆原馳集二千計懸ノ橋ヲ前ニアテ陣取ケリ因茲
 元春ヨリ今田上野介二宮木工助森脇大藏大輔ヲ被差向此橋一ツ橋ナレハ可渡ヤウモ無橋
 際ニ大勢踏踞居ケル處ニ一揆原鐵ヲ揃テ散々ニ射ル間少擬儀スル處ニ二宮木工助森脇大藏
 大輔面一尺ニ不足橋ヲサラクト走渡切テ懸ル今田上野介是ヲ見テ二宮森脇討スナト軍士

ヲ勇メ續テ渡ケレハ小坂宮内一支ハ防ケレトモ後陣ノ一揆原逃ケレハ宮内モ無力引退ク
 此序ニ一揆原ノ根ヲ斷ントテ元就朝臣隆元元春吉和山里ニ打出給元春先陣ニ進給處ニ一揆
 原防州勢ニ相加里節所ヲ構待掛タリ同七月十四日彼陣へ押寄給兒玉四郎右衛門桂善左衛門
 福原宗右衛門井上民部坂新五左衛門其外新庄勢ニハ二宮木工助森脇市郎右衛門朝枝因幡山
 懸四郎右衛門以下拔懸シテ攻懸ル一揆原モ楯一面ニ突并へ戰ケレトモ終ニ打負テ分散シケ
 ルヲ追詰二百計討捕ハ其後一揆モ靜ケリ

野間隆實降參事

備後國保木ノ城主野間隆實ハ陶方ナルニ依テ山口ヨリ加勢羽仁中務小幡左衛門尉ニ兵四百
 餘騎相添テ籠置ケルヲ爲退治元就隆元元春隆景三千餘騎九月五日彼城ヲ圍マル小早川衆
 一番ニ天神山へ乘入ハ吉川勢ハ出城ノ新丸へ入元就旗本ニハ赤川左京同源左衛門粟屋彌四
 郎兒玉四郎兵衛志道源藏桂善左衛門小早川衆ニ井上又右衛門吉川衆ニ森脇市郎右衛門何モ
 無比類働也隆實ハ終ニ不叶降參シテ山口ヨリノ加勢羽仁小幡ヲハ討果給ケリ

元就朝臣嚴島城築給事

弘治元年元就朝臣思ヒ給フハ陶尾張守防長豐筑ノ勢ヲ催シ藝州發向ト聞ユ勢ノ多少ヲ考ル
 ニ味方ハ纔三千餘騎敵ハ二萬ニ餘ル勢ナレハ平場ノ合戰ニテハ勝事可難所詮嚴島ニ城ヲ
 築何トシ陶ヲ方便彼島へ渡ノ有無興亡ノ遂一戰ト案シ澄シテ城ヲ築セラル毛利家臣ノ人
 々此謀ヲ不知嚴島ニ城築給事如何可有ヤト申アヘリ城普請ノ半六月八日敵船三艘推來ル

浦兵部飯田七郎右衛門等軍船ヲ漕出シ攻戰桑原掃部助ト眞先ニ名乗シヲ飯田七郎右衛門討
 捕ケレハ敵利ヲ失引退角テ城成就シテ己斐豐後守同五郎兵衛新里掃部助ヲ大將トシテ垣田
 伊藤片岡其外吉川衆ニハ樋口彦兵衛佐伯源左衛門被籠置角テ元就ハ陶嚴島渡海シ彼島ノ
 城ヲ攻落シナハ味方必定可シ勝利ト常々宣シカハ陶ニ心ヲ通シケル者トモ山口へ馳參此
 由ヲ告ケル陶此趣ヲ聞テ藝州へ發向セハ先嚴島へ推渡彼城ヲ攻取ントコソ思ケレ

三浦越中仁保島合戰事

同年陶入道全蓋防長豐筑ノ勢ヲ催シ先嚴島仁保廿日市邊ノ城ノ様體爲見計トテ三浦越中
 守ニ究竟ノ兵四五百騎相添舟數艘ニテ差遣ス草津廿日市ノ沖ヲ漕廻仁保ノ島へ漕寄上リケ
 リ仁保ノ島ニハ香川左衛門尉光景ヲ籠ヲカレケルカ城中ノ兵二百餘人出向數刻防戰既ニ味
 方立足ニ成處ニ香川自身鍵提敵一人突伏郎等宗像三郎左衛門モ續テ一人突倒シケレハ味方
 是ニ力ヲ得一文字ニ突懸南風北風戰ケルカ三浦カ兵手負多其上日暮ニ及ケレハ三浦ハ舟ニ
 取乘退ケリ

安西軍策卷第二終

安西軍策卷第三

陶入道嚴島渡海并合戰事

弘治元年九月陶入道二萬七千餘騎ヲ引卒シ山口ヲ打立岩國永興寺ニ陣ヲ居軍評定シケルニ
 弘中三河守云ケルハ廿日市ノ櫻尾草津ノ城ヲ責落吉田へ押寄ナハ忽元就ヲ討亡ン事不可
 廻時日嚴島へ渡海セハ元就元來小勢ナレハ於彼島安否ノ合戦シテ雌雄ヲ決ントノ計ナル
 へシ兎角嚴島渡海ハ思止リ給へト再三申ケレ共陶入道元就朝臣ノ謀路ヲ不知嚴島渡海ト
 相定九月中旬七百餘艘ノ兵船ニ取乘嚴島へ渡リケリ弘中ハ全蓋智慮淺クシテ元就ノ謀ノ中
 ニ墮ル事大内陶ノ滅亡此時也ト知ナカラ不及力二日後レテ押渡ル三萬及ノ勢ナレハ嚴島
 寸土地ノ明間ナク全蓋ハ塔ノ岡ニ本陣ヲ居タリ角テ三浦越中守カ陣ヨリ仕寄ヲ付攻ケレ
 ハ城中ノ兵共遁方ナキ儘ニ死ヲ一途ニ定防戦ス元就朝臣ハ嫡子備中守隆元二男吉川治部少
 輔元春三男小早川左衛門佐隆景其外國侍ニハ熊谷伊豆守嫡子兵庫助天野紀伊守父子阿曾沼
 豐後守三須筑前守出羽中務杉原若狹守飯田七郎右衛門遠藤左京原藤左衛門香川淡路守同
 左馬助山田出雲守同左衛門山縣筑後守其外毛利家譜代侍ニハ福原志道口羽兒玉栗屋國司渡
 邊赤川都合三千五百餘騎九月下旬嚴島ノ向ノ地ノ御前火立岩ニ陣ヲ居給ケレハ陶大勢ナレ
 ハ勝敗如何有ント諸軍安カラス思煩フ處ニ熊谷伊豆守嚴島ノ神主ニ賄ヒ毛利家必定可得
 勝利蒙靈夢ノ由告來レト竊ニ頼ケレハ神主領掌頓元就朝臣ノ陣ニ來昨夜不思儀ノ靈夢ヲ
 蒙リ候御軍勝利不可有疑ト申ケレハ諸軍士是ニ氣ヲ直シ彌勇ミ進ケリ爰ニ伊豫國住人能
 島掃部助武吉久留島道安トテ武勇強丈ニシテ特船軍ニ達ル侍アリ陶ヨリモ以文加勢ヲ請元
 就ヨリモ乞レケレハ兩島僉議ノ毛利家へ加勢ニ決定シ大船二百餘艘ニ取乘漕下ル嚴島へヤ

ヨスル廿日市へヤ來ルト兩陣目モ不_レ放見ル所ニ廿日市ノ沖ニ碇ヲ卸シケレハ藝陽勢ハ大
 ニ勇ミ陶方ハ機ヲ失ヒケルトソ聞エシ其后浦兵部ヲ先トノ能島久留島二百餘艘ニテ嚴島ノ
 城爲見計漕渡處ニ陶勢待受相戦ト云共浦兩島相働城中へ入其體見及歸リテ今一兩日モ後
 詰御延引候ハ、籠城叶マシキノ通申ケレハ廿八日ノ夜隆景ニ熊谷伊豆守父子浦兵部ヲ被
 差添嚴島ノ城へ入ラレケル弘中三河守陶カ前ニ出明日未明ニ城へ押寄一時ニ可_レ乘取此城
 攻落ナハ元就失利事必然タラント理ヲ盡申ケレ共城責ハ朔日トソ定ケル元就朝臣ハ晦日
 ノ夜ニ入押渡朔日ノ卯刻ニ有無ノ合戦スヘシ三日ノ兵糧ヲ腰ニ付柵ノ木一本繩十尋宛可
 持相詞ニハ何相印ニハ何ト定テ諸軍勢ノ舟ニハ箭火不可_レ燒ト諸士ニ下知シ給ヒ晦日ノ酉
 刻乘船シ給處ニ俄風雨冽ケレハ渡海相成間敷ト船頭申候へ共吉日ト云第一風雨ニ敵油斷有
 へケレハ不意ニカ、ツテ可_レ伐是非船出セト頻ニ宣則舟ヲ出シケル頓テ風雨モ止テ包ノ浦
 ニ着給フ隆元元春モ同所ニ頓テ着給父子三人僉議有テ舟悉ク廿日市ノ地へ漕戻サセ元春先
 陣ト被_レ定ケレハ新庄勢八百餘人眞先ニ進ミ曳々聲ヲカケテ坂ヲ上ケルニ自ラ関ノ聲ニ成
 ケルバクチ尾ニ陣取タル弘中三河守爰ニテノ合戦ハ叶ワシトテ大和伊豆三浦越中へ牒シ合
 陶カ本陣へ馳集ル是ヲハ不知藝陽勢ハ若々ト明コロヲヒ鯨波ヲ揚弘中三浦カ陣へ押寄ケレ
 ハ敵一人モ居サレハ眞直ニ陶カ本陣塔ノ岡へ押寄ル敵モ備ヲ堅メ待掛互ニ入亂散々ニ戦ケ
 リ陶大軍ナレ共夜中ニ諸所ヨリ馳アツマリ俄ニ備タル陣ナレハ備シトロニ成其上所ハセハ
 シ勢ハ多シ掛引モ不_レ自由是ヲ見テ藝州ノ諸將自碎手揉ニ揉テ攻給へハ陶勢一度ニトツト

崩テ逃行全蓋コハイカニト自再拜ヲ取身ヲモンテ下知シケレトモ引立タル勢ナレハ耳ニ
 モ不聞入ニ我先ニ舟ニノラント落行ケリ大勢舟ニ込乗水ニ溺テ死モ有乗後レテ浦傳ニ逃モ
 アリ弘中三河守同中務踏留テ瀧小路ヲ後ニアテ五百計ニテ扣ケリ一番ニ吉川元春追掛給ケ
 ルニ弘中父子死ヲ一途ニ定切テ掛相戦吉川勢切立ラレ十四五間引ケレハ元春鑓提テ掛出士
 卒ニ下知シテ懸リ給ヘハ引色ニ成タル味方取テ返シ命ヲ際ト切結爰ニ柳小路ヨリ青景波多
 野町野等三百計ニテ横合ニ突テ掛ル吉川勢危ク見エケル處ニ熊谷伊豆信直天野紀伊守馳合
 切テ掛戦ケレハ青景波多野等切立ラレ弘中ハ瀧小路ノ左右ヘ火ヲ掛ケ其紛ニ上ノ山ヘソ引
 ニケル陶入道ハ爰ニテ討死セント落殘ル勢ヲ集テ扣タリ三浦越中守申ケルハ命ヲ全シ山口
 ヘ引取重テ勢ヲ催サレ候ヘ越中殿リシテ討死仕候ハン其間ニ落玉ヘト進メケレハ舟ニ乘退
 ントテ落行共何ノ浦ニモ舟一艘モナク途ヲ亡テソ居タリケル隆景ハ全蓋カ跡ヲ慕追カケ給
 フ處ニ羽仁越中守同將監三十餘人山陰ヨリ切テ出レハ其邊ニ忍ヒ居ケル五百餘人馳加リキ
 リ掛ル隆景ノ兵共モ切立ラレテ一度ニ颯ト引ク元春是ヲ見テ旗ヲ押立切テカ、リ給ヘハ引
 タル勢モ取テ返シ切入羽仁兄弟ヲ討取ケレハ殘勢ハ盡ク落ケルヲ追討ニ數十人討捕ケリ大
 和伊豆守手勢七十餘人度々取テカヘシケルカ諸所ニテ皆討レ纔廿餘人ニ成テ退ケルヲ香川
 左衛門尉光景追懸ル大和香川ハ日來シリ知レタル事ナレハ互ニ一際進ンテ戦ケリ此大和伊
 豆守文武ノ達者ナレハ生擒ニシマホシキト元就兼テ宣ヒケレハ光景此事屹ト思出シ大和ニ
 カクト申生捕ニソシテケル三浦越中ハ入道ヲ落ントテ跡ニ付テ引ケルカ何クニモ舟ナカリ

ケレハ青海苔ノ岨路ニ扣追懸ル敵ヲ待居ケリ隆景ニ三百計ニテ追懸給フ越中守待受稠ク切
 テ懸ル隆景モ自身鑓ヲツ取り馳向赤川左京亮越中ニ渡合暫相働ケレ共勝劣ハ不附三浦カ勢
 隆景ヲ目ニカケ切テカ、リ既危見エ給ヘハ主ヲ討セシト草井市丞山縣勘次郎内海市郎南勘
 兵衛井上一忠掛幅枕ヲ並討死ス此隙ニ隆景ハ赤川左京ヲ召具シ敵離シ給フ隆景難儀ノ通元
 春ヘ告來レハ急掛付切テ掛ル元春ノ家來樋口彦三郎討死ス吉田衆ニハ内藤内藏丞掛付タリ
 越中守相隨兵悉討死シ只一人ニ成休居ケルヲ内藤内藏丞後ヨリ射高彌三郎モ射懸ル矢二ツ
 中リケレトモ何モ薄手ニテ有ケレハ鑓ヲツトリ立上リケル處ヘ二宮木工助渡合暫突合ケル
 カ三浦カ左ノ脇ヨリ肩先ヘ突貫レ倒ケルヲ井尻又右衛門押ヘテ首ヲトラントシケルカ片岨
 ナル所ニテ下ノ谷ヘ落ケルヲ内藏丞下合三浦カ首ヲ取テケリ

弘中三河守同中務最後事

弘中三河守同中務少輔龍カ馬場ヘ取上リ扣タリ元就朝臣柵ヲ結セ一人モ不殘討果セト取圍
 弘中數百人ノ勢ナリシカ或ハ討レ或ハ生トラレ主從三人ニソ成ニケル中務ハ聞ユル勇者ナ
 レハ敵ノ大勢ノ中ヘ切テ出數人切捨手負セ引退處ニ吉川家來小坂越中守ヨツ引テ射ケレハ
 中務カ弓手ノ肩先ニ中リ疼所ヘ熊谷家人末田新右衛門走リカ、リ引クミ首ヲ討三河守是ヲ
 見テ腹切ントセシヲ阿曾沼家人井上源右衛門ツトカ、リケレハ三河守拔合暫戦ケルカツイ
 ニ井上ニ討レニケリ生捕ノ内ニ渡邊可性ト云者常ニ狂歌ナト詠ケレハ元就朝臣只今ヨメ命
 助ント有ケレハ

カケテシモ頼ヤ毛利ノシメタスキ命一ツニ二ツ卷シテト讀ニケルニツシメタスキハ此度ノ相詞ナリ又陶カ同朋ニ宗阿彌ト云者モ命惜クハ歌ヨメト宣ハハ名ヲ惜ム人ト云トモ身ヲ惜ム惜サニ替テ名ヲハ惜マシト詠ケレハ歌モ折ニコソヨレイシクモヨミタリトテ二人共ニ助ケ給ヒケリ

陶尾張守入道全蓋最期事

陶入道ハ青ノリノ濱マテ落行ケレトモ舟モ無リケレハ今ハ是マテ也トテ自害シケレハソコ迄付隨伊加賀民部垣并佐渡守山崎勘解由入道ノ頸ヲ紫小袖ニ包杏ノ谷ノ奥ニ隠シ置垣并山崎ハ入道一所ニテ刺違テ失ニケリ伊加賀ハ入道乳人ニテ片時モ身ヲ不離者ナレハ爰ニテ自害セハ入道モ自害シツラント入道ノ頸ヲ尋搜レントテ二三町濱邊へ走出テ腹切テ死ニケリ此三人ノ頸ヲハ兒玉内藏丞カ手へ取ケレ共誰首ト不知ケルヲ二宮木工助見知是垣并山崎伊加賀也如何様ニモ此者共自害ノ所ニテ入道モ自害シツラントテ尋ケレ共入道ノ印ハ無リケリカ、ル處ニ陶カ草履捕乙若トテ十四五ナル童最期マテ供シテ山ニ隠居ケルカ立出テ命ヲ助給ハ、入道ノ頸在所申サントテ教ケルヲ搜シ出シ元就父子四人ノ實檢ニ入ケレハ廿日而洞雲寺ニ收メ孝養感勲ニシ給フ角テ十月十一日嚴島逗留シ同十二日至小瀉飯陣シ給ケリ

防州若山城沒落并鞍掛城沒落事

弘治元年元就朝臣嚴島ニ於テ陶全蓋ト一戰ノ刻大内家ノ侍杉治部大輔杉森下野守合戰ノ様

體ヲ聞合元就勝利ト聞テ使者ヲ出シ陶御討果ノ事ヲ賀シ其後又防州御出馬候ハ、御馳走可申トテ人質二人宛差出ス其外備藝兩國ノ侍共吾劣ラシト味方ニ馳參大内義長此趣ヲ聞テ以外驚給フ然處ニ若山ニ居ケル陶五郎長房ハ亡父全蓋ノ弔軍ニ元就ヲ討果シ次ニ杉治部大輔蓮池ノ杉森下野守モ野心ヲ企由其聞へアレハ兩人ヲモ此時悉退治セント義長へ加勢ヲ請フ内藤仁保青景等ヲ召集メ僉議アツテ加勢無リケレハ長房大ニ怒ケル折節杉伯耆カ子杉十郎重輔ハ父伯耆ヲハ全蓋カ討タレ共全蓋ハ嚴島ニテ果ヌ責テ此時五郎ヲ討テ父ノ冤ヲ報セントテ其勢五百餘騎陶五郎カ居城若山へ押寄ケレハ城中ノ者共恐怖シテ悉落行殘勢纔ニ五十餘騎ナリ長房迎モ不叶モノヲトテ舍弟小次郎ヲハ様々ニ言宥落シテ郎等間田隆盛ト共ニ自害シテ失ニケリ重輔陶主從ノ頸ヲ元就朝臣へ密ニ實檢ニ入タリケリ又杉治部大輔ハ鞍掛ノ城ニ居住セリ上向ハ元就ニ隨ケレ共底心ハ義長へ親シケレハ如何ニモシテ元就ヲ討ントテ下人ヲ道心者ニ似セ義長へ加勢ノ事云送ル處ヲ杉森下野守家人ヲ路口へ出シ彼道心者ヲ擲取元就朝臣ノ居陣岩國永興寺へシカノノ霧霜月廿七日ノ丑ノ時ニ注進シケレハ河内ノ壇ニハ隆元朝臣御庄ノ市ニハ元春朝臣在陣シ給ニ早飛脚ヲ以テ後剋寅ノ頭ニ鞍掛へ出馬アルヘシト亦合約束ノコトク各打立三里カ間ヲ一時ニ懸付彼鞍掛へ取懸員ヲ相圖ニ定メ一息ニ乘崩ントシケレハ城中ヨリモ矢間ヲ開キ散々ニ射ル寄手事トモセス一度ニ咄ト堀ノ手ニ乘入レハ敵不堪二丸へ颯ト引退暫防ケレトモ不叶トヤ思ヒケン大將重輔大勢ノ中へ懸入ケルカ深手負ヒ少弱ル處ヲ小瀉太郎右衛門カ郎等吉山ト云者押へテ首ヲ取ル吉川勢ニモ森脇市

鄭右衛門山縣四郎衛門ナト續テ好敵討取ケリ郎等家子ニ至ルマテ此彼處ニテ悉ク打果頸數都合八百九十餘ナリサテ元就朝臣ハ敵輒ク打果給ヒテ同日未ノ刻ニハ父子三人又岩國へ歸陣シ給ケリ

山内隆道與元就并元春石州發向事

同二年去年杉重輔討レテ後一族トモ皆元就へ付隨フ其外密ニ志ヲ通シテ山口へ押入給ハ、味方ニ可參ト申者モ多カリキ頃出雲ニ被付置ケル山伏立歸リ申ケルハ尼子晴久ハ元就山口へ出張シ給ハ、義長豊筑ノ勢ヲ催對陣アルヘケレハ定テ五十日モ百日モ山口ニ在陣アルヘシ此隙ヲ窺ヒ石州福屋ヲ亡シ新庄へ打入カ左ナクハ備後ノ三吉ヲ退治シテ吉田へ發向スヘキカト風聞ノ由告ケレハ味方ニ志深キ福屋ト三吉ヲ討セテハ縦ヒ防長ヲ所領シテモ無益所詮晴久備州へ出張セサル謀ヲ可成ト山内新左衛門尉隆通ハ尼子方ナリト云へ共彼ヲ方便リテ味方ニ與スル謀ヲ口羽下野守ニ委ク教へ給フ口羽急キ山内カ所へ打越先一字ノ契約ヲナスヘシト云ケレハ隆通則領掌ス因是ニ下野守ハ隆通カ通ノ字ヲ付通良ト名乘從其互ニ親キフリニモテナシ好キ時分ヲ計ヒ御邊ノ亡父モ毛利家ニ御志深キ人ナレハ御邊モ兎角元就へ御一味候へカシト云へハ隆通モ内心ハ元就ニ好ミアルカ故ニ即同心シケル元就朝臣知略ヲ以テ山内味方ニ來ヌレハ晴久大キニ憤リ雲伯石并備後半國ノ勢ヲ率シテ山内へ押寄數度戰ケルカ隆通多勢ヲ事トモセス稠ク防ケル間晴久戰毎ニ利ヲ失ヒ大勢打セテ引退ケリ角テ元就朝臣元春へ仰ケルハ隆通味方ニ與スレハ最早晴久備後ヨリ我領國ヲ侵ス事有マン只大

内退治ノ刻コソ石州ヲ晴久ニ可被奪時節ナラメ大内義長ヲハ小勢ニテモ輒ク亡スヘシ某甲山口へ打入ラハ御邊ハ石州へ馳向尼子ノ大敵ヲ押へ給へト宣ヒケレハ元春承候トテ四月上旬岩國ヲ打立給吉見佐波祖式福屋出羽山内新左衛門等馳加リ其勢已ニ五千餘騎ニ成給ヒテ鳥屋カ尾高ミノ黒岩兩城ヲ築キ晴久ヲ遲シト待給フ晴久ハ雲石作并伯耆備後半國ノ勢一萬五千餘騎ヲ率シテ石州へ打出ントシケルカ俄ニ大傷寒ヲ煩ヒテ出陣ノ事ハヤミニケリ

防州須々萬城合戰事

弘治二年去年十二月中旬須々萬城主山崎伊豆守藝州勢寄來ト聞テ方々ノ味方へ注進シケレハ大内家ノ兵江良彈正忠狩野治部少輔其外處々ヨリ馳集楯籠ノ由聞へケレハ隆元朝臣爲退治彼表發向シ城中小勢ナルヘシト侮リ一時ニ攻破ントシ給處ニ思ノ外猛勢ニテ殊ニ堅固ニ働ケレハ味方引退暫休居ケルニ後詰ノ兵方々ノ峰ヨリ下シ合突懸大勢ナレハ勝利有マン先可引トテ引給へハ敵勝ニ乘テ大勢付送ル數度引返追拂ヒ無難岩國迄打入給フ又今年二月下旬元就隆元又須々萬へ出張シ此度ハ足輕トモニ編竹一枚薦一枚宛持セ給フサテ三月三日惣勢一度ニ城へ攻上ントス狩野治部少輔城下ノ沼ヲ賴ニシテ打テ出味方兼テ用意シケル事ナレハ編竹薦ヲ沼へ打入々々足場ヨクシテ稠ク攻メ狩野治部ヲハ坂新五左衛門鑓ニテ突伏其外大勢討取ケル江良彈正ハ脱甲降人ニ參ル大將山崎ハ暫防戰ケレ共不叶シテ討死スサテ城中三千餘ノ者共一人モ不殘討果メ頓岩國へ歸陣シ給ヒケリ

大内義長山口沒落付最期事

弘治三年去年二月元就朝臣須々萬ノ城ヲ攻亡シ今年又山口へ發向ノ風聞アリケレハ大内家ノ侍志道遠江其外吾モノト降參シケル程ニ義長今ハ元就ヲ退治スヘキ行ハナシ只山口へ引受一戰シテ自害セント宣へハ内藤彈正忠爰ニテ止々ト成給ハンヨリ一旦長門ノ間田ヲ頼ミ落給へト再三諫申ニ依リ内藤彈正杉民部已下二千餘騎ヲ隨テ長府勝山へ落給フ元就朝臣此由ヲ聞給ヒテ先山口ノ押へトソ赤川粟屋國司兒玉ヲ差下シ兩三日後ニ元就父子三人山口へ打入給フ五三日彼地ニ在陣シ長州處々ノ降人共ノ人質取堅メ長府へハ福原左近丞ヲ大將トシ五千餘騎被差向勝山ヲ取圍又渡邊左衛門赤川左京市川式部等ニ數千騎ヲ相添大友後詰ノ押トソ下關ニ置給フ角テ勝山ノ城落由元就朝臣聞給テ密ニ矢文ヲ以城中へ云送ケルハ内藤彈正ハ某ヲ恨ムル子細候間切腹サセラレ候へ義長ニ對元就全ク遺恨ナク候一命ヲ助其上ハ御望ニ可任ト有ケレハ内藤此由ヲ聞テ某カ望ム所ナリトテ己ニ切腹セントシケレハ義長ハ兎角爰ニテ快一戰ノ共ニ自害ト宣フ内藤杉等盡言申宥義長ヲハ長福院へ移入サテ内藤ハ福原ニ檢使ヲ請腹十文字ニ搔切ケリ福原方便スマシタリトテ長福院へ押寄義長モ御切腹ト元就ヨリ申來候速ニ御腹召レ候へト云ケレハ義長覺悟ノ前トハ云ナカラ福原ニ方便ル、事口惜サヨト嚙シテ怒給へ共力不及行水シテ身ヲ清メ潔ク自害シ給フ爰ニ陶全薑カ郎等野上ト云者アリ全薑カ末子鶴壽丸今年六歳ニ成ケルヲ山口ニ隱置シカ義長滅亡ノ後敵ヨモ助ケマシト思ヒ鶴壽丸ヲ拘長福院へ忍行キ主從共ニ義長ノ最期ノ供ヲソシタリケリ吉弘橋詰安田杉等モ思ヒ思ヒニ切腹ス福原左近丞ハ義長已下ノ頸ヲ取テ山口ニ皈ケレハ元就實檢

ノ後長福院ニ於テ勲ニ葬禮シ皆石塔ヲ立給フ角テ元就朝臣父子四人山口ヨリ防府へ歸陣シ國中ノ仕置シ給ヒテ卯月二日藝州へ歸リ入給フ

防長處々一揆並益田降參事

弘治三年陶カ郎等深野内藤カ家人葛西杉治部カ一族ノ者馳集テ今一度元就父子ニ矢一筋射懸主ノ黃泉ノ恨ヲ晴サント散々ニ成兵共ヲ集ケル又柳井カ一族ハ德地ノ一揆原二千餘人ヲ相催ス其外富田近郷杉カ家人間田カ者共處々ニ起リ又山口鴻峰ヲモ方々ヨリ一揆蜂起ノ攻ントスル由急ヲ告ケレハ元就朝臣父子三人霜月十六日ニ吉田ヲ打立テ防州富田へ發向シ給へハ兩國ノ一揆不叶ノ散々落失セ或ハ自害シ或ハ降參シテ忽靜マリケリ又益田越中守藤包ハ大内一味ノ者ナルヲ味方ニ與スヘキ旨宍戸安藝守度々云送ケレ共義長存生ノ間ハ曾テ承引無リケレハ元就元春益田退治ノ爲ニ石州へ打越給フ藤包此由ヲ聞三隅ノ高城ハ地嶮岨ニシテ究竟ノ要害ナリトテ彼地へ引籠ル處ニ元就朝臣一萬餘騎ニテ出張シ三隅ノ城ニ押寄給フ然所ニ元春或時元就朝臣へ告給フハ益田ハ義勇全備ノ侍ニテ候一命ヲ助本領安堵セシメハ石州ノ吉見カ押へニ宜カルヘシト宣へハ元就朝臣此儀尤ト甘心ノサアラハ元春兎モ角モ計ヒ給へト宣へハ元春益田ニ此旨ヲ云送ラル、益田不斜喜ヒ降人ニ出御味方ニ參其上本領安堵ノ事辱次第也此後ハ御當家ニ對シテ可盡粉骨忠特石州ハ我國ナレハ御出馬候ハ、先陣ヲ可仕ト申歸リケリ吉見正頼モ安武郡安堵ノ御禮トシテ吉田ニ上リケルカサマノノ重寶ヲ進上セリ去程ニ大内一族モ果國人等盡ク御味方ニ參レハ防長備藝靜謐ノ萬民安堵ノ思

ヲ成ニケリ

石州出羽合戰事

永祿元年二月初旬吉川治部少輔元春藝州日ノ山ヲ打出其勢一千餘騎石見ノ出羽へ發向其故ハ小笠原長雄尼子修理大夫晴久ト一味ナリケレハ渠ヲ退治ノ爲也カ、リシカハ出羽ノ某三百餘騎福屋式部大輔一千五百餘騎ニテ馳加ル然處ニ本庄越中守小笠原へ使ヲ遣シ元就父子數萬騎ニテ温湯ノ城ヲ取圍マンカ爲近日出張候温湯若元就ノ所存ニ任セラレ候ハ、某カ城ヲモ攻ントノ用意ト聞ヘタリ然ニ元春頃纔ノ勢ニテ出羽ニ着陣アリ御邊ト某一手ニ成リ一戰ヲ遂ハ一時ニ可切崩候へ共猛勢ヲ以テ安々ト可討果存シカノ趣晴久へ注進セシメ候へハ來十五日牛尾遠江守湯信濃守宇山飛驒守ニ五千餘騎差添當地迄可差出トノ返事ニ候御邊モ其刻出羽へ打出給へ兩方ヨリ挾元春ヲ可討果ト云送リケレハ長雄大悅即其約ヲソ堅メタリ角テ雲州勢本庄カ館ニ着シカハ都合其勢八千餘騎二手ニ分同廿七日寄來ル藝州勢モ二手ニ分テ備先陣福屋式部大輔カ嫡子彦太郎小勢ナレハ柵一重結テ是ヲ待居ケルヲ本庄父子先陣トシテ柵ヲ切破ントスル處ヲ福屋矢先ヲ揃テ散々ニ射ル敵少疼ム所ヲ幕直ニ突テ懸ル本庄小笠原忽突立ラレケルヲ見テ牛尾一千計ニテ入換福屋又負色ニ見シカハ出羽元實助來入亂散々ニ戰ケルカ雲州勢宇山湯四千餘騎元春ノ陣へ切懸ル吉川勢少引退ハ渡合三時カ間攻戰ヲ敵少シ疼ム處ヲ元春朝臣敵ハ引ソ一援ヤンテ切懸レト再拜ヲ打振自眞先ニ進ミ給へハ相隨兵一千餘騎吾先ニト懸入ケリ雲州勢堪カテ引退ク本庄返合暫防ケル處ニ杉原盛

重間付備後ノ神邊ヨリ馳來リ横合ニ懸レハ本庄小笠原推崩サレテ引テ行味方勝ニ乘テ追懸百五十餘人討取ケリ敵多勢ナレハ長追ハセス頓引返シ備堅フシテ扣タリ元就朝臣此事聞給テ熊谷伊豆守同兵庫助三須筑前守天野民部太輔已下三千餘騎加勢トシテ差下サル其外益田越中守佐波常陸守等馳集レハ後詰ノ勢多トテ敵彌敗軍シテ吾々カ居城へ引歸其後合戰ハ止ニケリ

小笠原降參付尼子後詰事

同五月廿日元就隆元隆景父子三人石州發向シ給フ吉川元春モ一手ニ成給ヒテ都合其勢一萬二千餘同廿四日湯ノ城ヲ取圍隆元ハ城ノ尾頸笠取山へ打上陣ヲ居給元春ハ北方一里計隔テ赤城ニモ敵五百餘騎ニテ籠ケレハ其中間ヲ取切陣取給フ隆景ハ西ノ方小栖山ニ備給元就朝臣ノ本陣モ在西表又青岩ト云城ニハ尼子晴久ヨリノ援兵八百餘騎楯籠藝州勢赤城ヲ攻ルトヤ思ケン温湯ノ城ヨリ早雄ノ者三百餘人手毎ニ鎗長刀提ケ打出赤城へ加勢スヘキ體ニ見タル處ニ吉川勢ノ中ヨリ粟屋源藏森脇市郎右衛門元就ノ近習瓜破ト云者其勢四百計ニテ切懸ル敵不叶トヤ思ヒケン後へ颯ト引退ヲ森脇市郎右衛門追蒐小笠原カ郎等河邊八郎右衛門ヲ討取リケリ翌日六月朔日赤城ヲ乘崩ヘシト下知シ給フ處ニ敵堪カテ同夜半ニ城ヲ明温湯ノ城へ入ニケリ尼子勢モ青岩ノ城ヲ退大田迄コソ引ニケレ角テ藝州勢温湯ノ城ヲ取圍ミ近日可没落ト石州ノ味方共尼子晴久へ注進シケレハ更ニ後詰スヘシトテ領國ノ勢ヲ催シ其勢一萬八千騎七月五日石州江ノ川ヲ隔テ陣ヲ取先河上ノ松山ノ城ヲ攻亡シ本陣トシ其後楯

ヲ浮へ筏ヲ組テ江ノ川ヲ安々ト渡サントテ惣軍勢一萬八千餘鬨ヲ唾ト上ケ松山ノ城へ切懸ル彼城ニハ福屋隆包ヨリ神村下野守ヲ先トシテ究竟ノ兵六百餘騎籠ケルカ間近ク敵ヲ引受散々ニ射立ケレハ敵進兼タル所ヲ城中ヨリ突テ出寄手數人討取ケリ此城輒ク可落居不見ケレハ尼子勢先虎口ヲ引退キ己カ陣ヲソ堅メケルサテ晴久一族他家ノ人々ヲ集如何シテ小笠原ヲ可_レ見續ソト僉議數日ニ及ケレ共江ノ川トテ日本二三ノ大河ヲ隔タレハ渡スハキ様ナク徒ニ五日陣ヲ居タリケリ然處ニ本城太郎兵衛尉牛尾太郎左衛門爰ニテ徒ニ日ヲ送ルコソ無念ナリイサ殿原渡サントテ唯二人已ニ打入ントスル所ヲ宇山飛驒守其方ナトニハ物カ付テ候カアノ懸河ノ如ナル大河ヲ舟ニテサヘ危カルヘキニ馬ニテ渡サン事叶マシト頻ニ制シケレハ二人ノ者ト、マリケリ同十九日尼子晴久徒ニ隔川對陣シテ士卒ヲ苦メン事ナシトテ大田迄引退ケレハ小笠原以ノ外ニ弱リ低頭大息シテ社居タリケレ角テ小笠原長雄ハ賴切タル晴久ハ引ケレハ今ハ無力更ハ降人ニ可_レ出トテ隆景朝臣ヲ賴ミ降參シテ一命ヲ助カリ阿彌陀寺へ入ニケリ又福屋隆包ハ元就ニ與シ戰忠ヲ盡シケルカ隆景朝臣ト不和事出來テ流牢ノ身ト成ノミカ多ノ一族若黨ヲ亡シケルトソ聞エシ

石州中村城沒落事

永祿三年十二月上旬元就朝臣父子三人中ノ村ノ城ヲ被取圍元春先陣ニ進ミ元就後陣ニ詰カケテ懸レ懸レト下知シ給ヘハ先陣ノ吉川勢射共切共少モ不疼二重ノ柵ヲ乘越タリ是ヲ見テ吉田勢穴戸熊谷已下吾モ吾モト攻入ケリ城主山城守不叶トヤ思ヒケン三百餘人眞丸ニ成

テ搦手ヨリ切拔矢上ノ城へ落行矢上筑前守ト一手ニ成殘ル兵共ヲ此所彼所ニ追詰討取ケル間頸數八百五十餘トソ記シケル其後矢上ノ城ヲ可切崩トテ陣ヲ寄セ給ヘハ筑前守相共ニ城ヲ明退シカハ元就朝臣入替暮行年ヲ越給フ

石州松山城并福屋沒落事

永祿四年二月二日河上ノ松山ヲ攻ムヘシトテ元就朝臣父子四人大江へ陣ヲ易給フ熊谷伊豆守信直ハ井下ノ渡ヲ越テ十合ニ陣ヲ取同六日惣軍勢一萬餘騎鬨ヲ咄ト作ル城中少色メク所ヲ元就朝臣大音ヲ上再拜ヲ揮テ懸レカ、レト下知シ給ヘハ諸勢勇テ一番ニ櫃ノ城トテ取出ノアリケルヲ一度ニ乘入ントス城中ニモ爰ヲ先途ト防戰ケレ共少負色ニ見エタル處ニ吉川熊谷手ノ者共先陣ニ進ミ切テ入り櫃ノ城ハ無程落ニケリ去程大手ノ門已ニ破レケレハ森脇采女正懸入一番ニ頸提テ來ルニ番ニ境孫次郎能頸打テ飯ケルカ跡ヨリモ續テ分捕シテ來ルヲ見テ誰モ首一ツハ取レハ我ハ今一ツトラントテ又城中へ走入處ニ究竟ノ兵七八人打テ出ケルニ唯一人丁ト行逢タリ敵多勢ナレトモ少モ不引渡合散々ニ戰ヒケルカ胸板突拔レ終ニ其所ニテ討レニケリサテ諸勢一度ニ乘崩サントカラ堀ヲ打越々々責入ケレハ城中ニモ宗徒ノ兵一千五百楯籠リ攻入ハ切出々々責入ケル吉田勢ニハ福原十郎三郎穴戸手ニハ江田木工助市原四兵衛ナト討死ス其後諸方ヨリ亂入彼所ニ追詰爰ニ推詰テ討取頸數一千七十三トソ記シケル吉田勢ニハ福原宗右衛門渡邊神右衛門桂三井上等分捕シテケリ角テ福原ハ賴切タル松山ノ城ヲハ被攻落矢上ノ城ハ明退ヌ今ハ家城阿登ノ音明ノ一城ニ成シカハ如

何ハセント案シ續テ居ケル折節元春先陣トシテ元就朝臣已ニ音明ノ郷ヘ打入給フト聞エシ
 カハ一族郎等ヲ集メ元就已ニ當城ヘ發向ト聞ユ爰ニテ引受一戰ノ中ニ家ノ存亡ヲ可試ヤ又
 重テ時節ヲ可待ヤ各所存ノ趣可申ト云ケレハ元就ノ謀ニホタサレ重富ヲ先トシテ一族郎等
 ヲ亡シシカハ今ノ小勢ニテハ叶マシ先當城ヲ一旦御開キ重テ尼子ヲ頼ミ御國人可有ト各諫
 メケレハ隆包此儀ニ同シ取物モ不取敢夜中ニ城ヲ忍出濱田ノ細越ト云山ヘ取上リケリ元春
 朝臣續テ追懸給ヘハ爰ニモ不怵船ニ取乘雲州ヘ着ケルカ又彼地ニモ不留守大和志貴ノ城ニ
 在トソ聞エシ

豊前國門司關城合戰事

同年九月中旬大友金吾入道一族郎等召集メ元就尼子ト矛楯ニ及ヒ石州ニ在陣ナリ此透間
 ヲ窺ヒ門司ノ關ノ城ヲ攻破ナハ宗像高橋長野等ハ不攻ニ味方ニ可降ソトテ吉廣賀兵衛尉
 大友駿河守ヲ大將トシ一萬五千餘騎小倉ヘ打出陣ヲ取依之隆元朝臣防長ノ勢ヲ催シ後詰
 ノ爲ニ長府ヘ下向シ給ヘハ隆景モ石州ヨリ打出給ヒテ其勢都合一萬八千餘騎門司ノ關ヘ押
 渡リ給フ豊後勢暫思惟ノ敢テ懸リエヌ後詰ノ勢モ敵ノ強弱ヲ試テ後一戰ヲ可遂トテ扣タリ
 然所ニ豊後勢武田志摩守本庄新兵衛尉今江土佐守一戰シテ敵ノ手并試ントテ同十月十日門
 司ノ城ヘ押寄ケル處ニ隆元朝臣軍使ヲ以テ舟手ヨリモ打上テ敵ノ不意ヲ撃ト下知シ給ヘハ
 藝州ノ警固舟ヨリ兒玉内藏丞浦兵部丞等承候トテ打上リ横合ニ切テ懸ル豊後勢渡合セ切ツ
 切レツ防戦ヒケルカ爰ニ大友勢ノ中ヨリ伊美彈正左衛門ト名乘真先ニ進テ戰ケル處ニ浦兵

部丞馳合セ散々ニ突合ケルカ浦鼻ノ脇ヲシタ、カニ突レナカラ終ニ伊美ヲ突伏頸搔切ケリ
 中國勢力ヲ得テ勇ミ進テ鑓ヲ合ケル間豊後勢忽突立ラレテ引退ク同廿六日又大友勢城ノ麓
 へ押寄タリ小早川家人ニ井上又右衛門兼久内藏丞眞田孫兵衛豊島山田南河井ナト無比類
 働シテケリ吉田衆ニ渡邊小三郎山懸善右衛門飯田七郎右衛門同彌七郎宍戸衆ニ深瀬末兼已
 下分捕高名シテケリ角テ日暮ニ及テ兩陣左右ニ引別ケル同霜月五日ノ夜豊後勢門司關ノ陣
 ヲ密ニ引退ケル處ヲ舟手ヨリ井上又右衛門飯田七郎右衛門同彌七郎一番ニ懸付敵一人宛討
 ケレハ福原左近丞續テ追蒐敵踏止戰ケル處ニ末國與次究竟ノ敵一人突伏頸ヲ取ル其外福原
 門田井上長屋渡邊志道赤川桂庄原ナト思ヒ思ヒニ頸取テケリカ、リシカハ大友勢神田ノ松
 山ヲモ明退國中ニ足ヲ止サリケレハ天野隆重ヲ籠置隆元隆景ハ防州ヘ打入給フ

別府合戰付新原崩東賀高島自害事

同五年六月十日日本庄越中守須佐ノ高矢倉ニ居城シテ無貳ノ尼子方也銀山ノ山吹ノ城ニ藝州
 ヲリ東賀山城守高島源四郎ヲ被籠置ケルヲ本庄人數ヲ出シ山吹ヘノ通路ヲ指塞佐波常陸守
 出羽次郎左衛門其外石州ノ國侍共ト番手ニシテ兵糧并ニ野菜酒ナト商人共ニ送ノ者ヲ差添
 山吹ノ城ヘ遣シケル元春朝臣ノ送リ番ニ當テ送ノ武士ニハ二宮木工助同七郎兵衛山縣四郎
 右衛門井上又左衛門山縣源右衛門田中新兵衛佐伯源左衛門岡崎新十郎其外已上十八人丑ノ
 下刻ニ打立山吹ヘ行ケル處ニ敵二千計ニテ待伏シタリト路ニテ聞今夜ノ送如何アルヘシト
 僉議シケル所ニ二宮木工助此度引返ハ日來ノ武勇徒ニ成ヘシ各ハ兎モアレ角モアレ某ニ於

テハ今日討死ト可定ト云ケレハ山懸四郎右衛門誰モ角コソ存候ヘト同シケル間殘者共皆是ノ義ニ與シ志ヲ一致ニシテ谷路ヲ進ケル處ニ鳶一飛下二宮カ弓手ノ肩ヲシタ、カニ蹴テ飛アカル二宮有難シ軍ハ勝タリト勇テ彌進ケル如案伏勢二千五百餘人一度ニ咄ト出タリケリ木工助吃ト見テ爰ハ平地ニテ多勢ニ無勢可戰非地ニ向ノ小高キ丸山コソ究竟ノ所ナレトテ十八人走上リ寄來敵ヲ待懸タリ彼山ヲ二千五百餘人ニテ七重八重ニ取圍四方ヨリ一度ニ切テ登リケル十八人ノ者一筋ニ思切タル事ナレハ少モ不騷透間モナク射立ケル沓ノ子打タル如ノ敵ナレハアタ矢ハ一モ無リケリサレ共敵死人手負ヲ乘越々々責上リ間近詰懸ケレハ木工助鍵ヲ構ヘ二宮ト名乗カケ突テ懸レハ敵十間計引退又責登レハ射拂突崩數刻カ間攻戰矢種盡レハ無貳ニ懸リ十死一生ノ戰ヲ決セント思切幕直ニ突テカ、リケレハ敵不堪山下ヘ颯ト引退テ次第々々ニ引ニケリ二宮木工助ハ敵一人モ不討取ハ今日ノ武勇ノ證據ナシイサ追蒐テ討取ントテ走出ケレハ舍弟七郎兵衛山縣四郎右衛門其外二人續テ追懸ル弓手ノ尾崎ヨリ敵ノ引退處ヘト行逢タリ二宮ヲ見テ足早ニ逃ル處ヲ追懸一人突伏頸ヲ取テケリ其後元春朝臣ヘシカ、ノ由語ケレハ無比類武勇也ト皆手ヲ拍テ感シケリ去程ニ石州ノ尼子一味ノ侍共晴久ヘ羽檄ヲ飛シテ元就父子其勢一萬五千餘騎ニテ當國ヘ打出ラレ候今ノ趣ニ候ハ石州ハ皆敵ニ可屬候急キ御出馬候ヘト告ケレハ晴久是ハ由々敷大事哉トテ伯耆美作隱岐備中半國石見半國ノ侍共ヲ催シ其外一族郎等都合其勢二萬三千餘騎七月十日石州大田ニ陣ヲ居先陣ハ堂原ニサ、ヘ銀山ノ路ヲ差塞ケリ此邊ニハ宍戸安藝守山内新左衛門佐波常

陸守三吉修理亮檜崎木梨小笠原長雄周布津野已下七千餘騎ニテ陣取ケルカ敵ノ大勢ヲ見テ小勢ニテ叶マシ早々後詰セラレ候ヘト元就朝臣ヘ注進ス晴久軍兵ニ宣ヒケルハ先當陣ヲ切崩シナハ後陣ハ自退散スヘシト下知シテ射手ヲ先ニ立テ懸リ給フ藝州勢モ七千餘騎ヲ三手ニ備テ大勢ヲ引受戰ヒケル處ニ元春朝臣新原ニ合戰有ト聞テ取物モ不取敢熊谷天野ヲ先トシテ四千餘騎逸足ヲ出テ打出給ヘハ元就朝臣モ一里計引サカリ是モ同進給フ新原ヘ三町程有ント思フ所ニ味方散々ニ成テ逃カ、リタリ元春コハ口惜キ次第ナリトテ四千餘騎ヲ二手ニ備テ推返シ切懸レハ雲州勢屹ト見テ敵大勢ニテ後詰アルソ引ヤ者共トテ城中ヘ颯ト打入ケリ斯テ尼子勢新原ニ於テ勝利ヲ得シカハ銀山ノ通路ヲ取塞キ城中忽兵糧盡東賀高島自害シテ諸卒ノ命ニ代ラント再三望ケレハ晴久哀レ義士哉ト大ニ感シ則領掌シ給フ二人ノ者潔ク自害シテ城ヲ渡シケリ角テ山吹ノ城ニハ本庄越中守ヲ入置雲州ヘ打入タリ

石州山吹城攻付本庄屬毛利家事

同八月下旬元就朝臣父子三人一萬餘騎ニテ石州ヘ打出玉ヘハ當國ノ兵共四千餘騎相加小笠原長雄ヲ先陣トシテ山吹ノ城ヲ取圍マル爰ニ吉川勢山縣四郎右衛門井上又左衛門山縣助十郎溝掙次郎兵衛今日ノ先陣ト名乗切岸近押寄ル城ヨリモ早雄ノ兵共打出ケル處ニ溝掙ハ己カ組ノ鉄炮ヲ備立散々ニ打セケリ城中ヨリモ透間モナク射立打立ケルカ互ニ弓鉄炮ヲ止手毎ニ鍵ヲ提テ突合ケリ井上山縣溝掙等太刀ニテ渡合セ敵ノ鎧ノシホ頸取テ引クシキ數本奪取テケリ是ヲ初トシテ三口ヨリ切懸リ息ヲモ不繼攻タリサレ共城中弱體ナケレハ元就朝臣

此城ハ力攻ニシテハ勝利有マシ一旦引退謀ヲ先ニシ戰ヲ後ニシ本庄ヲ挫ヘシトテ退給フ本庄是ヲ見テ足輕五百餘人ニ弓鉄炮ヲ頻ニ射懸サセ付送タリ元春朝臣殿ナレハ馬ヲ扣テ付來敵ヲ追拂給ヘハ本庄自再拜ヲ取テ手シケク付ヨト下知シケレハ二千餘騎一手ニ成テ切懸ル元春是ヲ見テ少小高キ所ヘ馬ヲ乗上八百餘騎ヲ前後ニ立テ扣給フヲ見テ敵モ無左右不懸得一度ニ颯ト人馬ノ足ヲ止メ闕ヲ咄トソ作りケル元春ノ郎等森脇若狹守我爰ニ在ン程ハ敵ニ手ハ付サセ申マシトテ取テ返シ眞先ニ進タル兵一人突伏頸搔切テ指上猶モ敵ニ逢ント扣タリ元春見給テ森脇討スナ續ヤ者共ト自馬ヲ懸出シ給ハ新庄勢八百餘引返敵ノ眞中へ切テ入本庄是コソ願所ヨト無手ト渡合切ツ切レツ半時計戰ケルカ本庄究竟ノ兵十三人討レケレハ忽突立ラレ引ニケリ元就朝臣後陣ニ合戰アリト聞給ヒテ急キカヲ合ヨト下知シ給ヘハ各馳來ト云共敵早退ケレハ吉川勢ト一手ニ成陣ヲ引サテ藝州勢ハ祖式迄打入給フ角テ元春へ宣フハ本庄越中ハ去勇士ナリイカニモシテ方便味方ニ引成給ヘトアリケレハ元春承候トテ即家臣粟屋參河守山縣越前守兩使ヲ以テ越中守味方ニ與シ候ハ石州ノ銀山ニ雲州ノ原手郡ヲ相添可宛行ト云送リ給ケレハ本庄異儀ナク領掌シテ元就朝臣へ抽忠勤ケルカ餘ニ我勇ニ誇テ恣ニ振舞ケレハ元就父子僉議シテ誅伐ニ定ラレ元春一手ヲ以テ可打果トテ討手ヲ向ラレ陣屋ノ前へ押寄相圖ノ笛ヲ聞只今本庄打果セト討手ニ向候也ト呼リ陣中ニ切入本庄郎等服部若狹一番ニ切出テ森脇市郎右衛引組谷へ頓落若狹ヲ押テ首ヲ捕二宮木工助ハ本庄ニ心ヲ懸テ陣中へツト入引組幕ヨリ外へ組出是モ谷へ落ケルカ二宮上ニ成頸ヲ搔ント

スル處ニ小早川衆數十人懸付頸ヲ奪ント押懸二宮ヲ押殺サントスル程ニ頸ハ各へ可與先退給ト云ケレハ井上又右衛門人ヲ退首ハ井上討取元就ヘカクト申上レハ相高名ト宣ケリ粟屋源藏ハ敵二人討果ス斯テ本庄カ一族ノ近所ニ在ケル者ヲハ今田上野吉川式部少輔山縣越前森脇内藏大夫元吉カ所ニ於テ無殘討果ケリ

隆元赴防州事付大友毛利和睦事

永祿六年大友宗麟ト毛利元就トハ昔日ハ和睦シ給ヒケルカ大内義長切腹ノ後又不和ニ成ケレハ元就朝臣思給ハ大友宗麟ハ無雙ノ弓取ナリ其上防長兩國ハ義長ニ好有ケレハ志ヲ變シ大友へ靡隨事ヤ有ント隆元朝臣ヲ兩國ノ押ヘトシテ防州へ下シ岩國永興寺ニ在陣シ給フカハリケル處ニ大友宗麟ハ今年二月中旬豊前國神田ノ松山ヲ二萬餘騎ニテ取巻攻破ラントセラレケルカ天野紀伊守能城ヲ守リ堅固ナレハ大友遠攻ニシタリケル爰ニ高橋長野等ハ元來毛利家へ志深カリケレハ此由隆元へ以飛脚告來ル則後詰ノ勢差下ヘシトテ隆元防府迄打出給防長ノ勢ヲ被催ケル處ニ光源院義輝公ヨリ毛利家へハ聖護院大友へハ久我大納言殿ヲ御使トシテ近年諸國兵亂ノ事は偏ニ上ヲ蔑如ニスルカ所致ナリ然ハ大友毛利早ク令和睦中國九州靜謐ノ計專要ノ旨被仰下ケレハ兩家大樹ノ高命ニ任セ忽令和平因茲九州表無爲ナリケレハ今ハ大友カ押強ニ入マシキトテ門司下關城ニハ士卒ヲ入置隆元ハ周防ヲ打立雲州へ上リ給ケル處ニ藝州佐々部ノ宿ニ於テ俄ニ煩給同八月四日行年四十一ニシテ終ニ逝去シ給ケリ

雲州白鹿城攻事

同年元就朝臣父子三人去二月ヨリ大野表へ出張シ處々ヲ放火方々ニ打出給ケレハ牛尾信濃守ヲ先トシテ當國ノ敵城十餘箇所明退富田ノ城へソ集ケル同月十三日元就朝臣元春隆景一萬五千餘騎白鹿城ヲ打圍給當城ニハ松田兵部少輔楯籠毛利家ヲ背尼子ニ一味シケレハ富田ヨリ牛尾太郎左衛門ニ五百餘騎相添加勢トシテ差籠ラル同十四日石見ノ出羽中務少輔手勢三百計ニテ切岸へ押寄セタリ城中ヨリ是ヲ見テ二百餘人切テ出散々ニ戰熊谷兵庫助出羽討スナト蒐合ケレハ又城中ヨリ一千餘騎打出爰ヲ先途ト切結寄手既ニ打負ヌト見テ熊谷切ニ懸ケレハ郎等末田出羽カ家子共ニ九人一所ニ討レテ熊谷モ危見エケレハ吉川元春八百餘騎ニテ自真先ニ進懸給へハ又城兵一千餘騎打出揉ニ揉テ戰ケリ又杉原盛重モ懸付互ニ火ヲ出程戰ケルカ牛尾カ郎等數人討レ太郎左衛門モ弓手ノ肩先ヲ射レケレハ城中ノ兵少引退處ヲ元春敵ハ引ソ追立ヨト下知シ給へハ出羽熊谷杉原我不劣ト攻入松田牛尾不堪城中へ引入ケリ吉川ノ家人二宮井下熊谷カ郎等末田岸添出羽カ東杉原カ高橋等思々ニ分捕ス其外三十餘人討取ケリ其後寄手仕寄ヲ近付攻寄レトモ城中ニモ雲伯ノ勇者ヲ撰テ二千餘人籠置ハ輒可落共不見ケリ去程ニ寄手石州銀山ヨリ銀堀ヲ召寄穴仕寄ヲ堀セケリ城中ニモ是ヲ知相堀ニ堀ケルカ中途ニテ堀合セケレハ九月十一日寄手元春ノ家人三須山縣等鑓ヲ構テ突懸ル城兵不叶大石小石投入穴ヲハ頓テ埋ケリカクテ此城難儀ニ及故富田へ後詰ヲ乞ケレハ義久一族ヲ集白鹿可有後詰旨評定シ則舍弟倫久ヲ大將トシテ龜井能登守佐世伊豆守牛尾遠

江守山中鹿助其外歷々都合一萬餘騎同九月二十三日白鹿表へ打出有無ノ一戰ト定タリ元就朝臣城ノ攻口ソレソレニ云付後詰ノ敵ニカマハス城ヲ襲へシトテ熊谷伊豆守益田越中守持口々々へ加ラレケリ扱敵已刻計ヨリ打出様々呼引ケレトモ陣中ハ掟ニ任セ靜カヘツテ不取合申刻ニ至テ敵自引ントスル時元就朝臣時分ハ好ソト下知シ給へハ天野平賀ヲ先トシテ隆景一番ニ打出二番杉原三刀屋ヲ先ニ立元春備テ出給へハ牛尾河添スハヤ藝陽勢打出ル渡合一戰セント馬ヲ立并ントスル處ニ後陣引ントセシ折節敵ハ大勢ニテ打出皆捨策打テ引ケレハ牛尾龜井等キタナシ者共返セ戻セト下知スレ共引立タル勢ナレハ不及力引テ行天野平賀杉原續テ追懸レハ二陣ノ鹿助入替ントシケレ共大勢崩テ引ケレハ口惜ヤ無念ヤト云々コソハ引ニケレ寄手跡ヲ慕ントシケレハ元就制シ給故頓テ引返シ打入ケリ天野平賀杉原カ家人共分捕シ吉川手へモ頸三ツ討取ケリ其外十七追打ニ打取ケリ去程ニ白鹿ノ籠城纔十餘箇日ナレトモ糧水乏シケレハ無力一命ヲ助ラレハ城ヲ明渡可申ト降參ヲ乞ケレハ其旨ニ任セラレ同九月二十九日城ヲ請取牛尾太郎左衛門富田へ送り歸サレ雜人原資財雜具ニ至迄無殘給リテ己々カ在所ニ皈リケリ

元就朝臣洗合被築陣城事

永祿六年九月廿九日白鹿ノ城ニハ藝陽勢ヲ入替ラル同十月初旬元就元春隆景三將穴戸平賀兩天野三吉山内高野山熊谷古志有地益田出羽佐波已下一萬八千餘騎白鹿ヨリ打出給フ白瀉ノカラノ橋ヲ打渡所々ヲ放火シ同十日父子三人洗合へ打入給此所ノ山頭ニ陣ヲ營構堀ヲ

ホリ芝土手高ク築物見矢倉ヲ構其勢一萬餘騎ニテ御座ケリ扱富田ノ城ニハ數所ノ付城ヲ構人數或ハ五百或ハ千其城々ニ應シテ入置給フ其外道口浦々ヨリ入ケル兵糧ヲ差留種々ノ計策ヲ運シ給シカハ尼子家ノ上下忽義久ニ怨ヲ含半尾龜井以下ヲ初トシテ皆味方ニ與ス元就朝臣勝テハ彌用心稠キカ宜ク覺タリトテ七里引退陣ヲ堅シテ御座ケレハ尼子ニ屬スル者一人モナシ然故ニ尼子十死一生ノ合戰ヲ遂ントシケレトモ元就堅壘ヲ守ラレケレハハカハカシキ合戰ハナカリシナリ因茲雲伯付隨ノミナラス近國悉味方ニ參或ハ人質ヲ出シケリ

杉原盛重泉山合戰事

去程ニ富田勢山中立原等先日弓濱ニ於テ盛重ト戰ケレトモサノミ仕出タル事モナケレハ又泉山へ押寄一手際セントテ山中鹿助立原源太兵衛牛尾已下四千五百餘騎泉山ノ麓へ押寄盛重是ヲ聞テ元來智謀世ニ越タル者ナレハ湖上ニ釣スル者ニ賄ヲシ小船一艘ニ兵五六人乗テ百艘計漕浮タリ又土肥内藏允ニ一揆原四五百人相添山頂へ押上旗三流持セ見セ勢ニ置タリ出雲勢ハ追手搦手二手ニ分テ寄來杉原ハ一千餘騎ニテ二十町計打出タリ出雲勢敵案外ニ張出タリケレハ一手ニナシ前後ノ手分ヲシ山中立原等二千五百先陣ニ進ハ秋上吉田等二千餘騎二陣ニ進ム杉原敵ノ近付ニ隨次第々々二十町計引退富田勢杉原ハ引退ト見テ戰ハ勝ニ乘ニ不如ト前後一ツニ成テ進ンタリ彼山頭ノ見セ勢旗ヲ差上勢ヲ立ケレハ富田勢杉原搦手ヲ廻シケルソヤサレトモサセル大勢ニハ非トテ平野父子七百餘騎彼勢ノ押トシテ差向ル去

程ニ盛重敵ヲ思フ圍へ引受射手ヲ進テ會釋フ敵モ又足輕ヲ出シ射サセケルニ彼釣舟共半落へ付三百餘人敵ノ後ヲ遮ル一手ハ二百計舟ヲ湖水ニ横へ散々ニ射富田勢スハ湖上ニモ敵ノ有ケルソヤト色メク所ヲ杉原一千餘騎唯一戰ノ中ニ勝敗ヲ決セント無ニ懸ルヲ見テ湖水ニ浮タル舟共猶渚近ク差寄頻ニ射ル後ヲ遮ル兵共闕ヲ作テ進ンタリ山中已下杉原カ謀ノ中ニ落サレ周章騷處ニ雜人原盛重カ懸ルヲ見テ一支モ不支散々ニ成テ引テ行山中立原以下宗徒ノ兵トモ一所ニ集リ七八百計扣タリケレトモ引味方ニ途ヲ失數十町計引ケルカ已ニ三箇度ニ及テ討レツヘウ見エケル處ニ後藤福塚眞野已下ノ者共五六人取テ返シ討死シケル隙ニ宗徒ノ兵辛キ命生テ三保ノ關ヘソ引ニケル

輝元元長雲州發向井富田麓合戰事

永祿七年隆元朝臣ノ嫡子少輔太郎輝元十二歳ニ成給フカ急雲州へ馳向祖父元就へ見參ニ入軍ノ先ヲモ可懸ナリト宣元春ノ嫡子元長同道シテ二月中旬ニ雲州洗合へ着給へハ則元就對面シ悅給事無限輝元元長元就へ望給ケルハ今度兩人當國罷越候印ニ富田へ押寄一戰セント宣へハ角望事神妙ナリ頓テ富田ノ城へ押寄一戰ヲ遂ントノ給ケリ元春隆景内議評定シ給フハ元就日來富田ノ城ハ力攻ニシテ非可落唯謀ヲ以可得勝利ト宣シカ今進テ戰ントシ給ハ若危キ働ヲヤ成給へキ先我々富田ノ城近ク打出敵ノ強弱ヲ試其上ニテ輝元出張シ給打勝テ大利ノ初ト成へシトテ元就へ此由申給へハ尤宜カルヘシト兩將ノ意ニ任セ給去程ニ吉川小早川穴戸熊谷益田小笠原已下一萬餘騎富田ノ郷中へ働ケレハ城中ノ勢岩倉寺ノ邊ニ

七千計備テ待懸タリ然共寄手城ヲハ不攻唯郷中ノ麥薙捨ケル間尼子勢是ヲ妨ント山下へ打下シ弓射カケ野伏軍ヲ始ケリ寄手モ射手ヲ進メテ射サセケレハ吉川元長今日ノ先陣元長ニタヒ候ヘトテツト蒐ヌケカ、リ給ヘハ父元春モ懸リ給フ新庄勢我モノト打テカ、ル備後勢宍戸モ同續テケレハ尼子勢可叶トモ見えス山上遙ニ引退ク寄手モ日暮ヌレハ頓テ打入給ケリ

富田城下於三箇所合戰事

去程ニ輝元ハ是非尼子勢ト懸合ント頻ニ元就へ訴ラレケレハ同四月十七日富田麓ノ麥薙ノ働ト定給フ敵若打出ハ合戰セント三口へ手分シ給フ小森口へハ元就并ニ輝元ノ旗本ヲ差向給輝元先陣ノ旗本ニハ粟屋掃部助國司右京兒玉四郎右衛門内藤六郎左衛門其外歷々備タリ鐵炮二百挺飛落七郎左衛門渡太郎左衛門足輕ヲ率シテ馳向其外備藝石防長ノ國侍等我モノト旗本ニ加ケリ鹽谷口ハ吉川元春嫡子元長ニ熊谷伊豆守父子相隨馳向菅谷口ハ小早川隆景ニ米原平内兵衛杉原播磨守南條豊後守等ナリ去程ニ元就朝臣總軍士ニ下知シテ拔カケセン輩ニハ所領宛行マシキ旨堅制セラレケレトモ先陣ニ進兵ニハ先於小森口木原兵部少輔香川少輔五郎粟屋彦右衛門南方宮内兒玉四郎兵衛ナト五百餘騎眞先ニ進ケル處ニ敵二百計ニテ馳合セ散々ニ戰寄手頻ニ突立ケレハ尼子勢一度ニ潰散シケル金尾ノ洞光寺ノ邊ニテ取テ返シ一支々ケレトモ寄手猶モ競懸テ突立ケレハ無力尼子勢引退ケリ又鹽谷口へハ元春元長押寄ラル此口モ拔懸シテ笠間刑部少輔香川兵部二宮右京亮朝枝市允細迫源右衛門山本

ノ何カシナト五百計ニテ鹽谷へ押寄山上ヲ屹ト見レハ敵三四千計ニテ備タリ中ニモ森脇市正平野又右衛門ナト七百餘騎眞先ニ進左右ノ尾上ヨリ下合射手ヲ先ニ立ヒタノト攻寄タリ寄手五百餘騎無手ト渡合セ火花ヲ散シ戰ケル處ニ秋上三郎左衛門福山二郎左衛門等三百餘人茶磨山ノ麓ヲ廻テ横鎧ニ突テカ、ル寄手是ヲ見テ二手ニ分戰ケルニ笠間刑部甲ノ卓物ノ半月ヲ寸ト突折レタリ細迫源右衛門ナト手負犬居ニ倒ケルニヨツテ城中得力一度ニ噓トカ、リケレハ寄手忽引ニケリ元春ハ後陣ニ坐テ二宮木工助森脇一郎右衛門等ニ宣ケルハ今日手ノ者拔カケシケル兵有ヘシ堅制セヨトテ差向給富田河邊迄打出ケルニ拔懸ノ兵共崩ルヲ見テ急川ヲ渡シ進ンタリ是ニ笠間香川得力無ニニ突テカ、ル富田勢二度目ノ戰ニ打負山上遙ニ引ニケル其後元春元長旗本ヲ鹽谷へ寄ラレケレハ熊谷阿曾沼相加テ五千餘騎時ヲ作テ進タリ城中ヨリモ尼子倫久四千餘騎打テ出互ニ弓鐵炮ヲ先ニ進立原源太兵衛山中鹿助等懸ツ返シツ散々ニ戰ケリ富田勢少勝色ニ成ケレハ倫久大利ヲ得タリトテ関ヲ作テ進タリ元春旗本勢七百計ニテ押廻シ懸給ヘハ熊谷阿曾沼已下身命ヲ捨テ攻戰尼子勢突立ラレ引ケルヲ鹽谷ノ奥迄追籠首六十有餘討取ケリ又菅谷口へハ小早川隆景其外米原杉原南條馳向フ城中ニハ尼子八郎四郎立原備前目黒惣六卯山彈正忠三千餘騎ニテ打出タリ敵味方射手ヲ揃関ヲ作テ渡合ケル已ニ鎧ニ成城中ノ兵目黒甚四郎ヲハ杉原カ手へ打取本田豊前ハ我子ノ懸出タルヲウシロメタク思岩倉寺ヨリ五百計ニテ落シ合敵ノ眞中へ突カ、リケレハ寄手突立ラレ散々ニ成ニケリ隆景是ヲ見給先陣戰利ヲ失タリ入替ヨト宣ヘハ備後勢木梨檜崎三

吉其外小早川家ノ郎等數人命ヲ捨切テカ、ル隆景モ旗本ヲ崩シカ、リ給間秀久打負引退此口ヘモ首五十三打取ケリ此外國侍諸所ニテ打取首摠シテ二百六十餘ナリ城ヘハ三口ニ於テ首五十七取ケルトカヤ今度三箇所ノ合戰寄手ハ三萬騎城中ハ一萬騎ナリ何モ初度ノ戰ハ尼子勝二三番ノ戰ハ三家旗本ノ働ニテ得勝利給ケリ

富田退口合戰事

同二十八日元就朝臣富田表ヲ引拂洗合ヘ打入給元春隆景二手ニ分後陣ニ引給所ニ城中ヨリ秋上伊織助森脇長門守足輕五百餘人弓鐵炮手毎ニ持先ニ立後陣ニ究竟ノ兵一千餘騎押續テ進敵ノ跡ヲ慕ケリ元春ノ手ニハ熊谷信直殿シテ引ケルカ敵ノ懸ヲ見テ元春信直引返シテ戰ントセラレケレハ敵イカ、思ケン此口ヘハ不懸シテ隆景ノ退口ヘ混々ト付タリ隆景カレ追拂ヘト下知シ給ヘハ兵共我先ニト取テ返シ戰タリ尼子勢敵返セハ颯ト引引ハ付惱シ小早川勢引カチタル所ヲ見澄シ尼子勢手滋ク追付既ニ難儀ニ及ケレハ隆景馬返シ下知シ給フ處ニ井上又右衛門眞先ニ進タル原彌四郎ト云者ヲ鍵ニテ突伏首押切テ差上ル吉田衆モ懸付敵一人討取ケリ敵此勢ニ辟易シケル處ニ又穴戸安藝守熊谷伊豆守馳來レハ尼子勢今ハ不叶トテ一度ニ颯ト引退寄手モ心安ク洗合マテ打入ケリ

伯耆國江美城沒落事

伯州江美ノ城主蜂塚右衛門尉ハ先年尼子ヲ背元就ヘ一味シケルカ如何思ケン又尼子ヘ成飯ル毛利家ヘ此由聞エケレハ元春杉原播磨守盛重ニ蜂塚伐ヘキ由下知シ給爲檢使今田上

野介二宮木工助森脇一郎右衛門等差添ラレ各八月五日ニ打立三保關ヨリ舟ニ乘押渡ル夜半ニ蜂塚カ館ヘ押寄放火シケレハ敵ハ館ヲ明盡ク城ニ引籠翌朝寄手三千餘騎城ノ左右ノ山頭ヘ上リ鐵炮ヲ擲逆落ニ打懸雜兵共堪兼テ城中ヨリ崩出ケルヲ追詰一人モ不殘討果セハ蜂塚今ハ叶間敷トテ腹搔切テ失ニケリ杉原今田等數百人カ首ヲ取飯リケレハ元春各ノ戰功ヲ感シ給ケリ

大江城沒落付富田處々付城事

爰ニ大江ノ城ニハ吉田左京亮ガ嫡子肥前守其比ハ源四郎トテ十二歳成ケルカ家子共取立テ二百餘人楯籠ケリ元就朝臣三村修理助家親ニ源四郎可討果旨仰ラレケレハ尤望所ナリトテ領掌ス檢使ニハ香川左衛門尉光景ヲ被差副三村二千餘騎同九月二日彼城ヘ押寄タリ大手ハ三村攻入ハ城中身命ヲ捨防戰二度迄突出ケレ共城中無勢ナレハ一二ノ城戸ヲ攻破ラレテ引テ入搦手ヨリハ香川左衛門尉父子無ニ切入城戸押破城中ヘ亂入ハ谷上孫兵衛福山肥後守ヲ先トシテ六十餘人又大手ヘ眞一文字ニ切テ出ケレハ三村モ中ヲ開テ透シケルカ則追討ニセント追懸ケレトモ打拂落行ケリ寄手モ百三十餘人カ首ヲ取勝鬨ヲ作テ家親暫當城ニ居ケル所ニ富田ヨリ牛尾彈正忠秋上伊織助三千計引具シテ夜半ニ城ヘ押寄タリ家親城戸口ニ出合散々ニ防戰香川左衛門搦手ノ門ヨリ打テ出大手ノ寄手ヘ横合ニカ、リケレハ尼子勢利ヲ失一度ニ颯ト引退其後此城ニハ元就ヨリ南條宗勝ニ人數差籠ヘキ旨宣ヘハ山田越中守一條市助止壽院ナ、六百餘騎入置ケリ又九月二十日元就朝臣輝元元春元長隆景二萬五千餘

騎富田へ打出ケウラキ山瀧山石原山三箇所ニ付城ヲ構人數差籠ラレケリ法性寺三保關ニモ城ヲ構ラレケレハ丁臺寺天滿兩城難堪ヤ思ケン頓テ自明退天滿へハ杉原播磨守喜浦左馬允ヲ三百餘人ニテ差籠ケリ其後元就隆景ハ洗合へ打入給へハ元春ハ白鹿表へ打出給ヒケリ

熊谷原偽降元就朝臣事

元就朝臣初ハ富田城中ノ勢一人モ不可落トテ所々ニ關ヲ居落人擲取盡頸ヲ被刎ケレハ流石命惜サニ雜人原モ落者無其上所々ニ付城ヲ構他國ヨリノ糧道ヲ斷彌城中飢ニ臨ケレハ皆求緣降人ニ出ル程ニ城中ヨリモ所々ノ道口ニ關ヲ居押留爰ニ熊谷新右衛門原宗兵衛ト云者有義久ノ前ニ出洗合へ降人ニ出候ナハ定テ元就可有對面其時透間ヲ伺無ニ走懸無手ト組テ差違本望ヲ遂へシ左アラハ兩人カ子共所領數箇所給候へカシト申ケレハ義久不斜感シ給テ即二人ノ子共召出シ五千餘貫ノ知行可宛行ト判形ヲ被出ケル去程ニ熊谷原如何ニ武キ元就ナリ共二人ノ左右ヨリ捕ナハ遁間敷物ヲト荒言吐テ出ケルカ已ニ洗合ニ著シカハ兩人ノ者共降參ノ由申ハ元就朝臣即有對面其日ハ降人三十餘人有ケルニ熊谷原モ其中ニ打交テ出タリ兼テ思シニハ替テ一間隔元就父子三人御座ス其次ニ福原桂兒玉已下ノ侍共二十餘人並居タリケレハ熊谷原モ徒ニ頓首シテコソ退ケレ元就頓今日五六番目ニ出タル者見答ル所アリ番ノ者手堅ク付ヨト下知シ給へハ即侍數人付置ケル所ニ警固ノ透間ヲ伺二人ナカラ逃走富田ノ城へソ飯ケル義久扱如何ニト尋給へハ二人ノ者共サン候元就ハ人間ニテハヨモアラシ如何様ニモ佛神ノ化身ニテコソアラメト始終語ケリ

尼子諸家侍降參事

永祿九年尼子義久大塚與三右衛門ト云奸人ヲ信シ給ヒテ何事モ彼カ異見ニ被任ケル程ニ政道邪ノミ也依之普代恩顧ノ輩モ多恨ヲ含皆毛利家ニ志ヲ通シケル故ニ終ニハ義久流牢ノ身トソ成給フ其比富田ノ城中ニ卯山飛驒守ト云家老有徳ナリケレハ落行者ヲ扶持シ置テ城中ノ勢一人モ不减様ノ謀ヲ成所ニ却卯山カ落行味方ヲ抱置事全城中ノ爲ニハ非人數ヲ集テ元就ト一味シ自然ノ時ハ裏切シテ義久ヲ討可申トノ謀ト承候也ト大塚實シケニ讒シケレハ義久大ニ驚給今是ヲ不殺ハ悔トモ可無益トテ大西重兵衛本田豐前守ニ仰セテ卯山可討由下知シ給ケリ正月朔日卯山飛驒守嫡子彌四郎未明ニ出仕シテ新年ノ賀詞ヲ伸ケルニ屋簷右兵衛ト云大力ノ者卯山ニ向禮儀ヲ調立廻ル様ニモテナシ後ヨリヒタト抱タリ卯山去者ナレハ中ニ提立所ヲ立原備前守走寄テ續様ニ三刀差テ押伏ケリ是ヲ見テ嫡子彌四郎心得タリト云儘ニ二尺三寸ノ刀ヲ以テ屋簷カ眉間ヲ丁ト切ハ大西重兵衛本田豐前守取合終ニ彌四郎ヲモ討ニケリ

尼子降參事

永祿九年七月六日尼子義久富田城明渡給事去ル同三年元就朝臣元春隆景父子雲州ニ出張同五年ヨリ洗合ニ在陣輝元朝臣元長モ從去年在陣七年ノ間所々ノ攻戰不可勝計具ニ前ニ記セリ城中年々ニ勢衰ハヤ至于今年ハ兵糧サハ盡ケレハ彌諸方ノ通路ヲ留落人ヲ留給へハ城中既及難儀時又其日ヲ定落人可助ノ高札ヲ被立ケレハ城兵日々落其後龜井河下牛尾

ノ一族三人佐世其外數人洗合へ降參ノ故城中ハ譜代恩顧ノ侍纒ニ三百計殘近々可有没落ト城中ハ士卒無安心寄手ハ彌勇ケリ然ニ元就玆年五月末ヨリ風氣煩後ニハ瘡病ニナリテ元春隆景晝夜傍ヲモ不離種々ノ醫藥妙術ヲ盡サレケレトモ病日々ニ重リケレハ老衰ト云重病ト云簡ハ如何ニト嘆給所ニ隆景或夜夢中ニ靈シキ老翁立ヨリ給テ元就ノ病ヲ可療ハ尼子カ一命ヲ助ヨ無左ハ死在近我ハ富田ノ八幡ナリト告給隆景翌旦此趣元春へ語出シ給へハ元春モ手ヲ拍我今夜ノ夢ニ少モ不違ト語兄弟奇異ノ思ヲ成即俱ニ元就ノ御前へ參此趣ヲ告給先年義輝卿毛利尼子可和睦ノ通聖護院准后ヲ以被仰下ノ所ニ元就八箇條ノ御理被申上其理至極シタリト兎角評定アリケル處ニ三吉等義輝卿ヲ奉殺依テ其コト止ヌ然ハ此度其旨ヲ以下城サスヘキニ定リケレトモ准后ハ頃京へ上給故御弟子道澄ニ件々ノ趣御兄弟被仰含道澄即立原源太兵衛ヲシテ義久へ被仰ケルハ先年公方様御扱ノ時義久ハ領掌ニテ即誓詞ヲ被致卿案是ニアリトテ源太ニ渡彌此度和平宜カラント有ケレハ源太此旨ヲ義久ニ告タリ義久家子郎等共ヲ近付評定スルニ各一同ニ七ヶ年ノ籠城ハヤ兵糧モ盡味方モ悉敵ニ降參仕纒三百計殘居候ソレトテモ兵糧サヘ不盡候ハ各志ヲ一ニシテ命ヲ君ニ奉リ候ハンニ今ハ諸方ノ味方モナク兵糧モ盡テ籠中ノ鳥ノ如シ只一命ヲ全シテ時節ヲ待給ト申ケレハ義久モ即同心シテ道澄へ城ヲ可明渡ト返事有テ七月六日ニ福原左近口羽刑部二千餘騎ニテ請取入替タリ角テ義久舍弟九郎倫久向八郎四郎秀久兄弟三人ヲハ元春隆景ノ兩手ノ者一千餘騎警固シ安藝ノ長田マテ送付内藤下總守ニ渡シ圓妙寺ト云禪院ニ押籠柵二重三重

ニ結廻稠守護ス元就ヨリ桂少輔五郎元春ヨリハ一宮木工助隆景ヨリハ宗近加賀守ヲ被付置候此時藝州へ供ノ侍ハ立原備前本田豊前同與次郎津守四郎次郎力石兵庫宇山右京大西十兵衛馬木彦右衛門福瀨眞野高尾大塚等ハ義久ニ隨田賀勘兵衛長谷川小次郎山崎等ハ倫久松浦治部丞松井助右衛門ハ秀久ニ供シテ各長田ニ付居ケリ立原源太山中鹿助三刀屋藏人黒田右京秋山父子高尾河添黒正横道已下四十九人ハ藝州へ供ノ事頻訴へケレトモ不許杵築ヨリ立別京都へ上者モアリ又ハ近國ニ居モアリカクテ富田城ニハ雲伯ノ押ノ爲ニ常々ノ者ニテハ成間敷トテ天野紀伊守隆重ヲ被置元就輝元隆景元長ハ洗合ヲ打立相與ニ杵築へ社參シ寶物夥捧敬禮シテ藝州へ歸陣シ給元春ハ其勢五千餘騎ニテ殘黨又如何ナル企モヤセン又ハ久亂國ノ跡ナレハ萬民安堵ノ爲ニトテ暫在陣シ給ヘリ

伊豫國河野加勢所々合戰事

永祿十一年伊豫國河野彈正忠通直息四郎通宣ハ他年屬毛利家ノ幕下ケル然ハ同國宇津宮豐綱ト數年矛盾ニ及ケルカ今年長曾我部土佐守宇津宮ニ合力ノ河野ヲ退治セント催シケル依之河野ヨリ元就朝臣へ其趣注進シケレハ先元春朝臣ヨリ爲加勢森脇大藏井下新兵衛ヲ大將トシテ數百ノ軍兵ヲ渡サル河野是ニ得力其勢七千餘騎宇津宮カ居城大津へ押寄ケリ長曾我部モ久竹内藏允ニ千餘騎添テ宇津宮ニ加勢宇津宮ハ久枝又右衛門清義先陣トシテ伽ノ森へ打出兩陣相對追ツ返ツ戰森脇井下モ無比類健ヲ合ケリ其日ハ勝負半ニシテ相引ニ引離角テ宇津宮大勢ニテ容易難攻旨聞ケレハ吉川元春嫡子治部少輔元長小早川隆景四月中

旬伊豫國へ三日カ中ニ推渡ル河野父子即出迎案内シテ宇津宮カ屬城一々ニ攻落同廿四日上
 スカイノ城へハ河野先陣ニテ一時カ間ニ乗破五百餘人討取下スカイへハ吉川小早川兩家者
 一番ニ乘入三百餘討果其外ノ者共ハ方々へ逃去ケリ其ヨリ伽森ヲ三萬餘騎ニテ打圍稠攻上
 レハ城中ニモ手痛防トモ小勢ナレハ不適シテ落行吉田衆坂新五左衛門富落小次郎小早川衆
 ニハ井上又右衛門頸ヲ取吉川衆香川兵部大輔城へ乗敵一人突伏ル所ニ益田カ若黨吉岡付來
 レハ頸取トテ討セケリ是ヨリ宇津宮カ家城大津ヲ取卷給所ニ長曾我部是ヲ聞土佐讚岐ノ勢
 ヲ催二萬餘騎ヲ引率シテ大津ノ城ヨリ百町計隔テ柳原ニ打出二百間四方ニ一夜カ中ニ堀ヲ
 ホリ土居ヲ築柵ヲ結逆茂木ヲ引テ堅固ニ構ケレハ彼カ手當ニハ河野父子平田遠江守能島掃
 部助久留島出雲守等ヲ引率ノ向ケル吉田勢穴戸安藝守福原左近國司右京兒玉三郎右衛門古
 志清左衛門已下五千餘騎河野カ勢ニ加リ一萬二千計ニテ土佐勢ヲ防ント扣タリサテ大津ヲ
 ハ吉川小早川勢攻ケレハ宇津宮モ聞ユル勇將ニテ度々手痛戰ケルカ終ニハ降參シテ城ヲ明
 ケルヲ河野へ渡宇津宮ヲハ備後ノ三原ニ押籠居ケルカ無程病死シタリ扱長曾我部カ陣へ
 可押寄ト有ケルニ土佐守ハ落城ノ由ヲ聞テ後詰シテモ無益トテ柳原ヲ引拂河野等跡ヲ慕
 ントシケレモ長曾我部モ流石ノ大將ナレハ備嚴重ニシテ引レケリ角テ西園寺公廣モ使者ヲ
 以兩將ノ手ニ可屬ト宣ケレハ豫州一國無事平均ニシテ兩將ハ歸陣シ五々ノ島マテ着給フ

安西軍策卷三終

安西軍策卷第四

豐前三嶽城攻事

永祿十一年筑前立華ニ有而毛利大友及三矛楯其濫觴ヲ尋ルニ筑前ニ兩立華トテ久シキ國侍
 アリ彼庶流ノ立華好色ノ子細ニヨリ不慮ニ小人ノ爲ニ刺レテ死ケレハ家子郎等共城中ニ馳
 集リ是ハ何事ノ如何ナル者ノ所爲ナルラント上下騒動シアヘリ玆ニ宗像重繼ハ立華一年來
 ノ怨敵ナルカ幸時ヲ得タリトテ三千餘騎ヲ引率シ立華へ押寄ル大將ハ不慮ニ死タリ一支ニ
 モ不及方々へ落行ケリ宗像頓テ人數ヲ入カヘテ城ヲ守セケレハ大友是ヲ聞テ多勢以テ城ヲ
 切返其後立華彌十郎臼杵新次允田北刑部少輔同民部大輔鶴原掃部助其外宗徒ノ兵八百餘騎
 雜兵三千餘人差籠其上戸次入道道攝佐伯清田以下ニ貳萬餘騎差副テ宗像高橋ヲ攻ントス宗
 像高橋統種ハ無二ノ毛利方ナレハ吉川元春同元長小早川隆景ヲ兩將トシテ可被向トテ豫州
 ヲリ歸陣ノ五々島マテ使者ヲ以ソレヨリ直ニ九州可有發向ト云遣給へハ兩家ノ家老共先
 歸陣アツテ士卒ヲ休メ其後向給ヘカシト諫レトモ兩將九州發向延引ノ高橋等ハ數年馳走ノ
 者ナルニ此度彼等ヲ不救ハ以來九州ノ弓箭難成カラントテ直ニ九州ニ赴給元春父子ニ相
 隨侍ハ安藝ノ熊谷伊豆守信直同兵庫助隆直已斐豐後守香川左馬助石見ノ益田越中守藤兼佐
 波常陸守同越後守已下出雲ノ三澤三郎左衛門三刀屋彈正左衛門穴戸米原牛尾已下伯州ニ南
 條豐後守杉原播磨守小嶋等吉川ノ郎等宮庄次郎三郎今田上野同中務吉川式部少輔香川兵部
 大輔已下國侍ヲ相副一萬餘騎隆景ニ相隨人々ハ安藝國ニ平賀太郎左衛門天野民部同中務香

川淡路等石見ニ小笠原長雄等備後ニ山内新左衛門三吉式部宮高野山等備中穂田ノ庄治部少輔田治部志賀入道石川一黨細川一族等小早川家ノ郎等ニハ乃美安藝守梨羽中務棕梨次郎左衛門草井式部南小栗河井末永井上等國侍共ニ一萬七千餘騎宍戸安藝守ニハ備中ノ者共少々相隨吉田ノ旗本勢ニハ福原左近允桂能登守口羽刑部大輔己カ一組引具ス其外兒玉赤川渡邊坂防長兩州武士杉次郎左衛門杉森下野仁保三浦朝倉吉見政賴其外泛々ノ輩都合其勢五萬餘騎舟手ハ兒玉粟屋浦飯田伊豫ノ久留島カ郎等原太郎左衛門等思々ニ舟ノ飾家々ノ紋ノ幕ヲ張豊前ノ國ニ推渡給角テ豊前ノ國長野三郎左衛門ハ多年ノ味方ヲ背馬ノ嶽ノ城ヘ大友勢ヲ引入敵ノ色ヲ立ケル程ニ以來ノ見懲ニセントテ長野カ叔父同名兵部カ居城三嶽ヲ攻落サント評定シ先高橋ヲ見繼ントテ元春ヨリ森脇若狹守隆景ヨリハ有田加賀守ヲ高橋統種カ居城寶萬ヘ爲加勢被籠角テ同年十一月五日卯ノ刻ヨリ押寄先大三嶽ヘ攻上リ元春ノ先懸一番ニ乘入廿餘人討取ハ敵不堪小三嶽ヘ逃入ケリ寄手息ナ繼セントテ又小三嶽ニ攻上此嶽ニハ長野三郎左衛門カ叔父長野兵部大輔ト云大力ノ強者一千餘騎ニテ楯籠矢鐵炮無隙射出セハ寄手モ少進カテタル所ニ元春ノ軍兵井上新右衛門内藤十郎兵衛荒言吐テ一番ニ乘ントスルヲ三方ヨリ射伏タリ猶モ續進ケル吉川勢十人餘枕ヲ並テ射殺ケレハ今田中務吉川式部少輔香川兵部山縣四郎右衛門二宮木工助森脇内藏大夫無ニ懸テ塀ヲ引破一度ニ城ヘ乘入今田敵一人切伏一番頸ヲ取タリ森脇十七歳ニシテ組打ニ頸ヲ取式部山縣二宮モ皆續テ頸ヲ取小早川勢是ヲ見テ先ヲセラレテ無念ナリト射共突共少モ不疼乘入ハ福原桂志道已下モ我不

劣ト乘程ニ渡邊左衛門大夫ヲ先トシテ分取高名不知數此嶽モ無程乘崩ス長野兵部ハ味方多討レケレハ死狂ニ働ケルカ鎧モ打折太刀拔切抜ケントスル所ヲ佐波常陸守追懸レハ取返戰ケルカ佐波カ郎等深井木工允主ヲ打セシト無手ト抱ハ太刀取直シ吾腹ヲ貫ハ深井モ透テ二人トモニ伏ケルヲ佐波押テ頸ヲ搔差上大将打タリト名乗ケル小早川衆ニモ神田右馬允河井大炊等分捕スカ、リケル所ニ年比四十許ノ大ノ男長六尺ニ餘リ齒ノ弓籠手差タルカ頸一提テ元春ノ寶檢ニ備ント近付頸ヲ投付太刀ヲ抜打付ル元春得タリト床几ノ上ニテ抜合セ立上リ打伏セ給彼モ手痛動元春ノ胸板ニ太刀ノ痕付タリケリ何者トモ不知リシカ長野カ從弟ニ大男ノ大力九箇國ニ聞ル者有シカ其骨柄定テ此者ニヤ有ケント高橋カ者トモ杳ノ後ニ語ケル隆景ノ前ヘモ件ノ男ノ如ニソ一人來ルヲ力者見付テ持タル長刀ニテ切伏タリ是ヲ始トノ討取頸數五百七十餘級也宍戸福原桂吉見ノ手者モ分取高名多カリケリ味方ハ軍ノ首途ヨシト悅テ勝鬨ヲ上テ其マ、此ニテ暮行年ヲ越給フ

立華城攻付大友後詰事

永祿十二年三月中旬兩將筑前帆柱ヘ陣ヲ被易ソレヨリ若松蘆屋ノ渡ヲ越熊カ峰ヲ打過壇ト云所ニ四月四日中陣シ追付立華ヘ押寄ル此城ハ立華彌十郎カ居城ナリ大友ヨリ臼杵新次瀧田刑部同民部鶴原掃部加勢シテ六百餘騎楯籠ヲ三方ヨリ攻寄水手ハ吉川衆南方ハ小早川勢尾崎ハ吉田衆白瀧口ハ吉見正賴其外四萬五千餘騎ノ軍兵方々ヨリ晝夜ノ境モナク攻寄勢樓高ク組上ケルニ杉原盛重カ手ノ者石原彌次郎吉川勢山縣小五郎小工一人鐵炮ニ中テ死ニケ

リ其外手負多ケレト事トモセス寄手隙ナク攻寄城中難堪ト聞ケレハ大友入道宗麟豐後豊前筑前筑後肥後日向ノ勢ヲ催其外幕下ノ龍造寺松浦島津等モ援兵ヲ差出惣勢十二萬八千也入道ハ豊後ノ府内ニ在ナカラ柳川左近田原入道重忍カ一族侍大將ニハ戸次入道々接清田五郎左衛門大友駿河守其外宗徒ノ軍兵如雲霞驟肥後肥前ノ間ニ相支ユルノ由聞ケレハ中國勢當城ハ何時蹴散モ容易トテ持口々々ニハ仕寄ヲ置大友勢ヲ防カン爲ニ惣陣ノ廻ニ堀ヲホリ堀柵櫓等マテ五日ノ間ニ手堅備諸軍ノ掟ヲ出面々ノ持口ノ外他ノ陣ニテ如何ナル稠戰アリトモ吾持口ヲ手堅可相守元春隆景ノ兵トモハ何レノ持口ニテモ弱處ヘ力ヲ合ヘシト定ケリ同五月五日大友勢立華表ヘ打出中國勢ノ營後ヲ十重廿重ニ峰モ谷モ平地モ無明處陣取惣軍十二萬八千一度ニ鯨波ヲ作ル事三箇度先陣大友駿河守奈須軍兵衛入道深野赤尾山中已下五千餘騎二陣矢部助右衛門秋友式部橋宇津已下一勢々々備タリ中國ノ陣ヲハ城ノ如ニ構タレハ寄來敵ヲ面々ノ持口ヨリ打出弓鐵炮思マ、ニ射出敵手負死人多ケレ共死人ヲ踏越懸ケリ中ニモ奈須ハ眞先ニ進テ小早川勢ノ椋梨次郎左衛門カ持口ヲ攻破ラント名乘懸ノ數多ノ敵ヲ突伏彌勇テ進ケルカ弓鐵炮ニ射スクメラレウツ伏ニ倒レ失ニケリ中國勢ハ是ニ力ヲ得テ突立レハ後詰ノ勢モ一町計引退小早川衆小泉與一眞先ニ進討死ス大友勢二陣三陣入替戰ケルカ如何思ケン武者一騎懸出金團扇ニテ麾ケハ諸勢一度ニ引退跡ヲツケントシケルヲ隆景下知シ給テ面々ノ陣ヘ引ケル此時彼奈須カ頸ヲハ兒玉カ郎等見知テ打ケルヲ香川兵部何カシニテ候ヤト問ハ是コソ奈須軍兵衛ナレ是御覽セヨト綿上ニ付タル金札ヲ取出ヲ

見レハ奈須軍兵衛入道生年六十三五月五日討死ト書付タリ哀大強ノ者ヤ加様ノ者ト知ナハ頓ニ頸ヲ可打ニ先ニ心ヲ懸テ踏越テ透タリトテ共ニ渠カ勇ヲ感シケリ高橋統種ハ此間ハ方々ニ懸出合戰ノ日々ニ頸ヲ味方ノ陣ヘ送ケルカ家城ヲ明テ十六日ニ立華ヘ來リ一手ニナル大強ノ者ニテ大友ノ多勢ヲモノトモ思ハヌ氣色ナリ

同十八日合戰

戸次入道々接立花彌難儀ニ及由ヲ聞此猛勢後詰シテ落サレテハ大友ノ瑕瑾トテ諸將ヲ集評定シ今度ハ大友ノ氏神ヲ陣中ニ勸請シ先陣後陣ヲ圍ニシ相印ノ外一組切ノ印ヲ付下知ナキニ先懸スル者ハ罪科タルヘシト堅掟シテ又十八日卯ノ上刻ニ押寄近付備テ暫ハ矢鐵炮モ不打ケルカ戸次カ陣ニ貝ヲ三聲吹ケレハ惣軍闕ヲ作テ攻懸中ニモ高野山久意檜崎彈正実戸安藝守熊谷伊豆守四人ノ持口ヘ稠攻懸各吾陣ヲ固メテ打出々々防ケリ爰ニ檜崎カ陣危見エケル程ニ元春朝臣ノ陣ヨリ伊志源次郎井上平右衛門ニ鐵炮六十挺差副テ加勢ニ遣シケレハ吉川式部香川兵部山縣四郎右衛門江田宮内香川雅樂境與三右衛門等續テ懸付井上伊志鐵炮無隙打セ自身ヲヒ打ニ一人射伏井上即走出敵間十二三間前ニテ一番頸ヲ討捕リ其ヨリ入亂鎧合大刀打無隙見ケル打香川兵部ヲ敵十人計シテ突スクムル處ヲ家人猿渡壹岐冲源右衛門塚脇主ヲ打セシト眞先ニ進香川與七郎十九差タル矢ニテ敵廿人射伏タリ元春感給能太刀ヲ給ル沖ハアマリニ堪カ子敵ノ鎧七八本ヲ押籠テ抱ケハ引取々々突ケルニシカミ付テ死タリ此隙ニ兵部モ式部モ敵ヲ突伏分捕ス塚脇モ突伏頸ヲトラントスル處脇ヨリ隻股ヲ切落セハ

岸ニ倚掛向敵ヲ打拂フヲ見テ山縣與三右衛門鏖ニテ敵ヲ突拂柵ノ内ヘ引ケレハ敵又塚脇カ
頸ヲトラントシケルヲ材間四郎三郎走出敵一人切伏一人追拂敵ノ頸ト塚脇カ頸ト二打引退
ケハ是ヲ見テ檜崎モ今マテハ我陣破ラレシト防ケルカツト懸出ケレハ岡又十郎兒玉内藏丞
小早川衆磯兼左近粟屋雅樂兼久内藏丞河井山田馳續テ打出吉川衆モ又一手ニ成テ打出敵モ
味方モ名乗懸々々攻戰味方ハ小勢ナレ共カサヨリヲロス競ニ敵度々崩ケルカ猛勢ナレハ入
換テ攻上ル中ニモ上野主殿助同佐助ト名乗テ一文字ニ突懸レハ中國勢後崩シケルニ吉川香
川岡磯兼檜崎粟屋山縣已下ノ者共踏止テ衝合切合戰ケルカ江田宮内境與三右衛門同又平頸
取テ差上タリ今朝辰ノ刻ヨリ未ノ終リマテノ迫合ナレハ手負死人ハ不知數日既ニ斜ナル時
大友勢引色ニ成味方彌進ケレハ上野主殿同佐助檜尾柴澤ノ某甲等一足モ不引ト三十餘人枕
ヲ並テ討死ス既ニ引カト見ル處ニ後陣ノ吉廣已下押返シ備テ扣ケレトモ味方モ戰勞レテ下
リ居息ヲ繼テ休ケル角テ此場ハ敵後陣ヨリ一段ツ、繰引ニ曳ケレハ味方是ヲ幸ニノ打入ケ
ル又高野山カ陣ハ諸卒戰ツカレテ飢渴ニ及ヘシト元長朝臣粥ト水贈レケレハ諸士是ニ力
ヲエテ粥ヲ食ヒ水ヲ以テ火矢ヲ消無難敵ヲ突立山下ニ追付敵百餘人討取テ兩將ノ實檢ニ備
ケレハ無比類ト感シ給ケリ又熊谷カ請口ヘハ佐伯臼杵ノ者共寄來何モ九國ノ大強ノ侍大將
也先陣引ハ後陣懸リ入換々々攻寄味方危見ケレハ熊谷カ三男三須兵部少輔足輕共ノ鉄炮越
ツ下ツ不中イテ打テ見セントテ續サマニ五ツ六ツ打ケルニ虛矢ハ一モナカリケル中ニモ一
備ノ大將ト見エケルカ團扇ヲ以テ諸卒ヲ下知スル兵ヲ胸板後ヘ打貫ハウツ伏ニフシタルヲ

其手ノ者肩ニ引掛曳退又宍戸カ陣モ隆家懸廻リ下知ノ深瀬末兼與垣佐々部等身命ヲ捨テ防
ケレハ敵不適引退角テ合戰半ニ城ト後詰ト一處ニナサシトテ元春ノ家人森脇市郎右衛門ニ
仰セテ鉄炮百挺引連堀ヲホリ柵ヲ結フ城中ヨリ稠射懸レ共通路無難堀切テ歸ケリ去程ニ
諸方ノ敵引ケルカ今日ノ合戰一手モ不破口惜トヤ思ケン又中途ヨリ引返隆景ノ手棕梨次
郎左衛門カ陣ヘ一面ニ衝懸浦兵部坂新五左衛門乃美山田豊島等打出處ニ晝ノ機ヲ直サント
勇進ム鋒先ナレハ突立柵際マテ押込當陣危見エケレハ吉田勢材間越前小早川手ノ者末永源
六郎裳懸六郎田中源七破ラレシト防テ枕ヲ並討死スハヤ乗入ト見ル處ニ吉川元長自手ヲ碎
テハ叶マシト五百餘騎ヲ率ノ棕梨カ陣ヘ懸向ヒ井下五郎右衛門ヲ使トシテ元長只今加勢ア
ルン引モノハ道ヲ明ヨト云セ給ヘハ此詞ニ耻テ踏止ル者多カリケリ敵ハ彌進テ柵ヲ切破リ
亂入處ヲ吉川治部少輔藤原元長ト名乗ソコ引ナト云マ、ニ五百餘騎ヲ一手ニシテ大將先
ニ進ハ吾不劣ト打テ懸敵モ暫支ヘテ攻レモ面モ不振衝立レハ山下ヘ颯ト引退長追ハ無益
ト下知シテ本ノ陣ニ入給元春隆景始トシテ諸陣目ヲ驚セハ杉原盛重三澤三郎左衛門元就朝
臣ノ勇機智謀三代マテ續事コソ有難ケレト感シケル去程ニ元就朝臣輝元朝臣ハ九州ノ弓箭
無心元思召テ今年三月下旬ヨリ下ノ關ニ在陣シ給今日諸手ニテ討取頸五百餘級下關ニ送
給ヘハ兩將悅給事不常合戰ノ趣細々使者ニ語セテ聞給元長御働ヲ大ニ感シ給頓テ使ヲ以
左文字ノ太刀寒梅ト云名馬ヲ元長ヘ進セラル、ト聞エタリ

尼子勝久雲州亂入事

永祿十二年尼子勝久雲州へ亂入ノ由來ヲ尋ルニ義久降參ノ後山中鹿助已下悉國中ヲ追出サレ流牢ノ身ト成皆京都へ上一所ニ集居ケルカ今時天下名將ノ弓箭ノ行ヲ見聞ント鹿助吉田八郎左衛門眞木宗右衛門三人打連順禮ノ姿ニナリ關東へ趣武田北條朝倉ノ諸家ヲ徘徊シ又京へ上リケル頃吉川小早川九州渡海大友ト對陣シ互ニ勝負可有トモ不見依之元就輝元赤間關邊へ出張ト風聞セシカハ是コソ天ノ與ルトキナレ此隙ニ本國出雲ヲ切返サント諸牢人ヲ馳集此ニ横道兵庫同弟權允ハ松永彈正ヲ頼居ケルニ山中立原源太兵衛ヨリ此趣云遣ケレハ横道兄弟霜臺ニ暇ヲ乞フ霜臺ハ智謀スクレタル弓取ニテ毛利家ニ對シ牢人ノ身トシテ本國取返ス事申モ寄スト頻ニ留ケレトモ兄弟兎角云暇取ケル程ニ無力後悔シ給ナトテ鎧一領太刀一振ツ、兄弟ニ與フレハ急都へ上リケリ去程ニ山中鹿助立原源太兵衛ノ輩數十人京都馳集僉議シテ大將ナクテハ不叶ト尼子式部大輔ノ三男父ハ爲晴久生害ノ時赤子ナリシヲ乳母懷中ニ抱キ遁出備後ノ徳分寺ニ隠シ置出家サセケルカ今ハ東福寺ニ御座ス其身究竟ノ大將ノ器量アリ是ヲ還俗サセ大將ニ仰キ申ント衆議一決シテ彼僧ニシカ々々ノ趣告ケレハ是コソ望所ナレトテ即還俗シ尼子孫四郎勝久ト名乗ル即是ヲ大將トシ山中立原横道兄弟眞木宗右衛門吉田三郎左衛門川添右京目黒助次郎米原助十郎月坂助太郎力石宇山三吉青砥等ヲ先トシテ但馬へ馳下垣屋播磨守ヲ頼奈佐日本助カ海賊舟ニ取乘同年六月廿三日出雲國島根郡へ取上名字侍六十三人雜兵トモニ二百四人勝久今度入國也尼子家へ志有ン兵トモハ早ク味方ニ可參ト呼リ夜半ニ関ヲ作事三箇度也是ヲ聞テ國方ニ殘止ル兵ニハ秋上三郎左衛

門同伊織助二百餘騎ニテ一番ニ馳付タリ森脇東市正横道源助正田右近原田孫六郎田原右兵衛已下六百餘騎ニテ相加大山ノ衆徒經悟院三百餘騎中井平藏加藤彦四郎寺本進高尾目加田等其外五百餘騎打連馳加五日カ間ニ其勢三千餘騎コソ集リケリ又隱岐守爲清隱岐ヨリ三百餘騎ニテ漕渡勝久入國ヲ賀シ味方セント有ケルカ聊ノ子細ニヨリ終ニハ心變リセラレケリ其後勝久三千餘騎ヲ引率シテ國中ヲ打隨ヘント新山ニ多賀左京亮同吉六籠居ケルヲ攻落シ末次ノ土居ヲ構勝久居城トシ天野紀伊守隆重富田ノ城ニ楯籠ケルヲ攻ントテ宇波山佐日部丸瀬其外數十箇所向城ヲ構日々ニ足輕追合シテ一箇月カ間ニ城ヲ陥ル事六ヶ所ニ及シカハ一國悉ク手ニ屬シ伯州石州ノ兵トモニ味方ニ志ヲ通シケレハ威光日々ニ増リケル

天野紀伊守謀尼子事

同年天野紀伊守隆重ハ纔三百許ニテ富田ノ城ニ居ケレハ尼子ト一戰セハヤト志ケレ共六千餘ノ敵ニ三百ニテハ怒ニ合戰シ損ノハ口惜カラシ又一戰セサルモ似武拙所詮方便ハヤト思ヒ秋上伊織カ方へ使札ヲ以云ケルハ勝久當國へ入セ給諸人皆御味方ニ參候吾一人當城ヲ守リ得ン事蟻螂カ斧タルヘシ然ハ毛利家御退治ノ後吾本領ノ外五萬貫ノ所領被宛行ハ當城明日可明渡候雖然無下ニ相渡ナハ吾武名永捨レ藝州ノ妻子共一々頸ヲ刎ラレン事口惜候明朝御勢切岸マテ被寄候ナハ防カ子タル體ニテ本丸へ引退和平仕城ヲ明渡藝州へ歸リ御發向ヲ待受可揚旗候ト云ヤレハ伊織此由ヲ鹿助へ語ル鹿助是ハ勝久御運開セ給ニ瑞相ナリ急勝久ニ披露シ即伊織助ヲ大將トシ足田遠藤岸池田相良有村已下二千餘騎富田ノ城へ

押寄七曲リヲ一息ニ馳上リ切岸ニ付相圖ニ任油斷メ待居タリ隆重ハ方便スマシタリト悦矢
狹間ヲ開射手ヲ揃ヘ思ノマ、ニ射ケレハ敵案ニ相違メ周章ケル處ニハヤ手負死人多ケレハ
引色ニ或處ヲ隆重時分能ソト三百餘人朝霧ノ中ヨリ突出レハ敵一支ニモ不及大勢討セナカ
ラ吾サキニト逃退鹿助ヲ初メトメ天野メニ謀ラレ諸方ノ笑艸ニナリナン事コソ口惜ケレト
忿リケリ岸與九郎相良新三郎ヲ初討ル、者十七人手負岸左馬ヲ初トメ六十餘人ト註シケリ

庄式部少輔合戰事

同年七月二日豊後勢古澤右馬允姫島閑齋已下五千餘騎備中國ノ住人穗田ノ庄式部少輔元祐
カ陣ヘ関ヲ作テ切テ懸ル元祐ハ去古兵ナリ勇ハ中國ニ吾ヨリ勝レル者アラシト自讃スル程
ノ者ナレハ手勢七百餘騎ヲ唯一手ニナシ突ト切テ出暫ハ支戰ケルカ無難追立山下杳ニマク
リ落ササレ共敵猛勢ナレハ押返シ山上ヘ追上ル追上レハ追下汗水ニ成テ四五箇度戰ヒケル
カ終ニ元祐戰勝々関ヲ作り敵陣ヲカケヤフリ引退ク今日ノ振舞勝レタル勇機カナト再三感
シ給ケリ

雲伯近國侍屬ニ子事付雲石兵多歸國事

尼子勝久雲州ニ入シヨリ以來城ヲ掠取事十五城其勢六千餘騎ニ及タリ赤松カ牢人馳集テ伯
耆國岩倉ノ城攻取又美作ノ蘆田三浦市カ一族モ一味シ當國高田ノ城ニ香川美作守長左衛門
大夫ヲ去年ヨリ入置タリシヲ攻ントテ取圍ミ日々迫合無止又福原隆包ハ石見國ヘ入其外所
々ノ敵蜂起スト聞ケレハ下關並立華表ヘ此旨日々ニ注進ス依之元春隆景先雲伯ノ城ヲ落サ

レシト米原平内兵衛ヲ雲州ヘ上高瀬ノ城ヲ堅固ニ守ヘシトテ三百餘騎ニテ上着シ石州濱田
ニ五日滯留シ却テ尼子ニ一味スヘキト内通ス又南條伯耆山田出雲ハ下關勝山ニ在リ敵羽衣
石ヲ圍ト告來レハ兩人ヲ上セラル南條ハ急羽衣石ヘ入山田出雲ハ岩倉ヘ押寄攻落シ敵六十
三人討捕家人モ梶屋藤兵衛林甚四郎同又兵衛長安神左衛門谷川久允其外中間八人討死ス又
石見ヘハ福屋隆包歸入由聞ケレハ森脇市郎右衛門立華ヨリ上石見ニ著三ツ子山ニ楯籠ル隆
包カ廻文ヲ持セ廻シケル出家ヲ見出シ搦捕テ獄門ニ掛タリ立華ニハ雲伯皆尼子ニ與スト聞
給テ多ノ兵ヲ上セ立華ノ勢モ彌滅シケレハ一刻モ早ク當城ヲ攻落スヘシトテ一時攻ニ攻ン
トスル勢ヲ見テ城兵防カチケル處ニ城ヲ明渡サハ一命ヲ可助ト云送給フ城兵任其意テ即明
渡セハ皆一命ヲ助士卒不殘大友陣ヘ送リケリ

尼子勢所々合戰事

山中鹿助立原源太等先日ノ鬱憤ヲ晴ントテ淨安寺ノ寺中ニ陣ヲ取三處ニ伏兵ヲ置待處ニ隆
重夜中ニ物見ヲ出見セケレハ三箇所ニ伏兵アリト告來城中ヨリ弓鐵炮ヲ手毎ニ提伏兵ノ眞
中ニ射カクレハ伏兵難堪散々ニ成テ逃退ク山中等寺中ヨリ懸出戰ケルカ射立ラレ引逃ルヲ
足輕七八十先ニ立追懸レハ牛尾彈正忠取テ返シ追拂足輕ノ神代ト云者輕進ミ輕退幾度モ付
幕天野足輕ノ後詰スレハ牛尾モ不叶引退ク敵虎口ノ難ヲ遁ケリ又石見ノ銀山ノ服部左兵
衛河村備前ニ宮加賀等出雲境ヘ働元就朝臣ノ疑ヲ散セント企レハ坂出羽カ手ノ者モ馳加又
藝州佐藤ノ小田助右衛門佐東佐西ノ者トモ驅催石見ヘ越ケルヲ大將トシテ三千餘騎雲州原

手へ打出依之山中立原横道等二千餘騎ニテ馳向へハ隱岐隱岐守七百餘騎ニテ馳加米原平内ハ五百餘騎鹿助ニ加勢ト號遙ニ隔テ互ノ勝負ヲ窺居ケル去程ニ銀山ノ者先陣シテ戰ケルカ突立ラレ方々へ逃退後陣ノ小田ハ先陣ハ崩タリ小勢ニテ不叶ト七百餘騎居敷一丸ニ成テ弓鉄炮ニテ打拂二度モ三度モ射立ケル共味方モ或ハ討死シ又ハ落失テ主從五六騎ニナリケルカ悉討死ス小田カ頸ヲハ横道權允討取ケリ角方々ノ敵ヲ打隨尼子ハ日々彌大勢ニ成程ニ又伯耆經悟院ヨリ飛脚ヲ立早當國へ向ヒ給ハ某甲先陣仕ラント云送最可然トテ打立處ニ隱岐々々守逆意ヲ企米子町ヲ燒立レハ山中等憎キ隱岐カ行跡哉彼ハ定テ眞野嶽聖返ヲ堅ムラシニ舟ニテ夜半押懸不意ヲ打ヘシトテ小船七八艘ニ山中立原横道松田等四百餘人取乘三保關ヘン赴ケル隱岐ハ山ノ手ヲ肝要ニ固テ究竟ノ兵ヲ差遣吾身ハ四百餘騎ニテ三保關ノ古寺ニ陣ヲ居敵ノ寄シ方ヘ向ハント油斷シテ居ル處へ山中立原遠藤正田等二百餘騎一番ニ船ヨリ飛テ下隱岐カ陣へ押寄レハ隱岐兵部中畑藤左衛門眞野田平等二百餘人打出散々ニ戰ケルカ鹿助等突立ラレ三保關ノ明神マテ逃ケルヲ追詰討ントシケレトモ皆林中へ逃入ケル角テ横道等跡舟ニテ漕著ケレハ味方悉敗軍シテ林中へ逃入由告ケレハ鹿助等無詮拔懸ノ蒐ル體コソ口惜ケレト逃ル味方ヲ押立其勢百四五十人又隱岐カ陣ニ押寄レハ隱岐勢ハ不殘山中等ヲ追程ニ僅五十餘人殘居テ手痛防ケレトモ終ニハ打負テ隱岐ハ小舟ニ取乘漕出ル山中等モ十死ヲ遁林中ヨリ走出一處ニ集リテ後陣ノ手柄ヲソ感ケル扱舟ニ乗ント濱ノ手へ逃ル者六十三人討取三保關ニ張付ニ掛タリ山中へ逃タル者トモヲハ四百四人搦捕太刀刀ヲ奪

取一命ヲ助テ大根島へ放チケリ

美作國高田城攻事

同年七月美作ノ國高田城ニハ牛尾太郎左衛門足立十兵衛國衛隱岐守先年ヨリ被澄ケレ共當國三浦ノ一族動レハ城ヲ落サントス然間城中小勢ニシテ難守大將一人被籠宜カラントテ去年七月香川左衛門尉ヲ美作守ニ成嫡子ヲ左衛門尉ニ被成高田ノ城ニ被差籠去程ニ當國ノ住人三浦蘆田市等宇喜田ニ加勢ヲ乞ハ長船紀伊守岡信濃守沼本新右衛門四千餘騎差添テ當國へ出張ス蘆田五郎太郎ハ幼少ノ故叔父同民部大輔ニ五百騎植野勘兵衛ニ五百騎玉串監物ニ八百差副備前勢ヲ後詰トシ日々城下ニ働ケル城中ニハ熊野入道等尼子ニ志アリケレハ兵糧藏ヲ放火シ敵陣へ逃入程ニ城中難堪ソ見ケル香川兵部大輔九州ヨリ上リ藝州ヨリ家人八十餘人ヲ引率シ兵糧ヲ入ケルニ敵打留ントシケレ共追拂々々無難城ヘソ入ニケル又佐伯七郎次郎ト云大剛ノ者心變リシケルヲ討手ノ者トモ見餘シテ程經ケルヲ兵部自身討果ス敵是ヲ聞テ同十月五日高田ノ麓へ押放火シ城兵懸レト待カケタルヲ牛尾足立打出敵六人討取ケリ香川郎等大乃美材間同名宗右衛門モ鎧下ニ討死ス城中ヨリ入江與三兵衛遠藤左京香川左衛門尉同兵部大輔續テ懸出レトモ敵早引退香川郎等三宅追懸敵一人切伏頸ヲ捕同六日互ニ伏兵ヲ置敵ヲ欺ントシケルカ寄手城兵ノ伏ヲ知伏兵ノ眞中へ切懸ル牛尾足立等纔ノ勢ニテ起シ合切結ケレ共猛勢ニ突立ラレケルヲ見テ城中ヨリ吾モ我モト馳下ス玉串植野兼テ工ミシ事ナレハ弱々ト引退ヲ城兵追懸ケレハ相圖ノ太鼓ヲ打三所ノ伏兵ヲ起ノ一度ニ四方ヨリ

突攻ケレハ城兵散々ニ敗軍ス敵頻追懸レハ牛尾足立幾度モ引返ル三千餘騎ノ大敵ナレハ無力引退香川右衛門大夫ハ討死シテ味方ヲ助ケント踏留多ノ敵ヲ突伏終其ニテ討死ス其外返シ合セ防ケレ共既ニ城へ乗入ント見ケレハ大將美作門ヲ開キ討出レハ嫡子左衛門尉ハ早山八分ニ下シタリ二男兵部大輔ハ宗像三郎左衛門ト云郎等相具シ郷中ニ打出ケルカ多勢ニ突立レテ引退爰ニ一村薄ノ枯立前ニ迫田ノ有ケルヲ究竟ノ處ナリト追來敵ヲ待カケタリ玉串味方ニ五六段許進テ馳來ル香川薄推分出ルヲ見テ敵誰ト問香川兵部大輔ト名乗レハ敵玉串監物ト名乗懸互ニ鏑ニテ渡合玉串カ艸摺ヲカケテ細腰後へ突貫ハ小膝ヲ折テ倒タリ跡ヨリ大勢續テ頸取間モナケレハ兵部突伏タル識ニサスカヲ拔テ玉串ニ刺置鏑提テ立タリ香川カ郎等猿渡走來敵二人來ケルヲ一人ハ猿渡一人ハ宗像突倒ス香川佐渡守同石見守ハ向ノ尾ニテ植野カ勢ニ渡合二人ナカラ敵ヲ突立兵部ニ聲ヲ懸タリケリ扱玉串打レケレハ敵不堪敗軍ス先陣ノ大將討レケレハ後陣ノ備前勢モ不及進引退ケリ又モヤ寄ント待處ニ品川市右衛門山上ニ走リ上リ見ケルカ彌敵ハ引タリト云ニコソ城中ノ兵安堵ノ思ヲ成ニケリ其后敵モヨセサリケリ終ニハ牛尾豊前ト牒シ合三浦ノ一族悉打果ケリ又玉串カ討レタル所ヲハ里人香川カ鏑場トテ畠ニモセス薄生茂今ニ在トソ聞エシ

備後神邊城攻事

同年八月三日備後ノ神邊杉原盛重カ居城ニ留司代所原肥後守居ケルヲ同國ノ住人藤井某尼子ニ一味シ備前美作ノ勢ヲ語ヒ五百餘騎ニテ夜中ニ押寄闕ヲ作テ攻入城中ニハ思モ寄サ

レ所原ハ鎧取肩ニ引掛一ノ城戸ニ打出命モ不惜防ケレトモ三箇所疵ヲ蒙リ左右ニ續タル兵八人マテ討死ス其外ノ者トモハ寢ホレテ物ノ用ニ可立トモ見エサレハ所原モ甲丸へ引退已ニ自害セントスル處ニ前原入道自害センヨリ播磨守殿ノ妻子連テ何方へモ落給へト進ム所原尤ト同シ一方打破主ノ妻子ヲ連テ退ケルヲ敵追懸ケレ共高橋ノ某等主ヲ打セシト所々ニテ返シ合打死スル間ニ逃延ケリ藤井頓テ當城へ入易リ猶モ近郷ヲ討隨ントス所原手口養生ノ杉原カ家人トモ馳集又神邊へ押寄ル處ニ檜崎參河守子ヲハ立花へ下シ隱居ノ居ケルカ末子少輔次郎ヲ相具所原ニ加勢ノ同神邊へ押寄藤井稠防ケレトモ先日ノ鬱忿ヲ散セント手負死人ヲモ不顧攻入程ニ城中防カ子甲丸へ引退クヲ付入終ニ藤井ヲ討テ忽城ヲ切返シケリ

大内輝弘山口入事

大内太郎左衛門尉輝弘ハ義興ノ父政弘ノ的子也彼政弘年闌マテ男子ナカリケルニ一年御臺懷妊シカ又女子誕生シテ政弘ノ氣色難量ヤ思レケン其比名家ノ公家一人久シク山口ニ住繼カ妾一人置レケルカ三日以前男子誕生セリ御臺所此由ヲ聞彼公家ニ内通シ密ニ男子ニ取換政弘へ男子安産ノ披露有ケレハ政弘大ニ悦ヒ大内ノ嫡子ニ仰カレ後ニハ義興ト名乗ル然ニ又無程男子産給今ノ輝弘是ナリ初ハ氷上山ノ出家ナリシカ還俗シテ氷上ヲ知行シ氷上ノ太郎高弘ト名乗其後義隆卿ノ時ニ至リ輝弘常々吾コソ大内ノ的子ナレ義隆ハ此事モ粗知給フニ責テ一國半國ナリトモ不被宛行纔ニ氷上ヲ領スル事無念ナリト憤ケルト或人義隆へ讒シケレハ義隆卿モサモ有ナント思ハレケルニヤ自是輝弘ト不快ニナリケリ高弘義隆ト不和

ニシテハ行末惡カリナント思竊ニ山口ヲ出奔ノ京都ニ上光源院殿ヘシカノノ通歎申セハ
 大樹モ最不便ニ思給テ輝ノ字ヲ降給太郎左衛門尉輝弘ト召レケリ其後出雲ニ下尼子ヲ頼六
 年富田ノ籠城ニ在ケルカ又豊後ニ下大友ヲ頼居ケルヲ入道即塔ニシテ愛キケル然ニ先年陶
 カ叛逆ニ依テ義隆自害シ給フヲハ悦ヒケレモ大内ノ家斷絶ニ及ナン事ヲ歎ケル處ニ此度元
 就父子ハ長府ニ在陣シ元春隆景ハ立華ニ大敵ト對陣アリケレハ其時ヲ得タリト思立豊後ヨ
 リ松木右衛門大夫甲斐左馬助城井小次郎波多野石見守戸次内藏大夫等ヲ宗徒ノ兵トノ五千
 餘騎豊後ノ鶴崎ヨリ舟ニ乘長門國秋穂白松浦ヘ打上リソレヨリ山口ヘ入ントス山口鴻峯ニ
 ハ從毛利家市川式部大輔經好ヲ大將トシテ内藤新右衛門山縣備後守兒玉宗右衛門黒川兵
 部ヲ先トシテ七百餘騎籠置又山口町ノ押ニハ信常太郎兵衛井上善兵衛ヲ置給輝弘山口ヘ寄
 來ト聞シカハ當城ヘ可寄ト鴻ノ峰ニハ晝夜防戰ノ用意ヲ待懸タリ信常井上ハ敵ノ人數ヲ計
 ラントテ信常ハ小郡口井上ハ秋穂口ヘ行ケルカ糸根ニテ敵ニ丁ト行合見ケレハ五千餘騎ニ
 テ馳上井上二百ニ足ヌ勢ニテ難適ハ思ヘモ幸ニ敵ニ行合一戰モセテ引ンハ無念ナリト思定
 小高キ所ニ備タリ敵ノ先陣波多野石見守是ヲ見テ是程ノ小勢ハ蹴散セト云マ、ニ鎧提突懸
 井上命ヲ捨テ闘ヘハ多ノ敵ヲ突伏切伏手負死人多カリケレトモ猛勢ナレハ入換入替戰ケレ
 ハ爰ニテ終ニ討レケル敵ハ逃ル者モ追懸々々討果九月十三日直ニ山口ヘ入ニ築山陣ヲ
 居ケル角テ五百三百宛近里遠村ヘ差出吉川小早川ハ九州ノ軍ニ打負ヌ毛利家ノ滅亡此時ナ
 リ輝弘山口ヘ入給ヘハ早々味方ニ可參ト觸廻セハ所々ヨリ或牢人或ハ所ノ名主彼山ノ別當

此寺ノ上人等島田ノ河村室津ノ矢野須々萬鞍懸ニテ親打レ子ヲ失タル輩吾モ我モト馳集リ
 既ニ八千ニ及ヘリ輝弘ハカク山口ニ在テモ無益下關ニ馳向元就父子ト一戰センハ如何ニト
 云ケレハ松本入道先鴻峰ヲ攻落彼所ニ本陣ヲ居ラレ防長ノ通路ヲ取切カ左モ無ハ秋穂白松
 ヘ取出海陸ヲ遮リ給ハ、元就輝元長府ヨリ打出ヘシ左有ン時コソ有無ノ一戰宜カラント覺
 タリト申ケルカ何方ヘモ不打出山口四方ノ口々ニ塹柵ヲ構テ防戰ノ用意シテコソ過シケレ
 元春隆景立華退陣事

去程ニ出雲ヘハ尼子勝久亂入彼國漸打隨隣國ノ者共モ皆尼子ニ力ヲ合彌味方ノ城ヲ攻由頻
 ニ告來又山口ヘハ大内輝弘豊後ヨリ押入築山ニ陣ヲ取防長兩國ノ通路ヲ塞其外所々ノ一揆
 蜂起日トシテ無止ト諸方ヨリ飛脚到來アリケレハ元就朝臣先自國ヲ治テコソ他國ヲハ可伐
 トテ平佐藤右衛門ヲ使トシテ元春隆景ヘ先立華ヲ引拂大内尼子ヲ退治セラレ候ヘト云送リ
 給フ兩將評議ノ角度々ノ合戰シテ敵城ヲ攻落セハ此後々詰ノ大勢ヲ追立テ大友ト一戰トコ
 ソ思ヒシニ唯今十二三萬ノ敵十町ノ内ニ引受止々ト引退事還テ危事ナルヘシ敵陣ノ様ヲ見
 計一戰ノ可引離ト返答シ先治部少輔元長ヲ上セ給フ元就朝臣又理ヲ盡メ是非歸陣シ給ヘト
 宣遣レケレハ兩將畏テ領掌シ立華ニハ諸勢ノ中ヨリ撰出坂新五左衛門小早川ノ家人浦兵部
 ヲ可被置ニ定レハ桂左衛門尉今度當城ニ籠事ハ毛利家ノ大事不過之然ルニ家老ノ中一人
 モ不居事吾々ノ耻辱ノミニ非毛利家ノ瑕瑾ナリ若輩ニハ候ヘトモ吾等モ當城ニ可籠ト望
 ケレハ兩將志ヲ感シテ三人ニ定リケリ角テ兩將其外穴戸隆家吉見正頼杉原盛重熊谷福原桂

宍道開陣ノ評定シ十月十五日ニ立華ヲ引拂ハル先陣隆景南前ノ諸軍士吉田ノ旗本勢ヲ引具シ寅ノ上刻ニ被_レ打立_ニ元春ハ殿シ給フニ吉見政頼近年ハ大友押_ニ居ケレハ此度吉川勢ニ加リ殿可仕ト望テ馳加リ敵必可付トテ各引返シ一戰ノ備ノ退給フカ先敵陣ヘ以_レ使可_レ報_ニ此旨トテ元春ヨリハ境與三右衛門隆景ヨリハ神田右馬允ヲ使_{トシテ}備後陣ヘ云送給ハ於_レ當陣可_レ決_ニ勝負ノ所大内輝弘尼子勝久雲州防州ニ亂入シ國中ヲ惱候先自國ノ敵退治ノタメ當陣ヲ引拂候久雖_ニ對陣候_ニ遂_ニ田原柳川戸次殿ト直ニ不_レ決_ニ勝負殘念不少候若_レ於_レ御幕候者互ニ可_レ散_ニ鬱胸ト兩人敵陣近駒懸寄高聲ニ喚レハ敵陣是ヲ聞テ戸次入道ノ返事ニ當陣御敗軍ノ趣被_レ仰聞令_ニ承_ニ知_ニ候委ハ從_ニ是_ニ可_ニ申入ト云返ス扱豐後勢面々ニ早追討セント勇ケレハ戸次入道白晝ニ遂_ニ案内其上十萬ニ餘大敵ニ僅千許ニテ籠城サスル程ノ思切タル敵ノ跡ヲ慕ハ却智謀ノ少也ト様々ニ押ケレハ一人モ不出ケル高橋モ此ニテ暇乞シ家城ヘ歸入比ハ神無月ノ事ナレハ宵ヨリ折々時雨ケルカ曉ニハ雪交リテ風冽諸軍士悉ク寒ケレハ下郎ハ道傍田ノ邊リニ屈倒レテ後レケル者トモヲ元春下知シテ不_レ殘_ニ下關マテ連越其主々ヘ送り付サセ給ケル扱蘆屋若松ノ渡ヘ大勢引カ、リ無舟テハ如何アラン若又一揆ヤ起ラント兩將ノ差圖ニテ粟屋市允ヲ遣舟才覺仕レト有ケレハ承ルト申テ急キ若松ヘ馳著町ノ老共ヲ喚集聊密談アリトテ藏ノ内ヘ招入各人質ヲ可_レ出無_ニ左ハ悉可_ニ打果ト怒レハ畏テ候トテ皆妻子ヲ一人宛出シケルヲ人質取置サラハ舟ヲ出セヨトテ數百艘出サセテ汀ニ引付待ケレハ諸軍頼テ來懸次第々々ニ一人モ不_レ殘_ニ引取ケル兩將モ諸軍モ粟屋カ功ヲ感シケル諸軍無難下關ヘ

著岸シケレトモ元春ハ跡舟ニテ著岸遲ケレハ元就朝臣先ニ著給フ隆景ヘモ無_ニ對面_ニ待給テ一同ニ對顔シ大ニ喜悅シ給ヘリ

立華明渡事

諸勢悉下關ニ歸陣スレハ立華ニ楯籠ル兵敵開陣ノ勢ヲ不付ハ必當城ヲ可攻ト待所ニ大友金吾入道ヨリ吉弘掃部助ノ云送り給ヘハ今度中國勢敗軍ノ所ニ當城ニ止ラレ候事實ニ忠節ノ至也誰カ是ヲ稱美セサラン然ハ先日當城ニ籠置候立華彌十郎已下一命ヲ助送給候爲_ニ報謝_ニ各三人ヲ無_ニ事故_ニ至_ニ千長府_ニ送飯シ候ヘシ城ヲ明渡サレ候ヘシト云送レハ桂浦坂仰ノ趣其旨ヲ存候然共此由ヲ元就父子ヘ飛脚ヲ以_テ申聞重テ御返事ハ可_ニ申入_ニ候也ト返事シテ即長府ヘ飛脚ヲ以_テ申ケレハ諸勢無_ニ事故_ニ歸陣シ給ハシ爲_ニニコソ_ニ其城守セ候早ク大友ヘ明渡可_ニ馳歸_ト有ケレハ桂己下即城ヲ可_レ渡ト云送姫島閑齋大友駿河守二千餘騎ニテ城ヲ請取入代ルサテ杵月右馬允秋友式部少輔等數十人桂己下ノ者トモヲ送出路次ニ假屋ヲ構大幕打テ饗應シ酒宴時ヲ移シ互ニ暇乞シテ立別下關ヘ歸リケレハ忠功他ニ異ルト上下感シ給ケリ

輝弘山口没落同最後事

山口鴻ノ峰籠城小勢ナリトテ元就朝臣ヨリハ桂左衛門尉渡邊左衛門大夫二人數千許差添上セラル元春ヨリハ山縣左京亮江田宮内少輔山縣宗右衛門井上甚兵衛二宮彌四郎長和三郎右衛門等ヲ上セ給折節城中ヨリ市川式部少輔市川兵部少輔同雅樂允馳下一手ニ成湯田ノ繩手ニテ大内勢ニ懸合セ散々ニ戰敵數多討取味方ニモ二宮彌四郎討死ス鴻峰ニハ加勢入殊元春

隆景九州ヨリ歸陣ト聞エシカハ輝弘安キ心モナク松本甲斐守已下召集評定區々ナレハ山口ニテ馳加ケル者共一人々々ト落失ケリ去程ニ元就朝臣ハ輝弘退治ノ事打續劬勞タリト云トモ元春父子向ハルヘシト宣ハ元春畏存候トテ雲伯ノ勢ニ熊谷伊豆守等ヲ相加一萬許ニテ既打立給ント有ケレハ元就朝臣若キ時ヨリ持セラレ所々ニ於強敵ヲ討隨ヘ給吉例ノ旗竿今日元春ヘ譲リ給元春大ニ悅即時ニ輝弘可打果トテ十月廿三日長府ヲ打立舟木ヘ著陣シ明日山口發向ト聞エシカハ輝弘今ハ叶ハシト取モノモ不取敢山口ヲ落秋穂白松ヘ出豊後ヨリ乘來舟ニ乗ント駒ヲ早メ馳ケルニ舟ハ舟子共頓乘逃一艘モナケレハ輝弘無力又浦傳ニ逃上ル元春ヘ此由ヲ告ケレハ山口ヘハ趣カス途中ヨリ取直シ秋穂ノ浦ヘ向ヒ給輝弘ハ八百許ニテハヤ三田尻ノ方ヘ逃上候ト在所ノ者申ケル程ニ彌追懸上リ給鴻ノ峰ヨリモ下シ合セ付送ル輝弘カ軍兵モ惜名思義者トモ所々ニテ返シ合セ討死スルモアリ輝弘浮野ヲ差テ落ケルニ元春ノ家人境與三右衛門山縣宗右衛門井上平右衛門等七八十ニテ追懸南方宮内少輔百騎許ニテ追來熊谷カ勢モ數十人馳加リ各方々ノ軍兵トモ七八百追ケレハ豊後ノ松木入道一佐甲斐左馬助ハ所々ニテ返合防ケルカ痛手數多負輝弘ニ暇乞傍ノ在家ニ走入二人トモ腹切テ失ニケリ輝弘ハ浦々ニ船モナフシテ富海マテ落ケルカ杉次郎左衛門ハ野上ヨリ打出椿カ峠ニ待懸香川兵部大輔山縣四郎右衛門平佐出雲守等ハ藝州ヨリ上リケルカ此處マテ寄來レハ追手ノ者モ浮野ノ坂ヲ越濱表マテ打出輝弘ハ方々ニ敵ヲ受難遁ヤ思ケン引返手痛切懸レハ追手ノ者トモ防カ子モトノ坂ニ逃上三河内ノ某甲各蓬ナシトテ踏留テ打死ス輝弘坂ニ進ミ

上ケル時境與三右衛門山縣宗右衛門井上等小高キ所ニ打上元春カ手ノ者面々ト名乗待懸レハ輝弘少進カ子タル所ニ熊谷勢品川内藏允モ馳加リ各切テ懸レハ輝弘身モ勞特ニ無勢ナレハ左ノ方茶磨山ヘ取上節所ニ扣テ陣取タリ追手モ無左右攻上ラス境傍ナル山ヘ走上迎モ遁マシキ御身ノ御腹召レ候ヘ斯申者ハ吉川元春カ家人境與三右衛門ナリト高聲ニ呼ハレハ輝弘仰ハ尤ニ候得共各ニ對シ腹切ンモ口惜候ヘハ元春ノ旗ヲ待受テ兎モ角モ可成也其内雜兵凡ノ鐵漿箭射懸ヌヤウニ境殿ノ下知ヲ頼ナリト云レケレハ境心得申トテ元春ノ著陣ヲ待居タリ明レハ廿五日ノ早朝元春朝臣浮野峠ヘ打上給テ旗頭見エケレハ輝弘今ハ是マテ也ト腹一文字ニ切給乳人ノ波多野石見守首ヲウチ返ス刀ニテ自腹搔切テ伏レハ城井小次郎モ尋常ニ自害シテ失ニケリ元春ハ向ノ山ニ打上先後ノ趣ヲ見物ノ坐ス此度ノ高名ハ元春ノ家人今田中務井上平右衛門尉境與三右衛門山縣宗右衛門其外頸數七十六熊谷カ手ニモ品川内藏丞中山内藏助岸添善右衛門同十兵衛渡邊新五左衛門等合テ三十四其外諸手ニ五ツ十宛討取レハ都合二百五十餘也吉田衆福間彦右衛門兒玉四郎右衛門等モ働キ拔群ニ見エタリ二三日後マテ山々谷々ヲ探出六十餘人カ首ヲ捕扱元春境與三右衛門ヲ使トシテ輝弘ノ首ニ頸注文差副テ送給ヘハ元就朝臣輝元朝臣頓テ使者ニ對面シ合戦ノ趣委ク聞給テ甚感悅シ給ヘリ元春朝臣ハ浮野ヲ開陣シ防府ノ國分寺ニ在陣シ給ヘリ近國ニモ此由ヲ傳聞諸方ノ一揆等悉靜ケリ同廿八日元就朝臣輝元隆景ハ長府ヲ打立周防國府ヘ着給元春元長ト相伴藝州ヘ歸陣シ給ケリ

雲州比部合戰事

元龜元年正月十六日 尼子左衛門尉勝久爲退治毛利右馬頭輝元朝臣十七歲吉川駿河守元春嫡子治部少輔元長三男又次郎廣家十一歲小早川左衛門佐隆景藝州ヲ打出雲州へ發向廣家ハ殊若年ナレモ此回者御供可仕ト切ニ望給へハ元春朝臣其志ヲ感シ給テ同道也同二月八日輝元隆景ハ津賀ニ著陣アリ元春父子三人ハ先陣トシテ赤穴マテ寄ラレ此ニテ雲石二州ノ勢少々馳加惣勢一萬三千餘騎ノ著到也此時大友豐前へ打出ノ由聞ケレハ宗像高橋カ加勢ノタメ防長ノ勢ハ殘置ル又武田高信尼子ニ一味シ伯州へ打入ントスル聞エ有ハ南條山田小鴨北谷已下ハ彼カ押ニ己カ城ヲ守テ一人不出其外備中備後ノ味方モ自國ノ敵ト取結ヒ不出合是故ニ此度ハ小勢ニテ發向也輝元朝臣今度初テ一分ニ惚大將トシテ出張ナレハ華々ト一際有タキ處ナリト元就朝臣元春隆景へモ宣ヒケレハ兩將トカクシテ敵ヲ僞引出し一戰有へシト道々モ備陣取勢ノ寡キ振ヲ見セ給同九日石州多久和ノ城ニ福山次郎右衛門尉遠藤神九郎川添右京亮五百餘騎ニテ楯籠ヲ攻ントテ元春先陣輝元旗本勢モ福原等馳加ル城中此由ヲ聞テ夜半ニ明退ヲ不遁ト追懸レハ返合戰死スル者七十四人也元春ノ先陣杉原盛重カ手ニ高橋右馬允壇上監物田原安原元春ノ家人朝梁市允小河内石見里目江村高々山三刀屋カ郎等坂田彦六輝元朝臣ノ旗本ニ南方宮内少輔井上民部少輔末國與次郎羽仁福原平賀カ手ニ東村平内阿曾沼カ若黨井上源右衛門已下分捕高名シタリ吉田勢村上又右衛門一人討死セリ吉川勢笠間刑部少輔ヲ先トシテ十人餘手負タリ川添福山等ハ辛命助テ這々比部へ逃入ケリ鹿助立

原等毛利家ノ人數ヲ問ケレハ一萬トハ申トモ一萬五六千モアルヘシト答レハ臆病神カ付テ大勢ト見エタリトテ笑ケリカクテ鹿助立原其外僉議ノ方々ノ城ニ二百三百宛籠置ケル勢共ヲ皆一所ニ集テ六千七百餘騎比部表へ打出タリ鹿助カ行ニテ峰々谷々ニ明固屋ヲ多作り並勝久ハ末次ノ土居ニ籠リ居給モ皆多勢ノ様ヲ敵ニ知セントノ謀ナリト方角ノ土民共ニ元春ヨリ常々金銀ヲトラセ置レタリケレハ此度ノ馳走ニ内通日々ニ告來ル去程ニ藝州勢三澤ノ鎌倉山ニ陣ヲ換二月十二日ニ比田ニ著給敵既ニ比部ニ陣取由聞エケル翌十三日比部表へ打出給比部ノ小城ニハ森脇東市正居ケルヲ先乘崩サント被催ケル處ニ早明退味方ノ陣へ引入ケリ雪頻ニ降ケル故敵陣ノ様躰難知物見ヲ遣給へハ見スマシテ走戻敵ハ五六千ト見エ候待受一戰ノ覺悟ナリト申ケレハ元春隆景サラハ一戰有へシ各召寄軍評定有へシト輝元ハ上座ニ居給フ兩將ノ仰ニ今度輝元朝臣始テ御一分ノ出張也是非華々シク一戰ヲ遂ヨト元就モ仰アリケリ然ニ敵是マテ遙々出事所願也一戰ニ勝利ヲ得事ハ必然タレモ味方多損セサルヤウヤ有ト仰ケレハ誰未云出事モナキニ輝元朝臣只今早々切懸リ候事宜計タルヘシ敵未兵糧モ遣マシ軍食思マニ遣備立設テハ容易ク切崩事難カラシカハヤ打立ト宣ハ兩將仰尤ナリ即切懸レト下知シ給フ杉原重盛是ヲ承只今ノ御一言祖父元就朝臣ニ不劣御大將ト感ノ即其座ヨリ鎧モ不著懸リケリ輝元朝臣床几ニ腰掛テ坐スニ人ナラハ二十人許ニテモ難動大磐石ヲ床几ノ後へ墮ト擲レハ諸人膽ヲ消處ニ輝元ノ仰ニ後ヨリ礫ヲ打ハ早ク懸テ敵ヲ打破レトノ告也早々懸レト宣ケリ扱一番ニ兩將ノ勢三千五百餘騎ニ陣杉原盛重其次ハ穴戸熊

谷天野已下雲伯ノ武士トモハ所ノ案内者ナレハ峰谷ヲ傳テ攀上合戰半ニ横鎧ヲ可入ト定ケ
 リ東口ハ吉田衆福原桂志道兒玉赤川已下四千餘騎其次ハ小笠原平賀檜崎木梨已下輝元朝臣
 ノ旗本ハ三千七百餘騎ニテ後陣ニ扣備給十四日ノ未明ニ總勢一度ニ攻上元長ハ廿許ノ若大
 將ナレハ先陣ニ進テ諸軍ヲ勇メテ懸リ給ヘハ兩將ハ少扣テ進給カ大音聲ニテ敵一旦手痛可
 戰假令先陣崩レ押立々々可懸ト折々下知ヲ加ヘラル、敵ノ先陣ハ森脇東市正眞木與一中
 井米原二千餘騎弓鉄炮揃テ備タリ妻手ノ方ハ山中立原隱岐已下一千五百餘騎又カ石黒正高
 尾ニ五百餘騎ヲ差副テ後ノ高ミニ備タリ東口ハ先陣牛尾彈正横道源助同權允遠藤馬田等一
 千餘騎比部ノ山路ヲ遮テ備二陣ハ横道兵庫助岸秋上羽倉已下一千七百餘騎ニテ扣タリ去程
 ニ兩陣近ケハ敵ハ前ニ備ル鉄炮ヲ二段ニ分入換々々打セケレ共味方ハ是ニ不疼手負死人
 ヲ踏越々々攻ケレハ足輕ミタレテ引退ケハ一千餘騎入換テ戰ヒケル尼子勢横道權允輝元ノ
 近習田門右衛門尉ト名乗合又兄ノ横道源助ハ同粟屋又左衛門ト名乗合タカヒニ勝負ヲ決セ
 ント鎧ヲ合セケルカ權允ハ田門ヲ突伏頸ヲ捕ント走リ懸ル田門伏ナカラ大太刀ヲ拔テ權允
 カ艸摺ヲ切テ落シケレモ身ニハ些トモ不中レハ横道敵ノ手ヲ打落終ニ頸ヲ搔フト粟屋
 ハ一鎧突レテ鎧ヲ投捨走り懸テ引組上ヲ下ヘトシケルカ痛手負テ不叶打レケレハ尼子勢勝
 ニノリ切先ヲソロヘテウチ懸レハ藝州ノ兵トモ一度ニ颯ト突クツサレ山下マテ引ニケリ又
 水谷口ヘ山中鹿助等備タルヲ兩將ノ勢一手ニナツテ唯一息ニ攻上リ矢鎧炮ヲモ不用突懸レ
 ハ森脇東市正一千五百餘騎眞逆ニ下シテ攻戰味方突立レテ麓マテ引退元長ノ陣マテ雪頸レ

カカル元長大音聲ヲ上元長爰ニ在返セヤ者トテ自五百餘騎ニ先立押返シ攻上ラル元春隆
 景モ敵ニ息ナ繼セソ平攻ニ攻上ト頻ニ下知シ給ヘハ隆景ノ手勢ハ右ノ谷ヘ廻テ押上ル森脇
 米原等心ハ猛勇此勢ヒニ押レテ一度ニ崩レテ引退山中立原コハ如何ニト入換テ戰ヘハ森
 脇モ取返シ爰ヲ破ラレシト防ケル互ニ手負死人ヲ踏付乘越一足モ不引ト入亂組相切伏戰ヘ
 ハ敵モ味方モ難分勝敗今ニ有ト見エケル處ニ峰谷ニ備置タル國人トモ一勢々々左右ヨリ
 懸下セハ敵不及力引退東口ノ吉田勢モ此競ニ取テ返攻上レハ牛尾等突立ラレ引色ニナリ
 ケルカ眞木與一ハ此ニテ踏留討死ス兩口ヨリ彌稠攻上レハ大崩ニ成テ逃走ル味方ハ勝ニ乘
 音ヲ掛テ追懸レハ引返シ死モアリ突倒レテ伏モアリ山中立原森脇等ハ坂ノ上ニテ取テ返サ
 ントスル處ヲ元春ノ手ノ者境又平山縣宗右衛門境七郎右衛門宗徒ノ兵眞先ニ進テ突懸レハ
 森脇少踏留鎧投突ニツキケルヲ山縣受外シ遁サシト鎧ヲセリ付レハ下ナル谷ヘスヘリ落ヤ
 ウノ命ヲ助リタリ角テ落行勢ハ傳ヘ城ニ入ント志ケルニ敗軍ト聞ヨリ皆吾城ニ火ヲ掛
 テ逃走レハ敗軍ノ者ハ彌力ヲ落シケル鹿助ハ銀ノ艸摺紛ナキ鎧ナレハ小坂越中不遁ト一
 里許追ケレ共鹿助終ニ逃延林ノ中ヘ隠レケリ横道兵庫ヲハ中井善左衛門見知テ討取收兄弟
 ヲハ江田七郎右衛門淺原助六討留タリ眞木横道ヲ先トシテ頸二百餘討取其外ハ皆切捨難捨
 透リケリ山中立原ヲ初トシテ尼子宗徒ノ兵トモ藪林草木ノ陰土民ノ家ニ逃カクル漸々命ヲ
 助リ日ヲ經夜ニ紛レテ新山ヘ集リケリ富田ノ城ヲハ天野隆重堅固ニ守リケレトモ尼子カタ
 ヲリ道路ヲ塞兵糧盡テ既ニ難儀ニ及ケルカ此時運ヲ開ケリ

出雲國所々城没落并降人事

同年四月十五日牛尾彈正忠カ楯籠三笠山城ヲ攻落ントテ輝元朝臣元春父子隆景先山見ノ爲
 打出給フ同十七日ニ可被切崩ニ定リケレハ從夜半若者トモハ切岸ニ付待居ケル處ニ彈
 正カ舍弟隣西堂降人ニ可出候御許容アラハ彈正ニ云聞セ城ヲ可明渡ト申ニ依テ三將即望
 ニ任ラレケル其夜々半不慮ニ城中ノ固屋ヨリ火出燒上ル扱ハ寄手何ノ口ヨリソ切入火付タ
 ルラントテ諸手ヨリ我先ニト攻上井上肥前ハ甲丸へ一番ニ乗シケレトモ味方續カス引退内
 藤河内今田中務香川兵部大輔森脇采女續テ乘入ントスル處ニ恩田岩田熊谷ナト云牛尾カ郎
 等稠防戰ケレトモ各切破リ手毎ニ分捕ス恩田ハ内藤討取ケリ牛尾ハ深手負火ノ中へ飛入西
 堂モ續テ飛入其外城中ノ妻子マテモ不殘燒失ケリ寄手ハ翌日十八日十倉へ陣ヲ易熊野高瀬
 ノ兩城ヲ攻ント僉議シ給フ處ニ熊野ノ城主熊野兵庫助ニハ井上肥前内通シテ城ヲ明渡シ降
 人ニ出ケリ元春朝臣元長廣家六千餘騎ニテ打出給へハ高佐ノ城モ明渡テ高瀬ノ城へ集リケ
 ル其ヨリ鷗ノ巢表へ打越平田ノ手崎ノ城ヲ取誘牛尾大藏左衛門ニ岡又十郎ヲ差副籠置隆景
 ト打連テ高瀬表へ打廻リ狼森ニ陣ヲ居近邊ノ稻トモ薙捨同廿七日當陣ヲ引拂平田マテ打入
 給フ其后手崎ノ城尼子勢一千餘騎ニテ押寄ケル岡牛尾打出散々ニ戰ケルカ杉原盛重加勢シ
 テ敵不叶引退又左田ノ勝間へ尼子勢八百餘騎ニテ寄タルヲ志道左馬助中村内藏太夫等懸
 出一戰ノ得勝利其日ノ大將三刀屋藏人ヲ討捕ケリ此後モ度々軍兵ヲ出シケル程ニ元春勝
 間邊ノ事無心許思給森脇若狹ニ軍兵二百人差添勝間ノ趣ヲ見テコヨトテ差遣ケル益田カ

郎等モ百人許相伴行テ見スマシ歸時尼子ヨリ森脇東市正平野賀兵衛等七百人跡ヲ慕討ト
 メント追懸若狹度々引返シ追拂突退味方ヲ救歸ケリ又尼子ヨリ高瀬へ兵糧籠ケルヲ押留シ
 ト吉川式部少輔岡宗左衛門ヲ差向ラル互ニ手負死人多敵船少々打破歸ケリ如此雲州所々ノ
 凶徒等退治輝元朝臣隆景元長今ハ敵ノ威モ衰ハテ恐所ナシ其上元就朝臣病氣重セ給故八月
 下旬ニ從平田藝州へ歸陣シ給元春ハ六千餘騎ヲ引具國中ノ敵城悉攻落サント打出給へハ
 古志因幡守モ降人ニ參ケリ其后羽倉城へ尼子方ヨリ横道兄弟數ケ度寄來攻ケルカ又鹿助横
 道ヲ伴一千餘騎押寄手強攻ケレハ城中ヨリモ井上源左衛門中島善左衛門等稠防戰シケレト
 モ外構ノ固屋燒立ラレ防カテタリ元春後詰セント宣處ニ益田越中我等罷向ントテ一千餘騎
 ニテ急馳向へハ三刀屋三澤モ同續テ馳向益田一番ニ懸付山中カ陣ニ切懸レハ山中等打負テ
 引退ク三刀屋三澤モ引敵ヲ追懸少々分捕シテ引返ス益田カ勇ニ依テ長屋ハ運ヲ開ケリ

尼子勝久攻未次城事

元龜元年尼子勝久ハ山中立原横道森脇等ヲ召集輝元隆景ハ藝州へ飯陣アレハ今ハ當國ニ殘
 ル敵無勢也此時味方所々ノ城ニ籠置タル勢ヲ集國中へ可打出トテ同十月三日四千餘騎ニテ
 新山ヲ打立同五日ノ曉ヨリ未次ノ土居ヲ一時ニ乗破ラント攻タリケリ河口刑部少輔小鴨四
 郎三郎ヲ籠置レケルカ身命ヲ不惜防ケレハ容易可落様モナシ此由富田へ告來元春朝臣城
 中ハ纔三百人ニハ不過早後詰セントテ其勢五百餘騎ニテ馳向給へハ杉原南條三刀屋三澤
 益田路次ニテ馳付惣勢五千餘騎其日ノ暮方ニ未次へ馳付タリ尼子勢モ後詰ノ寄ルトテ城ノ

攻口ヲ退キ己カ陣ヲ堅メテ一戰セント待カケ元春モ陣ヲ居ラレケリ益田三刀屋其外國人共
 即時一戰セント申ケレトモ元春思旨アリトテ合戰ハ延明日敵ノ退口ヲ取切此度尼子ノ根ヲ
 斷ヘシサラハ跡ヲ遮レトテ南條山田等一千餘騎打立急ケリ勝久ハ山中カ勸ニヨリ其夜々半
 ニ末次表ヲ敗軍セリ藝州ノ兵共曉敵陣ノ篝火ノ次第ニ消行ヲ見テ不審シ物見ヲ遣テ見セケ
 レハ一人モ無新山ヘ逃入河口小鴨ハ運ヲ開タリ元春ソレヨリ新山ノ麓ヲ燒拂三日陣ヲ居給
 ヘ凡敵一人モ不出合角テ南條杉原ヲ殿トシテ新山表ヲ引給トモ跡ヲ慕者モナク高瀬ヘ打
 出給テ當城ヲ攻給ハントアル所ニ米原難叶ヤ思ケン降人ニ成城ヲ明渡新山ヘ落行ケリ即高
 瀬ニハ人數ヲ入置神西カ城ヘ赴給ハント有ケレハ神西ハ城ヲ明テ因幡ノ方ヘ落行其路ヘ山
 中鹿助七百計ニテ入換近所ヘ働キ郷人共ヲ討取由告來ル元春サラハ山中ヲ攻ントテ打立給
 折節俄風氣身ヲ侵シ先醫療ヲ加給ケリ

三村宇喜田事

爰ニ備中ノ國ノ住人三村修理亮家親カ子ニ元親實親ト云者アリ父家親一年宇喜田和泉守カ
 爲ニ被殺テ後兄弟二人藝州ヘ使ヲ差下シ親ニテ候家親御味方ニ參頗忠勤ヲ抽候キ然ニ宇
 喜田直家ニ方便レテ無益討レタリ父ノ敵ニテ候如何ニモノ彼ヲ亡シ其讎ヲ報セハヤト存
 レ共我等兄弟ノ力ヲ以テ難討候ヘハ御太刀影ヲ奉頼宇喜田ヲ亡シ父カ没後ノ恨ヲモ散
 シ吾等カ生前ノ鬱胸ヲ晴シ申度候家親カ忠志ヲ思食忘レサセ不給ハ御哀憐ヲ蒙リ各二人
 モ彌御手ニ屬シ忠節ヲ勵申ハヤト元春ヘ付テ歎キ申ケリ然所ニ宇喜田直家はヲ聞テ毛利ヲ

背テハ叶マシト思ヒ洲波隼人入道如慶ト云者ヲ隆景ヘ參ラセ又安國寺ヲ深ク頼ミ三村浦上
 ヲ退治仕備中一國ヲハ盡ク輝元ヘ差上可申候ト訴申ケリ元就朝臣ハ老病ノ故元春隆景ニ能
 クハカラヘト有ケレハ元春彼等ハ父家親ヨリ當家馳走ノ者ナレハ宇喜田一旦巧詞ヲカマヘ
 能ヤウニ申トテモ彼等ニハ思カヘラレマシキヤ其上宇喜田ハ表裏ノ者ナリト再三仰アリケ
 レトモ僧惠瓊ナトシテ様々ニ隆景朝臣ヘ歎ケレハ隆景人質ナト出ス上ハ別儀有マシトテ宇
 喜田カ望ヲカナヘ給小早川家ハ南方ノ請口ナル故ニ隆景ノ意ニソ任セラル其後三村ハ終ニ
 宇喜田カ爲ニ討レタリ

末石合戰并勝久没落虜鹿助事

元龜二年元春朝臣雲州高瀬表ニ坐ケルカ元就朝臣逝去ノ到來有テ悲歎不少輝元隆景ハ種
 々追善ヲモ成可レ給某甲殘黨爲退治此境ニ在テ歎テモ無甲斐不如元就一七日孝養ノ爲經
 悟院可切崩元就ヘ志アラシ人々ハ身命ヲ抛敵ヲ伐給ヘト被申ケレハ諸卒最ト同シケリ同
 廿日三澤三郎左衛門三刀屋彈正左衛門杉原彌八郎元盛南條入道宗勝ヲ初トシテ雲伯ノ勢一
 人モ不殘馳集ル其外穴戸熊谷佐波口羽以下六千餘騎ニテ高瀬ヲ打立給ヘハ山中鹿助元春
 伯耆ヘ打越ラレナハ所々ノ城ニ分置タル勢ヲ一手ニ成後詰シテ一戰セハ經悟院ト按合可
 得勝利事疑ナシト思ケル處ニ元春伯州大山ヘ發向ト披露シテ俄ニ末石ヲ取圍レ鹿助油
 斷シタル折節ナレハ防ニ無便頓テ穴戸安藝守口羽刑部大輔通良ニ付テ降參ヲ乞ニケリ元
 春朝臣則城ヲ請取鹿助ヲハ其夜頸ヲ可被刎ト宣ケル所ニ穴戸口羽頻ニ命ヲ助ラレヨト申

サレケレハ元春イヤトヨ鹿助助置ナハ以來ノ禍タルヘシト有レトモ兩人クリ返シ乞レケレハ先兩人ニソ被預ケル其後防州徳地ニ於テ千貫伯耆ニ於テ千貫ノ地ヲ可被宛行トアリケレハ命ヲ助所領迄給候事併隆家道良ノ御取成ニ依候トテ誠シカホニ禮謝シテ則兩人ヲ頼元春ヘ目見シケレハ尾高ニ宿ヲ云付ラレ穴戸口羽ヨリ稠警固ヲ居ラレケル所ニ鹿助イカニモシテ抜ハヤト思ケルカ或夜深更ニ警固ノ武士少打眠リケル隙ニ拔出テ大山ノ麓ヲ經美作ノ國ヘソ逃上リケル角テ元春又新山ヘ押寄勝久ヲ退治セントテ穴戸安藝口羽刑部杉原播磨守南條入道三澤三刀屋ヲ先トシテ七千餘騎新山ヘト急給ヘハ勝久不得堪同八月廿五日新山ヲ明テ簾岳ト云所ヘ落行ケルヲ元春續テ寄給ヘハ香賀ノカツラ島ヘ舟ニテ退ケルヲ兒玉内藏大夫數百艘ノ兵船ニテ追懸ケレハ爰ニモ不堪隱岐ノ國ヘソ渡レケル

安西軍策卷四終

安西軍策卷第五

義昭卿信長朝臣不快扱事

天正元年公方義昭卿信長朝臣御中不和ニ成テ既ニ矛盾ニ及ノ由其間エ有ケレハ爲扱自輝元朝臣ハ林木工允安國寺惠瓊西堂元春朝臣ヨリハ井下左衛門尉隆景朝臣ヨリハ兼久内藏允ヲ被差上即宇治ノ真木ノ島ニテ羽柴藤吉並ニ日乘上人ニ付テ取扱シ義昭卿ノ御命ヲ助

ケ天正元年七月十六日記伊國ノ方ヘ送申ケリ又其比山中鹿助柴田修理亮ニ付テ信長朝臣ヘ出仕ヲ遂雲伯兩國ヲ望申ト風聞有ニ依テ此段ハ御許容ナキ様ニト被仰遣一扱四使御暇申ケレハ信長朝臣對面シ玉ヒテ毛利三家ニ對不存疎意候條鹿助事會同心不仕候然ハ某甲ハ東國ノ凶徒ヲ可令退治毛利三家ノ衆ハ鎮西ヲ悉可被責隨候左候テ以來ハ輝元信長別而申合天下ノ苛政ヲ改窮民ヲ救申候ハン三家ノ衆モ又信長ニ對無別心様和僧能々可被申ト宣テ御暇給リケリ扱各一同ニ罷下リ安國寺ハ宇喜田直家居城ヘ立寄ケルカ備前ノ岡山ヨリ井下兼久ニ言傳テ元春朝臣隆景朝臣ヘ送書翰當時京都ノ趣委書付ケル後來如合符節無類ノ惡僧タレトモ道ニヨリ賢トコソ覺ケル

山中立原初參信長事

山中鹿助立原源太兵衛惟任日向守ヲ頼ミ信長ヘ罷出中國御發向候ハ御先ヲ承リ御道知ヘ仕候ム出雲ハ尼子本國ニテ候勝久ニ給度ト望ケレハ則領掌シタマヒ山陰道ハ惟任日向守ヲ先陣ト定ヌル間渠カ手ニ屬シ忠義ヲ可抽ト宣トソ聞エシ

吉川父子因幡發向事

天正元年但馬國山名入道宗仙尼子勝久ニ組シ一年勝久出雲ヘ入給ケル時奈佐日本助カ海賊舟ヲ催ノ勝久ヲ乘セ島根郡ヘ送ケルニ依リ因幡ノ國ノ守護山名大藏大輔豐國モ尼子ニ志ヲ深ス於此元春朝臣元長朝臣廻謀豐國ヲ味方ニ成シ七月ニ雲州富田ヲ打立伯耆ノ八橋ニ著ソレヨリ因幡ヘ入但州ノ敵ノ様體窺澄シ同十月父子七千餘騎ニテ因幡ノ篠尾ニ陣ヲ居頓テ

但馬へ出張シ給ハント擬セラル、處ニ宗仙降參シ垣屋太田垣等モ人質ヲ出豊國モ幼少ノ子ニ太田垣勤七ト云者ヲ添テ差出口森下中村鹽治等モ己カ子其人質トシテ進上ス奈佐日本助佐々木三郎左衛門モ降參ス如此因但一戰ニモ不及幕下ニ屬シケレハ元春朝臣父子同極月ノ末ニ因幡ヲ立翌年正月三日富田ノ城へ歸給也

山中鹿助大坪合戰事

天正二年正月尼子左衛門尉勝久ヲ太將トシ山中鹿助立原源太兵衛神西三郎左衛門加藤彦四郎龜井新十郎吉田三郎左衛門森脇東市正横道源介同權丞牛尾大炊助同次郎右衛門足立次郎左衛門同治兵衛進左吉兵衛尉已下去年十二月ニ但馬へ下向シ因幡へ入ントシケレ其比元春朝臣父子因州篠尾ニ居給フ間不得入空但馬ニ在シカ元春朝臣無程開陣ノ由ヲ聞付山名但馬守ヲ頼因幡へ入其ヨリ伯耆ヲ切隨へ出雲へ入ント企ケル山名大藏大輔豊國又鹿助ニ使ヲ立我今毛利順人質等出置候ケル故唯今色ヲ變シ尼子へ參難ク候然モ曾別心ハ不存候兵糧等ノ義ハ可任御用ト云送リケル間勝久大ニ悅即時因幡へ打越城ヲ陷ル事三ヶ所ナリ爰ニ同國私部ノ城ニ楯籠大坪神兵衛ハ無二ノ毛利方ナル間元就朝臣ヨリモ牛尾大藏左衛門ヲ被籠置鹿助先彼城ヲ攻ント催ケル折シモ青陽ノ賀詞ヲ伸ン爲大坪僅百計召連正月三日ニ城ヲ打出藝州へ趣ケリ鹿助願所ノ幸ナリト其勢一千餘騎鳥執ノ邊鷹金山ノ麓ニ待居タリ大坪夢ニモ不知打過ケルカ鹿助ニ行逢互ニ睨合言葉戰ナトシケレモ大坪不堪突テ懸ル鹿助ハ大勢ト云殊ニカサニ陣取ケレモ無難大勢ヲ突立追拂フ鹿助モ無力後ノ林へ逃入ケレハ大坪大

笑シテ人ニ逢テ林ニ逃入ハ鹿ト云名ニ應シタリト欺テ首途佳ト喜テ藝州へコソ下リケレ

私部合戰并大坪武田合戰事

同年山中鹿助源太兵衛其外雲伯ノ諸牢人一千餘騎私部城へ押寄ル大坪カ家子姫路玄蕃允牛尾大藏左衛門ナト蒐出蒐出敵ヲ追拂時モ有城へ追込ル、事モアリ數刻防戰ケレトモ大勢ナレハ無_レ是非_二三ノ曲輪ヲ責取レ甲ノ丸へ引退サレモ紛骨碎身シテ防戰間敵攻屈シケルカ終ニ自引退ケハ城モ不落ヲ勝ニシテソ居タリケリ同三月十日武田源三郎龜井新十郎七百餘騎鹿野城ヲ打テ出小松原ノ有ケルニ陣ヲ取アタリノ民屋ヲ放火ス大坪神兵衛ハ藝陽ヨリ立歸シカ三百餘騎ヲ率テ鹿野へ働ントテ打出武田龜井ト不圖行逢南風北風討ツ討レツ相戰ケルカ忽龜井武田ヲ追散シ靜ニ私部ノ城へ打入ケリ

因州島取合戰事

全年九月二十二日山中鹿助立原源太兵衛牛尾大炊助森脇東市正横道源介同權丞足立次郎左衛門同治兵衛三千五百餘騎毛利入道淨意カ籠タル鳥執ノ城へ押寄天王ノ尾マテ追上ル城中ヨリ三百餘人切テ出防戰ト云ヘトモ多勢ニ被_レ攻立可_レ諧ニ非レハ城ヲ敵ニ明渡ス勝久頼入代リ給フ此城ハ元來山名豊國ノ端城ナレハ豊國以_レ使其城此方へ給リ候へ於_レ無_レ左者無力毛利家ニ降り對勝久可_レ遂_一戰ニテ候ハント云送ケル勝久僉議シ給ヒシカ各カ諫言ニ任セ甲ノ丸ヲ豊國へ渡自身ハ二ノ曲輪ニ在ケルトナリ其後大坪神兵衛ハ山名豊國へ毛利家ニ被屬候へト再三諫入ケレトモ豊國無_レ領掌於_レ然者某甲ハ毛利家へ降り候ハントテ私部ノ

城ヲ明退藝州へ下向セリ豊國大ニ怒大坪カ子二人ノ人質ヲ諸人ノ見懲ノ爲ニトテ鳥執ノ山下ニ張付ニセラレケリ天正三年二月五日山中鹿助鳥執ヲ出テ當國若佐ノ城ヲ挫ントテ暫ク陣取居ケル所ニ草刈三郎左衛門尉一千五百餘騎ヲ率シテ逆寄ニ押寄タリ鹿助カ先陣龜井新十郎武田源三郎八百餘騎二陣ハ山中鹿助立原源太兵衛一千三百餘騎接合セ身命ヲモ不顧逃ツ返ツ攻戰横道源介ハ草刈カ内高村ト云者ヲ鎧ニテ突伏首ヲ取敵モ味方モ攻疲更ニ勝負付サレハ相引ニコソシタリケレ又或日鹿助僅五百騎計相隨諸寄ノ在家ヲ放火シテ引退ントスル處ヲ陰山蓑部等八百餘騎打テ出是ヲ聞テ山口左馬允七百餘騎毛利入道淨意四百餘騎ニテ馳來テ後ノ山ニ陣ヲ取鹿助進退如何スヘキヤウモ無リシカ討死ト窮一足モ不引切テ廻前後ノ敵モ手痛責タリシカ何トシテカ崩ケン陰山蓑部山口毛利散々ニ成テ引退鹿助十死ノ難ヲ免レテ鳥執ノ城ニ歸リケリ

尼子明渡鳥執事

同年大坪神兵衛藝州へ下リ因州表ノ有様委語ケレハ元春朝臣父子頓彼表へ可向先各因幡國荒神山ノ城ヲ可切取之旨南條杉原山田已下ニ被仰遣ケレハ各彼地へ出張即時乘崩ス城ノ兵山崎十兵衛尉ヲハ山田出雲カ嫡子同名藏人打取又カ、リシカハ山名大藏大輔豊國毛利家ト半違テハ惡カリナント思森下出羽守中村對馬守ナト召集此事如何可有ト評定有ケレハ各一同ニ大坪モ再ニ是ヲコソ諫申ツレ早々與シ給ヘシ乍去驗無クテハ如何ニ候條鳥執ヲ責落シ是ヲ一面目ニシテ毛利へ可順旨元春へ可被仰進ト申ケレハ先日勝久へ加勢可進ト堅ク

約諾セラレシヲ又引換テ今一向勝久ニ敵ノ色ヲソ立ラレケル勝久驚キ斯テハ當城ノ住居叶間敷トテ大坪カ明退シ私部ノ城ヲ誘龜井新十郎ヲ大將トシテ山名藤四郎横道源介同權丞森脇東市正牛尾大炊助進左吉兵衛尉已下一千餘騎ヲ籠ヲキ吾身ハ山中鹿助立原源太兵衛神西加藤ヲ率テ若佐ノ鬼カ城へ楯籠ラル由是草刈加賀守カ嫡子三郎左衛門若佐表へ打出合戦スル事數箇度ナリ毎日迫合ケレモ無勝利草刈兄弟ヲ打取事モ不成剩片寄市正ナト打セケル事ノ無念ナレハ兎ニ角ニ草刈ヲ討取ラテハ叶間敷ト鹿助手ヲ碎切廻士卒ニモカクト下知シケレモ草刈ヲ打取事終ニ不成ケリ加様ニ勝久鳥執ヲ明退給シカハ豊國使者ヲ以元春朝臣へ申ケルハ勝久當國下向思外猛勢ニ候シカハ某甲カ以小勢挫彼事可難一旦先勝久ニ降時節ヲ窺方便テコソト存候處於子今者思圖ニ仕成申候雖然小勢難奈候間可被加御勢候サアラハ私部鬼城忽可令退治ト有シカハ即元春朝臣ヨリ牛尾大藏左衛門ハ國方案内者ナレハトテ二百餘騎ヲ相添因州へ差遣サル牛尾不移時日鳥執ニ馳着先山下ニ宿シテ居ケル處ニ鹿助此由ヲ聞テ彼城へ入ナハ輒不得黷ト思ケルヤラン五百餘ノ人數ヲ勝テ夜討ニソ寄タリケル比ハ天正三年五月七日ノ事ナレハ目ヲ突モ不知ホト暗カリケレトモ牛尾抛一命切廻ケル間無難敵ヲ追拂

私部麓合戰付降參事

同年爲勝久退治藝州ヨリ勢ヲ被差向一陣ノ大將ニハ吉川駿河守元春朝臣同治部少輔元長朝臣相隨フ人々ニハ熊谷伊豆守信直嫡子兵庫助隆直天野紀伊守隆重山内新左衛門隆通杉原

播摩守盛重南條伯耆入道宗勝子息伯耆守元次小嶋官兵衛元清益田越中守藤包子息右衛門佐元祥佐波越後守秀貫三澤二郎左衛門爲清子息攝津守爲虎三刀屋彈正左衛門久扶羽根彈正少弼宍道五郎兵衛正義其外廣田櫻井福與利福田牛尾吉田周布都治久利岡本山田香川飯田已下一萬七千餘騎後陣ハ小早川左衛門佐隆景朝臣ヲ大將トシテ三吉式部少輔同新兵衛同三郎左衛門久代修理亮高野山入道久意子息五郎兵衛尉木梨治部大輔元經平賀太郎左衛門小笠原少輔七郎同彈正少弼有地美作守同右近古志清左衛門三村紀伊守細川伊勢守已下二萬餘騎八月初旬ニ藝州ヲ打立伯耆ノ國矢走ニ著給山名豊國是ヲ聞牛尾大藏左衛門ニ向云ケルハ某甲遙々貴殿ヲ申請終ニ一戰モ不仕事苟無勇ニ似タリイサ待設ニ私部邊ヘ一働セント云ケレハ牛尾尤可宜ト領掌シテ同二十二日其勢一千五百餘騎私部ノ山下ヘ押寄所々ニ火ヲ掛柵木ヲ切破ル城中ヨリ是ヲ見テ進ノ左吉兵衛ヲ先トシテ千許鉄炮提々放懸相戰亦城中ニ殘居ケル兵トモ左ノ山ノ根ヨリ押廻シテ懸來ル間山名カ勢鹽冶佐々木山口毛利不諧シテ引返ス牛尾大藏左衛門同源次郎家人ノ金尾藤三等敵數多切伏手痛相戰引返ス去程ニ同九月二日兩將烏執ノ麓ニ著給ハハ山名豊國二千餘騎ニテ出向即千谷川ニ舟橋ヲ懸諸軍勢ヲ渡同三日ヨリ私部ノ城ヲ取圍ミ仕寄ヲ付勢籠ヲ組攻近爰ニ吉川藏人頭侍從廣家其比ハ又次郎經言トテ十五歳ニ成給ケルカ仕寄張番ノ所ヘサイサイ出給テ哀敵擊出ヨカシ經言モ一太刀打違テ物ヲト宣ヘハ乳人ノ小坂越中守其ハ分捕ト申テ良將ノ好シ給事ニ非ト諫メケレハ經言聞給テ汝カ申所於當家元春元長ナトハ左モ有ヘシ某甲ハ元春ノ三男ニ生レ行末ハ如

何モ有レ唯今ハ手勢百トモ不持不肖ノ身何ノ大勇ヲ好シ哉トテ敢用給サリキ或夜敵夜討ニ切テ出ケル時經言兼テ願ノ事ナレハナトカ出合給サラン雜兵ニ打紛鎧提吉川又次郎經言ト名乘突懸ラセ給城ノ兵凡終ニ突立ラレ颯ト引テソ入ニケル其後晝夜ノ境モナク晝近已ニハヤ尾頸ノカラ堀一重隔テ弓鏢炮ヲ射込城中難儀ニ及ケリ比ハ長月半ノ事ナレハ秋寒ケニ打時雨木々ノ梢カツ染テ山ハ錦ニ不異城ニモ寄手モ心ヲ慰メ眼ヲ悅シメケル折節楯ノ面ヘ一人出テ寄手ノ陣中ヘ可申入事ノ候暫弓鏢炮ヲ被止候ヘト申如何様敵ノ降參ヲ乞ニコソト鳴ヲ靜メテ聞ケレハ折カラ思寄候條御眠ヲ醒サセラレ候ヘトテ山ハ早カツ色見スル時雨哉ト云發句ヲソ吟シケル誰成ラント能々聞ハ森脇東市正ニテソ有ケル惣軍弓鏢炮ヲ留テ感稱ス元春朝臣誰ニテモ此脇仕レト宣ヒアタリ見廻給處ニ香川兵部ヲ御覽シテソレノ急テ脇ヲ仕レト被仰シカハ兵部不取敢秋ノ嵐ニ落ル朝露ト付タリケレハ市正又第三ヲ付迭ニ表八句シテ東市正城内ヘ入テケリ又横道權丞モ楯ノ表ヘ差出テ詞戰ナトシケルヲ今田中務例ノ大箭打番横道請テ見ヨト有ケレハ横道聞テ某甲ハ無詮所ニテ敵ノ矢受ルホトノ慮ケ者ニテハ無候ト答テ楯ノ裏ヘ立隠ル今田引設タル矢ナレハ其儘切テ放此矢不過横道カ隠レシ楯ノ面ニ中鏃二三寸計射徹ケルサテコソ横道賢モ外ケリ其後當城ノ大將龜井新十郎一命ヲ助ラレハ城ヲ明渡可申ト頻ニ嘆申ニ依テ即城ヲ請取龜井ヲ助給森脇東市正横道權丞牛尾大炊助ナトハ暫杉原播磨ヲ頼居ケルカ頓テ吉川元長ヘ仕ケル也

勝久鬼城沒落事付宮吉城沒落事

同年九月去程ニ兩將私部ノ城ヲ陷給ヘトモ未勝久鹿助カ楯籠タル若佐ノ鬼城堅固ナリシカハ元春朝臣ヨリ杉原盛重ニ香川兵部大輔小坂越中守ヲ檢使トシテ相添三千餘騎鬼城ヘ差向ラル草刈三郎左衛門一千餘騎ニテ打出某甲方角ナレハ先陣可仕トテ一番ニ切岸マテ押寄ル城中ヨリモ懸出鐵炮セリ合ナトシテ敵味方共ニ手負死人數多有カ、リケル處ニ杉原香川小坂等咄ト突テ懸ケレハ城兵颯ト引入ケリ其後ハ惣軍共ニ仕寄ヲ付次第々々ニ攻近キ勝久鹿助叶間敷トヤ思ソレケン夜半ニ紛レテ城ヲ落但馬ヲサシテ逃上ル又同國宮吉ノ城ニハ田公新右衛門尉子息新介楯籠ケルヲ杉原香川小坂等押寄ケレハ田公父子取物モ不取敢落失ヌ香川カ郎等三宅源丞一番ニ乘入能敵一人討取是ヲ初トシテ惣軍一度ニ乘込ハ城中ニモ落殘タル兵トモ四五計有ケルカ身命ヲ捨テ防戰一人モ不殘討死ス角テ因幡ノ敵盡退散シテケレハ兩將同二十五日因州表ヲ引拂出雲ノ平田マテ打入給隆景朝臣ハ其ヨリ藝州ヘ飯陣セラレケリ

大坂城入兵糧事

天正三年大坂石山ノ本願寺顯如上人信長卿ト不和ノ儀出來メ則石山ヲ城郭ニ構楯籠紀州越前等ノ宗門ヲ被頼ケレハ我先ニト皆石山ニ入ケリ輝元朝臣元春隆景ヲモ偏ニ頼レケル間先飯田越中守ヲ大坂ニ被差籠其後又木津ノ城ニハ粟屋內藏允華隈ノ城ニハ香川美作守杉次郎左衛門其外歷々被入置サレテ尋常ノ城ニハ不似如何ニモ兵糧乏ケレハ是亦中國ヘ見繼ヲ頼マレケル即兒玉內藏允粟屋內藏允香川左衛門尉村上八郎左衛門尉浦兵部丞野島大和

守同掃部助等ニ課テ兵糧船六百餘艘警固舟三百餘艘艦シテ差上ラル晝夜急ケル程ニ七月上旬ニ播州室ノ津著岸ス信長卿ヨリモ大船三艘木津ノ川口ニ横ヘ其外兵船三百餘艘相隨テ通路ヲ差塞中々大坂ヘ可入様ソナカリケリ物見ヲ以テ敵船ノ様體窺セケレトモ敢近事成サレハ唯數百艘ノ舟アリト見ルノミナリ更ハ先敵船ノ働キ試ントテ射手舟ヲ四五十艘毎日漕寄呼引ケレハ敵船モ推出迫合ケリ此間ニ紀州ノ鈴木孫市等モ室ノ津マテ下リ日々軍僉議シケレトモ奇特ノ謀モ無兎角無ニ切掛テミルヨリ外ノ事アラシト兵糧船ヲ跡ニ漕セ三百餘艘ノ警固舟ヲ押立テ大坂サシテ漕入ル敵ニモ大和住人間鍋主馬兵衛尉沼野伊賀守同越後守河内住人杉原兵部丞宮崎鎌大夫寺田又右衛門尼崎ノ小畑華隈ノ野口ナト射手船三百餘艘出散々ニ防戰然レ中國ノ船ニハ野島モ村上モ舟軍ハ代々其妙ヲ得ツ浦モ不劣近來數箇度ノ船軍ニ習タレハ忽勝色ニ成テ次第次第ニセリ込メ敵命ヲ不顧相防爰ニ大船一艘真先ニ漕働ケルニ村上八郎左衛門舟推立テ打向既間近成ヌレハ船頭舟ヲハ敵船ニ付ケ申サンカト問村上云ニヤ及早付ヨト呼ル已ニ付ントセシ處ニ敵艦ニ鐵炮ヲ構透間モナク射ケル程ニ船先ニ進タル兵一人射倒シ少辟易シテ三四間隔リヌ村上船子ハ何トノ後ルソ急ケ急ケト下知スレハ無難敵船ニ付ケリ村上一番ニ敵船ニ乗移ル敵得タリト村上カ股ヲ突村上少モ不疼其敵突伏頸ヲ取郎等トモ吾不劣ト乘込分捕シテ其船忽乗取ケル浦井上已下モ皆敵船ニ乗移切廻ケル程ニ是モアタケ二艘乗取ケリ其外截取小舟ハ數知ラス間鍋主馬兵衛沼野伊賀守同越後守杉原兵部丞同鹿目助野口小畑已下一人モ不殘討死ス泛々ノ輩ハ水中ニ飛入テ死者モア

リ或遁ル者モ多カリケリ寺田又右衛門モ游上テ助ケル

公方義昭卿輔御下向事

大納言義昭卿一色式部大輔飯河肥後守武田刑部少輔等計御供申宇治ノ真木ノ島ヲ出紀伊國宮崎ニ落魄居給ケルカ角テモ逆臣ヲ亡シ天下靜謐ノ御企モ難成思召竊ニ宮崎ヲ惑出明石ノ浦ニ漕寄宇喜田和泉守ヲ頼レシカトモ難面モテナシケレハ暫ノ御逗留モナク其ヨリ備後ノ頼ニ著輝元元春隆景ヲ偏ニ頼思召ノ通被仰下三家其外ノ一族郎等集會シテ僉議區々ナリシカ終ニ頼レ給ヘキニ定リテ頼テ御請申サセ給ケリ是ヨリシテ信長ト毛利家ト一向矛楯ニ及ケリ

乃美心變事

去程ニ信長卿輝元朝臣和陸破ケレハ所々ノ取合止事ナシ爰ニ備前ノ國常山ニ浦兵部丞宗勝カ嫡子少輔四郎在城シケルカ小寺官兵衛尉峰須賀彦右衛門ヨリ味方ニ可與ノ旨云送ケレトモ兵部丞曾不同心然トモ嫡子少輔四郎ハ忽一味シケリ其比備前ノ兒島渡口ノ窮トシテ神田右馬助ト云フ者ヲ被差置或時怪ケナル僧ノ來リケル程ニ手堅窮メケレハ此僧ナマ佛法ナト吐散シ如何ニモ難見分サレモ神田ス、トキ男ニテ所々言葉ノ末ニテ聞知リ則此僧トラヘ平包ナト穿鑿シテ見レトモ怪シキ物モ無サラハ其竹ノ杖ヲ割テ見ヨトテ打破ケレハ中ニ小寺蜂須賀方ヨリ少輔四郎ヘノ文有即僧ヲ搦文共ニ沼田ノ城ヘ送ケル隆景朝臣是ヲ見給テ頼テ兵部丞宗勝ヲ召シ潜ニシカノ由告給ヘハ宗勝驚此事露モ不存候ヘ共御不審ハ

晴申間敷某甲モ愚息同前ニ切腹可仕ナト云ケレトモ彌彼レハ無野心ニ定ケレハ隆景朝臣宗勝ト内談シ少輔四郎ヲ沼田ヘ喚越テ宗勝カ所領ニ押籠常山ニハ別人ヲ被入置ケリ其後少輔四郎天罰ニヤ有ケン無程病死シタリ

讚岐國元吉表合戰事

天正五年讚州元吉ニ香川義景ト云者楯籠隆景朝臣ニ屬シ志ヲ深シケルホトニ土佐ノ長曾我部ヨリ長尾ハイカツ兩大將ニテ三千餘騎ヲ差向元吉ノ城ヲ圍シム義景數箇度ノ迫合ニモ利ヲ得ト云ヘトモ後楯共可頼味方ナキカ故ニ隆景朝臣ヘシカノ通注進ス即舍弟穗田治部大輔元清ヲ大將トシテ八千餘騎讚岐國ヘ渡給同閏七月二十日元清ノ先陣浦兵部丞井上又右衛門已下二千計長尾ハイカツト渡シ合攻戰中國勢ノ内末近助兵衛尉山田半右衛門志道藤右衛門村上刑部深野弘中等楯ヲ合無比類勸シテケリ長尾ハイカツ不叶トヤ思ケン頼敗軍スレハ元清諸勢ヲ引具ノ藝州ヘ飯陣シ給浦兵部丞ハ其ヨリ舟漕上播磨ノ浦々ヘ打上此所彼所ヲ放火ス爰ニ黒田官兵衛尉ハ高砂ニ居住シ部府ニ軍兵ヲ籠置レケリ是ヲ見テ浦岸際マテ押寄ル城中ヨリ突テイテ散々ニ戰浦カ郎等白井彌次郎其外雜兵討死シケレハ浦頼テ引取舟ニ乗ントスル處ニ黒田官兵衛尉二千計ニテ打出待懸タリ浦今ハハヤ十死ト窮彼處ニ扣テ居タリケリ黒田何ト思ワレケルヤ一戰ヲモセス被打入浦モ舟ニ取乗テ藝州ヘコソ下ケリ

淡路國岩屋城事

爰ニ淡路ノ在廳菅平右衛門同新右衛門ト云者アリ父子ナカラ毛利家ニ屬シケル間先年ヨリ

兒玉内藏丞ヲ被差籠或時菅父子對毛利家企逆意竊兒玉ヲ可討果トノ用意アル由告知スル者アリケレハ兒玉無益犬死ヲセンヨリモ藝州ニ罷下此事早ク申ヘシ敵ノ不募内ニハ如何様ニ仰付ラレンモ輒カラント思忍テ城ヲ出藝州へ落行此趣ヲ言上ス輝元朝臣即元春朝臣隆景朝臣ニ此事如何スヘシト僉議シ給テ誰カ菅父子逆意有ト云レ渠等ヲ押詰城ヲ持堪ント思者ヤ有ト尋給ヘトモ吾コソト申者一人モ無リケリ然處ニ香川左衛門尉廣景人ノ不行所ヘ行テコソ勝タル勇ヨト末代マテノ覺タルヘシト從子ノ冷泉民部大輔ト云合兩人可向由申ケレハ輝元朝臣御感不斜頓テ御暇給ケリ去程ニ香川冷泉艦シテ已ニ乗ントセシ所へ全非挾野心兒玉殿人ノ空言ヲ信シ給無是非存候剩忍テ下リ給間御理モ不申候キ以來モ御不審ヲ免ン爲人質ヲ進シ候トテ寵愛ノ娘ヲ奉リケル香川冷泉案堵ノ思ヲナシ岩屋ノ城へ楯籠或時天王寺ヨリ佐久間カ郎等共一千餘人舟ニ取乘夜討ヲ掛ケルニ折節香川早晚ヨリモ今宵ハ物騒シト思爲用心夜廻シテ是ニ渡合切結家子郎等トモ、手痛働ケレトモ已ニ香川危見ケル處ニ冷泉出合四角八面ニ切廻ケルニ依テ敵不堪颯ト引ケルヲ追討ニ十四五人討取リヌ敵ハ漸命生タルヲ希有ニシテ天王寺へ引退其後ハ何タル事モ無堅固ニ城ヲ守リケリ角テ秀吉中國ト和睦シ給テ後藝州へ皈ゲリ

播州上月城兩度勝敗事

天正六年尼子勝久山中鹿助立原源太兵衛尉已下近年惟任カ手ニ屬シケルカ此度ハ引替テ羽柴筑前守秀吉ノ手ニ付テ播州へ下其ヨリ美作ヲ切隨雲州へ入ントテ播磨路サシテ下ラレケ

リ播州上月ノ城ニハ宇喜田和泉守直家ヨリ眞壁彦九郎ヲ籠置ケル先彼城ヲ攻ヘキト二千餘騎ニテ押寄ントス眞壁是ヲ聞周章騒テ落失勝久安々ト上月ノ城へ入替ラレ眞壁カ舍弟次郎四郎兄カ聞逃シタル事ヲ口惜ク思直家ニ云ケルハ御勢三千給候ヘカシ上月陷候ナント望ケレハ直家則眞壁ニ二千餘騎ヲ差添ラル眞壁不斜悅正月下旬上月ニ赴城ヨリ六七十町程隔テ陣取軍ハ明日コソ致サメトテ打解テ居思モ不寄其夜城ヨリ逆寄ニ夜打ヲ掛ケレハ諸卒悉ク逃去ヌサレレ眞壁次郎四郎ハ些レ不慮床机ニ腰ヲ掛逢モ逃者哉敵ハ小勢ナルソ引返メテ打拂ト旬怒ケル處ニ生虜ナル歩行武者太刀振上テツト走寄ル眞壁屹ト見アヤサシノ志ヤトテ眞向二ツニ打破タリ安達治兵衛尉是ヲ見テ透間モナク切テ懸終ニ眞壁カ首ヲ取城中ノ兵凡思圖ニ仕澄ケレハ大ニ悅打人ケリ其後又直家數萬ノ軍兵ヲ以可被圍ト聞ケレハ當城會テ兵糧ノ貯無數日ノ籠城叶ハシトテ勝久上月ヲ引拂攝津へ被上レケリ宇喜田直家得タリ幸ト上月十郎矢島ノ某二人差籠ラル由是秀吉軍兵二萬ヲ引卒シテ上月ノ城ヲ十重二十重ニ取圍給城中ノ兵トモ若命ヤ助ルト上月與矢島ヲ討テ出シ各カ一命ヲ助ラレ候ヘト乞秀吉會テ無許容悉擲取張付ニ掛蓑笠ヲ著セ上總躍ヲサセント一度ニ火ヲ付燒殺シテ又勝久ヲ籠ラレケリ

中國勢圍上月城事付秀吉後詰事

同年輝元朝臣元春朝臣隆景朝臣其外ノ一門家子郎等召集ラレ上月城ヲ挫給ヘキ評定アリテ先小早川左衛門佐隆景朝臣ハ穗田治部大輔元清天野六郎左衛門元正穴戶安藝守隆家嫡孫備

前守元好國侍ニハ三吉式部大輔高野山入道久意久代新十郎檜崎彈止少弼平賀太郎左衛門三村紀伊守清水長左衛門草刈太郎左衛門小笠原少輔七郎上原右衛門大夫田治部藏人伊勢細川ノ一族福原桂已下二萬餘騎元春朝臣ハ嫡子治部少輔元長二男左近丞元氏三男民部大輔廣家毛利七郎兵衛尉元康同少輔十郎元秋其外國侍ニハ山内新左衛門益田右衛門佐元祥羽根兵庫助佐波越後守同又左衛門尉津野駿河守三澤三郎左衛門爲清同攝津守爲虎宍道五郎兵衛尉田賀吉六天野紀伊守三刀屋彈正左衛門古志因幡守湯佐渡守杉原播磨守嫡子彌三郎元盛有地右近南條伯耆守元續尾鴨官兵衛尉山田出雲守小森和泉守吉田肥前守日野左近福與利治部大輔同藤兵衛田利小曳周布祖式都治已下一萬五千餘騎隆景朝臣ハ三月三日沼田ヲ立元春朝臣ハ富田ヲ出給美作國高田表著陣シ給宇喜田和泉守直家存旨有ケレハ病氣ト號シ家子岡越前守戸川肥後守明石飛驒守宇喜田七郎兵衛忠家長船紀伊守宇喜田信濃守岡強介沼本新右衛門尉華房志摩守中村三郎左衛門伊賀左衛門尉富山半右衛門市五郎兵衛尉蘆田五郎太郎延原内藏丞宇喜田河内守小原入道信明檜原監物已下一萬四千餘騎差出都合其勢五萬餘騎上月ノ城ヲ稻麻竹葦ノ如取卷ケリ海上ハ兒玉内藏允粟屋内藏允村上八郎左衛門浦兵部大輔已下大船七百餘艘播磨瀛明石ノ浦攝津須摩ノ浦マテ掛並ヘテ警固スル輝元朝臣ハ兩川ノ異見ニ任備中ノ松山ニ陣取扣給フカクテ元春朝臣二宮佐渡守ニ仰テ凱歌頭ヲ上ヨト有ケレハ即佐渡守差物ノ金ノ團扇ヲ拔持テ城ヲ二度塵鯨波ヲ上ル三度目ニ惣軍同関ヲ作其後御所ノ廻リニ芝土手ヲ築瑞ヲホリ堀ヲ付柵ヲ結亂杭ヲ打テ稠構サセラル去程ニ秀吉朝臣信長卿ハ勢ヲ望レシ

カハ荒木攝津守ヲ被差添兩將四萬餘騎四月晦日上月ハ襲來高倉山ニ陣ヲ取給フ中國勢兼テ用意シタル事ナレハ些トモ騷氣色モ無靜リ返テ居タリケリ猶モ用心稠セヨヤト柵ノ内外ヨリ出入ノ人ヲ窮メン爲元春朝臣ヨリハ新見右衛門尉森脇相模守隆景朝臣ヨリハ檜崎彈正忠ヲ付置ケリ兩川後詰ニ秀吉ヲ置ナカラ先城ヲ攻ント晝夜ノ境モ無仕寄ヲ付寄々々攻給フ城ニモ此度ノ合戰有無ノ決スル所トヤ思ケン身命ヲ抛テ爰ヲ先途ト防ケリ

杉原家人忍討井上方後詰勢馳加事

爰ニ杉原播磨守盛重ハ内々忍ニ狎タル者トモヲ呼集汝等秀吉ノ陣中へ忍入テ敵ノ用心ノ程ヲ些試ヨカシト云ケレハ承候トテ德岡久兵衛尉佐田彦四郎舍弟神五郎其弟小鼠別所三次兵衛舍弟雅樂允安原神次郎菊池肥前守等已上二十餘人五月初旬暗紛ニ高倉山ノ陣中へ忍入一番ニ德岡久兵衛尉篝火燒テ眠居ケル者ヲ頸中ニ打落ス殘ル者トモハ傍ノ陣屋へ忍入テ手毎ニ頸ヲ討取ヌ中ニモ別所雅樂允ハ刀ノ寸延鏢大ニシテ打トモツカヘテ切カチケル處ニ敵聞付テヌハヤ夜討ソト云程コソアレ我先ニ掛合ントヒシメク間ニ二十餘人ノ者ハ向ノ尾崎へ引取ケリ終ニ別所ハ首押切杉原カ郎等別所雅樂允當陣ノ真中ニテ忍打シテ飯ナリ出合討捕ヤト大音聲ニ匄テ走歸ル敵モ少ハ追懸ケレトモ處ハ不案内ナリ暗ハ暗シ長追ハスマント強テ追付者モ無其ヨリシテ高倉山ノ陣中ニ篝火無透間燒續ケラルサレモ杉原カ手ヨリ數度忍入敵打取テ歸ヌ去程ニ信長卿秀吉勢微ニシテ中國ノ多勢ニ懸合難ト聞給先惟任日向守筒井順慶武藤彌兵衛瀧川將監已下ヲ被差下四月二十八日ニ洛陽ヲ打立五月初旬ニ上月ニ著

陣シテ高倉山ニ馳加リ八萬餘騎ニ成ニケリ其後續テ下人々ハ北畠中將信雄神部三七織田上野介永嗣兵部大輔峰屋兵庫氏家左京亮伊賀守稻葉伊豫守佐久間右衛門尉等一日二日路隔テ我モ我モト馳下ル同五月七日中將信忠卿惟任五郎左衛門三萬餘騎ニテ打立ケリ信忠兄弟二人ハ於攝津信長卿出張ノ到來ヲ聞合テ下ラント暫扣テ待給蜂屋氏家伊賀稻葉佐久間等ハ先立テ上月ヘ馳下リケル程ニ同月中旬ノ比ハ後詰ノ勢日々ニ加已十萬餘騎ニ及ケリカク大勢日々ニ益ケレハ吉川治部少輔元長朝臣何ト見切給ヤ秀吉ノ陣ヘ夜合戦ヲ懸ヘシ先敵ノ備ノ體委見テ參レトテ足達彦左衛門佐伯源左衛門ヲ指遣ル彼等山傳シテ具ニ敵ヲ窺頓テ馳阪テ備虛實等見及所委申ケルヲ即元春朝臣ヘカクト告給ヘハ尤宜計也定テ隆景モ別儀有マシサレトモ此旨懇申合ラレヨト有ケレハ隆景朝臣ヘシカクノ赴云給ハ隆景暫案シ給ケルカ此度ハ夜合戦ヲ止ラレ候ヘ其モ存旨ノ候唯先當城ヲ陥ル籌ヲナシ給ヘト頻制止給ヘハ元長無力夜合戦ヲ思留給ケリ

上月合戦事

同六月廿八日美作ノ住人中村三郎左衛門尉宇喜田カ先陣ニ有ケルカ高倉ノ麓ニ小川有ケルニ敵軍ヨリ朝ナ朝ナ此川ヘ出テ馬ヲ冷水水ナトツカフ者多カリケリ是ヲ討ント中村伏兵ヲ置ケル隆景朝臣家人井上彌兵衛尉モコレニ加出如案高倉山ノ陣中ヨリ早晚ノ如人多出ケレハ伏兵起テ鐵炮ヲ打掛立ニ三八打伏セケリ是ヲ見テ間近ニ居合タル上方勢取合蒐來ル中村僅ノ人數ナレハ已ニ危ク見エシ處ニ出雲ノ國住人宍道五郎左衛門尉三百計ニテ蒐合京

勢ヲ追拂又高倉山ヨリモ中村式部少輔神子田半右衛門尉等二三百計馳集テ取圍中村宍道難儀ニ及ケル處ニ南條伯耆守元續小嶋左衛門進元清一千餘騎ニテ援來ルサレハ中國勢難通見エケレハ吉川繁澤兩手ノ者共馳加相戰南條並一條市助繁澤江田次郎兵衛尉山田出雪守カ郎等山田理兵衛尉同外記鍛冶屋市允佐伯五郎四郎吉田肥前守カ若黨瀨屋孫右衛門吉川手ノ者都野主水正境孫二郎湯頭助兵衛遠藤彌九郎足達彦左衛門小早川家人兼久内藏允等鎧ヲ合散々ニ相戰杉原盛重カ手ノ者渡邊左近所原彌太郎入江平内蒐付テ鎧ヲ合入江渡邊所原ハ敵突伏テ頸ヲ取吉川家遠藤彌九郎杉原カ手ノ者所原兵庫助討死ス爰ニ南條カ家人一人手ヲ負テ臥居ケルヲ星野越後守主ノ福島左衛門大夫正則ニ頸ヲ取セテケリ正則當年十八歲初高名トソ聞シ去程ニ敵勢重リ二萬餘リ上月ノ郷ヘ打下ス南條杉原宍道中村カ勢五千餘騎無難押立ラレ次第々々ニ跡退ニ見エケレハ杉原盛重嫡子彌八郎元盛二男次郎景盛吉田肥前守河口刑部少輔等ヲ相伴二千餘騎ニテ打テ出ル吉川勢モ今田中務吉川式部少輔山縣四郎右衛門森脇右衛門尉香川兵部少輔ヲ先トシ一千餘騎先陣ノ様體見計候ハントテ杉原ト一手ニ成テ打出ル是ヲ見テ大野三澤三刀屋古志益田佐波其外雲伯ノ勢一萬餘騎盡ク打出ル吉川治部少輔元長朝臣ハ兼テヨリ吉川式部少輔香川兵部大輔ヲ以杉原播磨守先手ノ合戦初ナハ火ヲ立ヨト云合セ給ハ迫合己ニ募ト火ヲ立タリ是ヲ見テ吉川元長舍弟左近尉元氏三男民部大輔廣家急キ打出給杉原兩條モ一手ニ加馳向戦ケリ脇々ノ小迫合ハ所々ニテ有ケリ吉田旗本勢モ思々ニ懸出谷々峯々ニテ戦ケリ高倉勢本道筋ノ合戦已ニ始リヌト見ケレハ秀吉ノ勢ハ云ニ不

及蜂屋氏家伊賀稻葉佐久間等打出段々ニ備扣タリ先陣ニハ中村式部少輔神子田半右衛門尉尾藤神右衛門尉大谷刑部少輔木下備中守宮田已下秀吉ノ郎等五千餘ニテ進出其跡ニハ黒田官兵衛尉同吉兵衛尉同兵庫蜂須賀彦右衛門尉一柳市介堀尾茂介等三千計ニテ備タリ其跡ハ信長卿ノ援兵都合四萬餘騎元春ヨリモ軍使ヲ以軍ノ下知ヲナシ給フ元長總軍ニ下知シ上月川ヲ隔テ矢軍始リ已ニ中國勢勝色ニ見エタレ昨昨日ヨリ今朝ノ曉方マテ大雨頻リニ降リシカハ上月川ノ水濁テ然モ水カサ増リ渡シカテ諸軍士少猶豫シケル處ニ吉川廣家ト名乗テ一番ニ川ヘ打入給吉川勢吾モトト打渡ル元長元氏見給テ廣家ウタヌ者トモトテ士卒ニ先立テ乗入給間杉原南條等負シ劣シト懸入テ渡ケレハサシモノ上勢モ此威ニ蹴立ラレテ先陣颯ト引タリケリ黒田官兵衛尉同吉兵衛尉同兵庫助福島左衛門大夫蜂須賀彦右衛門尉一柳市介堀尾茂助宮部善乘坊加藤虎助同左吉ナト馬ヲ一面ニ立並馳來ル元長サイハイヲ揮上給ヘハ皆一同ニハラハラト居敷テ弓鐵炮ヲ打懸射懸ケル程ニ上方勢馬上ヨリ多討落シサシモニ勇ミタル上方勢モ懸レケレト計ニテ蒐モセス一所ニ馬ヲ乗居テ漂所ヲ見澄シサテ懸レト元長下知シ給ヘハ杉原吉川勢一手ニ成テ突懸ル京勢押立ラレ三四町程引退敵引ハ押太鼓ニテ靜ニ進敵突掛レハヨリ敷テ二三度ホトモ迫合シカ終ニ上勢押立ラレ高倉山ノ麓マテ二十餘町ソ引タリケル秀吉ノ本陣其外筒井以下ノ人々味方利ヲ失引退ト見エタルソアレ助ヨト後陣ノ大勢押立ル是ニカヲ得テ高倉山下マテ引退タル先陣取テ返シ馬一面ニ立並中國勢モ杉原吉川勢眞先ニ進ミハラト下敷テ弓鐵炮ヲ先ニ立散々ニ射ル互ニ矢軍計ナリ折節荒木

攝津守中國勢ノ備タル山上ニ有ケルカ中國ヘ志ヲ通シケレハ下シ合ル事モ無又宇喜田カ陣ト高倉トノ中間ニ少高キ峰有尾崎續キケレハ彼峰ヘ舉上リ秀吉ノ本陣ヘ切懸ナハ秀吉ノ本陣モ突崩サテハ有ヘキニ宇喜田ハ上方ニ心ヲ合タリシカハ時ノ勝負ヲ窺テ空嘯テソ居タリケル吉川駿河守元春小早川左衛門佐隆景ハ城ヲ圍諸陣ヲ堅ク守リ備中備後ノ勢共ヲハ一人モ出シ不給角テ中國勢高倉山ノ麓マテ京勢ヲ追詰テ山上ヲ見上レハ羽柴秀吉モ陣々ヲ稠ク構惣勢ハ山半腹マテ下リ谷セ扣タリ其外惟任筒井伊賀稻葉蜂屋已下ノ人々一勢々々打出テ扣タリ中國勢モ足輕ヲ先ニ立弓鐵炮ヲ射掛テ時ヲ移ノ扣タリ大谷刑部少輔神子田半右衛門尉尾藤神右衛門已下七千餘騎足輕ヲ先ニ進セテ面モ不掉進タリ元長是ヲ見テサイハイヲ上給ヘハ眞先ニ進タル民部大輔廣家左近尉元氏杉原盛重同元盛同景盛吉川手勢今田中務少輔吉川式部少輔香川兵部大輔等其外伯耆住人吉田肥前守牛尾大藏左衛門已下ヲ先トシテ足輕等ニ至マテ皆破落利ト居敷或田ノ畔ニ腰打掛テ鍵銃炮ヲ膝ノ上ニ引掛敵ノ懸ルヲ待居タリ敵モ馬ヲ乗入ントシケレモ懸不得繼ヲ揃テ扣タリ其中ニ大谷刑部少輔ハ唯一騎遙ニ味方ヲ離テ出ケルカ敵ノ備ノ虛實ヲ窺ントヤ思ケン馬ヲ懸廻々々シテソ歸リケル斯テ中國勢アマリニ深入リシテ退難ク見エケレハ天野紀伊守隆重武者三百許引具ノ後ノ山ヘ打上山ノ後ヨリ大人數ノ出カ、リタル體ニ見セテ味方ノ機ヲ助ケル自身ノ小勇ヲ闇能謀ヲソセラレケル穗田治部大輔元清モ杉原ヨリ右ノ方ヘ打出給フ折シモ高倉山ノ茂リノ中敵數多隱居テ鐵炮頻ニ打ケルカ後ハ麓ヘ下テ散々ニ射タリケルヲ元清鍵先ヲ揃テ咄ト喚テ懸リ給ヘハ敵一

支モ不支蜘蛛ノ子ヲ散ス如颯ト引テ元ノ茂リヘ逃入ケル兒玉小次郎ハ輝元朝臣ヨリ上月表ノ様體無心許トテ轉與三右衛門尉ヲ物頭トシ鐵炮三百餘挺相添指遣サル兒玉高倉山近ク打出ケルニ敵モ堤ヲ楯取テ鐵炮ヲ打カクル小次郎動スレハ突懸ラント勇ケルヲ今暫待ヨト傍ニ在ケル若林藤兵衛尉ヲ摺テ取テ扣ヘシケルカ能時分ソ早懸レトテ免シケレハ兒玉鍵打掉テ突懸相隨者共モ我不劣ト懸ケレハ敵不堪逃去小竹ノ一村有ケルヲ楯ニナソ居タリケル兒玉續テ追蒐藪ヲ中ニ隔テ相戰中ニモ藪内匠ト名乗テ兒玉小次郎ト鍵ヲ合火出ルホトソ突合タリ若林モ眞先ニ進出敵數多突捨ケリ菅田三郎左衛門尉太刀ニテ渡合ケルカ敵ニ股ヲ突レナカラ其鍵引クシキ取タリケリ角テ高倉山ノ大勢突ト下シケル程ニ山モ崩計也中國勢少モ不臆主討レ不顧親死スレ不助乘越ハ手越相鬪次第ニ敵ヲ追詰テ勇進ム處ニ秀吉ノ本陣ヨリ崩立テ逃テ行サレ先陣ハ堅固ニ立設練曳ニ一段ツ、引所ヲ中國勢乘勝弓鐵炮太刀鐵ニテ追蒐々々討捨ル吉川廣家杉原元盛景盛ハ何處迄モ追詰ント頻ニ勇進マレケレ元長逐北モ所ニ依テスル事ナリ加樣ノ所ハ長追ハセヌ者ソト制シ止ラレケリ京勢山上遙ニ逃上レハ中國勢モ打入ケリ上方ノ軍勢ト初ノ合戰ニ一鹽付タリト悅勇ヌ者ソ無角テ京勢同廿九日ノ拂曉ニ上月表ヲ敗軍ノ書寫山マテ引退ク去程ニ播州嘉子川ニ御座ケル信忠信雄信孝卿ハ此儘歸ンモ面目無ヤ思ハレケン神吉ノ城ヘ押寄一時攻ニ乘崩ントシ給ヘモ神吉民部モ去勇士ナレハ散々ニ射立寄手々負死人二三百人ニ及ヌ其後ハ攻口ヲ甘ケ仕寄ヲ付勢樓ヲ組上テ次第々々攻ラレケリ神吉心ハ勇ケレ味方僅千餘人敵ハ八萬餘ノ軍士ナレハ防

クトスレ不適ノ降參ヲ乞ケレハ子細非シト領掌シ方便テ城ヲ喚出打果ソソ捨ラレケル上月城沒落事付殺山中鹿助事

去程ニ尼子左衛門尉勝久ハ杖柱トモ頼レタル羽柴筑前守荒木攝津守其外後詰ノ歷々悉引退ケレハ網裏ノ魚ノ如ニ成ニケル山中鹿助ヨリ元春朝臣隆景朝臣ヘ今度當城籠城ノ儀全勝久所存ニ非神西三郎左衛門カ所爲也彼者自害サセ可申勝久已下一命ヲ被助候ヘカシト再三懇望シケレ承引シ給ハサレハ鹿助勝久ニ向今ハ無力御腹召レ候ヘ自モ御供可仕候ヘトモ不顧耻辱降人ニ出何トソ元春ニ近付刺違勝久ノ讐ヲ報セント申ケレハ勝久我ハ抖擻行脚ノ身ト成テ生涯ヲ可送處ニ其方ノ依芳志一度尼子ノ大將ノ號ヲ汚ス事生前ノ本懷不_レ過之唯今角成事弓矢智謀ノ不足ニ非天運不遁所也如何ニモ命ヲ全シ時節ヲ窺揚義兵尼子ノ家再興コソ何ヨリ以ノ忠勤タルヘケレト宣七月三日勝久自害シ給ヘハ尼子助四郎加藤彦四郎切腹ス神西三郎左衛門ハ一日先立テ七月二日ニ自害シタリ此人々ノ首ヲ敵陣ヘ送ケレハ城中ノ者悉命ヲ被助ケリ其後山中鹿助ハ降人ニ成テ出タルカ元春朝臣ヘ對面ノ時差違ント兼日工シニ一間隔テ對面シ給ヒ殊ニ番衆稠目ヲ付ケレハ思ニハ不似打過ケリ其後粟屋彦右衛門山縣三郎兵衛ヲ差添藝州ヘ差下給處ニ可討果之旨天野紀伊守カ嫡子中務元明ニ被仰付シカハ備中國阿井ノ渡ニテ鹿助カ家人ヲハ悉先ヘ渡シ鹿助ニハ後藤柴橋ト云者唯二人付置ケル鹿助川端ノ岩ニ腰掛居ル處ヲ河村新左衛門ト云大剛者時分ハ能キト思ヒ後ヨリ丁ト切サスカノ鹿助不_レ思寄折ナレハアツト云テ下ナル河ヘ飛下ル處ヲ河村續テ飛タ

リケリ福岡彦右衛門モアタリニ徘徊シケルカ此由ヲ見テ飛下鹿助カ頸ヲソ取ニケル立原源太兵衛ハ忍テ上方へ上リ蜂須賀彦右衛門ヲ頼居ケルトソ聞エシ

宇喜田直家心替事

天正六年宇喜田和泉守直家ハ信長卿御味方可仕ノ通密ニ使ヲ以申通シ上月合戦ノ時ハ病氣ト稱シ舍弟七郎兵衛尉忠家々ノ子明石長舟已下差出シ上月落去ノ後直家彼表へ打出元春父子隆景へ上月没落ノ述嘉詞此勢ニ乘同國館野ノ城ヲ責落サレナハ上方御發向ノ通路可宜ト頻ニ進メ申ケリ元春朝臣ハ宇喜田カ振舞無心許思レケレハウカト館野マテ打上ラシ事如何可有ヤト宣ケレトモ隆景朝臣様々評定アツテ上月ヲ立テ黒澤表へ赴キ給フ元長ハ備中ノ松山ニ輝元朝臣御坐セハ上月合戦ノ趣委申サンタメニ被差下角テ直家ハ明石飛驒守カ家城八幡山ニ陣ヲ居元春隆景ヲ方便饗應ニ事ヲ寄兩將ヲ可討果トシケルニ八月二日ノ夜明石飛驒守ヨリ舍弟勘次郎ヲ以右之赴兩將へ密ニ告ケレハ先此陣ヲ引拂重テ勢ヲ催宇喜田ヲ可討果トテ八月三日マタ東雲ニ元春隆景ヨリ直家へ以使當陣唯今開陣候重テ令發向可對面ト云遣備ヲ堅メ引拂給へハ直家ハ謀略徒ニソ成ニケル元春ハ後陣ヲ堅メ陸路ヲ退給フ隆景ハシヤクシノ浦ヨリ船ニテ退給ケリ

南條兄弟逆意事

南條伯耆守元續ハ尼子家ノ浪人福山次郎左衛門ト云者勸ケルハ信長卿武威日ニ盛ニシテ肩ヲ並フ者ナシ毛利家モ終ニハ爲信長卿可被亡サアラン時ハ毛利ニ屬スル輩ハ根ヲタチ葉

ヲ枯サン事不可有疑早毛利一味ノ志ヲ變シ信長卿幕下ニ屬シ給ヘト利ヲ責テ云ケレハ元續尤ト同シ兄弟小鴨左衛門尉元清其外南條備前守同九郎左衛門山田越中守已下家子郎等ヲ集如何可有ト僉議アレハ何モ此儀宜カラント同シ信長卿へ屬幕下可遂御馳走ノ通羽柴秀吉マテ云送リケリ元春朝臣此趣聞給大ニ忿即山田出雲守ヲ藝州へ呼寄南條心替ノ由無其隱汝不知ヤト宣へハ山田驚テ此段露モ不存旨天神地祇ヲ驚起請ヲ書テソ差上ケル然ハ南條兄弟ニ加諫言福山ヲ討テ出セヨト有ケレハ應其旨急伯耆ニ立皈ケレハ福山次郎左衛門無心許ヤ思ヒケン山田カ館へ越ケルヲ出雲守常ヨリモ昵ク過來シカタノ物語ナトシ相圖ヲ定山田十右衛門ニ目クハセシケレハ十右衛門打物ノ達者ニテ抜打ニ丁ト切其刀不引内出雲カ嫡子内藏人續テ切タリケレハサシモノ福山モヤミト討レケリ因茲南條兄弟出雲カ館へ押掛折節勢ナカリケレハ戰ハントスルニ無便一方ヲ打破藝州へコソ退ニケリ

美作國所々ノ城没落事

天正七年宇喜田直家信長ニ一味セシカハ渠カ領國ヲ攻取ント二月初旬輝元元春元長廣家隆景其勢三萬餘騎作州へ發向シ宇喜田カ所々ニ勢ヲ入置城々ヲ取圍マル同九日大寺畑小寺畑へ仕寄ヲ付攻近付ケレハ敵不叶トヤ思ケン小寺畑脱甲降人ニ出ル廿六日大寺畑ヲハ仕寄ヲ付テ攻ケレハ此由ヲ聞テ砥石山ノ城ハ不攻明退ヲ吉川勢早懸付數十人討取ケリカ、リシ處ニ大寺畑ノ城中ニ反逆人出來高田ノ城ニ居ケル檜崎彈正ニ相圖ヲシテ城中ノ固屋ニ火ヲ懸レハ檜崎一番ニ懸付切岸へ著是ヲ見テ吉川勢モ急切岸マテ寄タリ城中ノ兵トモ稠射立

防ケルカ皆落ントヤ思ケン門外へ出タルヲ宇喜田カ加勢富山半右衛門制留ケレハ城中へ三
十人計入ケル者跡ヲ顧招ケル吉川衆味方人カト思彌攻寄レハ城兵是ヲ見テ矢先ヲ揃散々ニ
射味方モ手負多カリケレハ當城ヲ攻落ナリカタク先引退其後仕寄ヲ間近付ケレハ江原兵
庫助城ヲ明テ篠吹へ落ケルヤ當城モ明退又岩屋ノ城モ明退ケレハ頓テ宮山ノ城ヲ取圍ル或
時城兵七百出ケルヲ元長一千餘騎ニテ打出給へハ敵忽引退元長彌押詰門前マテ攻寄タリ城
兵モ堅固ニ防ケレハ元長下知シテ段々ニ備引給其後當城モ明渡備前へ落行ハ三家ハ藝州へ
歸陣シ給ケリ

安西軍策卷第五終

安西軍策卷第六

伯州長郷田合戰事

天正七年吉川元春ハ八橋ヨリ藝州新庄へ飯陣シ給處ニ宇喜田和泉守直家二萬餘騎ニテ美作
へ發向シ又荒神山ヲ取誘祝山升形ヲ攻ントスル由到來アリ即八千餘騎ヲ卒シ同八月二日美
作國へ赴給所ニ直家美作表ヲ引佛備前岡山へ打入タリト告來ケレハ四十曲ノ邊ヨリ引返
シソレヨリ雲州富田へ立越伯州表ノ様體窺給ニ南條兄弟カ逆意已ニ露顯セシカハ同月九日
元春元氏廣家父子三人其勢八千餘騎ヲ率シ雲州富田ヲ打出東伯耆羽衣石ノ麓稻薙ノ爲ニ打

出給ヒ夫ヨリ八橋ニ著給へハ由良ノ城ニ楯籠タル一條東市助城ヲ捨テ羽衣石へ逃入ケリカ
ハリシカハ由良へハ杉原播磨守盛重ヨリ木梨中務ヲ入置ケリ同十三日元春父子三人茶磨山
へ本陣ヲ被移ケレハ先陣トシテ杉原盛重嫡子彌八郎元盛二男又次郎景盛並盛重カ與力穴道
五郎兵衛尉正義其勢二千五百餘騎長郷田表へ打出民屋ヲ放火シ稻薙捨ケリカハリケル所
ニ南條備前守カ嫡子九郎左衛門二千餘騎ニテ打出タリ是ヲ見テ因幡國ノ住人武田源三郎五
百騎同ク續テ備タリ南條元續ハ元春自大將トシテ發向ト聞家人トモニ云ケルハ敵ハ定テ一
二萬騎モ可有吾勢ハ因幡ヨリノ加勢ヲ添タリトモ三千四百ニハ過マシ怒ナル一戰シテ敵
ニ利ヲ付ンヨリハ唯城中ニ籠居城ヲ不被落ヲ勝ニシ信長ノ後詰ヲ待受ン事コソ勝ヲ全ス
ル謀ナルヘケレト云ケレハ諸侍皆最ト同ケル所ニ南條九郎左衛門進出テ云ケルハ元春ナレ
ハトテ鬼神ニテモ有マシ杉原今度モ定テ先陣タルヘシ己カ勇ニ誇テ後陣ヲモ不待一文字ニ
長瀬川ノ流ヲ渡ラン處ヲ渡口ニ馳向ヒ河水ニ追込可討取先陣破ナハ如何ニ猛元春ナリ
機ヲ失テ一戰成マシ若亦元春二ノ合戰ヲ旗本ヲ以テセラレハ是コソ庶幾所ナレハ十死一生
ノ合戰ヲ可遂又盛重思シヨリモ猛勢ニテ而モ備堅固ニシ味方難叶覺ナハ勢ヲ輕々ト引入
山上ニ備ヘシ若元春ノ本陣ヲ不得破ハ杉原カ一手ヲ追散其儘颯ト引城中へ引入城堅守へ
シ毛利家へ對逆意ヲ企ル程ノ者元春初テ當城へ働ル、時一戰モセス山下ヲ放火セラレ城中
ニ振ヒ居ル程ニテハ何トノ元春ニ對シ一日片時モ堪ヘキ今日ハ手痛一合戰スル所ナリ吾ト
思ン者ハ一味同心セヨヤトテ其座ヲ寸ト立テ緋威ノ鎧着月毛ノ馬ニ打乗郎等百餘人召具シ

出ケル間南條家ノ兵トモ吾モノト付隨皆長郷田表へ打出ケリ去程ニ杉原父子三人並宍道カ手ノ者トモ長瀬川ヲ隔テ鐵炮ニテセリ合ケル中ニモ宍道カ郎等寺本市佑ナト眞先ニ進テ散々ニ射ケレハ敵已ニ引色ニ見エタレハ杉原兼テヨリ川ヲ渡シテ一戰セント思ケレハ半途ヲ打レシト勢ヲ三手ニ分テ渡セト定置馬上ニ團扇ヲ打振テ敵ハ早引ト見エタリ渡セヤ者トモト下知シケレハ上ノ瀬ハ宍道中ノ瀬ハ杉原父子三人下ノ瀬ハ吉田肥前河口刑部少輔ナト川水へ颯ト打入渡シケル南條勢已ニ引色ニ成ケレハ九郎左衛門馬ヲ乘廻シ敵ハ小勢ニテ而モ後陣勢不續ソ懸レタト下知シケレトモ上中下ヨリ渡ケル間不叶シテ引退ケリ南條元續廣瀬若狹守ニ汝ハ九郎左衛門今日無二ノ働シテ討死スルコトヤ有行テ制セヨト遣ケルカ味方盡引ケレハ口惜トヤ思ケン只一人馬上ニテ下知シ引味方ヲ制ケレトモ耳ニモ聞入サリケレハ廣瀬若狹守ト名乗些モ不引シテ居ケルヲ吉川勢ニ大草新右衛門尉走懸廣瀬カ高股寸ト切テ落セハサシモノ若狹守馬ヨリ眞逆ニ落タリサレトモ大剛ノ者ニテ寐ナカラ太刀ヲ拔テ大草カ膝口シタ、カニ薙大草薙倒サレ起ントスル隙ニ杉原カ手ノ者安原民部少輔討テケリ先陣引ケレハ後陣ノ武田モ山上ヨリ引ニケリ南條カ者トモ川ニ添テカケ路へ逃カ、リ爰彼所々ニ追詰討レニケリ南條九郎左衛門ハ能節所ニテ取テ返一戰セント引テ行ケルカ亂立タル味方ナレハ如何ニト下知スレトモ返ス事ナク今ハ無力討死セハヤト思ヒ羽衣石ノ麓柵ヲ結タル所ニテ取テ返シタリケルヲ杉原カ郎等久津摩市佑渡シ合討テケリ吉川衆小坂次郎兵衛ハ大力ニテ追掛レハ敵鎧ニテ取テ返シ鬪ケルヲ打伏タリ同手ノ境七郎左衛門朝枝新

兵衛三刀屋カ郎等羽倉右吉己下能頸打テ差上タリ杉原カ手ニモ菊池肥前守進孫次郎佐田彦四郎同小鼠己下分捕ス己上頸數百五十餘トソ聞エシ吉川又次郎廣家ノ手ノ者合戰終テ馳來今日ノ合戰ニ不逢事口惜シ羽衣石ノ固屋燒拂ントテ行ケルカ一條市助カ者トモ打テ出ケルヲ押込數人討取味方モ井下源七郎小谷四郎次郎討レニケリ爰ニ杉原カ郎等菊池肥前守カ嫡子同名左近十三歳ヨリ分捕高名數ケ度シタリケレトモ唯父ノ肥前守カ取タル頸ヲ與ツランナト云テ人不信左近是ヲ口惜ト思ケルカ今度ハ父トハ不伴佐田小鼠ト一所ニ赴テ南條カ郎等一條新五郎ト渡合切伏頸搔切テ郎等ニ持セ飯ケル日來口ノ惡安原民部入江大藏盛重ノ本陣へ行ケルニ丁ト行逢タリ安原屹ト見テ如何ニ菊池殿今日ハ分捕シ給ハス候ヤト詞ヲ掛ケレハ左近郎等ニ持セタル頸提兩人ノ前へ抛出シ是ヲ見給一條新五郎ト名乗テ候ヲ切伏頸取テ候證人ハ佐田小鼠ニテ候父ニ付テ廻ラ子トモ高名ハ仕テ候トソ云タリケル

備中國忍山城沒落事

宇喜田直家美作ノ國ニ於テ數ケ所ノ城ヲ攻落サレ數百軍兵討果サレテ無念ニ思ハレ忍山ニ同名信濃守岡剛介ヲ入置イカニモシテ毛利家ニ冤ヲ可成由聞ケレハ先忍山ヲ攻落サントテ同十一月中旬ニ輝元元春元長元氏廣家隆景二萬餘騎引卒ノ備中へ出張シ忍山ヲセメント議シ給宇喜田岡究竟ノ兵一千餘騎打出ケレハ廣家願所ト思鐵炮一通リ打セテ其マ、馬ヲ懸入給へハ岡モ廣家ヲ見カケ攻戰サレ共廣家少モ不驢諸軍士ニ下知ヲ加宇喜田岡ニ目ヲ掛討テ懸リ給間信濃守一戰ニ打負城中サシテ引退然ニ廣家手ノ者其夜忍イリ城ニ火ヲ付一番ニ攻

入給へハ輝元ノ旗本小早川勢其外中國ノ兵トモ我先ニト切人ハ城中周章サハキ討ル、者五百三人也信濃守岡モツイニ討死シ殘者トモハ悉皆落行ケリ

羽衣石向城并津葺城合戦事

天正七年去程吉川元春同元長同廣家羽衣石ニツケ城ヲ築ントテ伯州へ打出數ヶ所ノ城ヲ被構先高野宮ノ城ニ山田出雲守松カ崎ノ城ニハ小森和泉守條山ニハ岡本大藏田根兵部少輔又南條元清カ籠タル岩倉ノ向城ニハ宇津葺ニ二宮木工助羽根兵庫助元安牛尾大炊助北谷刑部少輔島田ニハ正壽院ノ利安小鴨四郎次郎等ヲ被差籠元春父子ハ藝州へ打入給ケレハ南條兄弟宇津葺ノ城へ押寄攻破ントテ南條伯耆守元續同左衛門尉元清等三千餘騎ヲ引卒シ宇津葺ノ城へ押寄頻ニ大鼓ヲ打再拜ヲ打振テ懸々ト下知シケレハ曳々聲ヲ上テ進ム城中ヨリ羽根牛尾北谷並ニ元春ヨリ檢使二宮木工助等散々ニ射立突出ケレハ敵一堪モ不堪颯ト引處ニ牛尾大炊助卯山善四郎敵ノ跡ヲ慕付送レハ南條カ郎等一條猪助取ケカヘシ牛尾ト散々ニ突合ケルヲ卯山善四郎馳寄テ一條カ胸板シタ、カニ突ケレハ下ナル河へ落ニケリ水中ニ溺死スルカト見ル處ニ一條游飯如何ニ牛尾卯山等先刻ノ鏖ニ勝負ヲ不付事ノ口惜サニ又來タリト云牛尾卯山敵ハ一人己等ハ二人ナレハイサミ進テ渡合火出ル程戰ケルカ終一條討レニケリ城中ノ者トモ南條又昨日ノ鬱憤ヲ散セントテ寄ル事モヤ有ント山下ニ柵ヲ結ケルトコロニ南條カ組頭赤木兵大夫カ嫡子大力ト云者攻馬シケルカ餘ニ口ノ強カリケレハ一文字ニ菟破リ柵ノ木結ケル處へ來リケルヲ數人寄合馬ヨリ引下シ討果ス城中ノ者トモ南條ト初度

ノ合戦ニ勝利ヲウルノミナラス又角不思寄敵ヲ討事軍神ノ加護有トソ勇ミケル

伯耆國岩倉合戦事

天正八年正月岩倉ノ城主小鴨左衛門尉元清カ手ノ者島田ノ城ニ吉川ヨリ鈴川次郎左衛門小鴨四郎次郎北谷ノ正壽院ナト籠置レケルニ己カ勇ニ誇打テ出毎度敵ヲ追立ケレハ元清モ亦大勢岩倉ヨリ下シ合セ戰ケリ是ヲ聞テ元清カ勢ヲ待伏ヲシテ討取ント同二月廿二日吉川衆今田中務伊志源次郎ナトヲ先トノ四百餘人大宮ト云所ニ三ヶ所ニ伏兵ヲ置傍ナル山上ニハ森脇東市正ヲ置テ敵伏勢ノ上へ乘ラハ相圖ノ員ヲ可吹其員ノ聲ニ隨テ一度ニ起シ敵ヲ討取ントソ定ケル小鴨四郎次郎正壽院利安等足輕ヲ出シ敵勢ヲ招ケル處ニ又岩倉ノ城中ヨリ早雄ノ若者トモ二百餘人下シ追立伏勢ノ真中へ馳來ル森脇東市正時分ハ能ソト思ヒ相圖ノ員ヲ吹ケレトモ不鳴伏ノ兵凡相圖ノ員ヤナルト待ケレトモ更ニ不鳴ケレハ不起者モアリ亦ハ敵思處へ來レリ何ノ期ヲカ待ントテ伏ヲ起シテ切テ懸者モ有ケル程ニ思々ニ打テ懸ル敵小勢ナレハ一堪モ不、皆我先ニト逃ニケリ伏ノ兵モ勝ニ乘追懸事頻ナレハ忽岩倉ノ麓マテ追付タリカ、リケル處ニ小鴨元清ハ今日何トヤラン足輕迫合ノ様體無ニ心元トテ物見ヲ出ノ見セケレハ彼者走り飯アノ森ノ中ニ伏兵ノ候ト云ケレハ元清サレハコソトテ究竟ノ兵五百計眞黒ニ成弓鉄炮ヲ前ニ立テ味方ヲ助ント打下ス處ニ敵丁ト行逢タリ元清弓鉄炮頻ニ射懸打懸ケレトモ味方ニハ弓鉄炮一挺モ無リケレハ唯的ニ立テソ射レケル今田中務精兵ナレハ大弓ニ大鴈俣取テ番ヒ敵數多射伏ケリ矢種皆射盡シ今ハ唯矢三筒計殘ケルカ引シホリ

テ切テ放其矢石ニ立テ石火活ト出矢篋碎テ飛返ル敵弓精ニ膽ヲ消ス處ニ細田源允石ノ陰ニ
 伏テ見レハ今田矢取テ番ヒ引ツ、ミテ居ケルヲ見テアノ矢ヲ放タハ走り懸一太刀ニ打ン物
 ヲト思テ守リケルヲ今田肩先ヲ射切ケレハ是ヲ見テ續味方モ細田ヲ肩ニ引懸味方ノ陣ヘソ
 飯ケル今田カ傍ニ扣タル粟屋市佑今田中務仕タルト覺候ト高聲ニ名乗ケリ中務又矢取テ番
 ヒ引起サントスル處ヲ敵雨ノ降ヤウニ射ケルカ誰カ矢トカ不知今田カ頸ヲシタ、カ射ケリ
 サシモノ中務モ深手ナレハ其矢ヲ拔テ捨郎等ノ肩ニ掛リテ退ニケル粟屋市佑ト市川雅樂允
 カ郎等長峰彦兵衛尉二人ハ跡ニ堪ケレハ安部太郎右衛門尉ト名乗鍵打振テ懸ル二人ノ者ト
 モハ太刀ヲ以テ懸リ暫支テ戰ケレトモ後ヨリ大勢續ヲ見テ二人ノ者トモ安部ヲ少切立テ其
 儘引退ケル敵勝ニ乘追懸ルヲ見テ粟屋源藏敵ニ後ヲ見セシトテ取テ返大勢ニ渡合散々ニ戰
 ヒ數人突伏ケレトモ其身矢疵鏢炮疵數ヶ所蒙リ終ニ其所ニテ討レニケリ笠井作允モ同返テ
 討死ス朝枝與三太郎ハ兄源藏討死シタリト聞テ取テ返ス粟屋新三郎モ同ク返シ敵ノ真中へ
 懸入戰ケル與三太郎ヲハ安部太郎右衛門炮鏢ニテ打又新三郎ハ切死ニコソシタリケレ森脇
 大藏市川雅樂允佐々木豐前守内藤平左衛門返シ合々々敵數人打伏ケレハ是ニ依テ敵岩倉ノ
 城へ引入ケリ

牛尾鳥取城楯籠事

去程ニ山名大藏大輔豐國秀吉ニ居城ヲ被取圍秀吉へ降參スへキヤ否ト森下中村等ヲ近付
 此事如何ト有ケレハ先年尼子富田籠城ノ刻ヨリ元就へ可被屬之通以使云送リ給其後山中

鹿助尼子勝久ヲ大將ニ取立當國へ入刻忽毛利家一味ノ儀ヲ翻渠ニ一味シ給然所ニ元春隆景
 勝久退治トシテ當國私部ノ城へ發向ノ由其間候處ニ又尼子同意ヲ引替テ本ノ毛利家へ成替
 今又秀吉へ一味ノ儀口惜御事ト申ケレハ豐國實モトヤ思レケン秀吉へ同心無リケリカ、リ
 シカハ秀吉豐國ノ息女ヲ張付木ニ上セ鳥執ノ麓ニカケ豐國子共ノ命モヲシク又因幡一國モ
 望ナラハ能々思惟シ給へト云送ラレケレハ則使ヲ以秀吉ノ御味方ニ可參由被申ケルサラハ
 トテ息女ノ命ヲ助給豐國へハ纔ニ郡給リケリカ、ル表裏胡亂ナル大將ナレハ森下中村多恨
 ヲ合忽心替シテ藝州へ一味シ因幡一國ヲ切隨本領ヲ取返サント謀ヲ運シケレハ豐國無力鳥
 執ヲ逃出テ播州姫地ニ上リ羽柴秀吉へシカ々々ノ通ヲソ被申ケル斯テ豐國鳥執ノ城ヲ落ラ
 レケレハ森下出羽守中村對馬守使ヲ以元春朝臣へ大將一人給候へ御味方ニ參當國ヲ打隨可
 レ申ト有ケレハ元春朝臣則因州若佐ノ鬼カ城ニ牛尾大藏左衛門尉籠居ケルヲ先鳥執へ可入
 旨下知シ給間牛尾則鳥執へソ入ニケル牛尾頓テ敵ノ領分へ働所々ヲ放火シ一揆原多薙捨猛
 威ヲ振ケル爰ニ豐國諸寄ノ城ニ磯邊ノ某籠居ケルカ城中野心之者有テ牛尾ニ心ヲ合スレハ
 大藏左衛門即中村森下相其ニ一千餘騎彼城へ押寄切岸マテ付ケレハ城中ニモ究竟ノ兵數多
 籠居弓鏢炮透間モナク射出ケレレ牛尾少モ不疼手勢二百計ニテ無ニ切懸取出ノ曲輪一
 ツ乗破已ニ二ノ曲輪へ乗ントシケル所ヲ城兵散々ニ討捕ケル牛尾堀ニ手ヲ懸ケルヲサシ詰
 テ射ル矢ニ膝ノ節ヲ射レテサシモノ牛尾モ足不立ケレハ不及力郎等ノ肩ニカ、リ扇ヲ以
 懸レ々々ト下知シケレレ大將已ニ手ヲ負ハ諸卒モ不進得次第々々ニ引ニケリ牛尾手口甚

ク痛元春へ申斷湯治ノ爲雲州牛尾へッ飯ケルカ、リシカハ牛尾カ替ニ市川雅樂允ヲ鳥執へ籠ラレケリ羽柴筑前守秀吉商買舟數艘若狭ヨリ因州へ差下米穀ノ類ヲ日來ヨリ一倍二倍高直ニ買セラレケレハ森下中村是ヲ謀トハ不知俄ニ德福ノ付タル心地シテ蓄置タル兵糧盡クコソ賣ニケレ

吉川式部少輔籠鳥執井秀吉出張事

天正九年二月廿二日森下中村如何思ヒケン誰ニテモ御同名一人給候へ大將ト仰可申ト云送ケレハ元春朝臣今度ハ吉川式部少輔經家ヲ被差籠相隨兵松岡安右衛門尉森脇若狭守山縣筑後守同源右衛門朝枝加賀守武永四郎兵衛井下新兵衛井尻又右衛門高助左衛門長和三郎左衛門長岡信濃守野田左衛門大草因幡守舟手ヨリ野村藤藏同九郎左衛門其外國侍等モ宗徒ノ兵指添テ已上八百餘騎藝州ヲ立テ鳥執ノ城ニ籠ケレハ頓テ市川雅樂允ハ藝州へソ歸ケル又鳥執ヨリ一里ハカリ隔丸山ノ城アリ彼城ニハ山縣九左衛門尉ヲ大將トシテ差籠ラレ國方ノ侍ニハ奈佐日本助鹽冶周防守佐々木三郎左衛門ナト五百餘騎ニテ楯籠ル輕ノ湊ニ大船ヲカケ並タリ吉川式部少輔鳥執ノ城へ入テ見レハ兵糧會無シ因茲當城ニ籠處ノ軍兵ヒタ甲二千餘其外雜人凡男女四千ニ餘候二三ヶ月ノ養サへ續難覺候急度兵糧被入候へト元春へ注進シタリ又京都ニ山伏ヲ上セ置信長卿ノ謀ヲ窺セケルニ彼山伏鳥執へ下リ信長羽柴秀吉鳥執ノ城ヲ取圍へキ由下知セラレケレハ秀吉元春定テ後詰可仕候勢微ニシテハ叶間敷由被申候ニ付人數一萬餘騎御加ラル、由其間候ト告タリ因茲式部少輔急度兵糧差籠ラレ候へ秀吉當秋

出張必然ノ趣告來候當城ハ名城ニテ而モ究竟ノ兵二千ニハ及候兵糧サへ續ナハ容易ニ落サル、事有間敷ト頻ニ注進有ケレハ元春朝臣杉原盛重ニ下知シ給兵糧少々被差籠ケレ凡男女四千餘ニ及タル勢ナレハ中々一月ノ養ニモ不足大船ニテ兵糧可被入トテ大船四艘ニ八木積田中宗右衛門豐島源次郎有間又八白井藤次郎同新左衛門同七郎左衛門竹内新左衛門尉手島藤次郎等乘廻ケル處ニ丹後ノ警固舟百艘計夜半ニ乗カケ攻戰藝州ノ警固ハ小勢ニテ思モ寄サレ凡夜中ニ散々ニ戰ケルカ田中豐島有間手島白井藤次郎五人ハ打死ス竹内白井七郎左衛門ハ打拔テ飯ケリ同七月五日羽柴美濃守一萬餘騎ヲ引卒シ山見トシテ打出丸山ノ東ノ山ニ打上頓引取ケルヲ見テ城中ヨリ奈佐カ姪瀧三左衛門ヲ先トシテ足輕ヲ付遠矢射懸ケリ同七日卯刻羽柴筑前守六萬餘騎ヲ引卒シ打出鳥執丸山兩城一里計隔テ有ケルヲ一ツニ取圍給ケリ先秀吉ノ本陣ハ摩仁帝釋山ニ被居タリ西ノ方ニハ中村孫平次少阿彌山名大藏大輔木下備中荒木平大夫神子田半左衛門蜂須賀彦右衛門小寺宦兵衛尉木村隼人佐加藤作内東表ハ信長ヨリ付給一萬餘騎雁金山ニハ織田於萬宮部善乘坊備前ヨリノ援兵明石飛驒守長舟紀伊守福田五郎左衛門檜原監物宇喜田七郎兵衛岡越前守已下八千餘騎同續テ陣ヲ取又藝州ノ後詰ノ押トシテ秋里村ニ城ヲ構杉原七郎左衛門ニ一萬騎差添渡口ヲ押タリ又灘邊ニハ淺野彌兵衛警固舟三百餘艘カケ並テ扣タリ丸山ノ東口ニハ羽柴美濃守増屋隱岐守山名但馬守北ノ山ニハ垣屋駿河守磯邊秦龜井武田蓑部已下尺寸ノ透間モ無陣ヲ取己カ陣々ニ芝土手高ク築上ニ柵木二重三重ニ結廻堀ヲホリ壁ヲ付矢間繁ク切夜ハ一間二間ニ挑灯一ツ、掛置ケリ城中

ノ兵足輕ヲ出シ敵ヲ招ケレハ秀吉堅制セラレケル間出合兵モ無唯陣中ヨリ鐵炮打出ス計也
城ノ兵モ敵陣ノ間ニ袋川アリテ渡ル事成難カリケレハ間近ク寄事ヲ不得斯テ城中兵糧乏カ
リケレハ此由藝州へ急ヲ告ントテ城ノ兵ノ中ニ水練ノ達者ヲ撰袋川千谷川ヲク、リ通路
シケルヲ敵早聞付川水ニ網ヲ張所々ニ鳴子付置ケル間水中潜者五人搦テ皆頸ヲコソ刎ラレ
ケレ秀吉出張ノ到來未藝州へ無リケル中ニ元春朝臣有地右近新見左衛門尉ニ鳥執へ兵糧ヲ
入候へト下知シ給ケレハ兩人大崎マテ打出敵陣近ク運寄透間ヲ窺兵糧ヲ入ントシケレハ敵
陣ノ構手ニ可及モ無レハ兵糧見續へキ様ナク有地新見纔三十餘町隔兩三日陣ヲ居ケレ共
敵モ敢テ不取合此儘ニテ日ヲ送シモ無曲討死ハスヘキ所ニ非サレハ空ク本ノ道ヘソ歸ケ
ル斯テ城中糧盡ケレハ籠城ノ雜人共城ノ尾崎へ出テ草木ノ若葉ヲ摘ケルヲ見テ秀吉ノ本陣
ヨリ早雄ノ者共カケ合雜人等少々打取ケル是ヲ見テ因幡衆尾崎某ト云者翌日待伏ヲ敵ノ
來ルヲ待處ニ又其日モ雜人等ヲ討ント寄手尾上へ上リ來ルヲ尾崎不圖伏兵ヲ起シテ切テ懸
ル敵一怵モ不怵引ケレハ我先ニト打出ル中ニモ進ケル兵出ノ畔ニ銃炮持セ待處ニ尾崎不意
ニ行カ、リケルヲ敵鐵炮ヲタメ居打ントスルヲ見テサシモノ尾崎モセン方ナク立タル所ヲ
敵思ノ外ニ打外ケレハ尾崎走カ、リ先ノ鐵炮打ヲ討取ケリ吉岡ノ城ニハ吉岡入道質休嫡子
安藝守二男右近纔三百餘騎ニテ楯籠無二ノ毛利方也ケレハ秀吉ノ猛勢ニモ不慮夜々忍討ナ
トシケルカ或時敵陣へ忍入敵數多討取ノミナラス多賀文藏ト云者ノ指物ヲ取タリ吉岡纔
ノ勢ナレハ誰ニテモアノ城蹴破へシト秀吉宣ケレハ多賀文藏進出テ某甲向へシト申ケルサ

ラハトテ究竟ノ兵三千餘騎文藏ニ被差添ケリ秀吉ノ瓢箪ノ馬印ヲ給舟ノ舳ニ推立テ湖水
ヲ渡城ノ地ニ着シカハ舟ヲ頓漕尻シヌ秀吉又勢ヲ渡サント數千人汀へ打出待セラル文藏ハ
鐵炮百挺先ニ立城ノ矢間ヲ射閉其跡ヲ七百餘人鑿長刀ヲ揃攻上リ一度ニ堀ヲ乘破ラント進
タリ是ヲ見テ安藝守右近等已ニ突出ントシケルヲ父ノ入道暫可待我矢倉ニ上リ時分ヲ計へ
シ我再拜ニ付テ出ヨトテ我身ハ矢倉ニ上リ敵ノ様體見計態鐵炮ヲモ不打ケレハ敵心安堀ノ
手へ付タリケリ入道時分ハ能ソヤ早懸レト云ケレハ構置タル弓鐵炮一度ニ打懸ルト齋ク安
藝守兄弟近藤七郎兵衛大杉ノ某ヲ先トノ二百餘人驀直ニ突テ出敵周章騷真先ニ進タル兵二
十餘人突伏文藏コハ後タリトテ二百餘人渡合所ヲ按ニ按ンテ攻戰是ヲ見テ引色ニ成タル兵
取テ返シ戰ケレ共勇進タル吉岡勢彌進テ攻シカハ寄手多討レテ殘少ナニ成ケレハ堪カ子湖
水ノ中へ飛入テ死者數ヲ不知中ニモ吉岡右近ハ瓢箪ノ馬印持タル者ヲ打取ケレハ秀吉大ニ
怒湖水ノ汀ヲ蒐廻ラレケレトモ水面數町隔タル事ナレハ甲斐ナシ安藝守有岩ノ上ニ立テ水
練ノ者ヲ湖水へ入テカツカセ死骸ヲ取上七百餘人カ頸ヲ取テ勝鬨ヲ上ケ湖水ノ端ニ竿結渡
シ頸掛并同瓢箪ノ馬印ヲモ立置頃天下無雙ノ弓取羽柴秀吉ヲ討タリ其支證ニハ馬印是ニ有
トテサモ高聲ニ言ケレハ其時文藏岩ノ陰ヨリ這出テ當城へ馳向タル兵ノ大將ニテ候カ瓢箪
ノ馬印ハ某甲給リテ罷向候也秀吉ノ射レ給タルニハ非トシ云ケル文藏深手負ケレハ今ハ遁
所ナシ我頸打給へトテ打セケリ吉岡ハ文藏カ頸其外宗徒ノ頸三十餘又捨置タル鑿長刀二十
餘并瓢箪ノ馬印ヲ元春朝臣へ送ケル秀吉ハ兵數多討レ大ニ嘖リ給ヒ羽柴七郎左衛門龜井

武藏守ヲ大將トシテ二千餘騎ヲ差添尾頭へ押寄ケルヲ城中ノ兵共切テ出敵追拂能兵十七人討取ケリ龜井武藏ハ危命助テ引退ケレハ秀吉イヤ無詮所ニテアタラ兵多失テヨシナシトテ其後ハ此城へ働給事モ無リケリ鳥執没落ノ後羽柴七郎左衛門尉扱ヲ以城ヲ渡シ吉岡父子ハ伯耆國へソ越ニケル去程ニ鳥執丸山ノ兩城堅固ニ抱シカハ寄手猛勢ナリト云へ共可攻落ヤウナク羽柴美濃守藤堂與右衛門ニ向汝使ヲ以扱ヲ入城ヲ請取命ヲハ可助ト云送敵ノ心ヲ引テ見ヨト宣シカハ藤堂承候トテ阿字戒源太兵衛尉ヲ使トシ丸山ノ城へ遣シ當城無異儀被明渡候ナハ一命ヲ助伯州マテ送付可申ト云セケレハ吉川家來境與三右衛門尉森脇次郎兵衛尉二人ハ當城普請ノ爲ニ居ケルカヒタト取卷レ可出ヤウナク籠居ケルカ二人走向藤堂殿ノ御使者是へ御入候へ山縣九左衛門尉直ニ御返事可申候ト云ケレハ阿字戒是ハ一大事ニ及ナンヤト思ケン頻ニ辭退シケレ共是非内へ御入候へト請スル間不及力門ヨリ内へ入ヌルヲ境ヒタト抱ケハ森脇モ續テ抱付阿字戒ヲ搦捕切岸へ引出シ藤堂殿へ御返事申サント呼リケレハ敵陣ヨリアレキケトテ人數多出タリ境與三右衛門高聲ニ山縣九左衛門申候ハ先刻ノ使者ノ口上ノ趣具ニ承候阿字戒殿へ申含爲御禮御使一體分身セシメ返申候也トテ頸中ニ打落シ切岸ヨリハ子落ケリ敵是ニ腹ヲ立其ナラハ一人モ助問敷トテヒタト近陣ヨセ井合次郎右衛門藤堂與右衛門夜廻仕ケルヲ境與三右衛門繩取合セ藤堂ヲシタカニ突タリケレハ與右衛門手ハ負ナカラ辛命助飯リケリ角テ數日ヲ經ケルニ丸山ノ半腹ニ狼一疋走出ケルヲ寄手鐵炮ヲ搦打ケレハ狼又林中へソ入ニケル羽柴美濃守ヨリ城中へ以使當山ニ狼

一疋籠居候御人數ヲ被出候へ自是モ出シ長陣ノ子フリ覺シニ狼狩ヲ可仕ト云ケレハ山縣承候トテ即城ヨリモ人數ヲ出シ即時ニ狼ヲ討殺美濃守彼狼ヲ二ツニ切頭ヲハ我獲ニシ尾ノ方ヲハ城中へ美酒十樽折十合添テ送ラレケリ城中ヨリモ返禮セントテ鐵炮ノ玉藥折ニ積テソ送ケル角テ城中兵糧盡テ飢ニ及シカハ奈佐日本介鹽冶周防守佐々木三郎左衛門切腹シ城ヲ明テソ渡ケル

兩城扱付式部少輔已下自害事

去程ニ秀吉ヨリ堀尾茂助ヲ以吉川式部少輔へ云送ラレケルハ去ヌル七月已來互ニ諸卒ヲ勞シ徒ニ數日ヲ送候然ハ令和睦藝州勢式部少輔ヲ初一人モ不殘歸シ申へク候又森下中村佐々木鹽冶等ハ山名豐國普代相傳ノ家人トシテ己カ身ヲ立ントテ主ヲ追出ス事前代未聞ノ儀也奈佐日本助ハ海賊ノ張本ニテ往來ノ舟ヲ切取諸人ヲ惱ス大惡人ナレハ是等ヲハ頸ヲ刎諸人ノ見懲ニセント有ケレハ城中ヨリ野田左衛門尉小野太郎右衛門尉立出此趣ヲ聞式部少輔ニ告ケレハ經家此由ヲ聞暫思惟シ宣ハ我大將ノ號ヲ受テ當城ニ籠リ諸卒ノ命ヲ司リ國方ノ者共ヲ捨テ甲斐ナキ命助リ爭カ本國へ可歸唯某甲一人自害シ諸卒ノ命ヲ被助候へト返答シケリ角テ二三日過又堀尾ヲ以被申ケルハ此上ハ互ニ堅以誓紙可令和睦候誰ニテモ一人被差出候へ起請ノ判形居申證據ヲ見セ可申ト有ケレハ城中ヨリ野田左衛門尉小野太郎右衛門ヲ被差出タリ兩人起請文ヲ請取立飯リ式部少輔秀吉ノ起請文披見シテ頓テ客殿へ立出具足櫃ニ腰ヲ掛秀吉ヨリノ檢使堀尾茂助カ目前ニテ羽織脱捨捨押袒テ一尺五寸有ケル脇

差中卷シ介錯ニ向信長ノ寶檢ニ入首ナレハ能ウテト宣聲ノ下ヨリ脇差弓手ノ脇へ突立妻手へ曳ヤト引廻シ又心本ニ立躋ノ下マテ引下シ刀ヲ持ナカラ兩手ヲ突テ首ヲ差出シ給へハ靜間首ヲ打落ス福光小三郎若鶴甚右衛門式部ニ供セント自殺セリ森下出羽入道道與中村對馬守モ切腹スレハ五人ノ首堀尾茂助請取秀吉ノ陣へ皈リ秀吉寶檢シテ頓テ安土へ送ラレケルトソ聞エシ角テ秀吉ハ一柳カ陣所尾崎ノ矢倉ニ上リ下城ノ者共見物シ給袋川ニ橋ヲ渡左右ニ檢使置テ藝州ノ者並森下中村カ子共ヲ送下シ國方ノ者共ヲハ其マ、己カマ、ニ置レケリ

伯州馬山秀吉元春對陣事

天正九年十月中旬鳥執籠城ノ兵糧盡テ及難儀ノ趣藝州到來アリテ元春朝臣爲後詰伯州馬山ニ到出張シ給折節方々ノ手當ニ指遣軍兵少カリケレトモ及延引鳥執落城セハ大勢寄テモ無詮トテ嫡子元長二男元氏三男廣家杉森元秋毛利元康其外屬元春國侍熊谷豊前益田越中三刀屋彈正等馳隨都合其勢三千餘騎同月廿五日馬山ニ着陣シ翌日因州大崎へ寄ントスル處ニ鳥執落城ノ到來アリ然處ニ秀吉急ニ伯州へ打越吉川ト可遂一戰トテ同廿七日馬山ノ向高山ニ打上陣取馬山ヲ目ノ下ニ直下數萬ノ軍兵峰谷ニ充滿タリ此馬山ハ左ハ湖後ハ橋津河如形ノ節所也元春後ノ橋ヲ切落湖水ノ舟無殘陸ニ引上サセ櫓械本陣へ取込又元長廣家ニ仰セテ前ニハ柵結敵合ノ道二筋造ラセ敵寄來カシト待懸給フ去程ニ當陣ニ在國侍共集リテ評定シケルハ於此所一戰ハ所ト云人數ト云味方ノ勝利ハ難計然ハ先此所ヲハ退タマヘト一同ニ諫ントテ各本陣へ參ケレハ元春如何ニモ優ナル體ニテ袴着テ出逢給ヒ饗應アリ酒半ノ

時敵陣ヲ見上給ニ薄雪積テ寒シク見タレハ秀吉サソ寒ヲハスランニ我々ハカク各ト集會ノ慰ヲヨト戲コト云給へハ國人等内評定ハ中々云出ニモ不及歸ケレハ元春ハ雪夜ノ寒ヲ凌ント燒火シテ背灸給テ諸勢聞テ彌一途ノ思ヲ成ニケリ翌日廿八日秀吉南條カ城へ兵糧ヲ入ントテ峰傳スル勢雲霞ノ如シ元春朝臣井上平右衛門山縣惣右衛門ニ鐵炮百挺添今田玄蕃ヲ檢使トシテ松カ崎へ打出鐵炮打懸敵ヲ招テ悉打出ハ一戰ヲ快セント宣二人ノ者打出二三千ノ敵ニ近付ハタラキケルカ大雪降テ五三間中モ難見分互ニ扣待處ニ五六段前ナル小松山ノ尾ノサキニ鐵炮一ツ打タリ誰ナルラント見處ニ千代延與助ナリ敵ノ真先ニス、ミタル武者大將ト覺敷者馬上ヨリ眞逆ニ打落吉川家人千代延ト聲高ニ名乗ケレハ敵ハ手負ヲ抱へ味方ノ陣ニ入ケレハ今田井上等敵ニ一鹽付タリトヨロコヒケリ是ヲハ不知馬山ニハ敵大勢出タリト聞給テ是コソ願トコロナリ先元長兄弟可出元春ハ秀吉本陣ノ體ヲ見テ可出トテ元長廣家打出給へハ熊谷伊豆守同豊前守杉原等二千餘騎ニテ松カサキヘカケツケ、リ南條小嶋等是ヲミテ只今カケイテケルハ吉川元長兄弟ナリ御人數被下候ハ、忽討トルヘシト申ケレハ美濃守尤ヨロシカラント宣ヲ聞テ藤堂與右衛門尉中村式部少輔神子田龜井等我サキニト山下へ馳下一萬四千續タリ元長兄弟モ二千餘騎ニテハセムカヒ一向ニソナヘテマチ懸給トコロニ秀吉ノ本陣ヨリシキリニ軍使ヲ立制セラレケレハ上方勢頓テ引ニケリ角テ秀吉三日三夜イタツラニ對陣アレハ黒田小六方角味方ノ南條等是非乘リクツシ給ヘトス、メケレ共秀吉モ外聞物見ヲイタシ城中ノ體ヲ聞又橋切リヲトシ舟引上ケタルヲ見テ元春無二ノ覺

悟ヲ知ケルニヤ一戰ニモ不及廿九日高山開陣シ因川鳥執運打入給ヒケリ
因州大崎城其外荒神山已下沒落事

天正十年去年因幡鳥執丸山兩城羽柴秀吉攻落シ給フ此鬱憤ヲ散センタメニ敵城一二ヶ所モ
攻破ント元春元長思ハレケレ共早極月ニ及ケレハ明ル春ヲソ待給漸年モ越ヌレハ因州へ發
向セントテ正月十七日藝州ヲ打立同二十五日出雲ノ富田ニ着給ソレヨリ二月上旬伯州八橋
ノ城へ着陣シ給へハ杉原盛重ハ病死シテ子共二人即先陣ニ進大崎ノ城ヲ攻ントテ彼ニ打
出ラル然ニ鳥取木下備中守其外宮部善乘坊但馬ニ神子田尾藤等在陣ス此者共若後詰ヤスル
トテ熊谷豊前守益田越中守三澤攝津守三刀屋彈正左衛門湯佐渡守天野新兵衛等三千餘騎引
分陣ヲ取大崎へハ先杉原彌八郎同又次郎佐波越後守富永三郎左衛門尉周布十兵衛津野駿河
守以下四千餘騎馳向城中ニハ木下備中守ヨリ同民部大輔其外因州ノ國人山崎村越蓑部笠塚
ナト云兵八百餘騎楯籠タリ同二月十四日杉原兄弟此城ヲ人交モセス一身ノ功ヲ以テ切崩サ
ントテ其夜曙ニ手勢一千五百餘騎取出ノ丸へ無ニ切テ入足立治兵衛安原民部一番ヲ諍堀
へ乘是ヲ見吾不劣ト攻入ケレハ城中周章騷二ノ丸へ逃入杉原ツ、イテ攻入ハ惣陣杉原ニヌ
カレタリトテ取物モ不取敢攻上リケル間多勢ニ無勢ナレハ皆所々ニテ討レニケリ木下民部
ヲハ杉原カ郎等三吉德兵衛討捕已上頸四百六十餘ナリケリ同廿日元春父子三人七千餘騎ニ
テ荒神山へ發向シ給へハ其夜城ヲ明テ引退ケルヲ追懸三十餘人討取其マ、鳥執ノ山下へ押
入在家盡ク燒拂ケレハ木下モ小勢ナレハ城ヲ守テ不出ケリ其ヨリ吉岡ノ城ヲ攻ント打出給

へハ敵二百餘人籠居ケルカ防ニモ不及シテ明退ケリ其ヨリ又諸寄ノ城ノ麓へ押寄ヤキ拂一
揆原數百人薙捨其後大崎マテ打入給ヒ鳥執ヲ如何ニモシテ攻破ント籌ヲ被運ケレ共名城ナ
レハ力攻ニ難成トテ暫此所ニ逗留シ給フ此由木下備中守ヨリ秀吉へ告タリケレハ秀吉當
夏備中表へ可令發向因幡表ハ鳥執私部ノ城ヲ堅固ニ守タトヒ其内敵寄スル共不戰シテ可
レ待備中へ吾等下向セハ隆景一分ニテ後詰難成元春モ其邊ヲ指捨テ備中へ可出ト返事シ給
へハ但馬ノ山名宗仙垣屋駿河守増屋隱岐守其外因但兩州ノ者共七千餘騎秀吉ノ出張ヲ待先
陣ニ進ント但馬國竹田邊ニ馳集ケレ共此ノ返事ヲ聞テ皆己カ城々へ飯ニケリ元春父子モ伯
州八橋へ打入給重テ軍勢ヲ催私部ヲ乘取へシ左有ハ秀吉因州へ可被發向ト對陣セハ味方
一萬騎モナクテハ叶マシトテ雲伯石藝ノ勢ヲソ被催ケル去程ニ秀吉ハ備中備後ヲ切隨へ信
長公ノ待マウケニセントテ同年四月上旬ニ播州姫地ヲ打立給へハ播磨但馬因幡ノ勢雲霞ノ
如ク馳集ル信長ヨリ畿内ノ勢ヲ援兵トシテ差下サレケル間六萬餘騎ニ及へリ又宇喜田八郎
秀家ハ當年十一歳ナレハ岡山ノ城ニ殘シ置叔父七郎兵衛尉忠家戸川平右衛門尉明石飛驒守
舍弟勘次郎長船紀伊守岡越前守福田五郎左衛門延原内藏允市三郎兵衛尉蘆田五郎太郎小原
入道新明沼本新右衛門宇喜田河内守富山半右衛門洲波隼人入道如慶宮本四郎左衛門尉ナト
ヲ先トシテ播州二郡備前一國備中美作半國ノ勢都合二萬餘騎先陣ニ進ミ備中國宮地山ノ濫
櫛山へ押上ケ晩景惣勢盡打入ケリ宮地山ニハ隆景ヨリ乃義少輔七郎ヲ被籠置ケルカ敵方
ヨリ城明渡へキ由頻ニ云送ハ無ニ是非明退ケリ

高松城取圍事

天正十年羽柴筑前守高松ノ上龍王山へ惣勢押上八萬騎ノ軍兵ヲ分テ高松ノ城ヲ十重廿重ニ取圍ム城中ニモ雜兵共ニ五千餘騎籠ケレハ敵懸ラハ十死一生ノ合戰セント打出鐵炮頻ニ打懸足輕ヲ出シ敵ヲ招ケレ共秀吉堅ク制シ合戰ヲハシ不給秀吉當城ヲ落スヘキ行ヲ工夫シ給同五月七日蛙カハナヘ陣ヲ移シ給モ翌日八日ヨリ當所ノ兄部川ヲ堰入塘ノ廣三間長サハ一里餘リニ築サシモ漲ル兄部川ノ流ヲ堰止ケル上ニ折シモ晴間モ非降雨ニ谷々ノ水落積高松ノ民屋モ水底ニ成シカハ秀吉大艦三艘カキ入小西彌兵衛ヲ警固大將トシ臺無己下ヲ放テ懸晝夜ノ境モ不_レ分喚叫テ攻ケレハ城中已ニ難儀ニ及ノ由告來ル隆景驚輝元朝臣ヘシカ_レノ通注進シ又元春ヘモ備中ヲモテ急キウチ出給ヘト云クテラレケリ元春朝臣元長朝臣サアラハトテ伯州ヲ打タチ給相伴人々ニハ三澤三郎左衛門尉三刀屋彈正左衛門尉等ヲ先トシテ出雲石見ノ勢ヲ率シ隆景朝臣一手ニ成給都合其勢三萬餘騎岩崎ノ廂山邊へ打出陣ヲ被居右馬頭輝元ハ三里隔テ當國ノ猿懸ノ城ニ扣給ケリ秀吉朝臣吉川小早川後詰ナリト見給ヒ即人數二萬餘引分後詰ノ押ニ向城ヲ構人置六萬餘騎ハ次第々々ニ堤ヲ高ツカセ給間城中難儀ノ通水練ノ達者ニテ告タリケレハ元春隆景如何ニモシテ此堤ヲ切落サント策ヲ被運ケレ共敵猛勢ニテ堤ヲ守リケレハ不及行一日々々ト延引シ給間城中今ハ無_レ爲方トテ清水長左衛門切腹可_レ仕條士卒ノ命ヲ被_レ助候ヘト秀吉ヘ申送リ秀吉許諾シ給テ長左衛門同舍兄月清同息右衛門尉隆景ヨリ被_レ籠置シ末近左衛門尉長左衛門价錯シ高市佑五人共ニ切腹シ諸卒ハ

此方ノ陣へ送ラレケリ斯テ元春隆景對陣シ給ヒ如何ニ羽柴大勢ナリト云共有無ノ一戰ト被定ケル所ニ秀吉ヨリ俄ニ安國寺ヲ被呼ケルイカナル事ニヤト急秀吉ノ陣所へ立越ケレハ頓秀吉出逢_和テ和僧ヲ請スル事別ノ子細ニ非ス我毛利家ト和睦セント思ハ如何ニ若_レ於_レ被_レ領掌ハ北ハ伯耆半國ヲ境ニシ南ハ備中兄部川ヲ限テ可有_レ分國此儀互ニ誓詞取カハスヘシ此旨元春隆景ヘ懇ニ可_レ被_レ申ト有ケレハ安國寺急馳歸テ元春隆景ヘシカ_レノ趣ヲ申ケル兩川聞給此事如何有_レシト先輝元ヘ告申テコソ返事ハ致ソトテ輝元朝臣ヘ告ラル輝元兎モ角モ兩川ノ僉儀次第ト宣フ扱兩川評定有テ終ニ和平ノ儀ニ一決シ則秀吉ノ意ニ任可_レ令_レ和談_候ト返事シ給ケルサラハ誓詞ノ判形證人ヲ立ヘシトテ秀吉ノ判形ノ證人ニハ安國寺元春隆景ノ支證ニハ森勘八ヲ被_レ差越證文取代シ和平相調秀吉ハ六月六日ニ播磨ヲ打立上ラレ元春隆景ハ廂山迄打入給ケリ

四國諸所城攻之事

天正十三年長曾我部土佐阿波讚岐三ヶ國ヲ切シタカヘ伊豫ノ國ハ河野四郎領シケリ角テ四國爲_レ平均秀吉ヨリ阿波表ヘ羽柴美濃守ニ千石權兵衛尉被_レ相添被_レ差渡伊豫表ヘハ小早川隆景吉川元長八州ノ軍兵二萬餘騎ヲ率シ押渡給フ檢使トシテ黒田官兵衛ヲ被_レ付七月二日黒川太郎三郎カ城ヲ取圍金子ヨリ黒川爲_レ加勢三十騎計物見ヲ出候處ニ隆景勢百計打懸レハ物見ノ者不_レ叶引退ク其後彌手堅ク城取圍ケレハ黒河不_レ叶降人ニ成テ出レハ則彼城ニハ吉川ヨリ香川左衛門尉ヲ入置ケリ七月十三日金子カ城ヲ圍城ノ尾頭ヘ吉川勢責上ル處ニ

敵三百計打出ルヲ今田中務松岡安右衛門香川兵部少輔真先ニ切テ懸即城へ追込ケリ同十四日先陣ハ益田越中守熊谷豐前守其次々備ヲ定仕寄ヲ付十五日城攻ト相定ル處ニ二十四日ノ夜城ヨリ突テ出ケルヲ寄手切立ケレハ三百人程ハ山傳ニ土佐國へ逃入ケリカ、リケレハ先陣ノ益田勢城へ乘リ惣勢モ續テ責ムケル諸手へ敵數十人討捕城主金子ハ三村紀伊守カ手へ討取ケリ小早川衆ニハ真田孫兵衛裳懸彌左衛門吉川勢ニハ松岡安右衛門井下左馬允朝枝信濃桂五郎兵衛山縣源右衛門綿貫權内江田新左衛門井上又左衛門三吉九郎兵衛野上右衛門尉市川五郎右衛門ナト分捕ス其外諸手ノ勢モ追討不知數惣而頸數三百餘級ナリ同十六日新井ノ柴尾ニ陣ヲ替ラレケレハ石河帆柱兩城モ明退爰ニ暫在陣アリ羽柴美濃守秀長卿阿宅三河守カ城ヲ攻給へハ頓降人ニ出ケリ讚岐境佛殿へ陣替シ給フ兩川モ彼所着陣シ秀長卿對面有テ伊豫表平均吉川小早川抽戰功故ト感シ給其ヨリ一手ニ成土佐へ打越長曾我部ヲ攻亡サント有シ處ニ長曾我部請和是ヨリ秀長卿大坂御歸陣吉川小早川モ開陣シ給フ輝元朝臣ハ四國平均之間備後ノ三原ニ在陣シ給ケリ

小早川隆景吉川元長大坂上給事

天正十三年十月秀吉公爲御禮隆景元長大坂へ上給十月中旬泉州堺ノ津ニ着岸即上使黒田官兵衛蜂須賀彦右衛門被差遣來十九日大坂可有登城之旨依上意堺ヨリ上給ニ住吉天王寺邊マテ爲迎數人被差出大坂上着翌日登城饗應盡善盡美セリ先年於高松令和睦開陣ノ處信長生害ノ通其方へモ告來ルト云共會盟ノ旨ヲ不違藝陽打入給故秀吉忽惟任ヲ亡シ

天下ヲ治候此報恩不可忘ト宣ケリ御茶過テ天守爲見物御同心有ケルカ兩人供侍マテ召上ラル於天守卷物其外シナ、被下ケリ同廿日秀吉公へ被逐出仕處ニ殿下被成御出終日美酒佳肴ヲ盡興ヲ被催其上亂舞名人ヲ集御能被仰付種々ノ御馳走言語ヲ絶タリ兩川家人今田中務井上又右衛門へモ秀吉公秀次卿ヨリ御馬被作拜領其後來年九州御弓矢可被思召立然ハ御先手毛利家可被成御賴候元春事隱居タリト云共弓矢功者タル間出陣可爲本懷之旨被成御誑御イトマ給可有歸國之處ニ冬海ノ儀候條陸路宜カルヘキ通被仰出蜂須賀彦右衛門黒田官兵衛被相添宿々泊々下部中間ニ至マテ賄等被仰付蜂須賀黒田兩人ハ毛利分國備中河邊川ヨリ上リ給ケリ

豊前小倉城合戰并中國勢九州渡海事

天正十四年九州先手之儀毛利三家可有發向之旨秀吉公ノ命ヲ承先輝元朝臣ヨリ三浦兵庫ヲ爲大將三刀屋彈正左衛門尉桂兵部福間彦右衛門等ヲ先トシテ三千餘騎豊前小倉へ差渡門司ノ城ニ入置給カ、リケル處ニ高橋カ端城小倉ノ城ヨリ足輕ヲ出シ追合ケル間先小倉ノ城ヲ攻落サント三浦策ヲ廻シケル折節城ヨリ稻津見羽右衛門五百計ニテ打出ケレハ三浦是ヲ見城中ノ者過半出タルヘシ此勢ヲ討捕ナハ籠城不可叶アレ討捕ト二千餘騎ニテ切テ掛ル城ヨリモ又二千計突テ出接合テ相戰小倉勢ヲ追立ル處ニ秋月一千餘騎ニテ助來横相ニ突懸レハ忽門司勢突立ラレ既ニ引色ニ成危見エケル處ニ福間彦右衛門十文字提突懸リ敵數多カケ倒レ吾身モ即討レケリ桂兵部三刀屋彈正是ヲ見テ爰ヲ引テハ耻辱ナリトテ各居數健フ

スマヲ作り扣タリ小倉勢是ヲ見テアマスナ漏スナト切テ懸ル兵部ハ眞先ニ進ミ追ツ返ツ戦ケルカ終コヽニテ討レケリ三刀屋カ家人是ヲ見テ桂殿ハヤ討死候掛リ給ヘト云ケレハ三刀屋聞テ掛ルモ引モ時ニヨルソ加程勝誇タル大勢ニカケ合ル様ヤアル三刀屋カ者ハ一人モ不_レ可立居ナカラ皆討死スヘシト下知ヲナス敵競來リ切掛リケレハ三刀屋カ手ノ者十七人一ツ枕ニ討死ス三刀屋少モ不_レ騷鏡先揃ヘテ待居タリサシモノ高橋勢モ無_レ左右不得_レ近付次第々々ニ引ケレハ三刀屋ハ十死一生ノ難ヲ免引退ク三浦此鬱忿ヲ散シ度思ヒケルニ三村紀伊守備中ヨリ下リケレハ三浦三刀屋三村評定シ七曲リニ伏兵ヲ置三浦ハ二千餘騎ニテ打テ出ル高橋秋月勢三千餘騎先日ノ軍ニ勝誇今日ハ一人モ殘サス打取ント勇進ンテ切テ懸レハ三浦一矢射テ引退高橋勢サレハコソ先度ノ負軍ノ臆病神今ニ有_レト吾不劣ト追懸三浦思所ニ引受取テ返ス伏置タル三刀屋三村カ勢七百餘騎跡ヲ遮ント打テ出ケレハ高橋秋月勢前後ノ敵ヲ防カチテ引退ケリ其後吉川駿河守元春小早川左衛門佐隆景吉川治部少輔元長同藏人頭廣家中國八州ノ勢ヲ引率シ黒田官兵衛相共ニ九州渡海シ輝元朝臣ハ長府マテ出張シ給小倉ノ城ハ諸將渡海ニ依テ明退香春カ嶽ヘ集ケリ因茲小倉城ニハ黒田官兵衛入替吉川小早川ハ牛房原ニ陣ヲ居ラレケリ小倉ノ近邊大野ニ宮山ト云城アリ一揆原籠居ケルヲ吉川勢馳向麓ノ民屋焼拂取詰ケレハ敵打出防戦境外記山縣木工助カ家人安田神助廣岡源兵衛尉高名ス山縣木工助綿貫權内千代延與助手負味方引色ニ見ユル處ニ佐伯兵右衛門鐵炮ニテ一揆原足輕大將ト覺シキ者打落シケレハ是ニ味方カヲ得攻戦處ニ敵二百計ニテ先ヲ遮ントシケルヲ

松岡安右衛門境外記射拂々々引退ケハ敵モ城中ヘ引ニケリソレヨリ隆景元長廣家豊前神田ノ松山ヘ陣替シ給此時輝元朝臣小倉ヘ渡海シ給元春ハ腫物被_レ相煩小倉ニ坐シケリ秀吉公ヨリ三家ヘ寒氣ノ時分九州渡海苦勞ニ思召候彌九國ノ弓矢御頼ノ通森勘八同兵吉被差下御朱印ヲ頂戴シ給ケリ

宇留津城没落事

豊前國宇呂津城賀來與次郎ヲ大將トシテ籠居隆景元長中國勢二萬餘騎黒田官兵衛ニハ宗像長野カ勢ヲ加一千餘騎松山ヲ打立宇呂津ノ城南ハ黒田長野宗像北ハ小早川西ハ吉川勢三方ヨリ押寄ル黒田カ手ヨリ差物ヲ扱テ城中ヘ抛ケルヲ敵是ヲ取テ勇割リ走り廻リケルヲ寄手是ヲ見テスハ黒田カ手ヨリ城乗ソト云程コソアレ我先ニト攻寄城中ヨリモ弓鐵炮透間ナク射出ケル眞先ニ進ケル牛尾大藏左衛門鐵炮ニテ打レ死ニケリ是ヲモ不_レ顧惣勢乗入城ニ火ヲカケタレハ城中ノ者共周章騷キケルニ賀來與次郎カ叔父同源助大強ノ者ナルカ名乗テ切テ出ル吉川勢境孫次郎渡合相戦シカ境手負引退香川兵部大輔續テ切テ懸源助サル者ナレトモ香川カ打太刀受ハツシ手負ケルヲ香川押テ首ヲ捕益田越中ハ敵可_レ出所ニ待受見計出ル敵ヲ討捕ケリ其外柳澤新右衛門宍戸備前守栗屋二郎右衛門福萬市佑渡邊壹岐守兒玉筑後守兒玉小次郎山田吉兵衛村上又右衛門三浦兵庫波多野源兵衛吉川衆ニハ今田中務業屋彦右衛門佐々木豊前横道權允小野太郎右衛門新見左衛門ナト分捕ス今田カ郎等中村香川カ手ノ者恩田又右衛門モ首ヲ取城主賀來與次郎ヲハ吉川内井下左馬允討取ケリ惣シテ討捕首一千餘

生捕ノ男女四百餘人見懲ノタメトテ悉ク張付ニ掛ラレ諸軍勢神田ノ松山へ打入ケリ
香春三嶽切取事

高橋カ居城香春カ嶽ヲ攻落サントテ惣勢取圍此城ニ一ノ嶽二ノ嶽三ノ嶽トテ有ケル内三ノ嶽ヲ吉川勢ニ可切取由隆景宣ケリ元長ハ元春死去ニ付テ小倉ニ在陣シ廣家ハ藝州へ下給フ家人計ト云又三ノ嶽ハ三ツノ内嶽第一ノ所ナリ如何可有ヤト香川兵部粟屋彦右衛門ナト存ツレ共益田佐波宍道等ト内談シテ吉川手勢ハ今宵三嶽ヲ枕ニシテ討死ト一決シ夜ニ入カツキ連テ攻上ケレハ敵今迄ハ居タリト見エテ箭燒ステ、ソ置ニケル茅深キ所ナレハ如何様伏兵可有ト各用心スル處ニ如案六七十鐵炮提ケテ出來打テ掛リ香川兵部カ内三宅源允手負祖式掃部カ家人矢場ニ死ス味方ヨリモ鐵炮打掛互ニ暫打合ケルカ香川粟屋二宮森脇古志已下聲ヲ上ケ鍵ヲ揃テ突ケレハ敵不叶引退無難三ノ嶽ヲ切捕ケリ其後二ノ嶽ノ間ニ芝土居ヲ築柵ヲ結三吉新兵衛尉ヲ被置ケル角テ惣勢ヲ取圍向城ヲ構湯佐渡守ヲ入置仕寄番各替々勢ヲ出シテ守ケリ毛利七郎兵衛元康ノ番ノ夜寒風甚シケレハ少油斷シテ居ケル所へ城中ヨリ一文字ニ突テ出ル元康勢防カテ引ケレハ湯佐渡守カ城へ切テ掛ヲ佐渡守打立レハ城中へ颯ト引ケレハ後タル敵三人討ケリ其後諸口ニ仕寄ヲ付攻ケル間城中不叶降參ヲ請因玆小早川吉川ヨリ人ヲ出城ヲ請取高橋ハ城ヲ出ニケリ

大和納言殿豐前著陣事

天正十五年大和納言秀長卿二月五日大坂ヲ打立給相隨人々宇喜田八郎秀家宮部善乘坊本

下備中守尾藤神右衛門南條伯耆守ヲ先トシテ六萬餘騎ヲ卒シ二月廿五日豐前國露木原ニ著給翌日同國秋吉ニ陣ヲ被替同廿七日豐後國湯之嶽へ著給へハ輝元朝臣隆景元長相伴出仕アリ即秀長卿有對面ニ而豐前國早速平均各戰功故ト感シ給フ中國勢三萬餘騎ヲ引加九萬餘騎同國府内へ陣ヲ移サレ夫ヨリ日向國へ打越耳川ニ陣ヲ居給フ島津中勢其勢一萬計ニテ同十二日河ノ端へ打出爰ヲ渡セト招ケレトモ大將ノ下知ヲ守諸勢不渡ケレハ中務頓而城中へ引入ケリ吉川元長其夜水練ノ達者千代延與助戀塚三郎兵衛ト云モノ指遣シ瀨踏ヲサセ明ナハ眞先ニ渡サント擬シ給明レハ十三日又中務勢ヲ出シ招ケル元長瀨踏サセラレタル事ナレハ一文字ニ渡ント河ノ邊へ打出給へハ秀長卿御覽有テ隆景ニ制セヨト有ケレハ急元長ノ陣へ來差留給其後大將秀長卿ヨリ今日ノ河越ハ無用ナリ明早且可渡ト諸勢エ御下知ニ依其日ハ惣勢河越ナキ處ニ中務如何思ケン夜半ニ及城ニ火ヲ掛家城同國サト原ノ城へ引退ケリ寄手是ヲ見テ取物モ不取敢吾先ニト河ヲ渡シ六七里程行ケレハ高城ト云城ニ三原彈正籠居ケルヲ取卷城ノ尾頸ニ毛利右馬頭輝元安藝備後備中周防長門ノ勢ニテ押寄其次小早川隆景其次西ノ方吉川治部少輔元長同藏人頭廣家東ノ山ニハ大將大納言秀長卿南ノ方ハ宇喜田八郎秀家藤堂與右衛門各陣ヲ被取ケリ薩摩ヨリ後詰ノ爲押黒田勘解由同息吉兵衛蜂須賀彦右衛門尾藤神右衛門宮部善乘坊垣屋播磨守荒木平大夫龜井武藏守南條伯耆守薩摩口へ向堀ヲホリ堀ヲ付テ陣ヲ居ル惣勢十萬餘騎ニテ圍共城中騷體モナシ小勢ナリトテモ不可侮トテ竹々ハヲ付勢樓ヲ組上テソ攻寄ケルカ、リケル處ニ同十七日寅刻計ニ島津中務二萬餘騎

ニテ宮部善乘坊南條伯耆守カ陣へ押寄タリ宮部南條少モ不騒請口々々ヲ定テ防戰弓鐵炮
 ニテ射臥鎗長刀ニテ突切倒シケレ共島津勢事共セス死人ヲ乘越跳超攻手毎ニ青竹ニ鹿角
 ヲ付壁格子引掛聲ヲカケ無難塀ヲ引崩シケレ共内ヨリモ手強ク防ケレハ切入事モ不成シテ
 夜明ケレハ島津勢引退追討ニスヘキト諸勢ス、ミケレ共秀長卿ノ號令ニ任拳ヲ握黙止ケル
 中ニ尾藤神右衛門陣ヨリ百計追掛見レハ薩摩勢眞丸ニ成居敷鐵炮ヲ打繰引ケレハ尾藤カ勢
 モ引退ス其後薩摩勢又取テ返シ黒田カ陣近ク寄來ルスハ切掛カト見處ニ敵一町計隔暫陣取
 ケル如何カ思ケン又引退道々ニ手負アリケルヲ頸ヲ討テ歸リケル此度薩摩勢討死五百計
 有ケルカ今日討ノ死何ノ何カシト腕ニ入墨シテ死ニケルニソ薩摩勢ノ強丈諸人感シアヘリ
 ケリ

秀吉公九國下向事

天正十五年關白秀吉公去冬可有御出馬ト輝元朝臣元春隆景へ仰下サレ候ト云共來春御發
 駕可然ノ旨三家ヨリ黒田官兵衛尉安國寺渡邊石見守ヲ以言上ニ依テ今年三月朔日大坂御
 出馬同廿九日豊前ノ地ニ着陣有テ馬ノ嶽ニ陣居給フ同國岩石ノ城ニ熊見越中守籠居ケルヲ
 一時攻ニ攻落サル龍藏寺政家ハ輝元朝臣ヲ頼秀吉公ノ幕下ニ屬シ肥前筑後悉平均ス高島井
 ノ城ニ星野中務大輔同民部大輔籠居ケルヲ立花左近押寄悉討果ケリ此外肥後國中ノ敵城
 不殘明退キ秀吉公薩摩至ニ仙代川被移御陣暫在陣シ給ヘハ島津修理大夫義久同一族郎等
 ヲ集メ僉議シ先大納言秀長卿へ伊集院ヲ以テ和平ノ儀申ケレハ秀長卿秀吉公へ此旨ヲ告給

へハ義久カ任望薩摩大隅日向半國可被宛行之通御誼ニ依テ義久一族相伴ヒ仙代川ニ降參
 シ和儀ノ禮謝ヲ伸秀長卿ハ高城ニ坐ケレハ伊集院勘解由ヲ以禮儀調ヘケリ輝元朝臣秀家吉
 川小早川へモ馬一疋宛引セ進ケリ秀吉公五月下旬仙代川ヲ開陣シ六月初旬肥後至八代ニ打
 入給ケリ

吉川小早川給筑前筑後事

島津降參ノ後モ家老本郷未降參カ故諸勢大隅へ打越本郷カ城ヲ攻ントシケレハ本郷即降
 參シテ諸軍悉引退此時ニ秀吉公肥後ノ八代ニ御在陣アツテ諸將ノ軍忠ヲ稱美シ所領給者多
 シ吉川元春筑後可給ニ去年於豊前遠行依之嫡子元長へ被宛行之處ニ元長俄ニ所勞ノ故
 日向都公直ニ在ケルカ病氣彌重終六月五日行年四十歳ニシテ逝去アリ實子ナキカ故末期ニ
 及テ輝元朝臣隆景へ愚弟廣家ニ吉川ノ家業績セ度旨云置レケレハ其後兩將黒田ヲ以テ秀吉
 公へ此趣訴へ申サレケレハ可任遺意ノ旨仰出ニ依テ廣家吉川ノ家相續ノ御禮申上ル秀吉
 公元春元長近年ノ軍功ヲ被謝兩人存生セハ國主タルヘキノ處ニ打續逝去殘念ニ思食候廣
 家事モ彌忠勤ヲ抽テハ一國可被宛行ト辱上命ヲ蒙リ退キ小早川隆景筑前ヲ給近年立花ニ
 在城ナリ

豊前國一揆付岩石城沒落事

天正十五年九國悉依平均殿下七月上旬大坂御歸城アリ諸勢ハ九月上旬ニ悉歸陣セリ然ニ
 豊前半國ハ黒田勘解由毛利壹岐守領ケル處ニ在所ノ者蜂起シテ黒田毛利カ下知ニ隨ハサリ

ケレハ宇津宮彌三郎カ楯籠ケル城井ノ城ハ黒田吉兵衛同叔父黒田兵庫並輝元朝臣ヨリ被
 付置ケル内藤少右衛門相共ニ二千餘騎ニテ押寄ル彼城ハ峻難ノ地ニテ吉兵衛自鎧ヲ取テ
 諸卒ニ下知ヲナシ攻寄ル處ニ宇津宮諸勢ヲ左右ニシテ切テ出ル吉兵衛猩々皮ノ羽織ヲ着軍
 士ノ中ニ搦焉タレハ敵是ヲ討捕ント目ヲ着ル已吉兵衛危見エケレハ小野江ノ小辨トテ當年
 十七歳ニナリケルカ吉兵衛カ羽織ヲ取テ己カ鎧ノ上ニ打掛黒田吉兵衛ト名乗敵數人切臥吾
 身モ終ニ討レニケリ其間ニ吉兵衛難ヲ遁レ給フ右ノ趣至大坂注進アリケレハ毛利吉川急
 中國ニ下リ九州ニ推渡リ黒田ニカヲ可合ト上意ヲ蒙輝元朝臣十月朔日吉田ヲ立テ至防州
 山口ニ着陣シ給吉川藏人頭廣家ハ雲伯ノ勢一萬二千餘騎ヲ率先陣ニ進ミ豊前ノ地へ押渡先
 岩石ニ楯籠一揆可討果ト十月廿六日彼城へ仕寄ヲ付柵ヲ結取詰ケレハ一揆原一丸ミニ成
 テ打テ出ケルヲ一人モ不殘可討取ト廣家自下知ノ柵際ニテ打出者悉討果其後吉川勢驀直
 ニ城へ乘入中ニ木次孫右衛門一番乗ト名乗掛攻戰三村紀伊守モ手勢二百計ニテ續懸入分捕
 高名ス其外惣勢切入即時ニ乘崩シケリ霜月十二日廣家朝臣小倉ヲ立宇津宮彌三郎カ楯籠城
 井へ押寄菅切山ニ打上リ一萬餘騎ニテ陣トリ給フ黒田勘解由同吉兵衛モ二千餘騎ニテ打出
 廣家朝臣相共ニ陣取宇津宮ハ一揆原牒シ合其勢三千計ニテ山下へ打出備ヲ立設ケ足輕出シ
 寄手ヲ呼引ケレハスハ敵ハ突テ出ルハト云程コソアレ先陣ニ有ケル古志因幡守湯佐渡守都
 野三左衛門已下馳向追掛ケレハ一支モセス引退角テ宇都宮小高キ岸ヲ前ニ當谷負テ二手ニ
 分テ備タリ廣家朝臣是ヲ見テ後陣ノ三澤カ手へ粟屋彦右衛門ヲ以テ宣ケルハ敵ノ備ヲ見ニ

寄手ハ後ノ山ヨリ跡ヲ遮ラント思フモノナリ三澤ハ追手ノ軍ニ不構敵跡ヲ遮ラハ可防ト
 下知シ給ヒ已ニ掛ラントシ給處ニ黒田勘解由如何思レケン今日ノ合戦ハ差止ヨト頻リニ申
 サル、依其日ノ軍ハ止ヌ翌日又押寄廣家ハ城井谷ニ陣取給左右ノ陣ハ益田越中守熊谷豊前
 守三澤攝津守三刀屋彈正羽根彈正忠佐波越後守已下陣取敵中ヨリモ足輕百二百出シ追合ケ
 ルカ宇都宮難叶ヤ思ケン降人ニ出ニケリ

豊前賀來福島肥後和仁邊春沒落事

天正十六年宇都宮降人ニ出ケレハ吉川廣家朝臣東豊前へ打越賀來福島兩城ニ押寄福島ノ城
 ニハ付城ヲ構人數入置賀來ノ城ニハ自身押寄攻給賀來何カシモ聞ル猛士ナレ共稠攻寄給へ
 ハ不叶極月晦日脱甲降人ニ成テ出ニケリ福島ノ城モ同日明渡シケレハ兩城ノ者共八百餘
 騎不殘頸ヲ刎ラレケリ肥後國へハ小早川隆景朝臣出張シ邊春ノ城へハ粟屋四郎兵衛朝枝
 右京亮四千餘騎ニテ差向取圍攻ケルニ城中ヨリ弓鐵炮隙ナク打出ス眞先ニ進タル朝枝右京
 亮眞中ヲ射貫レテ失タリ粟屋四郎兵衛尉モ手負ケレ共少モ不殘責ケレハ邊春ノ某甲自害
 可仕殘黨命ヲ被助候様ニ盡詞ケレハ任望邊春切腹シ殘勢ヲハ助給ヒ和仁モ降人ニ成テ
 出ニケリ其後隆景ハ筑前へ打入廣家ハ至長門國府ニ上着シ給處ニ彌爲九州押毛利吉川小
 早川可有渡海ノ旨秀吉公依御詔又令下向輝元朝臣ハ筑前ノ博多ニ在陣隆景朝臣ハ筑前
 ヨリ被出肥後ノ南ノ關廣家朝臣ハ同國庄内ニ在陣シ給フ九州一揆原モ悉治ニ付七月下旬
 輝元隆景廣家上洛シ於聚樂式掌ノ饗應秀吉公同政所様御一座へ輝元隆景廣家ヲ被請一家

ノ家臣等モ次ノ間マテ被召出饗後秀吉公三家御同心ニテ天守御上三人家臣マテ被召上候ケル四國九州退治ノ儀各被抽忠勤故ト御感不斜其後三家共ニ被稱羽柴豊後桐ノタウノ御紋ヲ被免加之被達 叡聞輝元ハ宰相隆景廣家ハ被任叙四位侍從 天盃ヲ頂戴シ給其後宇喜田秀家ノ姊ヲ秀吉公養女ニナサシメ廣家室家ニ定ラレ各御暇給歸國ノ後同年十月從秀吉ハ黒田官兵衛尉從宇喜田秀家ハ富山半右衛門土居神四郎供奉シテ藝州新庄へ下給婚姻調ケルカ不幸ニシテ早逝去シ給ケリ

小田原陣諸所城番事

天正十八年北條氏政爲退治秀吉公小田原御發向御留主聚樂ニハ大和納言秀長卿毛利右馬頭輝元朝臣然ニ秀長卿ハ薨シ給輝元一人ナリ尾張清洲ニハ小早川左衛門佐隆景參河岡崎ニハ吉川藏人頭廣家ヲ置レケリ小田原御陣へハ少々人數差出シ伊豆國下田城ヲ毛利勢吉見三河守益田越中守山内大隅守熊谷豊前守宍道五郎兵衛阿曾沼豊後守以下一萬餘騎ニテ取圍天下ヲ引請連叶間敷事ナレハ早下城アルヘシト切々云送レハ頓降人ニ成城ヲ渡シケリ小田原へモ中國勢數百艘警固舟ニテ海邊ヲ固メタリ角テ小田原落去シ秀吉公御歸陣ノ節岡崎へ著セ給へハ吉川廣家北條御退治ノ述嘉詞珍饌佳肴ヲ調饗膳ヲ上ケレハ秀吉公喜悅不斜即御馬ヲ給ケリ其後家康公御飯城有テ御留主御城中何事モ念ヲ入御座ノ間邊用捨ヲ致ノ由御祝著ノ旨辱御意ヲ承廣家ハ京都へ上リ其ヨリ藝州ニ飯國シ翌天正十九年出雲三郡伯耆半國隱岐一國於藝州一萬石令領地雲州富田月山ノ城ニ可居住ノ旨秀吉公依御詔富田人城

シ給ケリ

安西軍策卷第六終

安西軍策卷第七

朝鮮先鋒并渡海之人數事

永祿元年關白秀吉公朝鮮陣思立給フコトハ周ク人ノ知給フナレハ不及記全正月ニ軍役其外御ケ條ノ御朱印諸將ニ給リ二月ニ先手小西攝津守行長手勢七千餘人宗對馬守義智五千平戸法印其外此一手都合一萬八千餘人二番備加藤主頭頭清正手勢六千八百餘人鍋島加賀守一萬二千餘人相良宮内少輔相加リ此一手都合二萬餘人一日換ニ關取ニシ先手ヲセラルト云リ其次黒田甲斐守長政五千餘人羽柴豊後侍從大友義統六千人羽柴薩摩侍從島津義弘一萬餘人其外伊藤秋月等一手勢合二萬五千人ナリ其次羽柴福島左衛門大夫正則四千八百餘人戸田民部少輔四人蜂須賀阿波守家政七千餘人羽柴土佐侍從長曾我部元親三千人其外一手勢合二萬四千餘人ナリ其次羽柴筑前侍從小早川隆景手勢一萬人久留米侍從秀包千五百人羽柴柳川侍從宗茂二千五百人其外合一萬七千餘人ナリ其次羽柴安藝宰相輝元二萬五千人羽柴富田ノ侍從吉川廣家五千人此手合テ三萬餘人御名代備前宰相宇喜田秀家一萬人也御舟手九鬼大隅守藤堂佐渡守其外此手合一萬人跡勢淺井左京大夫叡阜少將丹後少將前野但馬長谷川藤五

郎糟屋内膳伊達正宗其外合五萬餘人三奉行ノ人數合六千餘此外ノ諸勢具ニ難記前後ノ勢惣合二十萬ニ及ト云リ三月ノ初比ヨリ一日隔モアリ二日後ル、モ有六月迄ニ名護屋ヲ立壹岐對馬ヲ歴テ思々ニ渡リ次第々々ニ先手ヨリ釜山浦ニ着岸セリ

太閤肥前國名護屋御出陣并同所在陣之衆事

同年三月先手ノ勢漸京ヲ打立ケレハ太閤兼テヨリ思定給ハ朝鮮ハ小國ナレトモ若大明ノ加勢モ有ハ見次ノ兵ヲ可渡又自モ可渡遠境ニ居テハ不叶ト二月末ニ都ヲ出肥前ノ名護屋ニ下リ給路次ノ行列旅館ノ警衛ハ筆ニモ難及ソ見タリケル安藝國ニ兩日御逗留同國ノ嚴島へ社參有テ奉幣ヲ進セ島中ノ奇景ヲ詠慰給彼島ニ名譽ノ瀧有ヲ見一首ノ和歌ヲ詠シ給ヒ本ノ陸地ニ漕歸至長門國安徳天皇御影ヲ拜シ追悼ノ詩歌アリ夫ヨリ關ノ門ヲ渡肥前國名護屋ノ城ニ着給此所在陣ノ諸大名家康公其勢一萬五千餘人大和中納言秀俊其勢一萬餘加賀宰相利家其勢九千餘其外織田信雄上杉景勝以下關東ノ諸士都合八萬餘騎此外御前備御馬廻御弓鐵炮等ニ至迄三萬餘都合十萬餘騎名護屋ノ城ノ前後左右在陣シ給ケリ

先手釜山浦ニ著岸對小西陷三城事

惣勢名護屋ヲ立壹岐ノ島ニ著シニ逆風ニテ數日逗留セリ然處ニ小西行長順風ニ成ナハ惣船可渡海ト思少風穩ニ成ヲ幸ニノ夜紛潛ニ壹岐ヲ出船シ對馬ノ湊ニ著岸ス惣船是ヲハ不知シテ順風ヲ待居ケルカ夜明小西カ船ノ無ニ驚キ吾先ニト舟漕セ出セトモ風又惡ク成ケレハ無是非本ノ湊ニ押戻ス小西ハ對馬ニ四五日逗留シテ得順風釜山浦へ乘渡ス釜山浦ニハ朝

鮮人二三萬モ籠居ケルニ小西舟ヨリ上リ弓鐵炮ヲ以稍攻ケレハ敵モ半弓ヲ無隙射テ防戰ケレトモ不協シテ落城ス小西カ兵敵一萬計討取生捕少々シテ生捕ノ者共ニ國ノ案内問ケレハ近所ニ東萊ノ城有ト答小西諸人今日ノ働ヲ感シ云ケルハ各於同心此競ニ東萊ヲ可攻落ト云武士共皆勝ニ乘數十里隔タル東萊へ馳著城下ノ在家ヲ打破込入レハ釜山浦ヲ攻落シタル威勢ニ聞畏シテ一堪モセス落行ケリ小西カ郎等トモ追討シテ首千計捕ケレハ小西大ニ悅テ其夜ハ爰ニ陣取ケル加藤主計頭其外跡勢釜山浦ニ著陣ノ到來有ケレハ行家ノ子郎等ト評定シテイサ跡勢ノ不來先ニ忠州ノ城ヲ攻探ント押寄タリ當城ハ王城ノ衛ナレハ人數四五萬モ籠居ケルカ過半聞畏シテ落去ヌ殘ル兵一萬ニハ過サレトモ殘留兵ナレハ火花ヲ散シテ戰事數剋ニ及城中少色メキ立テ見ケル時無隙下知シテ攻入ハ敵不叶シテ崩落小西カ兵思々ニ追懸分捕セリ角テ小西ニケ所ノ働名護屋へ注進有ケレハ太閤被聞召小西カ働無比類ト感給御太刀馬ヲ拜領トソ聞ヘシ

諸勢都入之事付小西加藤先ヲ爭事

釜山浦ノ城ハ日本勢ノ本城ニシテ安藝ノ輝元在城有加藤清正ハ釜山浦ニテ小西カ働ヲ聞テ急忠州ニ馳行ハ黒田鍋島其外九州四國中國勢モ次第々々ニ忠州ニ集リ朝鮮都へ可打入評定アリ爰ニ清正ハ吾着陣延引ノ故ニ小西手柄ヲ振ヒタリト腹立シテ都入ノ先陣ハ主計頭仕ント云レケレハ小西聞テ先陣ノ事ハ秀吉公ノ命ヲ承唯今迄人ニ先ヲセラレス何ノ故ニカ都入ノ先陣ヲ加藤殿ニ讓ンヤト口論再三ニ及シカハ鍋島加賀守黒田甲斐守等扱テ東南ニ道ヲ

分共ニ先陣トソ定ケル清正ハ南海道ヲ伐テ行是都ヘノ大道也然ニケク州ノ古館ニ在所ノ者
 數萬人楯籠居ケルヲ乘崩切捨ニシテ心地ヨシト悦テ都ヘソ急レケル又小西カ行方ハ嶮難ニ
 シテ道モ少遠ケレハ清正ニ先ヲセラレシト籌ヲ運對馬守カ通事ニテ生捕ノ者トモニ清正カ
 行路ノ越ヲ問セケレハ許多ノ川アリ中ニモ都近クニ大河有ト答ケル小西更ハ生捕ノ者ニ對
 馬守カ者二三十人相添主計頭カ不着先ニ舟共燒捨切流スヘシト能々下知シ遣シケンハ案内
 ハ知ツ急彼川端ニ馳付船トモ切流燒捨テ壹艘モ不殘シテ本ノ陣ヘカケ戻ル小西仕澄タリ
 トテ都近ニ押寄ル都ニハ平安黃海忠清ノ三道ヲ打破日本ノ大勢寄來由日々夜々告ケレハ取
 物モ取不敵國王モ王子モ方々散々ニ落行給ト聞タリ去程ニ小西ハ都ニ近付程人氣モ無一
 戰ニモ不及安々ト朝鮮ノ都ニ入彼方此方ト武士共打廻ケレトモ皆落失ケレハ人數ヲ配四
 方ヲ固跡勢ノ來ヲソ待ニケルカ、リケル所ニ加藤清正モ道々ノ小川共ヲハ或ハ涉瀨ニ付テ
 渡リ或筏ヲ組テ渡リケルニ都川ニ着水ノ面ヲ見渡セハ十町ニモ越ヌヘシ無舟シテハ叶間敷
 ト爰彼所一二里ノ間走廻尋レトモ舟一艘モ無リケレハ爲方無テ日暮ヌ清正ノ家人越中國
 礪並川ノ邊ニ住居セシ曾根孫六ト云シ者進出テ申ケルハ吾大河邊ニ住馴テ水練ノ達者ハ又
 人アリトモ不覺此川泳キ渡リ小舟乘來ヘシト云主計頭最可然ト感悅シ夜ノ明ルヲ待兼テ
 孫六ヲ游セケレハ無難向ノ岸ニ泳キ着小舟一艘乘來ル是ニ依人數二三十ヲ渡シ大船共ヲ
 漕寄安々ト涉リ都ヘ急馳着ハ小西ハ昨日着陣シタリト云清正無念ニ思吾モ不劣大功ヲ可
 成物ヲト怒ヲ成ス從是シテコソ兩人彌不和ニ成テ互ニ功ヲ爭ケル其後九州ノ勢至都川ハ

船皆向ノ岸ニ乗捨此方ニハ一艘モナシ小早川隆景舟ノ事ニ長シタル乃美村上ニ仰テ才覺セ
 ヲト有ケレハ水練ノ達者ヲ三人勝テ渡シ舟乘來幾度モ漕戻九州ノ勢無殘渡着又中國ノ先
 手吉川内藏人廣家此川ニ行懸レハ如前舟ハ向ニ有テ可渡ヤウナシ吉川カ若黨相見甚四郎
 ト云者是モ一人可渡ト云ケレハ神妙也ト感シテ文ヲ認相見カ髻ニ付先陣ヘ遣ケレハ十二
 三艘漕來リ先勢ヨリ次第々々ニ惣勢無殘渡着皆都ヘコソ打入ケレ

レイセン合戦之事

同年六月十五日吉川打廻ノ者小坂ヲ越テ見ケレハレイセンヨリ一里許此方山上ニ敵三四萬
 計陣取ヲ見付テ馳歸廣家ニ告タリケレハ先謀シテ敵ノ心引見ントテ國ヲ治民ヲ安ンカ爲メ
 ニ日本將軍近日渡海アリ山上ニ屯事謂レナシ速ニ陣ヲ引己カ在所ニ歸テ可案塔ト札ヲ書
 山下ニ立ケレハ敵三十人計山ヲ下暫札ヲ見テ散々ニ打破ル又前ノ如ク書簡ヲ認遣ケレハ是
 非可遂ニ戰トノ返事ナリ然ラハ一戰スヘシト返簡ヲ遣シ其儘剪テ懸レハ敵モ麓ニ下シ稠
 ク防戦ケル三四萬カ中ヘ廣家五千騎ニテ一文字ニ蒐人先手ノ勢ヲ突崩セハ後陣ハ不溜敗
 軍ス味方勝ニ乗テ二里計追詰敵三千餘追討ニシテ本陣ヘ颯ト引ハ日モ早暮ヌ翌日早天ニ亦
 レイセンヘ馳向ヘハ路ニ昨日敗軍ノ敵トモ餘ニ急ニ追レ水邊ニ臨倒死シケル者不知數扱
 レイセンノ館ハ明退テ敵一人モ無リケレハモンケイヘ歸陣シ給ヒケリ

小西平壤合戦事

小西攝津守行長ハ加藤主計頭ト一同ニ都ヲ出開城ヲ過互ニ南北ヘ行別レ小西ハ平安道ヘ押

行遼東ノ境近平壤ノバテンノ城ニ陣取大友カ陣所迄四日路ノ開傳ノ城毎ニ一手勢ヲ分チ置
 主計頭カニ王子ヲ生捕シ事ヲ聞吾モ彼ニハ劣マシ朝鮮ノ王ヲ生捕カサナクハ大明勢ヲ待受
 一戰シテ得ニ勝利カ又討死カト二道ニ思定テ待居タリ是ヨリ都マテハ一所々々ヲ請取自身
 居ルモ有リ人數計置モアリバテンヘ近キエナンノ城ニハ大友義統其次ヘクサンノ城ニハ三
 利秀包其次ウホンノ城ニハ吉川廣家ノ家子香川雅樂助森脇加賀守ニ軍兵指添籠置其次河安
 ノ城ニハ黒田甲斐守家老栗山四郎右衛門ニ士卒相添入置其次開城ニハ小早川隆景吉川廣家
 立花左近ハチウニハ黒田甲斐守在陣也カクテ小西ハ宇喜田並三奉行ヘ飛檄ヲ以告ケルハ朝
 鮮ハ多分切捕タリ此上ハ大明ヘ打入ヘシ後詰ノ勢ヲ給ラハ某甲先手可仕ト云ケルハ諸將
 評定有テ朝鮮ノ内タニ全羅道慶尙道其外諸所ノ小城ニモ朝鮮人共籠居折ヲ得打テ出ントス
 ル程ニ方々ノ手當ヲコソ 大事ニ思ケル其上秀吉公ノ掟ニモ 要害ヲ固構人數ヲ籠置無油斷
 守ルヘシト有キ大明ヘノ發向ハ可有遠慮ト返答セラレケルハ 小西不安思朝鮮王ニ送書
 簡其趣ハ 日本元來大明ニ怨アリ故ニ大明國ヲ攻ヘキトテ 諸勢ヲ渡シ道ヲ貴國ニ假ル處ニ
 釜山浦ヲ初トシテ數萬ノ兵ヲ出シ防戰セラルハニ依テ無是非合戰ニ及ヘリ 先年三使來倭
 ノ返簡ニモ大明ヲ伐ヘシ案内シ給ヘトコソ有ケルニ及合戰事日本ノ心ニアラス今日本一
 統ニ治リ財富民豊也何故國ヲ奪財ヲ貪ンヤ日本ニ一味シ給ナハ朝鮮國ニ寇ヲナス事有ヘカ
 ラス然ニ大王頃鴨綠江邊ニ陣ヲ張我兵ヲ拒キ給ハン 御行ト聞タリ於然近日兵ヲ出伐奉ト
 告ケレハ帝王肝ヲ消大明ニ告ラル明王大ニ驚キ諸臣ヲ集メ評定シ朝鮮ヲ救ハント有ケレト

モ近年方々ニ軍起テ折節兵ナケレハ遼東ヨリ兵ヲ出シ可救トテ祖承訓史儒遊擊ト云大將
 ニ二千餘人ヲ相添朝鮮ヲ救セラル兩將即打立テ鴨綠江ヲ渡ル小西先敵ノ心ヲ見ント夜ニ入
 足輕ヲ出鐵炮ヲ打セ挑ミケレハ敵周章騷テ可拒行モナシ小西是ヲ見テ明ル早天ニ伐テ懸
 ル長途ニヤ勞レケン日本ノ兵具ニヤ怖ケン大明勢ノ馬進カテ見エケレハ皆歩立ニ成テ防
 戰行長諸軍ニ下知ノ馬トモ乘懸火花ヲ散シ相戰大將史儒ヲ討捕ハ祖承訓モ不叶落行諸卒
 悉討死シ僅四五十人計遁タリ此由朝鮮大明ニ聞エシカハ兩國ノ者共恐怖スルトソ聞シ

大明和議并李如松合戰之事

去程ニ明帝諸臣ヲ集僉議ノ李如松ト云名將ニ宋應昌ヲ副將トシテ十萬餘騎ヲ催シ日本勢ヲ
 征伐シ祖承訓カ敗軍ノ耻ヲ雪メ彌朝鮮ヲ救ハント評定既ニ決シケリ石司馬トテ朝鮮ノ事ヲ
 司ル官人ナルカイカニモシテ日本勢ヲ攻亡シ朝鮮ヲ治度思様々ノ智略ヲ運シ若日本ノ事知
 タル者ヤ有ト尋ケル爰ニ沈惟敬トテ辨才世ニ勝タル佞人アリ後遊擊トテ日本ヘ渡シ者也然
 ルニ日本ヘ一度渡倭國ノ事粗知タル奴僕一人有ケルヲ沈惟敬近付テ日本ノ事荒々尋問吾日
 本ノ事能知タリト人毎ニ語ケレハ司馬是ヲ聞沈惟敬ヲ近付謀ヲ問ケレハ日本ト和平セラル
 ヘシ和平ノ議某甲ニ任セラルヘシト言ヲ巧ニ云ケレハ司馬先和議ヲ調其間ニ兵ヲ集河水ノ
 氷厚クナルヲ待師ヲ起シ容易討果スヘキト思慮シテ惟敬ニ金銀ヲ與ヘ和議ノ才覺ヲサセケ
 リ惟敬小西カ陣ニ近付以書簡和平ノ事ヲ告ケレハ小西大明百萬ノ軍兵ニテ押寄ト聞エケ
 レハ和平ヲ悅返聞ヲ調其後對馬ノ玄蘇長老ヲ惟敬ニ對談サセ互ノ心ヲ通シケレハ惟敬ハヤ

和平禮儀物ヲ贈ケル小西七ヶ條ノ好ミヲ誓テ惟敬ニ見セケレハ一々應諾セリ彼ハ元ヨリ倭人ナレハ小西ニ對シ打解タル顔色ハ多年ノ知己ニモ勝レリ即此旨明帝ニ奏聞シ頓テ日本へ天使ヲ可渡ト約諾シ惟敬ハ大明へ歸リヌ小西此趣以使宇喜田秀家並三奉行諸大將へ云送ケレハ即日本名護屋へ注進ス太閤聞召小西抽諸勢大明堺へ攻入り四五千人ノ大明勢ヲ討果刺大將ヲ討捕ハ日本ノ軍兵ニ不叶ト早和ヲ乞降參ス是偏ニ小西ヲ怖ルニ非此秀吉カ武勇三國ニ隱無威ヲ振故也ト大ニ悅給早々和平可調トナリ朝鮮都ノ人々ハ天使近々可爲來着ト宿々旅館ヲ營戰ノ沙汰ハ無リケリ惟敬大明ニ歸リ石司馬ニ告ケレハ和議ハ重テ可調先十萬ノ兵ヲ出ヘシトテ南兵勢ヲ加臘月ノ末江ヲ渡レハ河水凍テ往來平地ノ如シ明レハ日本文祿二年正月四日平壤ノ境ニ着陣ス朝鮮ノ兵トモ所々ヨリ馳集二十萬餘騎ト聞ケリ小西此度モ足輕ヲ出シ挑ミケレハ敵陣近ク寄サセ多勢ヲ打圍ミ數人生捕ニシケレハ小西モ大敵ニ怖可戰行モ無籠城ノ用意シテ寄來敵ヲ待居ケリ同六日早天ニ大明勢バテンノ城へ押寄十重廿重ニ打圍ミ三方ヨリ乘崩サント攻寄ル城中ニモ兼テ壁柵丈夫ニ構矢狹間ヲ切置弓鐵炮ヲ以散々ニ射拂敵少シ引色ニ見ケレハ城中是ニ力ヲ得大手ノ門ヲ開キ眞黒ニ突テ出戰ケレトモ敵大勢ナレハ荒手ヲ入替三方ヨリ揉ニ揉テ攻寄二ノ構迄乘入ハサスカノ小西モ堪カテ本丸指テ引退敵競懸本丸へ押入ントシケレトモ鐵炮稠ク打掛攻入事モ不諧日既ニ夕陽ニ及ハ寄手モ本陣へ引退サテ夜ニ入城外ヲ見ハ敵味方ノ手負死人上カ上ニ重リ數ヲ不知味方ノ兵ヲ算レハ三千及討レ舍弟彦右衛門モ討死ス殘者譏六千許也惟敬ニ謀レカク成コソ口

惜ケレサレトモ後詰ノ勢モ無此儘籠城セハ討果サレン事無疑大友カ陣迄引退彼所ニテ人馬ノ息ヲ休メ都へ引取重テ都ノ大勢ヲ催會稽ノ耻ヲ雪ンニハ不如トテ誰ニ城ヲ忍出ケリ小西傳々ノ小城ニ置タル者共大明勢小西ヲ攻ケルヲ聞テ殘少ニ落行大友ノ陣所エナンノ城へ逃掛リ小西ハ大明勢數百萬餘騎押寄討果シ次第々々ニ押來候急引退給ヘト云捨々々落行ケレハ大友モエナンノ城ヲ引退久留米ノ侍從秀包ノ城へ逃掛シカノノ由ヲ秀包へ云レケレハ小西討死ノ實否ヲ不_レ糺被引候事不及是非次第也トテ大友ヲ秀包ノ城ニ留メ置都へ注進シ給ケリ其後大友カ明退エナン城へ吉川ヨリ香川森脇ニ五百人相添久留米ノ秀包黒田甲斐守ヨリモ五百人宛籠置處ニ小西落來大友ト尋ケル大友ハ小西殿討死シ給大明勢押來ルトテ數日以前ニ當城ヲ明落行ケルニ依リ黒田吉川久留米ヨリ人數籠置小西殿ヲ待受候今夜ハ爰ニテ長途ノ勞ヲ休給ヘト云ケレハ小西此城ニ一夜陣シ明レハ三家ヨリ籠置者殿シテ久留米秀包ノ居ラレケルヘクサンノ城へ着陣シ小西秀包ニ云ケルハ大明勢追付是迄來ヘシ大勢ニ取籠ラレテハ諧マシイサ引退ント有ケレハ大友小西ヲ先ニ立秀包殿シテ黒田陣處カア_ン迄引給フ吉川廣家ハ開城ニ在シカ此到來ヲ聞河安ノ城へ馳來敗軍ノ衆ニ對談アリ大友久留米打連テ都へ上リ給黒田吉川河安ニ一夜陣シ是ヨリ奧ニ日本勢ハ有マシ開城迄引ントテ吉川殿シ道々ニ或煩又ハ疲テ爰カシコニ後レ倒伏シテ居ケル者トモ悉馬ニノセ開城迄引具シ主人々々へ送ラレケリ黒田ハハジウ迄被退ケルヲ奉行ヨリ再三使ニ依テ終ニ都へ入ラレケリ小早川隆景吉川廣家立花左近ハ開城ニ被居ケルカ於當城大明勢ヲ引請可_レ遂一戰